

1998 (平成10) 年度

# 講義計画

経済学部

駒澤大学

# 講 義 内 容

## 目 次

1	専 門 教 育 科 目 .....	7
2	他 学 部 履 修 科 目 .....	他 1
3	随 意 科 目 .....	随 1
4	日 本 語 ・ 日 本 事 情 科 目 .....	日 1
5	教 職 ・ 資 格 講 座 .....	教 1

専門教育科目

他学部履修科目

随意科目

日 本 語  
日 本 事 情 科 目

教職・資格講座



# 1 專門教育科目

## 經 濟 学 部





# 專 門 教 育 科 目

経済学概説《経済》	(浅野克己)	7
経済学概説《経済》	(有井行夫)	8
経済学概説《経済》	(福原好喜)	9
経済原論Ⅰ《経済》	(大石雄爾)	10
経済原論Ⅱ《経済》	(浅野克己)	11
経済原論Ⅱ《経済》	(松井柳平)	12
経済学概説《商》	(荒木勝啓)	13
経済学概説《商》	(瀬戸岡 紘)	14
商学総論	(大吹勝男)	15
経営学総論	(寺中良二)	16
会计学総論《商》	(中原章吉)	17
経済学史	(福原好喜)	18
経済史	(南部宣行)	19
経済政策	(石井啓雄)	20
財政学	(里中恆志)	21
金融論	(渋谷隆一)	22
日本経済論	(森武磨)	23
国際経済論	(徳永俊明)	24
社会政策	(光岡博美)	25
商業政策	(岩下弘)	26
マーケティング	(曾我信孝)	27
経営管理論	(百田義治)	28
労務管理論	(石井脩二)	29
簿記論	(島崎規子)	30
財務会計論	(遠藤 孝)	31
会计学総論《経済》	(寺坪 修)	32
経済原論Ⅰ《商》	(阿部 弘)	33
経済原論Ⅱ《商》	(浅田 統一郎)	34
統計原論	(古野 紀)	35
価格理論	(荒木勝啓)	36
国民所得論	(吉野 紀)	37
景気変動論	(西村 允克)	38
日本経済史	(古庄 正)	39
経済地理	(上坂 修夫)	40
農業政策	(小宮 昌平)	41
工業政策	(福田 敦)	42
国際金融論	(齊藤 壽彦)	43
銀行論	(齊藤 正)	44
中小企業論	(和田 耕治)	45
人口論	(森岡 仁)	46
教育経済論	(谷 敷 正光)	47
労働経済論	( 休 講 )	
アジア経済論	(郭 洋春)	48
中国経済論	(小杉 修二)	49
アメリカ経済論	(瀬戸岡 紘)	50

ヨーロッパ経済論	(清水卓)	52
ロシア・東欧経済論	(山縣弘志)	53
貿易市場論	(古沢紘造)	54
証券市場論	(磯谷玲)	55
保険市場論	(今泉敬忠)	55
交通論	(小出修三)	56
現代資本主義論	(北原勇)	57
地方財政論	(篠原章)	58
環境経済論	(山口由二)	59
経営戦略論	(吉田健二)	60
消費経済論	(小谷正守)	61
商品学	(石崎悦史)	62
財務管理	(小椋康宏)	63
商業史	(幸野保典)	64
社会思想史	(阿部弘)	65
財政政策	(休講)	
貿易実務	(休講)	
会計監査論	(飯岡透)	66
管理会計論	(中原章吉)	67
税務会計論	(柳裕治)	67
原価計算論	(加藤利安)	68
情報・経済ネットワーク論	(中濟光昭)	69
プログラミング論	(濱本和彦)	71
情報処理論	(黒部晃一)	72
計量経済学	(藁谷友紀)	72
経営分析	(坂口康)	73
経済分数学	(水野勝之)	74
憲法	(内田真利子)	75
民法一	(青野博之)	76
民法二	(織田晃子)	77
商法一	(山田泰彦)	77
商法二	(荒木正孝)	78
経済法	(岡田外司博)	78
労働法	(藤本茂)	79
行政法	(金子昇平)	80
国際法	(齋藤洋)	81
原書講読 I・II (岩下弘)		81
原書講読 I・II (清水卓)		82
原書講読 I・II (中濟光昭)		83
原書講読 I・II (中田秋男)		84
原書講読 I・II (濱本知寿香)		84
原書講読 I・II (福原好喜)		85
原書講読 I・II (小杉修二)		85
原書講読 I・II (山縣弘志)		86
現代経済事情 I〔消費税問題〕	(熊沢通夫)	86
現代経済事情 II〔インターネットと経済〕	(丸尾聰)	87
現代経済事情 III〔金融ビッグバン〕	(皆藤実)	89
現代経済事情 IV〔規制緩和〕	(田口博之・川崎研一)	89

現代産業事情 I ( 休 講 )  
現代産業事情 II ( 休 講 )





科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 学 概 説	あさの <small>あさの</small> 浅野 <small>かつみ</small> 克巳	経 済 1 必	4

講義のねらい

経済学は実際の経済・社会のさまざまな問題と結びつけて勉強したときに、その面白さがよくわかると思います。この面白さを伝えるのが授業の目的です。さあ、経済学を始めよう！

講義の内容・  
授業スケジュール

1. 社会の問題を経済学で考えてみよう
2. 市場は神様だ
3. 所有権とインセンティブ
4. 企業の目的は利潤
5. 独占はなぜ悪い
6. 会社はだれのものか？
7. 市場の失敗
8. 恋愛と贅沢と資本主義
9. 節約は悪徳だ
10. 景気の良し悪しは投資で決まる
11. 今日の100万円≠明日の100万円
12. 火と車と中央銀行
13. パイの分け方について
14. 政府は不要か？
15. 餅は餅屋に
16. 情報とレモンの原理
17. ケインズとハイエク
18. 図表で見る日本経済：その1
19.         "               : その2
20. 日本の経済システムを考える：その1
21.         "               : その2

履修上の留意点

以上のような内容について話す予定です。毎回、授業当日の日経新聞の朝刊を用意してきて下さい。

成績評価の方法

レポート（年数回）と定期試験によって行う。

教 科 書

日経新聞、その他最初の授業で説明します。

参 考 書 等

高橋伸彰『数字に問う日本の豊かさ』中公新書 1996年 経済企画庁『経済白書』平成9年度参考書、辞書、その他経済学の勉強の仕方については授業の中で紹介します。その他必要に応じ資料を配布します。

科目名	担当者名	配当学年	単位
経済学概説	あり 有 井 行 夫	経済 1 必	4

講義のねらい

これから大学で4年間、経済学を学んでいくための課題と意義を明らかにすることが本講義の目的です。

皆さんは、高校までに、政治経済のほか、日本史、世界史、地理など、現実の社会経済にかかわるいくつかの科目を学んできたはずですが、そこでは教科書を理解し記憶する努力を重ねてきたことでしょう。その努力の到達度は、学期ごと試験や入学試験で、アチーブメント・テストによって判定されてきたでしょう。

こうした努力によって獲得した知識は、それ自体、有意義なものです。また、そのすべてが大学で経済学を学んでいくための基礎になるものです。けれども、教科書学習の過程で、ややもすると、教科書こそが勉学の対象なのだ、というような気分になってしまうものです。ところがよく考えてみると、現実の社会、現実の経済を学んでいくさいの本当の唯一の教科書は、私たちが生きているこの社会そのもの、この生きた経済そのものです。現実の生きた経済は、過去の歴史を背負いながら運動し、日々刻々と変動しており、実のところは、将来がどうなるのか、誰も確実なことはわからないのです。教科書に記載されている知識の体系は、実は、貧困や生活の格差、景気変動、インフレ、国際的衝突など、現実の生きた経済現象が私たちに投げかけている問題について、先人たちが解きあかしてきた理解の到達点なのです。だから、経済学をいきいきと学ぶための大前提は、現実の社会・経済が私たちに投げかけている問題そのものを共有することです。「問い」を確認したとき、はじめて解答＝学問の意義があるのです。そして、その「問い」を投げかけるのは、テストではなくて、現実社会そのものなのです。

本講義は、現実の社会が投げかけている問題を皆さんに提示し、問題解決としての経済学を学ぶ意義を明らかにします。わけのわからない巨大な力＝社会に翻弄されて受動的に生きるのではなく、主体的にこの社会、この経済を理解し、自分の意見を持ち、主人公として生きよう。これが、本講義をつらぬくメッセージです。

講義の内容・授業スケジュール

以上の目的に合致した最高の教材は、実は、「今日の新聞」です。果たして、「今日」という日になが起きるのかわかりませんが、基本的に、「今日の新聞」の主要記事について、ひろく社会的・政治的視野のもとにとりあげて、それが含んでいる背後の問題を明らかにします。出来事は、偶然的ですし、具体的には予測を超えたことばかりです。それにもかかわらず、1年を通じて、25本程度のトピックスをとりあげるなかで、ある普遍的な経済的社会的な問題が浮かび上がってくるはずですが、90年代不況のなかで進行せざるをえない日本の構造変革の意義と課題が明示されてくるはずですが、使用する教科書は90年代経済の問題構図を提示しており、とりあげた問題の位置の確認のために参照します。

ちなみに私が前回概説を担当した95年度に結果的に論じることになった内容を提示しておけばつぎのようです。

1. 1ドル=80円/
2. 円高を論じる
3. 規制緩和を考える
4. 円高と産業空洞化
5. 阪神大震災とオウム——危機管理を考える
6. 5年連続採用減/——96年度新卒採用計画、8.7%減
7. 企業社会を考える
8. 自由レポートの時間
9. インフレ経済とデフレ経済——日本の景気三番底に？
10. ハリファックス・サミットを考える——冷戦後サミットの意義
11. 日米自動車協議
12. 前期のまとめ——現代経済をみる眼：「成長の限界」
13. ブラザ合意10周年
14. 公的資金の導入と金融の公共性——金融システムの危機管理
15. 「がんばるな日本/」
16. 「資本主義問題」と「日本問題」——「がんばるな日本/」続論
17. 社会主義を考える
18. 「時間」の尺度を考える——歴史の物差し
19. 「時間」論再論
20. 会社とはなにか——日本社会の特殊性
21. 新防衛計画大綱と経済の国際化
22. 経済審議会新6ヶ年計画答申
23. 賃金革命
24. 現代経済をみる眼——1年のまとめ

成績評価の方法

経済学への導入としての講義の性格上、平常点、つまり、授業への出席と何回かのレポートで評価します。

教科書

経済学教育学会編『経済学ガイドブック』（青木書店）2,800円  
 なお、なんらかの新聞を毎日読むこと当然の課題とします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 学 概 説	ふくはら よしのぶ 福 原 好 喜	経 済 1 必	4

講義のねらい

この講義は学生に経済についての基本的知識を得てもらうことを目指す。毎回統計や図表を用いて、その時々<sup>の</sup>日本経済、世界経済の諸問題について、概括的説明と問題提起とを行なう。学生諸君が、身の回りや、新聞、テレビで見聞きする経済事象について主体的関心と具体的知識を得る一助になればと思っている。昨年講義で取り上げたテーマ例示すると、

1. 日本農業と食糧の現状
2. 日本の女子労働
3. EU通貨統合
4. 世界通貨ドルの問題点
5. アメリカの財政赤字と日本の財政赤字
6. 株価下落と不良債権の処理不能
7. 日本人の労働時間と休暇
8. 平成不況突入と日銀の金融政策
9. 新食糧法——コメの流通機構
10. 農業の衰退と食糧自給
11. 林業壊滅——円高の結末
12. 農林業の衰退と自然破壊
13. 日本の景気——指標の読み方——
14. 農産物輸入とポストハーベスト
15. 北海道経済をゆるがす北拓の破綻
16. EUの歴史
17. 世界経済の現状——EU、NAFTA、APEC——
18. EAECと日本の利害
19. 山の廃業
20. 日本の教育費
21. 地価下落と金融システムの不安定化
22. APEC各国の利害
23. 平成不況から平成恐慌へ
24. 国防と防衛費
25. 日米安保と米軍駐留経費負担
26. 橋本、三塚、松下の経済危機管理能力
27. 財政改革こそが財政改革を不可能にする
28. 何時も間違える政府・日銀の経済予測
29. 農業壊滅と日本の安全保障

履修上の留意点

1. 授業中の私語、居眠り厳禁。(時に1時限目から寝ている学生がいるが、眠たい学生は家で寝ること)
2. PHSは電源を切ってから出席すること。(授業中の受信音は<sup>・</sup><sup>・</sup><sup>・</sup>授業妨害である)
3. 出席点を40点つける。まずい教育でも、居ない者に教育は出来ない。サボル自由も学生にはあると思うが、そういう人は後で泣きごとを言わない。

そ の 他

授業の性質上教科書はない。自分の書いた新聞記事、雑誌論文、ニュース当事者の談話その他をその都度資料として使用する。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論 I	おお いし ゆう じ 大 石 雄 爾	経済1・2・3・4必	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

経済原論 I (マルクス経済学) では、資本主義経済の一般法則について講義します。このことは、ふつう市場経済と呼ばれているシステムの諸法則について勉学することを意味します。では、どうしてそのような資本主義経済に関する一般理論を学ぶ必要があるのでしょうか。

現代世界は、これまで「社会主義」と呼ばれてきた体制が崩壊したこともあって、混沌としているように見えます。しかし、旧来の社会主義諸国は市場経済への移行を旨ざしているわけですから、これは社会主義の資本主義化の動きであるといえます。他方、戦後50年をへてN I E S やアセアン諸国も資本主義としての発展を軌道に乗せるに至りました。これらの動きをまとめると、世界はいまこそ資本主義社会として、同じ原理にしたがって運動している、ということになります。このような世界の運動の原理として、まず、資本主義経済の一般法則を学ぶことがますます重要になっている、とあってよいでしょう。

しかし、だからといって資本主義が調和的に発展し、人々の生活が豊かで幸せなものになったかと言えば、必ずしもそうとは言いきれません。たしかに、アメリカ、日本などの先進資本主義国の人々の所得は多くなりましたが、それだけに北の先進国と南の貧しい発展途上国との経済格差はむしろ拡大しています。先進国どうしの間にも貿易摩擦の問題があります。そして、先進国の内部をのぞいてみると、財政の赤字、高い失業率に悩まされているという実態があり、特に日本では、労働者の長時間労働が解決されていません。

資本主義の成長をもってしても、これらの問題は解決されていないばかりか、成長のゆえに地球環境の破壊は急速に進行しつつあるといえます。世界が資本主義社会として一元化の傾向を示しつつあるだけに、私たちはなぜ資本主義がこうした諸問題を生み出すのか、資本主義はそれを解決する手段を持っていないのだろうか、という問いかけをしてみなければなりません。それは、資本主義の一般法則とは何か、その展開がどのような具体的諸問題として現象するのか、を追求することと同じです。以上のような意味において、資本主義の一般的運動法則を認識することが、私達の一人ひとりに求められているといえるのです。

では、資本主義の原理＝一般法則の重要な特徴はどこにあるのでしょうか。誰もが知っているように、資本主義社会では富が商品として生産され、貨幣を用いて売買されています。すなわち、商品生産社会なのですが、富が商品として生産されるということは歴史上いつでも見られたことではなく、社会の一定の発展を前提にして成り立ったものなのです。いったい生産物が商品という形態をとり、貨幣が取り引きの手段になるような社会とは、どのような社会なのか、これが最初に把握されるべき重要な点です。

さらに、資本主義社会では、この商品生産が資本＝企業によって実行されており、企業は利潤を得ることになります。また、銀行は利子を、土地所有者は地代を手にいれています。では、これらの所得はどのようにして生まれてくるのでしょうか。他面、商品を実際に生産するのは資本家ではなく多数の労働者ですが、彼らは賃金の形態で所得を得ています。一般的に言えば、資本は成長していても労働者の暮らしはなかなかよくなりません。資本家のもとで労働者が働くということはどういうことなのか、がよく理解される必要があります。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は、以上述べた点に焦点を当てながら、次のようなテーマに沿って進めてゆく予定です。

- |            |         |
|------------|---------|
| 1. 商品と貨幣   | 7. 国民所得 |
| 2. 資本の生産過程 | 8. 国家財政 |
| 3. 資本の再生産  | 9. 世界経済 |
| 4. 価格・利潤   |         |
| 5. 商業と銀行   |         |
| 6. 資本主義と農業 |         |

履修上の留意点

経済原論は一つのまとまりをもっていますので、毎回出席し、ノートをよく取る必要があります。時間的に余裕があれば、現代社会の諸問題についてお話してみたいと考えています。

成績評価の方法

授業時間を利用して何度か、小レポートを書いていただきます。後期に定期試験(記述)を実施し、成績評価は、小レポートと定期試験の点を合計することにより行います。

教 科 書

金子ハルオ編『資本主義の原理と歴史』(青木書店) 2,000円

科目名	担当者名	配当学年	単位
経済原論Ⅱ	あさの かつみ 浅野 克巳	経済1・2・3・4必	4

講義のねらい

経済学の目的は、われわれの日常生活の中でごく身近に生起する様々な経済問題の原因は何か？なぜそのような問題が起きるのか？それらを解決する処方箋はどのようなものであるべきか？といった問題を明らかにすることであり、われわれの生活と深い関わりがある。

このような観点から「経済原論Ⅱ」では、経済学の基礎理論を近代経済学の方法にしたがってできるかぎり平易に解説する。

講義の内容・授業スケジュール

- ・前期
- I. マクロ経済学
  1. 経済循環と国民所得の諸概念
  2. 国民所得の決定
  3. 財政・金融政策
  4. 経済の変動と成長
- II. ミクロ経済学
  1. 消費者行動の理論
  2. 企業行動の理論
- ・後期
- 3. 市場均衡と価格決定
- 4. 一般均衡分析
- III. 公共政策
  1. 公共政策のマクロ分析
  2. 公共政策のミクロ分析
- IV. 国際経済学
  1. 国際経済学のマクロ分析
  2. 国際経済学のミクロ分析

履修上の留意点

現代経済学を勉強するうえで不可欠なことは、現実の経済問題に常に関心をもつことである。これらは様々なマス・メディアをとおしてあふれるほど提供されている。とりわけ『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおしてもらいたい。必要な記事はスクラップ・ブックに整理しておく、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つであろう。

現代経済学を理解するためには数学の知識が必要であるといわれるが、標準的な基礎理論で用いられる数学は高度なものではない。高校の基礎解析あるいは代数程度で十分であろう。経済分析に必要な数学は授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで自ら反復練習することが肝要である。

なお、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒澤大学情報教育センター」に常備されている。それらを利用しシミュレーションを行ってみることも、経済学理解の一助となるであろう。授業の内容と関連のあるソフトあるいは利用の仕方については最初の授業で詳しく説明する。

成績評価の方法

成績は筆記試験とレポートによって行う。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1995年

参考書等

上記テキストの巻末には、各章ごとに必要な参考書が一括して掲げられているので参照されるとよい。また、各種国家試験の受験対策として必要に応じ問題練習も行うので、以下の問題集も用意して下さい。

〔問題集〕青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1995年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論 II	まつ い りゅう へい 松 井 柳 平	経済1・2・3・4必	4

講義のねらい

世の中にはさまざまな経済的社会的問題が存在する（いままで経済的社会的な問題意識をもったことのない極楽な人には、新聞を毎日読む習慣を身につけることを勧める）。さまざまな経済的社会的問題に対して、どのように考え答えていったらよいのであろうか。

現実の経済はあまりに複雑すぎて、そのままでは物事の本質を見失いかねない。そこで複雑な現実の経済をある程度単純化し、実際の経済の模型（モデル）を構築し、それを対象に分析をおこなうことになる。もちろん、プラモデルのような物理的な模型を作るのではないが、現実を単純化、抽象化することによって、本質を取り出そうというのである。経済モデルは数学を用いて記述される場合が多いが、経済学には、十分整理して議論しないと、とんだ理由づけをしかねない場合や、論点が未整理のため自ら混乱を招く例は少なくなく、このようなとき、数学的思考が役に立つのである。実際、数学における思考訓練は、無限の可能性の中から必要な論理をえぐり出すことにある。いわゆる抽象力である。それは単純化による論理の明確化と言ってもよいし、あるいは見通しをつける能力と言ってもよい。理論にとって、数学的思考による自己点検は怠ることはできない。だが、本講義では微分等の数学は一切使わない。小学校レベルの四則演算と中学校レベルの1次方程式程度の理解のみを前提する。

こうして現実を単純化、抽象化した経済モデルを用いて得られた結果は、分析の前提となっているさまざまな仮定に大きく依存している。得られた結論は、あくまでそこでの仮定、つまり採用したモデルに依存しており、仮定が変われば、結論も必ずと変わりうる。そのため、経済学（少なくともミクロ経済学とマクロ経済学）においては、導かれた結論だけを暗記したりしてもまったく意味はない。議論の前提となるさまざまな仮定や論理的な推論プロセスといっしょになってはじめて、結論が意味をもつのである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学それぞれの基礎理論を解説する。ミクロ経済学とマクロ経済学とはアプローチの仕方も、したがってモデルの構造も異なり、両者は必ずしも矛盾なく接合されているわけではないことに留意されたい。

ミクロとは微視的ということであり、ミクロ経済学は諸主体の行動の動機づけにまでさかのぼって、経済全体を理解しようとする。社会に存在する資源は稀少であり、すべての人の欲望を無制限に満たすことはできない。当然、稀少な資源の利用を、だれに、どれだけ、許すべきか、といった資源配分の問題が発生する。資源配分のメカニズムとしてはさまざまなあるが、私たちが生活している市場経済における価格メカニズムが挙げられる。価格メカニズムは、その資源に対してもっとも高い価格を支払える人に優先的にその資源の利用を許すメカニズムである。本講義ではこの価格メカニズムという資源配分の機構に焦点を当てることになる。

マクロとは巨視的ということであり、マクロ経済学は経済諸主体の活動を例えば1国全体の規模で集計した国民所得などの集計量を用いて分析し、さまざまな集計量相互の関係を考察する。考え方の基本的な枠組みとして、市場のすみやかな調整に信頼をおく「新古典派」と、市場のさまざまな不完全性を重視する「ケインズ派（ケインジアン）」とがあるとされてきた。

履修上の留意点

授業に出席する人には、授業前の予習が必須要件として求められる。授業に出席していれば偉いというものではない。授業後、熟考してもなお疑問点があれば積極的に質問してほしい。

成績評価の方法

期末試験などで評価する。

教科書

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 学 概 説	あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓	商 1 必	4

講義のねらい

はじめて経済学に接する1年生に、マクロ経済学の基礎を示す。ちょうど1年間で、そもそも所得とは何かということからはじめて、国際収支、国際均衡、為替相場、乗数、財政、税金、貨幣、銀行券、債券、利率、といった基本概念をはじめ、貨幣数量説、古典派理論、ケインズ理論のような基本的学説までを解説する。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 所得とは
- (2) 付加価値と国民所得
- (3) 国民所得の循環図式
- (4) 貯蓄投資の均衡条件
- (5) 国内均衡と国際均衡
- (6) 国際収支
- (7) 為替相場と国際収支
- (8) 乗数理論
- (9) 乗数理論の拡張
- (10) 財政と税金
- (11) ビルトインスタビライザー
- (12) 貨幣の定義と信用通貨
- (13) 銀行券発行の仕組み
- (14) 信用創造その1
- (15) 信用創造その2
- (16) 貨幣数量説その1
- (17) 貨幣数量説その2
- (18) 古典派の経済学
- (19) 利率と債券と流動性選好説
- (20) LM曲線
- (21) IS曲線
- (22) IS = LM曲線と不完全雇用
- (23) 古典派理論とケインズ理論の比較
- (24) 財政政策と金融政策
- (25) クラウディングアウトとポリシーミックス
- (26) 物価の決め方

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可。

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』成蹊堂



科目名	担当者名	配当学年	単位
経済学概説	瀬戸岡 紘	商 1 必	4

専門教育科目

講義のねらい

経済学概説は、経済学の楽しさと奥ふかさを紹介する科目です

あたらしく経済学部に入學された諸君が、これから経済学を学習し研究するためのイントロダクションとなる話をするのが、この講義です。ここで私がなにより大切にしたいと考えていることは、まだ入学してまもない諸君がおおいに抱いているはずの勉学への期待をうらぎらないで、むしろ、ふくらませるようにもっていくことです。そのために、この講義では、受講者となる諸君の期待や要望に応じて、きわめて柔軟にプログラムを組んでいくつもりです。以下にかかげた、この講義のテーマも、大まかな目標としてのプログラムにすぎません。

講義の内容・授業スケジュール

- 《導入の話題》
- ◇最近の経済をめぐる話題から（内容未定）
- 《世界各地の経済を題材として——経済史と経済政策論へのイントロダクション——》
- ◇ヨーロッパの経済・今昔
  - ◇アメリカ経済の特質
  - ◇旧ソ連・東欧の実験
  - ◇日本の経済
  - ◇アジア経済の発展
  - ◇地球と経済
- 《思想家や経済学派を題材として——経済学史と理論経済学へのイントロダクション——》
- ◇古典学派の人びと
  - ◇歴史学派とその後継者たち
  - ◇マルクス学派
  - ◇近代経済学の起源と諸潮流
  - ◇ケインズと20世紀の経済
- 《むすびの話題》
- ◇あたらしい経済学派の諸見解と21世紀の世界

前期の課題は、経済史、経済事情、経済政策のイントロダクションです

世界各地の今日の経済事情を概観しつつ、そのような経済事情を生んできた歴史的背景を考え、あわせてそれぞれの地域での経済政策の実態をごく簡単な紹介をします。現代経済事情——各国めぐりの旅」という気分で、最新の情報をもとに、受講者のみなさんを経済の世界に案内します。しめくりは、環境問題のような、21世紀を展望するさいきとくおかない諸問題にまで話をすすめます。

後期の課題は、経済学史と経済理論のイントロダクションです

過去の著名な経済学者や経済学派のおかれた環境やその人（たち）自身が格闘した難題などの紹介をとおして、今日われわれがまなぶ経済学の生いたちをたどってみます。あわせて、それぞれの学者や学派の理論のアウトラインや特色をも概観します。著名な経済学者たちがどのような人生をすごしながら、それぞれ歴史にのこる理論をつくっていったか、この講義での聴きどころとなるでしょう。最終回では、今日の最新鋭の経済学の潮流や苦難にも言及します。

履修上の留意点

1回の講義にひとつのテーマをとりあげます

講義では、1回ごとにひとつずつテーマをとりあげます（上記の◇について、おのおのふたつぐらのテーマ）。毎回の講義では、なるべく身近な話題や経済現象、あるいは日々のニュースからはじめて、基礎的な理論やキーワードの解説もくわえながら話をすすめますが、どんなテーマをとりあげるばあいにも、なにより経済学のおもしろさを諸君にわかってもらえるように展開していくつもりです。そのために講義では、諸君との対話を大切にしながら、ともに考えていくようにするつもりです。

成績評価の方法

経済学のおもしろさがいっそう理解できた受講者が単位をとることもできます

この科目は必修科目なので、経済学部のすべての学生がいずれかのクラスで受講することになります。それだけにこの講義は、経済学部のさまざまな学生の期待にこたえるように努力します。しかし、安直に単位だけをねらおうとする学生には、容赦ない対応をとることになるかもしれません。1年後に経済学がいっそう好きになったと感じられるような受講者がもっともよい成績をとることのできるような評価をするつもりです。とくにこの講義の性格上、一発の年度末試験で成績をつけることは適当と考えにくいため、受講者諸君と協議のうえ、平常点を重視すべく、諸君には、随時、授業をとおして獲得した成果や感想を文章にして提出してもらい、それをもとに成績評価をするようにしたいと考えています。同時に、受講者の諸君からも、私の講義にたいする評価をくだしてもらうつもりであります。

教科書

最新のニュースや膨大な情報、そして歴史的事実こそ、この講義のテキストです

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。一回一回の講義をとおして、諸君の経済学にたいする関心や問題意識をひきだしていくことがこの講義の課題だと考えるからです。たくさん出版されている書物や雑誌、テレビ番組などのなかに勉学に役立つものが見つければ、その都度紹介していくつもりです。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 学 総 論	おお ぶき かつ お 大 吹 勝 男	商1・2・3・4必 経済1・2・3・4選	4

## 講義のねらい

近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります。そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もあります。また、大学は社会的要請に答えねばならないという主張のもとに、その実、社会ではなく、会社・企業のために大学が存在することを主張し、かつ君たちに会社人間になることを勧めるマスコミや評論家等がいます。そして一方で、学問に背をむけ、それらに迎合する大学人がいます。しかし、大学は入学した君たちのためにあり企業のためにあるものではありません。そして、大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いいかえれば、大学でしか学べないこと、物事の見方、考え方を学ぶことです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり、また入社してから容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に学問をしておくべきであったということです。諸君も、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に思考する能力を身につけて下さい。そして、社会に出て現実に困難な問題に出会った時に、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講義するものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいとおもいます。したがって、授業では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。そのためには一年間を通して授業に出席することが必要です。また本講義は、君たちが履修するであろうマーケティングや商業政策・流通政策のための基礎理論を提供するものであります。また、商学科の学生は、あわせて経済原論Ⅰを履修すれば、本講義の理解の助けとなるでしょう。

 講義の内容・  
授業スケジュール

授業内容は下記の項目の通りですが、本年度は、これらの項目について講義しながら、現代企業の経営戦略において重要性を増している物流問題を考えるうえで、その基礎となる理論について特に力を入れたいと思います。

- (1) 商品論（価値論）
- (2) 生産過程論（労働過程論）
- (3) 流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）
- (4) 資本の回転と流通資本
- (5) 商業資本の本質論
- (6) 商業資本の自立化論
- (7) 商業利潤論
- (8) 純粋流通費用論
- (9) 商業労働論
- (10) ホワイトカラー労働論（サラリーマン論）
- (11) 商業資本の回転と価格
- (12) 大規模商業資本論
- (13) 独占的商業資本論
- (14) 卸売排除論
- (15) 流通系列化論

## 成績評価の方法

評価は期末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともありうる。また各授業項目が終る毎に、小テストを実施し、君たちの理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とします。

期末試験は論述形式ですが、テキストの参照を認めます。しかし、この措置は、私自身、学生時代に非常に疑問に思っていたことでありますが、君たちに、受験生のような暗記の勉強を早く卒業してもらい、十分な準備をして試験に臨んでもらいたいということでもあります。いうならば、問題のわからないレポート試験とでもいえばよいかもしれません。したがって、容易に単位が取得できるという意味ではありませんから誤解のないように。

## 教 科 書

- 1 大吹勝男著『新版流通費用とサービス理論』梓出版社
- 2 『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻第2号
- 3 『経済学論集』第20巻第4号
- 4 『経済学論集』第22巻第1号
- 5 『経済学論集』第22巻第4号
- 6 『経済学論集』第26巻第1号
- 7 『経済学論集』第27巻第1号

以上、2から7までの『経済学論集』には、大吹勝男の執筆する商業資本、商業利潤および商業労働に関する論文が掲載されていますから、図書館にてコピーして利用して下さい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
経営学総論	寺中良二	商1・2・3・4必 経済1・2・3・4選	4

講義のねらい

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。企業論の展開として個人企業、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社（初期・近代・現代）、公企業、自主管理社会有企業について体系的に講義を展開する。特に資本主義企業の最も支配的企業形態としての株式会社制度については、証券市場制度成立による出資資本の回収機構、擬制資本範疇としての株価形成の論理と算式、株式会社の支配機構およびそれに基づく財政技術の狙いと事例、現代株式会社における経営者支配をめぐる論争、その他について説明する。また、自主管理制度については、労働者の人間的復権にもとづく企業民主化の徹底性を明らかにしたい。さらに、管理論においては、アメリカ資本主義の独占形成期に成立したティラーの作業管理技術の主内容とその本質、大企業における下層から上層への管理技法の全般化と経営者の役割、全体主義批判の思想を根底にもつドラッカーの組織原理や労務管理などに言及する。以上二つの領域ともに、経営学という学問が、人間の幸福に少しでも役立つらうらばと思う。尚、経営の国際化に対応して、専門用語（経済英語・経営英語）の履修者習得にも力を入れたいと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

<企業論>

- I. 企業形態論の方法
- II. 人的会社
  - (1) 個人企業の特質と限界
  - (2) 合名会社の形成と特質ならびに内部変化
  - (3) 合資会社の形成と特質
  - (4) 有限会社の成立要件・意図と地位
- III. 株式会社
  - (1) 初期株式会社の成立事情
  - (2) 人的会社と近代株式会社
  - (3) 資本の動化
  - (4) 擬制資本および株価の形成
  - (5) 自己資本の他人資本化
  - (6) 創業者利得のヒルファディングによる解明
  - (7) 株式会社の機能資本家
  - (8) 株式会社と協同組合
  - (9) 創業者利得の取得形態
  - (10) 現代株式会社の主内容
  - (11) 配当利了化の二段階
  - (12) 自己金融
  - (13) 経営者支配の諸問題
  - (14) 株式各論
- IV. 公企業
  - (1) 主要国における公企業の設立事情
  - (2) 現代資本主義のもとにある公企業の性格と役割
- V. 企業の民主化・国有化・社会化
- VI. 自主管理社会有企業
  - (1) 自主管理連合労働体制
  - (2) 体制転換（株式会社化）
- VII. 米国自動車企業各論

<管理論>

- I. 現場肉体労働者に対する管理としての管理論の成立——ティラーシステムにおける管理機能と執行労働の分離
- II. 全般的管理への拡大としての管理論——中間管理者に対する管理（分権管理）とトップ・マネジメントの経営戦略
- III. ドラッカー理論の主内容および現代的意義と限界
- IV. 人間主義的管理論の意義——管理のための管理論から人間の幸福に奉仕する管理論へ

履修上の留意点

- イ 大教場における前列席が空席にもかかわらず最後尾に着席せし者並びに講義中に私語をする者に対しては授業時間中に講義内容について指名質問を行うことにしている。
- ロ 4～5月中及び9月最初の授業時間には、原則として授業内容の復習として5～15分間最初に再度要点を喋る。これで履修学生諸君の講義理解が高まるものと思う。
- ハ 授業に出て真剣に講義を聴くこと。そうでないと答案が書けません。論理を真に理解すれば暗記は一切不要である。意味が判らずに暗記しても全く無駄である。

成績評価の方法

年度途中における平常試験を1～2回実施して、多数の履修者間の学力格差を解消しつつ、期末試験の成績との総合評価（単なる算術平均はしない）を行う。平常試験は原則として口頭出題の筆記試験であるが、口頭試験（数名単位で再前列に呼び出し、論理的誘導質問による1問1答の討論形式）も実施したい。レポートによる単位認定は一切行わない。尚、期末総合評価においては、全員の成績が方一悪い場合には相対評価法を導入して救済する。

教科書

最初の授業で指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
会 計 学 総 論	なか はら しょう きち 中 原 章 吉	商1・2・3・4必	4

講義のねらい

企業会計の目的は、企業の経済活動を貨幣額によって、記録・計算・整理して、その結果を企業の利害関係者に財務諸表（貸借対照表や損益計算書など）によって伝達することである。企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業の社会的責任の重視などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした企業会計の目的、発展過程、制度など、企業会計の理論的な側面と企業会計の技術的な側面について受講者の理解を得ることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講義では、次の内容について、ほぼ次の日程で行う。

〔前 期〕

- 4月 1 序 論  
 (1) 会計の意義と目的  
 (2) 企業会計の領域と制度会計  
 2 企業会計の歴史  
 (1) 欧米における企業会計の発展  
 (2) わが国における企業会計の発展  
 5月 3 複式簿記の基礎  
 (1) 簿記一巡  
 (2) 伝票会計  
 6月 (3) 主要取引の記帳  
 7月 (4) 決算手続と財務諸表の作成

〔後 期〕

- 9月 4 企業会計の基礎構造  
 10月 5 財務情報と開示制度  
 11月 6 財務諸表と監査制度  
 12月 7 企業会計と財務分析  
 8 企業会計の新しい領域  
 1月 9 この講義の総括と年度末テストの説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計学総論は、「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」及び「会計監査論」の基礎となるものである。こうした科目を選択しようとする学生は、この講義を履修することが必要である。

成績評価の方法

講義中に実施するその時間行った講義内容についての簡単なテスト及び学年末テストの結果によって評価する。

教 科 書

- (1) 中原章吉著『会計学教程』（創成社）  
 (2) 中原章吉他著『簿記テキスト』（創成社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 学 史	ふく はら よし のぶ 福 原 好 喜	経済1・2・3・4選必 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では世界資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるといのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学及び経済学史に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。授業は前半で近代ヨーロッパの生成史を英、仏、独について概括し、後半で各国経済学の成立史を講義する。

履修上の留意点

出席点を40点つけるので不真面目な人はとらないでほしい。大人数の授業となるので、私語居眠りは厳禁、ひどい場合は退場願うことがある。授業は学生の興味ある具体的な話から始める。

そ の 他

一部で横道の話の方が面白いという風評があるが、学生の次元で経済学の話をしよという意図であって、本人には少し不本意な評価である。授業には全力投球する。PHS禁止。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 史	なんぶ のぶ ゆき 南 部 宣 行	経済1・2・3・4選必 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済史研究の様々な方法論を簡潔に紹介した後、最初の工業国家であるイギリスについて、18世紀中葉以降、第1次世界大戦に至る経済・社会の動向を概述する。経済・社会動向を検討する際の必須である人口動向や国民所得動向の概略に言及した後、産業革命期については、まず、代表的産業である木綿業や鉄鋼業に關説する。その他、農業、交通・輸送業等の動向にも言及するとともに、人々の生活水準動向を検討する。産業革命期以降についてはきわめて概略的な動向に触れるにすぎないが、19世紀後期における「大不況」の存在の是非、資本輸出動向等、イギリス経済史研究における重要問題を中心に概説する。

講義の内容・授業スケジュール

以下の各項目について、重要な諸点を中心に、それぞれ2、3回講義する予定である。

1 経済史の方法論	2 産業革命（用語および時期）
3 人口：統計資料と問題点、人口動態等	4 農業：伝統的見解、農業革命等
5 繊維業：絹、羊毛、木綿等	6 鉄鋼業
7 石炭業	8 交通輸送業：道路、水運、鉄道等
9 生活水準動向	
10 産業革命期以降、第1次大戦までの経済：ヴィクトリア朝の大好況期（1850～1873年）、大不況期と20世紀初期の経済停滞（1873～1914年）、国際経済との関連、資本輸出動向等	

履修上の留意点

上述の講義内容について、下記の参考文献を予め読んでおくことが望ましい。不明な点は講義中でも遠慮なく質問してほしい。

成績評価の方法

試験を中心として評価するが、後期にはレポートの課題を与え、自主的な意欲と努力を加味して、総合的に判断する。

教科書

前期、後期の最初の時間にハンドアウトを配布する。

参考書等

以下の文献は、参考にしていただきたい順に記されている。下記以外の文献については、講義中あるいはハンドアウトで提示する。

Peter Mathias, *The First Industrial Nation: An Economic History of Britain, 1700-1914*, 2nd ed., London and New York, 1983 (小松芳喬監訳、『最初の工業国家——イギリス経済史 1700～1914年——』〔改訂新版〕日本評論社 1988年)

Roderick Floud and Donald McCloskey (eds.), *The Economic History of Britain since 1700*, vol. 1: 1700-1860, vol. 2: 1860-1939, and vol. 3: 1939-1992, Cambridge, 1994.

Martin J. Wiener, *English Culture and the Decline of the Industrial Spirit, 1850-1980*, Cambridge, 1981 (原 剛訳『英国産業精神の衰退——文化史的接近——』勁草書房 1984年)

湯沢 威（編）『イギリス経済史——盛衰のプロセス——』有斐閣ブックス 1996年

小松芳喬『英国産業革命史』〔普及版〕早稲田大学出版部 1991年

B. R. Mitchell, *British Historical Statistics*, Cambridge, 1988

Evan Mawdsley and Thomas Munck, *Computing for Historians: An introductory guide*, Manchester and New York, 1993 (モズリー/ムンク『コンピュータで歴史を読む』有斐閣 1997年)

そ の 他

通常には、OHPを用いるとともに、随時、ビデオ、photo cd等により視覚的にも把握できるような講義に努める。

科目名	担当者名	配当学年	単位
経済政策	いし 井 啓 雄	経済1・2・3・4選必修 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

「政治政策」の講義のありかたとしては、土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係の問題を軸に経済政策とはどういうものなのかを専ら理論的に詳細に論ずる方法とか、現代資本主義国家の政策手法についてだけ細かく述べる方法とか、特定の領域、たとえば産業政策など教師の専門的研究領域にそくしてだけ講義する、などの方法もある。しかし私は、基礎的な専門選択必修科目のひとつとしてこの「経済政策」が位置づけられていることを考えて、この講義では、土台としての資本主義の発展段階、すなわち、重商主義、自由主義、独占資本主義、国家独占資本主義という発展段階ごとに、この資本主義の構造的発展を背景に変化していく国家の経済政策の内容の基本的な点について講義することとする。ただ学生の関心を考慮し、なるべく現代の問題に多く時間を充当するよに努めたい。

講義の内容・授業スケジュール

試験その他を除いて、講義の回数は意外に少なく、1年間におおむね25回である。そこでのこの講義回数をおおむね次のように充当する。

- (1) 土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係および政策とはどういうことかなどについて、2回。
  - (2) 重商主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね3回。前期重商主義、市民革命、後期重商主義、この段階での保護貿易政策その他主要な経済政策について。
  - (3) 自由主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね4回。イギリスにおける産業革命の意味、穀物条令の廃止に象徴される自由貿易の意義と産業資本の自立化による自由主義的経済政策の主な内容。イギリスに対しては後進的なフランス・ドイツ・アメリカなどの経済政策について。
  - (4) 独占資本主義段階の経済構造とその経済政策について、おおむね4回。自由競争が必然的にもたらす独占資本の成立とそれによる国家の政策の変化、資本の輸出と植民地支配の発展、第一次世界大戦の意味などについて。
  - (5) 国家独占資本主義の成立とこの段階での経済政策について、おおむね6回。1929年恐慌以後の経済政策の変化と第一次大戦とは異なる第二次世界大戦の複雑な性格をふまえた上で、第二次世界大戦後のアメリカ主導のI. M. F=G A T T体制の成立、アメリカの「援助」と覇権、各国の国家独占資本主義とその経済政策、経済成長政策と1970年代以降、さらに1985年以降のその変化、1990年代の不況、W T Oの成立などの今日の問題などについて。
- 以上のほか、①いわゆる社会主義の成立とその崩壊をめぐる問題、②として植民地の独立と新植民地主義的経済政策、③最近の規制緩和問題など、④明治維新と戦後改革を経た日本の経済構造と政治政策の特殊性、などについてもあわせて5～6回を充て、全体として25回の講義とする。

履修上の留意点

高校時代に学習した歴史（日本史および世界史）を含む社会科の知識、および経済学概説、経済原論Ⅰ・Ⅱの履修をきちんと行うことを当然の前提とする。

学会との重複、やむえない病欠など以外、休暇の前後でも休講はしないので、学生諸君もそのつもりで受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、自覚的な勉強を期待して、期末試験の成績を基本とするが、時々出欠をとり、試験の成績が振るわない学生の成績評価についてはこの出欠を考慮することとする。学生の受講態度によっては、途中で試験あるいはレポートを課することもありうる。試験については基本的に書物、コピーなどの持ち込みは認めず、自筆ノートについてのみ考慮することがありうることにする。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義の過程で適宜紹介する。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
財 政 学	さと なか つね し 里 中 恆 志	経済1・2・3・4選 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理の私経済とは異なる原理が作用する。公経済は租税徴収等による資金調達と、それをとおしての財政支出によらねば需要を充足できない経済領域である。したがって租税負担配分の方式、財政支出基準の考え方を問題にする。経済社会の変遷につれて負担の方式や支出基準についての考え方も変化する。そして公経済の比重が高まるにつれて、公経済と私経済の相互のかわりもますます重要になる。

国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。国民はまた財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていないなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の配分、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方はまず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに公経済の私経済のかわりについて総需要管理政策を講ずる。

講義の内容・  
授業スケジュール

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 (第2週) 公共財と公共部門 (第3週) 財政の歴史概略 (第4週) 予算編成と主計局の査定 (第5週) 予算編成と政党政治 (第6週) 予算政府案と議会審議 (第7週) 予算の執行と競争入札 (第8週) 予算の政治過程 (第9週) 租税原則学説 (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 (第11週) 申告所得税と累進課税 (第12週) 法人税と徴税技術 (第13週) 国際化と移転価格税制 (第14週) 一般消費税と付加価値 (第15週) 地方税と地方歳出 (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 (第17週) 機関費と純粹公共財 (第18週) 公共事業費と費用＝便益分析 (第19週) 公共事業費と公共財産の形成 (第20週) 社会保障関係費と所得再分配 (第21週) 補助金とスピルオーバー (第22週) 国債費と公債負担 (第23週) 総需要管理政策と国民所得の決定 (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 (第25週) 公債による財源調達と債券価格 (第26週) 大量国債の累積とその限界 (第27週) 財政金融政策と国際収支 (第28週) 財政投融资と政府貯蓄 (第29週) 試験と評価についての説明 (第30週) 試験

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

履修上の留意点

関連科目として、経済学部の専門教育科目である「経済原論Ⅱ」、「価格理論」、「国民所得論」、「行政法」の履修が望ましい。「財政学」は経済と政治の学際的分野の科目でもあるから、他学部履修科目として開設されている法律学科の「行政法各論」、政治学科の「地方自治法」等の履修も有効である。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。自筆のノート持ち込み可。

教科書

里中恆志＝八巻節夫編著『新財政学』文眞堂 3,200円

参考書等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版、東洋経済新報社  
野口悠紀雄 著『公共政策』モダン・エコノミックス12 岩波書店 2,000円  
中谷巖 著『入門マクロ経済学』日本評論社 3,300円

科目名	担当者名	配当学年	単 位
金 融 論	しぶ や りゅう いち 洪 谷 隆 一	経済1・2・3・4選必 商1・2・3・4選	4

講義の内容・  
授業スケジュール

第1部 金融の基礎知識（前期授業）

- 第1章 市中銀行
  - 第1節 預 金
  - 2 借入金
  - 3 資本金・積立金
  - 4 貸出金
  - 5 有価証券
- 第2章 中央銀行
  - 第1節 発券機能
  - 2 銀行の銀行としての機能
  - 3 政府の銀行としての機能

第2部 日本の金融制度（後期授業）

- 第1章 日本金融体系史論
  - 第1節 戦前の金融体系史論
  - 2 戦後の金融体系史論
- 第2章 金融制度改革論
  - 第1節 松方正義の銀行分業論
  - 2 戦前・金融制度調査会の銀行分業論
  - 3 戦争経済と銀行兼営論の台頭
  - 4 G H Q 主導の銀行分業論
  - 5 金融自由化と銀行兼営論への傾斜

講義は第1部金融の基礎知識と第2部日本金融制度とに分けて進める。

第1部では、金融制度の中核である市中銀行（第1章）と中央銀行（第2章）を対象とする。前者は銀行の勘定科目にそって業務内容を解説し、それに関連する諸事項（たとえば手形交換、為替業務、小切手と兌換銀行券との比較、預金の源泉と形態、信託会社、旧相互銀行、信用金庫、資金運用部資金、預金銀行と債券発行銀行、オーバー・ローン、割引手形、貸付金、利子、B I S 規制、その他金融自由化に伴う業務内容の変化など）にもふれる。後者は中央銀行の3つの機能（発券〔保証準備発手法、屈伸制限発手法、比例準備発手法、最高額制限発手法〕、銀行の銀行〔金利政策、マーケット・オペレーション、支払準備率操作、窓口指導〕、政府の銀行）を中心に概説する。

第2部は、以上の金融の基礎知識をふまえて日本金融制度に関する2つの問題を取り上げる。第1章では、日本金融体系史に関する戦前・戦後の代表的な学説（飯淵敬太郎『日本信用体系前史』1947年、石浜知行『特殊金融機関史論』1937年、松成義衛・三輪梯三、長幸男『日本における銀行の発達』1959年、加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年）の紹介と批判を行う。

第2章では、日本資本主義の後進性とその発展階段を念頭におきながら、金融制度改革の推進とその性格変化をみてゆく。まず松方正義によるイギリス銀行分業論の導入、その意義と限界、次いで第1次・第2次大戦時の銀行兼営論の台頭と金融制度調査会及び第2次大戦後・G H Q 主導の銀行分業論への変更、金融制度の再建、最後に金融自由化の進展に伴う銀行兼営論への傾斜（業態別子会社方式→ユニバーサル・バンク方式）、一方におけるリテール・バンクとホールセル・バンクといった新たな分業形態の出現について考察を進めてゆきたい。

教 科 書

三宅義夫『金融論（新版）』1981年（有斐閣）

参 考 書 等

加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年（東大出版会）  
 斉藤精一郎『ゼミナール現代金融入門』1988年（日本経済新聞社）  
 全国地方銀行協会『金融自由化の進展と地方銀行の対応』1991年（同協会）  
 後藤新一『金融制度改革と展望』1992年（時潮社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 経 済 論	もり 森            たけ 武            まる 鷹	経済1・2・3・4選必 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

1980年代の後半には、日本のG N Pは世界の14%を占めるまでになった。1950年が1%であることと比べるとこの間いかにすさまじい経済成長であったかがわかる。また、1950年代には世界のG N Pの40%を占めていたアメリカはこの間に25%までに低下し、貿易赤字と財政赤字に苦しみ1985年には初めて債務国に転落した。しかし、日本経済も1980年代の好景気、バブル経済を謳歌したが、1990年代には一転して本格的な不況局面に突入し、出口はまだまだ見えない状態である。驚くべき経済成長とゆたかさの背景に、日本社会は公害・環境破壊、企業内の長時間労働、高地価による貧困な住宅条件、少ない休暇など社会的な矛盾もまた累積していった。

このような社会変動をもたらした日本経済の成長はどのようにして生まれたのであろうか。その成長の軌跡と矛盾を、日本株式会社論や1940年体制論などの現代経済システムの源流論や、企業主義・会社主義、日本型企业社会など最近の日本的経営論や日本の労使関係論を視野に入れながら論じてみたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

1930年代の世界大恐慌から第2次世界大戦をへて1945年の敗戦による日本経済の崩壊から、戦後改革と高度経済成長をへて「経済大国」化した1980年代までの日本経済の段階的変化と構造的特質を把握することをねらいとする。

講義の進め方は、1930年代から1990年代にいたる日本経済の軌跡を5期に区分してそれぞれの時期を資本構造、労使関係、農業問題、対外関係の4つの視点から明らかにしていく。

年間の講義スケジュールは以下の通りである。

- 1 財閥資本と金融資本
- 2 昭和恐慌と高橋財政
- 3 恐慌下の労資関係
- 4 戦時統制経済
- 5 戦時下の農業問題
- 6 大東亜共栄圏
- 7 財閥解体と再編成
- 8 戦後資本主義の再建
- 9 労働改革
- 10 農地改革
- 11 高度経済成長とは何か
- 12 企業集団と法人資本主義
- 13 日本的労使関係
- 14 高度成長下の農業問題
- 15 石油危機と高度成長の終焉
- 16 経済大国化への道
- 17 日本型企业社会の確立
- 18 現代経済と労使関係
- 19 現代の農業問題
- 20 世界の中の日本

履修上の留意点

履修に関していえば、日本経済に関する最新の新聞情報を毎回トピックとして解説し、講義内容もだれでも理解できるように説明する。そのつどプリント（図表）を配布し、また補助教材としてビデオを多く利用するので低学年にも十分理解しうる。ただし出席、授業内小テストなど採点は厳しいのでとくに4年生は心して履修されたい。

成績評価の方法

成績評価は期末試験（論述式）を中心に採点する。中間テストとして夏休みにレポートを課す。出席状況も評価に加える。期末テスト、夏休みレポート、出席状況の三者は、60点、20点、20点の割合で評価する。

参 考 書 等

森武鷹ほか『現代日本経済史』（有斐閣）1,700円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 経 済 論	とく なが とし あき 徳 永 俊 明	経済1・2・3・4選必 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけでもありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えになりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう1本の命綱としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・  
授業スケジュール

〈講義のテーマ(予定)〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日=第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱の一つずつ検討します。

前期——世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期——今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済  
貿易・国際通貨制度・資本輸出——(「援助」と多国籍企業)・〈南北問題〉と新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート(3回予定)および学年末レポートで評価します。(追・再試験は行いません。)

参 考 書 等

講義の中で適宜紹介する。

そ の 他

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄って下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社 会 政 策	みつ おか はく み 光 岡 博 美	経済1・2・3・4選必 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の半ばに、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対峙していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問は発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととしたい。

- (1) 社会政策の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代福祉国家の生成と展開
- (7) 日本的労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。

教科書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 政 策	いわ した ひろし 岩 下 弘	商1・2・3・4選必 経済1・2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義の内容・  
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
  - 1 80年代の小売商業構造
  - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
  - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
  - 1 中小小売商保護政策論
  - 2 流通近代化政策論
  - 3 流通システム化計画論
  - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
  - 1 70年代の流通
  - 2 80年代流通産業ビジョン
  - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
  - 1 百貨店法
    - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
  - 2 中小小売商業振興法
  - 3 小売商業調整特別措置法
  - 4 大店法
    - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
    - 3) 1991年改正法
  - 5 凍結宣言、要綱及び条例
  - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
  - 7 規制緩和
    - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告
    - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
  - 8 特定商業集積法
  - 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
  - 1 イギリス
    - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
    - 2) 日曜営業問題－商店法
  - 2 フランス－ロワイエ法
  - 3 ドイツ－土地利用計画
  - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 流通問題と消費者保護政策
  - 1 消費者問題論
  - 2 消費者保護基本法
  - 3 消費者行政
  - 4 生協
- 七 流通問題と独禁政策
  - 1 独占禁止法
  - 2 不公正取引
  - 3 取引慣行

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教 科 書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』白桃書房 2,800円

参 考 書 等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』大月書店 2,600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
マ ー ケ テ ィ ン グ	そ 曾 が のぶ たか 我 我 信 孝	商1・2・3・4選必 経済1・2・3・4選	4

講義の内容・  
授業スケジュール

1. 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
  - (1) 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
  - (2) 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
  - (3) チャンネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
  - (4) 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
  - (1) 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
  - (2) 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合会社との関係などである。
  - (3) 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
  - (4) 総合会社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合会社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合会社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合会社の子会社戦略、②総合会社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウエイトをおいていることはいうまでもないが、ここでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

教科書

曾我信孝『総合会社とマーケティング』白桃書房 ¥4,000

参考書等

必要に応じて紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
経営管理論	ひく た よし はる 百 田 義 治	商1・2・3・4選必 経済1・2・3・4選	4

講義のねらい

現代企業の経営管理（組織と管理）について、大学生に必要な基礎知識を提供することと、その現代的諸課題の現状と問題点を明らかにすることが一年間の講義を通しての課題です。

講義の内容・授業スケジュール

多数の人々の協働体である組織が、さまざまに変化する環境の中で、目的・目標の設定から達成までのプロセスを効率的に運営する活動が経営管理です。したがって、経営管理は、学校や病院や政府諸機関など非営利組織（NPO）、あるいはボランティア活動の組織（NGO）にも必要不可欠な活動です。しかし、現代社会において組織という場合に、企業を除いて組織を語ることはできません。一年間の講義の中では、NPOやNGOの組織の特性や管理の課題についても up-to-date な話題にふれて言及しますが、講義の中心は現代企業の経営管理問題です。

一年間の授業スケジュールは以下の通りです。

前期（4月～7月）は経営管理論の流れを「個人と組織」の問題を中心にフォローし、その現代的意義について考えます。前期の授業の内容は次のような問題です。

- ①経営管理論（授業）ガイダンス（経営管理論では何を学ぶのか？）
- ②現代の組織と経営管理（企業の経営管理とNPO・NGOの経営管理は異なるか？）
- ③経営管理論の源流1：科学的管理法（唯一・最善的管理法は存在するか？）
- ④経営管理論の源流2：管理過程と管理原則（経営管理は学校教育で学べるか？）
- ⑤組織の人間関係（人間の非論理的・非合理的行動とは何か？）
- ⑥現代組織論1：個人と組織の統合理論（個人の欲求充足と組織目標の達成は両立するか？）
- ⑦現代組織論2：意思決定論（経営者の意思決定は科学の対象になるか？）
- ⑧モチベーション論（自己実現とは？勤労意欲は何から生みだされるか？）
- ⑨人的資源管理論（行動科学とは？「労働力」と「人的資源」では何が異なるか？）（夏休みの課題）前期の授業についてレポートの提出を求めます。

後期（9月～1月）は現代企業の経営管理の実際（当面する諸問題）を具体的に検討します。

- ⑩ 企業戦略論（現代企業のもっとも重要な経営管理問題とは何か？）
- ⑪ 日本企業の国際競争力（トヨタ・システムはフォード・システムを超えたか？）
- ⑫ グローバリゼーションとジャパナイゼーション（日本の経営は国際的に通用するか？）
- ⑬ 日本企業の国際化（グローバル化とローカル化の両立は可能か？）
- ⑭ 経営管理と情報化1（企業内・企業間ネットワーク化は経営管理を根本的に変革するか？）
- ⑮ 経営管理と情報化2（情報化は中間管理職を無用化するか？）
- ⑯ 地球環境問題と経営管理（共生の時代の経営管理に求められるものは何か？）
- ⑰ コーポレート・ガバナンスと企業倫理（企業の統治者の社会的責任とは何か？）
- ⑱ 人間の未来と経営管理の課題（一年間のまとめ）（学年末試験）

履修上の留意点

新聞・雑誌・ニュースなどを通して現代の企業と経営に関心を持つことが大事です。「なぜ」という疑問がなければ勉学意欲は持続しません。現実の経営管理問題にマークシート方式の解答はありません。すべてが応用問題です。洞察力と問題解決能力も90%は経験と学習です。

成績評価の方法

出席（10%）、小レポート（10%）、夏季レポート（20%）、学年末試験（60%）で総合的に評価します。

教科書

笹川・山下・仲田・渡辺編著『現代の企業経営を学ぶ』ミネルヴァ書房 1996年

参考書等

片岡・篠崎・高橋編著『新しい時代と経営学』ミネルヴァ書房 1998年  
その他、授業や夏季レポートに関連して随時紹介する。

その他

授業に関する質問などがあれば研究室（第2研究館4階2436；電話03-3418-9345）を気楽に訪ねるか、E-mail（授業で説明）で問い合わせして下さい。また、授業（予習・復習、参考書など）に関する情報はホームページ（授業で説明）でも獲得することができますのでアクセスして下さい。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
労 務 管 理 論	いし 石 井 しゅう 脩 じ	商1・2・3・4選必 経済1・2・3・4選	4

講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意義を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実が生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこの勤労生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせて利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本的経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉であったということである。しかし、今日、日本企業の競争力にかげりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本的経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会で妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるというところにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進めていく。

序 章 人事労務管理から人材管理へ	第5章 報酬管理
第1章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化	第6章 労働時間管理
第2章 採用管理	第7章 福利厚生管理
第3章 教育訓練と能力開発	第8章 女性労働の管理
第4章 昇進管理	第9章 国際人事

成績評価の方法

定期試験のみにて評価、評価の基準は解答内容の論理性と説得性

教科書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

参考書等

津田真徹編著『人事労務管理論』ミネルバ書房

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
簿 記 論	しま ざき のり こ 島 崎 規 子	商1・2・3・4選必 経済1・2・3・4選	4

講義のねらい

最も授業で目的とする点は、簿記とは、どのようなものであるかを理解してもらい、簿記のおもしろさを知り、好きになって簿記検定試験に挑戦してもらいたいことです。

簿記は、実践学です。学生各人が電卓とペンを使って先生といっしょに勉強に参加する授業です。

簿記の授業では、会社で日常使う言葉がたくさんでてくるので、就職する前の準備教育にもなります。

講義の内容・授業スケジュール

今年度の講義は、簿記検定を受験する者や経理で活躍しようとする者にすぐ役立つよう以下の内容で体系的に進めたい。友達といっしょに参加して下さい。

講義の大筋は、次のとおりです。

〈前期〉—— 複式簿記の基礎知識 ——

- (1) 簿記の主要概念
- (2) 取引・仕訳・勘定記入
- (3) 決算手続・試算表・精算表(その1)
- (4) 決算整理事項と精算表(その2)
- (5) 貸借対照表と損益計算書の作成

〈後期〉—— 主要取引・帳簿記入・応用問題 ——

- (6) 現金・預金・有価証券の取引
- (7) 商品売買・掛・債権・債務の取引
- (8) 固定資産・手形・資本の取引
- (9) 売上帳・仕入帳・商品有高帳の記入
- (10) 応用問題

履修上の留意点

授業では、毎回、教科書、ノート、電卓、筆記用具、定規が必要です。他人に迷惑をかけないように忘れないで持ってきて下さい。

成績評価の方法

出席率、授業態度、小テスト、定期試験などを総合評価して決めます。なお、欠席理由が学校行事への参加や教育実習などの場合は出席扱いとします。きちんと届けを出して下さい。

教 科 書

下野武司・島崎規子・石田九洲男著『複式簿記の理論と演習』(中央経済社)

そ の 他

原則として特に今年度は、2年生と3年生は、2限目または3限目に受講をし、1年生と4年生は、4限目に受講すること。人数が多い場合は、移動もあります。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
財 務 会 計 論	えん とう たかし 遠 藤 孝	商1・2・3・4選必 経済1・2・3・4選	4

講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計 (FINANCIAL ACCOUNTING) について、その伝達、開示の手段である貸借対照表 (BALANCE SHEET)、損益計算書 (INCOME STATEMENT) を中心に、その性格、内容、役割について講義する。

講義の内容・  
授業スケジュール

前 期

- (1) 4月第1週  
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週  
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週  
財務会計の制度性について。  
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週  
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週  
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週  
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週  
繰越資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週  
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週  
同上。
- (10) 7月第1週  
資本会計について。

後 期

- (11) 9月第1週  
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- (12) 9月第2週  
連結財務諸表とは何か。
- (13) 9月第3週  
同上。
- (14) 10月第1週  
セグメント会計について。  
リース会計について。  
年金会計、退職給与引当金と年金会計
- (15) 10月第2週  
企業内容、会計内容の開示について。  
注記 財務諸表附属明細表 (書)。
- (16) 10月第3週  
同上。
- (17) 10月第4週  
財務諸表の監査、商法上の監査。
- (18) 11月第1週  
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。  
「企業会計原則」について。
- (19) 11月第2週  
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- (20) 11月第3週  
同上。
- (21) 11月第4週  
日本、世界企業会計の最新動向。
- (22) 12月第1週  
同上。
- (23) 12月第1週  
会計学を学ぶについて考えるべきこと。パソコン時代の企業会計。総括。
- (24) 最終週  
予備。  
以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

成績評価の方法

試験による。(前期、後期2回実施の予定)

教科書

遠藤孝他著『会計学』森山書店 1998年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
会 計 学 総 論	てら 寺 つば 坪 おさむ 修	経済1・2・3・4選	4

講義のねらい

会計専門科目の履修のため、あるいは経営・経済の理解の前提としての計数管理の基本を習得する。経営に秩序と統制をもたらす会計が、統計やOR等の数理科学とどう違うのかを、具体的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

会計の分野を幅広く取りあげていくが、特に基本技術である簿記の原理の解明に、やや重点がおかれる。具体的には次の事項(分野)が含まれる。

- ① 企業活動と会計の関係
- ② 会計の体系
- ③ 複式簿記原理(演習を含む)
- ④ 企業会計の一般原則
- ⑤ 財務諸表(総論と各論)
- ⑥ 財務会計の論点把握
- ⑦ 管理会計総論
- ⑧ 財務諸表分析の基本
- ⑨ 監査の概要(意義と種類)
- ⑩ その他(国際動向など)

履修上の留意点

計算器具を持参し、頭のみでなく、身体(手)を動かすこと。常に本質を追求する姿勢を維持すること。質問は歓迎。私語は厳禁。

成績評価の方法

理解度の水準により評価(試験実施・中間レポートを要求することもある)。出欠は採らない予定。

教科書

岩辺晃三編著『基本会計』 税務経理協会 2,621円(税別定価)

参考書等

参考文献はそのつど紹介。

その他

授業は講義中心となる。板書の読み取り等、教室の前方に位置することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論 I	あ べ 部 弘 あ べ 部 弘	商1・2・3・4選	4

講義のねらい

私たちの生活をしている社会は「商品生産の社会」である。つまり、生活に必要なものがすべて「商品」として生産されそれを「おカネ」をだして買ってきて消費をするという社会で毎日の生活を送っているのである。

さて、一般に私たちの生活にとって重要で有益なものは「富」と考えられている。この商品社会の「富」というのは一体何であろうか？「価値」を生むものが「富」なのだ、と政府の「国富統計」は言う。そして、価値はというと、それは「社会」に役に立つ・有益である、ということである。

とは言え、このことは今私たちの社会にあっては「商品」生産の体系の中で言われることである。そもそも、「売れるもの」でなければ「価値」はないし、「富」とは関係がない。しかしながら、この世に存在するものすべてが売買されるものであるわけではないから、このような規定は人間の生活とは離反しているように見える。

しかも、私たちは単に「商品社会」で生活しているというだけではない。商品社会をその基本にもった「資本主義社会」で生活している。

資本主義生産様式では生産の目的は利潤（もうけ）の生産にある。私たちが日常買ってくるものも利潤の生産の手段にすぎない。社会に、そして私たちに利益になるからということで、そのようなものが商品として生産されているわけだが、「役に立つ」と私たちには思えても企業・「資本」は売れてしかも利益にならなければ、いくら「役に立つ」ものでも「商品」として生産はしない。

さらに生産されてもそれを手に入れるためには「おカネ」（貨幣）がなくてはならない。「おカネ」は不思議なもので、これさえあればすべてのものが手に入るように思えてくる。

「おカネ」がすべてのように見え、おカネを手に入れるために、人々は種々様々なことをする。社会で「偉い」のはおカネをたくさん所有している人々であるかのようだ。「おカネ」をたくさん持っているかどうかで、何が社会に役立つものなのかどうかという基準も異なってくる。大金持ちの資本家は、ある国を買収して自分の利潤を生産させる手段にすることもできる。地球の自然環境や自分以外の人間がどのようになろうともそれは二の次としか考えない。「利潤」がもっとも大事なものだからだ。

だから私たちが「富」であると思うものと現実の「社会」や社会を支配している人々（階級）が考えている「富」はそれぞれに異なっているのかもしれない。そこでその関係を明らかにすることが「富」とは何かを考えていくうえで重要な課題になる。

「経済学」はその成立のときから、「富」とは何かを問題にしてきた。その歴史は「富とは何か」の歴史である。「富」は人間社会の歴史のなかで、その時代に応じて、意味合いを異にしてきた。私たちが生活している社会は「資本主義」の社会であるから、当然、富は「資本主義的富」である。したがって、この社会を特徴づけている基本的カテゴリーの分析をつうじて「富とは何か」を明らかにしていくことが「経済学」には課される。その基本的カテゴリーとは「商品」・「貨幣」・「資本」であるから「経済原論」の講義では3つのカテゴリーとその関係を明らかにし、そのことが人間相互の関係としてどのような形で表わされるのかを分析して私たちの生活・行動の方向を示す。

講義の内容・授業スケジュール

講義の方法：講義は受講生の人数によって異なる。

1) 人数が50名を超過するばあいには講義の体系をとる。このばあいには年4回のレポートの作成を行い、最初に講師が課題を提起してこれに受講生が応え、2回目以降は受講生が作成してきたレポートを講義を踏まえて、講師が添削して、各自に独自の課題を設定していく。テキストは用いない。

4回のレポートの作成は以下の日程で行う。したがって、「定期試験」および、その「追・再試」は行わない。

No. 1：7月上旬 No. 2：10月中旬 No. 3：12月中旬 No. 4：1月

2) 人数が50名以下のばあいにはグループ分けをして、グループ毎にディスカッションをして2回の個人レポート作成を行う。このばあいには講義はグループ毎への問題の提起という形をとる。ただし受講生名簿がでてくるのが前期いっぱいになってしまうのでその間は講義の形態をとる。したがって7月上旬に第1回目のレポート作成を行う。

成績評価の方法

\*講義形態〈1〉のばあい：評価は4回のレポートを通じて行う。

\*講義形態〈2〉のばあい：ゼミナール形式をとるので試験はおこなわないが、出席が不良であったり、2回のレポートを提出しないばあいには失格になる。

そ の 他

受講生の質疑応答に便利のように講師の連絡先を以下に示す：研究室：No.2538 Tel:3418-9360  
住所：〒179-0072 練馬区光が丘6-1-4-204/Tel:03-3976-7984

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論 II	あさ た とう いち ろう 浅 田 統 一 郎	商1・2・3・4選	4

講義のねらい

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』および『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するための橋渡しをすることを目的にしています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

近代経済学の理論体系は、「マイクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。マイクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学の重要な一分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」(様々な細かい個別的な変数を合計して、あるいは平均して得られる概念)を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。(駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が並存して各学派の間で活発な論争が行われている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

- I. マイクロ経済学
  1. 消費者行動の理論
  2. 企業行動の理論
  3. 市場均衡の理論
  4. 不完全競争の理論
- II. マクロ経済学
  1. 国民所得の概念
  2. 国民所得決定の理論
  3. 貨幣と利子率 (IS・LM分析)
  4. 財政・金融政策の効果

成績評価の方法

成績は年2回(前期・後期)に行う筆記試験によって評価します。

教科書

浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎 著『エコノミックス』(成蹊堂)

参考書等

本講義の範囲を越えてもっと詳しくマイクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

〔指定図書・文献等〕

武隈慎一著『マイクロ経済学』(新世社)

中谷巖著『入門マクロ経済学』(日本評論社)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
統 計 原 論	よしの 吉野 紀	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。それでは、推測統計学の基本とは何であろうか。サミュエル・パトラーは「人生とは、不十分な証拠から十分な結論を引き出す芸術である」と言っているが、この文言の「人生」を「統計学」に置き換えるならば、相当の部分を言い当てていることになる。「相当の」であって「完全に」ではない理由は、元来、人生には偶然性や不確実性につきものである。偶然が支配していると思えないデータから何がしかの決定や判断を下すためには、すべての経験に裏打ちされた人間性・人格を総動員して粗なデータをインテリジェンス（情報）へと昇華させなければならない、その過程こそ人生そのものであるからである。

統計学の扱う世界は不確実性が支配する世界であり、人間はこの偶然性に長い間悩まされてきた。「偶然とは、おそらく、神が自分の名をサインしたくなかったときの、神の仮名であろう」（アナートル・フランス）。端的に言えば、統計学の住む世界では、どのような結論が下されようとも、そこには確実に誤りが何パーセントかの確率で含まれるのである。この世界の住人たることに何がしかの面白味を感得してもらえればと期待する。

講義の内容・  
授業スケジュール

1. 記述統計 —— 標本データの整理 ——  
 度数分布表  
 統計値（平均値、中央値、最頻値）  
 散らばりを表す統計値（分散、標準偏差）
2. 確率変数と確率分布  
 2項分布  
 ポアソン分布  
 正規分布
3. 標本抽出と標本分布  
 ランダム・サンプリング  
 中心極限定理  
 t分布
4. 統計的推定  
 推定とは何か  
 平均値の区間推定
5. 仮説検定  
 検定とは何か  
 平均値の検定
6. 回帰分析 I  
 単純回帰モデル  
 最小2乗法  
 回帰と相関
7. 回帰分析 II  
 回帰における統計的推測  
 多変量回帰（重回帰）
8. 経済成長の見方  
 弾力性の話  
 eの話

履修上の留意点

第2講では、2項分布や正規分布の分布の様子を見るために、パソコンでプリント・アウトさせた資料を配布して、具体的なイメージをもってもらえるよう努めたい。  
 数学上の知識は特に必要としない。

教 科 書

最初の授業で指示する

科目名	担当者名	配当学年	単位
価格理論	あらきよしひろ 荒木勝啓	経済・商1・2・3・4選	4

専門教育科目

講義のねらい

授業のあらまし：価格理論の目的は、経済の中でマイクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することでもある。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノ・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のありようによっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやマイクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導き出されるas if パフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところで経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる「経済」現象は生じないのである。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなったときから泉の水に経済現象が生じ始める。

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといてもよい。従って講義のかなりの部分がそのために準備と練習にあてられると期待したい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、偏微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 消費曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノ・ナッシュ均衡
- (21) クールノ・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) 共謀解

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』成蹊堂



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国民所得論	よしの吉野 おさむ 紀	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万（平成3年）あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財（商品）やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP（国内総生産）にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,070万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成5暦年のGDPによって466兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとすれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限らない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的（マクロ）分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ（経済主体）毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」…………… 5回  
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。  
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」（配布資料）
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」…………… 4回  
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。  
《参考》中谷蔵 『入門マクロ経済学』（日本評論社）第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」…………… 8回  
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。  
《参考》伊達邦春（編）『マクロ経済学』（八千代出版）第9章
4. 「金融政策、財政政策」…………… 4回  
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。  
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学（上）』（CAP出版）第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 5回  
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス（上）』（第6版）多賀出版

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
景 気 変 動 論	にしむらみつよし 西村 允 克	経済・商1・2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

全体としての経済は、景気回復→好況→景気後退→不況→景気回復→という循環を繰り返しながら発展してきた。この発展が景気変動論の対象であるから、この景気変動を繰り返しながら発展する経済過程を、いかに理解・把握するかが、この講義の中心目的となる。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義は以下のように進められる。

I 国民所得決定理論  
対象が全体としての経済であるから、全体としての経済の成果を示す経済数値である国内総生産（GDP）を動かす要因とそれらの要因の変化がGDPにどのような影響を与えるか、という問題をここで取り上げ、景気変動を理解するための理論的基礎を与える。

II テキストの批判的説明  
景気変動は経済数量の変化によって説明されるから、テキストに示された数値や因を用いながら、戦後日本の景気変動の具体的な姿を解明する。  
在庫投資循環（キッチン・サイクル）  
設備投資循環（ジュグラー・サイクル）  
コンドラチェフ・サイクル  
の3つのサイクルがまず取り上げられ、それぞれをテキストの因・数値によって説明し、3つのサイクルの関係について説明する。  
次に金融や輸出がサイクルといかなる関係があるかを説明する。  
講義はテキストの順序に必ずしも従がうものではない。

履修上の留意点

景気変動は現実の経済と密接な関係をもっているから、受講者は毎日の新聞記事に注意して出席すること。

成績評価の方法

期末試験

教 科 書

森一夫著『日本の景気サイクル』東洋経済新報社 3,150円

参 考 書 等

篠原三代平著『戦後50年の景気循環』日本経済新聞社  
嶋中雄二著『メジャー・サイクル』東洋経済新報社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 経 済 史	こしょう 古 庄 正	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

日本経済史の対象は原始古代以来の経済発展の全過程であるが、今年度は明治の産業革命期に焦点を絞り、資本主義経済システムが日本ではどのように定着し、発展したかを概観したい。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 序. 経済史とはどういう学問か。 (1回)
- 1. 江戸時代の経済発展 (2回)
- 2. 開港とその影響 (1回)
- 3. 明治維新の諸変革 (1回)
- 4. 明治政府の工業化政策 (1回)
- 5. 政商・天皇家・華族の資本蓄積 (1回)
- 6. 松方財政と企業勃興 (1回)
- 7. 軽工業の発展 (1回)
- 8. 重工業の発展 (1回)
- 9. 炭鉱と鉱山 (1回)
- 10. 在来産業の近代化 (1回)
- 11. 産業革命と公害 (1回)
- 12. 鉄道と海運 (1回)
- 13. 産業革命と農業・農村 (1回)
- 14. 外国貿易の発展と商社 (1回)
- 15. 財政と金融 (1回)
- 16. 資本家と労働者 (1回)
- 17. 財閥の多角化 (1回)
- 18. 産業革命と教育 (1回)
- 19. 産業革命と植民地 (2回)
- 20. 大正期の日本経済 (2回)

履修上の留意点

日本経済論の履修を薦める。

成績評価の方法

期末テストの成績とレポートによる。配点は前者70点、後者30点。

教 科 書

プリントを毎時間配付し、それにもとづいて講義する。教科書は使わない。

参 考 書 等

参考文献は必要に応じて授業時間中に指示する。

そ の 他

授業の方法は講義形式。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 地 理	こう さか なが お 上 坂 修 夫	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義の主目標は、居住の地域的偏在をもたらす各地域の経済活動偏在の要因と、それに伴う地域的問題について考える点にある。これらの原因や影響はきわめて多面的に捉える必要があるため、次のような点に特に留意して講義を行う。

- (1) 各地域の経済活動が、自然的特性、歴史的・社会的特性と、どのように関わっているか。
- (2) 各地域間の経済活動は、どのような相互関係をもっているか。
- (3) 以上の「地域特性」と「地域間の相互関連」との上に展開されている経済活動が、どのような要因によって変化していくか。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 4～5月（6回）  
 テーマ「自然条件・社会経済的条件と経済活動との関係」地域がもつ「人口を支える力」ということの意味、それに関するさまざまな条件の関わり方、その複雑さをどのように整理すべきかを考える。
- (2) 6～7月（7回）  
 テーマ「第一次産業の地域的類型とその変化」農業生産を主とする第一次産業が、都市的産業との対比にみられる生産性の不利の中でどう変化してきたか。各地域の経営形態とその背景による類型区分を行い、国際貿易、輸送手段の変化等による立地の変動や、農林業地域に対する都市的産業の接触・進出について考える。
- (3) 9～10月（6回）  
 テーマ「第二次産業の集積にみられる地域的類型とその変化」第二次産業にみられる集積状況の類型区分を行い、その立地の要因について考える。また地域間の経済的関係の変化によって製造業がどう変化するか、特に空洞化に関してその現状と影響について考える。
- (4) 11～1（6回）  
 テーマ「人口移動と、それがもたらす諸問題への対応」近・現代の村落部から都市域への人口移動、さらに諸国家間の国際的人口移動が、地域の経済政策により加速され、或いは抑制されてきた状況について述べ、このような人口移動がもたらす社会的諸問題と、それに対する対応についても考えていく。

履修上の留意点

この授業の目的を達成するためには、まず具体的事例によって現状を把握し、それについて種々検討することが必要である。そのため、内外のさまざまな地域をとりあげて考えるが、これらの事例は経済地理的な見方や考え方を身につけるための素材として扱うものであって、個々の現象を丸暗記するようなことで終わってしまうのでは、無意味な勉強法でしかない。そのために大切なことは、当たり前なことなのだが授業に出席して「いま、何を明らかにするためにこの授業が行われているのか」に注意しながら聴くことであるといえる。

成績評価の方法

基本的に学年末試験による。ただし、これにレポートの点を加味する。学年末試験に関しては、単に学習した事項を覚えるのではなく、それをもとに、出題された問について十分考えて記述する力をもつことを期待している。

教科書

特定の教科書を通年使用する方法はとらない。

参考書等

授業中に適宜指示する予定であるが、差し当たり次の文献を読むことを薦める。  
 江波戸昭『地域構造の史的分析』（大明堂）¥3,800

その他

必要に応じて資料のプリントを配布する予定である。また、年数回のレポートを課すことも予定している。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
農 業 政 策	こみやしょうへい 小宮昌平	経済・商1・2・3・4選	4

開講時に指示します。

専門教育科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
工 業 政 策	ふく だ あつし 福 田 敦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

戦後の我が国の産業政策を振り返る中で、産業政策の意義とその有効性について検証する。とくに、政策主体のありかたについて検討し、21世紀に向けた産業政策のあり方を探っていく。なお、産業政策の「産業」については製造業にとどまらず商業やこれらの集積もその対象に含める。また、中小企業、地域、競争、国際、NPOといった視点も積極的に取り入れていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 産業政策の意義と政策手段
2. 戦後日本経済の発展と産業政策
  - (1) 歴史的考察
  - (2) 協調ゲームの参加者
  - (3) 21世紀に向けた政策課題（製造業、商業）
3. 地域産業政策に対する期待
  - (1) 政策フレーム
  - (2) 産業集積の現況と課題
  - (3) 東京都の産業政策
  - (4) 創業支援に対する諸外国の取り組み
4. 創業企業の経営戦略と知識創造
  - (1) 創業企業の発展過程
  - (2) 知識創造のプロセス
  - (3) 創業支援のあり方

履修上の留意点

この授業では、はじめに経済学の理論を踏まえながら産業政策の意義や役割について検討するが、産業政策は需要サイドからのマクロ政策ではなく、むしろ市場経済を前提としつつも供給サイドからの政策であり、政策概念としては経済学の枠を超えた学際的な研究領域も重視すべきである。そこで、関連分野である経営学、商業学、社会学、産業組織、都市計画等の分野やこれらに付随する実証的な研究成果（海外も含む）についても随時紹介していきたい。学生諸君には理論と実践の両面から産業政策について理解を深めていくことを期待したい。このような意味からも勉学心が旺盛な学生の受講を期待したい。なお、教科書はとくに指定しない。

成績評価の方法

受講生の数にもよるが、区切りがよく一定の時間が経過した段階で学生諸君の問題意識や考え方を探るために簡易な試験を数回実施する。出席点はこの試験をもって代えることにする。このほか、中間期には簡単なレポートを課すことにする。なお、成績評価についてはこれら一連の平常点で行うため、学年末試験はとくに実施しない予定である。

参 考 書 等

- 小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編『日本の産業政策』東京大学出版会  
 小浜裕久・渡辺真知子『戦後日本経済の50年』日本評論社  
 金子貞吉『戦後日本経済の総点検』学文社  
 矢部洋三・渡辺広明・古賀義弘・飯島正義編著『現代日本経済史年表』日本経済評論社  
 国民金融公庫総合研究所編『進化する下請企業』中小企業リサーチセンター  
 国民金融公庫総合研究所編『平成10年版新規開業白書』中小企業リサーチセンター（7月頃刊行予定）  
 中小企業庁『平成10年版 図でみる中小企業白書』同友館（6月頃刊行予定）  
 野中郁次郎・竹内弘高『知識創造企業』東洋経済  
 関満博『空洞化を超えて』日本経済新聞社  
 中谷巖『日本経済の歴史的転換』東洋経済新報社

そ の 他

ビデオやスライドを使用することもある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 金 融 論	さいとう ひさひこ 齊 藤 壽 彦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

外国為替、国際通貨、国際銀行業の理論と歴史と現状を中心として国際金融を講義する。金融面に重点を置きつつ、できるだけわかりやすく講義し、時事問題にも言及する。

講義の内容・  
授業スケジュール

前 期

前期は外国為替および国際金融市場について説明する。

4月：外国為替の仕組み

5月：外国為替相場論

6月：外国為替銀行論

7月：国際金融市場論

後 期

後期は国際通貨、IMF体制、旧IMF体制崩壊後の国際金融上の諸問題、日本の国際金融について講義する。

9月：国際通貨の理論

10月：IMF体制の成立、IMFの制度と機能と現実、旧IMF体制の崩壊

11月：変動為替相場制、SDR、ユーロダラー、インターナショナル・バンキング

12月：戦前日本の国際金融、戦後日本の国際金融（とくに日本の金融の国際化としての円の国際化、銀行の国際化、東京の国際金融センター化、日本企業の国際的資金調達、東アジアにおける日本の金融の国際化の進展）

1月：講義の要約と国際金融の将来展望

履修上の留意点

できるだけ出席するよう履修者に望みたい。年に数回出欠を点検する。また前期授業の最後に小論文（試験ではない）を提出してもらう。

成績評価の方法

学年末の筆記試験を中心とする。前期末の授業時間中に行う小論文の作成と出席点を若干考慮して成績をつける。

教 科 書

授業時間中に指定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
銀 行 論	さいとう 藤 正 齋 藤 正	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても橋本内閣の「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は、「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻の増加、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしているがゆえに、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
  - ① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
  - ② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 2) 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
  - ① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
  - ② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
  - ③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
  - ④ 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって理解度を評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を日指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』いずれも大月書店 1992年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう じ 和 田 耕 治	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

中小企業は異質多元の存在であるといわれている。それら特質は、大企業でないということを除けば、千差万別である。とはいえ、わが国においては、中小企業研究の歴史は、古く、その蓄積には、膨大なものがある。本講義では、今までの中小企業研究の蓄積を踏えつつ、今日における中小企業の現状とその課題を考察する。

講義の内容・  
授業スケジュール

年間二十数回程度の講義のなかで以下の点に触れながら授業を進める。

- ① 中小企業とは
- ② わが国における中小企業研究
- ③ 中小企業問題と中小企業政策
- ④ 下請分業構造の変化と中小製造業
- ⑤ 大規模小売店舗法の規制緩和と中小商業
- ⑥ 創業支援とベンチャービジネス
- ⑦ 中小企業従業者の労働と福祉
- ⑧ 地域経済と中小企業

成績評価の方法

夏休みのレポートと学年末試験で成績の評価を行なう。

そ の 他

授業では、必要に応じて、OHPやビデオを使用する。  
教科書は、とくに使用しないが、5～6月に発行される中小企業庁『中小企業白書』は各自で購入すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
人 口 論	もり 森 おか 岡 じん 仁	経済・商1・2・3・4選	4

専門教育科目

講義のねらい

人口に関わる学問分野は数多く存在するが、とくに経済学との関係から接近しようとするところにこの授業の特徴がある。経済と人口との関係はどちらかが一方的に他に働きかけるというのではなく、互いに作用しあう相互依存の関係にある。1970年代に成立しその後大きな発展を遂げつつある経済人口学は、この点に注目する人口学の一分野であるが、本講義も経済人口学の立場に立って、経済と人口の相互依存の関係を理論的、実証的に追求するものである。そこにおいては、日本を含む世界全体の人口について、過去から現在、そして可能なかぎり将来に及ぶ人口現象にまで論及してみたい。ことに、先進工業諸国に現在共通してみられる低出生力と年齢構造の高齢化の問題は、わが国においても経済との関係から早急に解決を迫られている関心事であり、将来益々その重要度を高めていくことは周知の事実である。

一方発展途上諸国に生じている急激な人口増加の問題は、貧困からの脱却のためには緊急に解決しなければならない困難な課題になっていることも周知のとおりである。このようにみえると、今や人口問題は地球規模で考え、そして解決していかなければならないことが理解されよう。しかしながら、人口を取り巻く関連分野が広範囲に及ぶことから、果たしてどこまでが人口の問題であり、どこまでが他の分野の問題であるのかを的確に見極めることが重要になってくる。真の人口問題が不明確だとすれば、それに対応する政策も不適切なものにならざるをえない。的確な事実判断の下に適切な政策を施すには、しっかりとした理論的知識を備えていなければならない。ここでは、経済人口学の成立と発展の過程を辿ることによって、人口理論の基礎的知識を養い、政策論にも言及してみたい。

何はともあれ、この授業では人口という眼鏡を通じて経済をじっくりと眺めることによって、一人でも多くの学生諸君が人口に関心を抱くようになってほしいと考えている。なぜなら近年の先進諸国においては子供を公共財的に扱う傾向があり、人口問題が国民一人一人の問題になっているからである。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 経済人口学の生成と発展
- II. 日本の人口と経済発展
- III. 人口高齢化の経済的諸問題
- IV. 人口政策

履修上の留意点

履修に当たっての条件というものはとくに無いが、近年大きな関心事になっている人口の“高齢化”や“少子化”に関する知識を、どのような手段をつうじてでも良いから得ておくことが望ましい。

成績評価の方法

学年末の定期試験、出席状況

教科書

大淵 寛・森岡 仁『経済人口学』新評論 1981年

参考書等

大淵・水野・森岡・吉田訳『マルサス人口の原理』中央大学出版部 1985年  
大淵寛・黒田俊夫編『現代人口問題』大明堂 1990年  
国際人口学会編（日本人口学会訳）『人口学用語辞典』厚生統計協会 1994年

その他

授業の方法：講義

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 経 済 論	や 谷 しき ただ みつ 谷 敷 正 光	経 済・商 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。  
 日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。  
 そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。  
 次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
  - (1) 日本の産業化と教育
  - (2) 日本の経済成長と教育
  - (3) 日本の産業高度化と教育
  - (4) 日本の「新高度成長」と教育
  - (5) 日本の人的開発政策
  - (6) レーガン大統領の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - (7) ブッシュ大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
  - (8) ブッシュ大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
  - (9) クリントン大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
  - (10) クリントン大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
  - (11) サッチャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - (12) メージャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - (13) ブレア首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
  - (14) 学制時代における実業教育政策1 富国強兵・殖産興業（映画）
  - (15) 学制時代における実業教育政策2 学制公布と実業教育
  - (16) 教育令時代における実業教育政策1 工場私下
  - (17) 教育令時代における実業教育政策2 教育令公布と実業教育
  - (18) 学校令時代における実業教育政策1 産業革命
  - (19) 学校令時代における実業教育政策2 学校令公布と実業教育
  - (20) 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
  - (21) 復興期の経済発展と教育1（一部ビデオ）
  - (22) 復興期の経済発展と教育2 産業教育振興法公布（一部ビデオ）
  - (23) 高度成長第1期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - (24) 高度成長第2期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - (25) 高度成長第3期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - (26) 高度成長終焉後の産業教育

履修上の留意点

- ① 年間5回小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用するので指定された教室が視聴覚教室かに注意すること。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しないので、必ずその授業中に受け取る。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。

教科書

毎時間、講義の教材として年間30～40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参考書等

豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』（東大出版）  
 ギ・ソルマン（秋山康男訳）『レーガンのアメリカ』（新潮社）  
 原田和男『ブッシュの米国経済』（日本経済新聞社）  
 宮崎正宏『クリントンの日米経済』（銀河出版）  
 森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』（岩波新書）  
 文部省『産業教育百年史』（ぎょうせい）  
 その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
ア ジ ア 経 済 論	か 郭 や 洋 ち 春	経 済 ・ 商 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

「世界経済の成長センター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。

植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、貧の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

I アジアの台頭

①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN

II ダイナミック・アジア

①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化、④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス

III 迷走するアジア

①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁

IV 21世紀のアジア

①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするのか

履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

成績評価の方法

授業中に行う小テストと学年末試験を合わせた総合評価（場合によっては長期休暇中にレポートを課すこともある）

教科書

特になし。

参考書等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』（中央経済社）  
他は授業中に随時紹介する。

その他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらおうつもりである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中国経済論	こ すぎ しゅう じ 小 杉 修 二	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。  
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。  
本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的説明をはかる。  
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。  
これについて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。  
このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないうであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。  
上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。  
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。  
また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正解な理解である（学説の受入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設 —— 超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥4,000

その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
アメリカ経済論	瀬戸岡 紘 <small>せとおか ひろし</small>	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのでできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済について関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・授業スケジュール

年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

《導入の話題》

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

- ◇アメリカの建国の理念と現代の経済
- ◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

- ◇アメリカの農業
- ◇アメリカの工業
- ◇アメリカの企業家とベンチャービジネス
- ◇アメリカの雇用と労働者
- ◇アメリカの商業とサービス
- ◇アメリカの交通・通信・情報
- ◇アメリカの金融
- ◇アメリカの教育と経済
- ◇アメリカの科学技術
- ◇アメリカの先端産業
- ◇アメリカ経済と環境問題
- ◇アメリカ社会とヴォランティア
- ◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

- ◇国際通貨ドルの地位とIMF
- ◇アメリカと貿易（GATTとWTO）
- ◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義
- ◇アメリカの海外援助
- ◇アメリカの多国籍企業
- ◇多国籍企業とアメリカ経済

## 《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとEC
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

## 《むすびの話題》

- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらしないで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

## 成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を何回か提出してもらうことを考えていますし、受講者の希望により、この講義のなかでいただくようになった問題意識をもとにアメリカ経済にかんする自由論題で小論文を年度末に提出してもらい試験に替えることも考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を考慮にいれつつ小論文を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

## 教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳 青木書店 1994年）をおすすめします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
ヨーロッパ経済論	し 清 みず 水 たかし 卓	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

ヨーロッパ経済論は、資本主義世界経済を創り出し、その主導者として、ここ数百年、世界の近代化を進めてきたヨーロッパ経済の現状分析を通して、今後の日本と世界経済の展望について考察することを課題とします。

1980年代末のソ連を盟主とする「共産主義」体制の崩壊以降、世界は、市場原理による経済運営と自由貿易体制の時代に入っている。このアングロサクソンの新自由主義経済システムが地球人類のかかえる諸問題にとって有効である否かを、ヨーロッパ諸国の現状をふまえて検討する。

現在、欧州連合（EU）諸国は、1999年の経済通貨同盟＝EUの単一通貨の実現をめざしている。通貨統合はアメリカドルから自立した強く安定した欧州通貨を創出し、欧州経済統合の完成を目指している。実現には現状のEU諸国の通貨価値の安定が前提となるが、この安定のため、EU各国とも緊縮財政政策を余儀なくされ、有効な景気対策が打ち出せないのである。歳出削減は、教育、社会保障制度の水準低下となって現れており、企業民営化やリストラによる失業率の高止まりと相俟って社会的緊張を引き起こしている。99年1月には実施段階に入る予定の単一通貨ユーロ、東欧、中欧諸国へのEU拡大、それに伴うEU機構の再編など、統合過程の動きに注目していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

【前期予定】

第二次世界大戦と戦後ヨーロッパ  
 アメリカ体制下のヨーロッパ  
 欧州統合への歩み—ECS CからEECへ  
 ヨーロッパの経済成長—そのメカニズム  
 市場統合の展開—関税同盟の理論と現実  
 農業共同市場の確立—ドイツの工業・フランスの農業  
 経済成長の限界—スタグフレーション  
 経済危機下のEC—統合の停滞と前進  
 サッチャーとミッテラン—新自由主義の台頭  
 1992年市場統合—非関税障壁の克服  
 経済通貨同盟—単一通貨ユーロの行方  
 前期試験

【後期予定】（受講生の希望を取り入れて、テーマを変更することがあります）

ヨーロッパの多様性—地理・民族・文化  
 ヨーロッパの近代と現代—覇権から「衰退」  
 欧州連合—欧州統合の歩み  
 EUの農業—多様性  
 EUの産業—強さと弱さ  
 EUの機構と財政—超国家か国家連合か  
 EUと地域政策—地域格差の克服  
 EUの拡大—東欧、中欧諸国の加盟に伴う諸問題  
 EUの対外関係—日本との比較  
 欧州の平和問題—ポスト冷戦と民族問題  
 後期試験

履修上の留意点

ヨーロッパ経済論は、一つの体系的理論を敷衍する科目ではありません。ヨーロッパの多様性について認識を深め、経済社会の現実に目を向け、経済や社会的諸問題の解決には様々な視点が可能であるのだということを確認してもらいたいと思います。

成績評価の方法

成績評価は、試験点数を基本とし、出席回数にも若干配慮します。なお、再試験は行わないので注意してください。

教科書

教科書はありません。ただし、日経文庫『EUの知識』は有益でしょう。

参考書等

参考書については授業中に紹介します。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
ロシア・東欧経済論	やま 山 かね 縣 ひろ 弘 し 志	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてもらえればよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることはできないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達しえたか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに答えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
  - (1) 社会主義論とマルクス
  - (2) ロシア革命のめざしたもの —— レーニン時代 ——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
  - (1) 1920年代から30年代への転換
  - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
  - (1) 「計画経済」の成立と実態
  - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
  - (1) 経済構造の特質と軍事生産
  - (2) 工業生産力と工業技術
  - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
  - (1) 経済改革の時代
  - (2) ブレジネフと停滞の時代
  - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
  - (1) ロシア・東欧の文化と社会
  - (2) 資本主義化の諸問題
  - (3) ロシアと日本 —— 比較経済史 ——

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（白筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万人の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るの当然のことになるだろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
貿 易 論	ふるさわ こうぞう 古 沢 紘 造	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
  1. 農産物と貿易
  2. 水産物と貿易
  3. 林産物と貿易
  4. 鉱物資源と貿易
  5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
  1. 開発援助と貿易
  2. 環境と貿易
  3. 公正と貿易
  4. 地域統合と貿易
  5. 総括：貿易と暮らしを問う

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

教 科 書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参 考 書 等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
証 券 市 場 論	いそ 磯 谷 あきら 玲	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在進展中であるわが国金融制度改革の動向をみても、証券市場はますますその重要性を増している。

本講義では、証券市場の基本的なしくみ（発行・流通等の市場ごとの特徴等）を説明した上で、一国の経済における証券市場の役割や位置等について考察する予定である。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、証券市場が発展している、ひとつの典型であるアメリカを主たる対象として扱う。講義の前半では、株式・債券のそれぞれの発行・流通市場の特徴や、証券化などの今日のアメリカ証券市場を形づくることならについての基礎的な説明を行なう。

後半では、証券市場と一国の経済との関連等について、1980年代のアメリカを対象として考察する。

履修上の留意点

特になし

成績評価の方法

基本的に定期試験の結果により評価する。必要に応じレポートを課す場合もある。

教科書

磯谷玲『80年代アメリカの金融変革』日本経済評論社 3,000円

参考書等

日本証券経済研究所『図説 アメリカの証券市場 '98年版』日本証券経済研究所（'98年3月刊行予定）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
保 険 論	いま 今 泉 たか ただ 敬 忠	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

近年、個人であると企業であるとを問わず、多様化しかつ巨大化した危険（リスク）をどのように処理するかは、経済生活上大きな問題となっている。そうした危険の処理に当たって大きな役割を果たすのが保険制度である。本講義では、まず保険の基本的原理を理解し、その上で個別の保険を取り上げてその実際がどのようにになっているかが理解できるようにすることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

保険の研究方法には種々の方法があるが、本講義では、前期には、保険の基本的原理（すなわち、保険の生成、保険の概念、保険の機能、保険料、責任準備金、資産の運用とその規制、保険者の組織、保険の分類等）を取り上げ、後期には、個別の保険（例えば、歴史的に一番古く、その後生成したその他の保険に大なり小なり影響を与えた海上保険）を取り上げ、経済生活上危険の発生が予測される場合、その危険が現実が発生し、それによって生じる経済的不利益（すなわち損害）が保険によってどのように補償されるかを、どの保険にも応用できる形で講義する。

履修上の留意点

保険は、必要があって生成し、長い年月を経て発展してきた経済制度であるから、それなりの独自の機構や組織をもち、更に用いられる用語にも特殊性がある。したがって、講義に出席してノートをとるだけでなく、下記参考書のいずれかを熟読することが必要であり、そうすることを希望する。

成績評価の方法

出席状況、授業時間中の態度および学年末試験を総合して評価する。

教科書

特に指定しないが、下記参考書を利用することが望ましい。なお、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

鈴木辰紀編著『保険論』（第9版）（成文堂）  
石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの理論』（白桃書房）  
前川寛『現代保険論入門』（中央経済社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
交 通 論	こ い で し ゅ う そ う 小 出 修 三	経済・商1・2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

交通に対する政策には、さまざまな政府による経済的な規制が非常に多い。鉄道、航空などの運賃は規制緩和の方向にあるものの、現在もなお、政府による規制制度の下にある。また、その市場に参入することも容易なことではなく、航空路線への新規参入も大きな話題となるほどである。ほとんどの商品やサービスを生産する一般の企業はその価格の決定や市場への参入退出が自由に行われていることを考えた場合、交通産業が置かれた経営環境は大きく異なる。本講義では、交通に対するこうした政府による公的規制がどのような理由によって行われているのか、そしてそれが社会に対してどのように影響を及ぼしているのかを考察することを目的とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

本講義では、上述のように、交通に対する規制制度を理解するために、前期においては各種交通機関を横断的に検討するとともに、日本における事業分野別に各交通機関の市場構造について概観する。そして、その規制制度について諸外国での制度と比較しながら、実体面および理論面からどのような議論がなされているのかについて考察する。

1. 交通産業の規制制度、そしてその変化（交通公企業の民営化の論議を含む）
2. 運賃料金制度
3. 交通調整制度、補助政策（総合交通体系論を含む）

後期においては、各交通機関別に以下のとおりの順で各論を展開しながら、それを通じて都市間交通、都市・地域内交通、および国際交通の実態について考察し、そこにおける問題点について論じる。

4. 鉄道
5. 道路輸送
6. 航空
7. 海運

履修上の留意点

講義は毎回配布するレジュメ、関係資料にもとづいて行ないますが、講義中気づいた点などはノートするようにしてほしい。また、疑問点などがあった場合には、積極的に質問などをしてほしい。

成績評価の方法

原則的には定期試験の結果にもとづいて評価する。

参 考 書 等

テキスト・参考文献については毎講義に配布するレジュメに、その講義の理解するために必要な文献について示すのでそれを参照してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代資本主義論	きた はら いさむ 北 原 勇	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

20世紀末の現在、米欧日など先進資本主義経済はおしなべて、深刻な停滞のただ中にあり、大量失業と雇用不安が続いていると同時に、国際的な通貨価値の激動と金融システム破綻の不安にさらされ、また国家財政の収支悪化も加わって、確固たる打開策も将来の展望も見いだせない状況にある。なぜ資本主義経済はこのような事態に立ち至ったのか、この正確な分析なしに今後の展望は語れない。本講義は、第2次大戦後の半世紀の歴史を概観しながらこの問題に迫ろうとするものである。

講義の内容・  
授業スケジュール

まず、現代資本主義分析の方法を巡って正統派・宇野学派・レギュレーション学派のそれぞれの特徴・有効性・限界を比較検討したうえで、①アメリカ主導の「冷戦下・国家独占資本主義体制」の成立・展開・解体の過程を、他方における「冷戦下・社会主義体制」の成立・崩壊の過程との関連で把握する。ついで、現代資本主義の諸相の考察にはいる。本年度は、②現代巨大会社における「所有と決定」、③現代的技術の発展と経済、④アジアの停滞と発展、以上の諸点に絞る予定。

成績評価の方法

学年末試験。随時小テストを加味。

教 科 書

北原勇・伊藤誠・山田鋭夫『現代資本主義をどう見るか』青木書店 2,500円

参 考 書 等

北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣  
北原勇『現代資本主義における所有と決定』岩波書店

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 方 財 政 論	しの はら あきら 篠 原 章	経済・商1・2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

地方財政の枠組みを理解するとともに、地方財政の基本問題を分析するための基礎的な手法を学ぶことを主眼とする。時事問題なども、折に触れて取り上げる予定である。

講義の内容・授業スケジュール

年間を通じて以下の項目を講義する予定である。

〔基礎編〕(主として前期)

1. 地方財政論を学ぶということ
2. 地方公共支出の役割
3. 地方公共支出の現状
4. 地方公共支出と公共財供給
5. 租税体系と地方税
6. 地方税制度の歴史と現状
7. 負担と受益
8. 地方債の基礎知識

〔応用編〕(主として後期)

1. 分権と集権
2. 地方財政調整の実態
3. ケーススタディ：沖縄問題と地方分権
4. 地方財政と地域開発
5. 地方財政制度の国際比較
6. ケーススタディ：高齢化社会と地方財政
7. ケーススタディ：「東京」の社会経済学

履修上の留意点

初学者を対象としたコースだが、財政学の知識があれば、より深く理解することができる。したがって財政学の履修経験があるか、財政学を履修中であることが望ましい。

成績評価の方法

学期末に筆記試験またはレポート提出を義務づける。また、少なくとも前後期各1回は課題を示し、簡単なレポートも作成してもらう。

教 科 書

斎藤愼・林宜嗣・中井英雄共著『地方財政論』新世社刊 2,400円(本体価格)

参 考 書 等

参考書・参考文献・資料等は随時指示する。

そ の 他

テキスト・参考書以外に、新聞等の時事的な資料やビデオ資料等もしばしば利用する予定である。質問等については電子メール(akirashi@ic.daito.ac.jp)でも受けつけるので、ぜひ活用してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
環 境 経 済 論	やまぐち ゆうじ 山 口 由 二	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

産業革命以降、人類は無限とも思える生産力を得て、それまでとは比べものにならない急速な経済発展・成長を成し遂げてきた。この大量生産、大量消費を美德とする社会における経済成長は、すべての人々に文化的で豊かな生活を与えるものとして、これまで、声高に異議を唱える者はほとんどいなかった。しかし、21世紀が間近にせまる現在、様々な矛盾が露呈してきている。そのもっとも大きな問題が、環境問題である。

現在の環境問題は、かつての水俣病に代表される公害問題のように加害者と被害者が明確に分離されるものばかりではなく、地球温暖化のように、ほとんどすべて人々が加害者であると同時に被害者となりうる問題や、熱帯雨林の破壊や、酸性雨問題のように、貧しさゆえに引き起こされ、そのことが南北問題にまで発展しているより複雑な問題もある。

本講義では、経済成長と環境の相互関係を歴史的視点と理論的視点の両視座から論じると共に、様々な事例を提示して経済成長の意味や、経済成長と環境破壊とのトレードオフの関係について論じる。この講義を通して、受講者の方々に環境経済学への問題意識を喚起したい。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、おもに、指定した教科書に沿って、資源・環境問題、及び環境経済学を理論的に論じる。その上で、後期では、地球温暖化問題、国有林や東京湾の漁業のコスト・ベネフィット分析、捕鯨問題、自動車の社会的費用、農業の環境問題など様々な事例を取り扱う。

履修上の留意点

本講義は、近経の基礎的知識を必要とするが、講義過程でその都度、簡単に復習を行いたい。環境経済学は、まだ確固とした学問体系が出来上がっておらず、発展の余地があり今後ますます重要となる研究分野である。この講義で積極的な質問や議論がでることを希望する。

成績評価の方法

前期・後期それぞれ、テストを行う。この結果と共に、授業の出席回数を成績評価に加味する。また、適宜に簡単なレポートを提出していただき、これも考慮する。

教科書

未定、最初の授業時に指定する。

参考書等

- ・ K. W. カップ著 篠原泰三訳『私的企業と社会的費用』岩波書店  
環境経済学の古典的名著。生産過程で第三者や社会が受ける、公害、環境汚染による損失を社会的費用として、大気汚染、水質汚染、動植物の絶滅、人災、エネルギーの枯渇、森林の濫伐等について理論と実際の両面で分析を試みている。1950年に原著は刊行されている。
- ・ 宇沢弘文著 『自動車の社会的費用』岩波新書 岩波書店  
若い人ならば皆大好きで、現代社会においてこれなしには成り立たないと思われている自動車の外部不経済性を徹底的に追求した名著。私が自動車の免許を取らないのもこの本を読んだため？。宇沢氏は日本の近経の一人者で、ノーベル賞をもらってもまさか文化勲章はもらうまいと思っていました…。ちょっと古い本だがおすすめ。
- ・ 宮本憲一著 『環境経済学』岩波書店 3,600円ぐらい  
筆者は公共経済学者、政治経済学者の立場から長年様々な公害問題に立ち向かってこられた。環境経済学を「容器の経済学」と称し、環境をあらゆる経済活動の「容器」としてとらえている。やはり、読んでおいてほしい本。
- ・ 環境庁編『環境白書平成9年度版 総説・各論』大蔵省印刷局 各2,000円  
白書というと堅苦しく難しいイメージがあるが、『環境白書』は、現在の環境問題についてわかりやすく書かれている良書。総説は毎年副題が替わり、9年度版は「地球温暖化防止のための新たな対応と責任」である。これによると、地球温暖化問題が如何にさし迫った問題であり、炭素税導入の必要性が論じられている。ここまで書いてなぜ実行できないのか残念である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 戦 略 論	よし だ けん じ 吉 田 健 二	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、経営戦略についての様々な理論を学ぶとともに、企業が実際にとっている経営戦略を研究することによって、経営戦略とはどのようなものであり、また企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを解明していきたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ① 経営戦略の概念
- ② 経営戦略の策定プロセス
- ③ 経営理念と企業ドメイン
- ④ 外部環境分析
- ⑤ 自社能力分析
- ⑥ 競争戦略
- ⑦ 多角化戦略
- ⑧ 経営戦略の実行

履修上の留意点

当たり前のことであるが、かなりまじめに授業に出席しないと、単位が取れないようである。

成績評価の方法

夏休み前の中間試験と学年末の最終試験を総合して評価する。

教 科 書

教科書は開講時に指示する。

参 考 書 等

参考書等は授業時にその都度指示する。

そ の 他

講義を行います。ビデオも使用する予定です。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
消 費 経 済 論	こ 小 たに 谷 まさ もり 正 守	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

いまなぜ「消費経済論」か、を問う講義である。成熟社会を迎えたわが国は、物的な生活手段としての商品は店舗にあふれ、欲望の対象としての商品は商店街、デパート、スーパー、専門店などに満ちあふれて山積みされ消費者の購入を待ち受けている。すべての欲望は、お金さえ出せば買える時代になっている。生産は完全に消費量を超過する遊休設備をかかえて、平成不況を耐えているのが現状である。また、あり余る消費は家庭ゴミを増やし、ゴミ焼却やゴミ埋立地に深刻な問題を抱えている。大量輸入される製品輸入、例えば食料品や紙製品などは輸入先の国では深刻な資源問題を抱えている。豊かさを求めて発展したわが国が経済がこのような成熟社会を迎えて、消費者は何をなすべきか、何をなさないか次の21世紀を乗り越えることができないかを問う講義内容にしたい。講義概略の主要項目は、以下の通りである。

講義の内容・  
授業スケジュール

[前期講義内容]

1. 消費経済論の対象と方法（消費経済学とはどんな学問か）
2. 消費者の概念～欲望や欲求とはなにか
3. 人間の生活のいとなみ～個人と社会生活と関連して
4. 消費と消費者の概念～欲望、欲求と関連して
5. 資本主義と消費、消費者～資本制生産は売れるもの売りたいものを無限に作るシステム
6. 消費と消費者の経済理論～消費するということにどのような理屈があるか
7. まとめ

[後期講義内容]

1. 消費問題の発生と展開
2. 消費者運動の生成と発展
3. 消費保護行政（消費者政策）の対象と方法
4. 家計調査と消費者
5. 生産、流通、消費の関連性
6. 消費者問題と生活環境問題～資源リサイクル、ゴミ処理問題など地球環境保護へ
7. まとめ

参 考 書 等

小谷正守『現代消費経済の基礎理論』ミネルヴァ書房  
 小谷正守・出石康子編著『消費経済と生活行動』ミネルヴァ書房

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 品 学	いし ぎき よし ふみ 石 崎 悦 史	経済・商1・2・3・4選	4

専門教育科目

講義のねらい

商品の競争という視点から商品学の新しい体系化を試みる。特に商品のデザインやパッケージやブランドがもつ情報発信力に注目し、価格競争以外にも商品の競争要因はあり、それらが複雑にからみあって、我々の目前に具体化している現象を本質的に分析していきたい。したがって講義は我々が日々生活しているなかで目にしている諸現象を理論的に解明していくことを目的としているので、学生諸君の意見も発表してもらう機会を多くし、意見交換をすることによって、「当たり前」と考えられていることを再考するつもりである。企業の商品戦略についても関心を持ち、使用対象の提供と利益追求の二重性の意味を考えたい。

教 科 書

石崎悦史『商品学と商品戦略』（白桃書房）¥3,500

参 考 書 等

河野五郎著『使用価値と商品学』（大月書店）¥2,000  
片岡寛編著『市場力学を変える商品多様化戦略』（中央経済社）¥1,500

そ の 他

再試験は実施しない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
財 務 管 理	お ぐら やす ひろ 小 椋 康 宏	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

本年度の講義については、第1に、経営のグローバル化における企業経営の財務問題に焦点を合わせながら、財務管理の基本的枠組みと財務管理の基礎原理を修得させることをねらいとする。また第2に、日本的経営財務の視点から、日本の企業体のなかにある財務管理の実態をとりあげ、日本的経営の再構築としての新しい経営財務原理を展開する。とくに日本企業の財務管理実践についても論及する。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ①財務管理研究の方法  
財務管理研究の方法を明らかにする。ここでは、とくに経営学のなかでの財務管理の位置づけを明らかにする。財務管理研究と実践経営学研究との関連についても明らかにする。
- ②財務管理研究の流れ  
アメリカ財務管理研究の流れを明らかにし、③企業金融論的財務論、④管理論的財務論、⑤意思決定論的財務論、⑥実践学的財務論のそれぞれの方法と課題を明らかにする。
- ③財務管理組織  
財務管理の典型的組織として、アメリカ企業の財務管理組織を明らかにする。また日本企業の財務管理組織をとりあげ、日本企業の経理部と財務部の実態を明らかにする。
- ④財務分析  
財務分析の比率分析および体系分析を通じて、企業の評価分析の一技法を検討する。また財務分析の体系化として財務分析の理論研究を展開する。
- ⑤運転資本管理  
運転資本管理の理論と技法を明らかにする。あわせて資金運用表の仕組みを明らかにする。
- ⑥確実性下における投資決定  
投資決定の基本概念を明らかにする。投資決定のプロセスを明らかにし、投資決定基準とくに⑦回収期間法、⑧止味現在価値法、⑨内部利益率法、⑩収益性指数法の内容を明らかにする。
- ⑦不確実性下における投資決定  
不確実性とリスクおよびリスクとリターンの概念を明らかにする。とくに不確実性下で採用される投資決定方法について明らかにする。
- ⑧資本コスト  
財務管理研究のキーワードである「資本コスト」の理論を明らかにする。ウェストン、ブリガム、ゴードン等による伝統的意思決定論的財務論の理論に加え、モジリアーニ、ミラーによるいわゆる「MM理論」の展開を通じて、資本コスト論の重要性を明らかにする。
- ⑨資本構成  
資本構成の理論を明らかにする。営業レバレッジの理論、財務レバレッジの理論についてもふれる。最適資本構成理論をベースに企業評価論を展開する。
- ⑩資本調達  
資本調達の制度論について明らかにする。とくにエクイティ・ファイナンスの理論を資本コスト論との関係で明らかにする。  
以上の項目に加え、⑪配当政策、⑫株価モデル、⑬CAPM理論、⑭M&A理論、⑮日本的経営財務論、⑯国際的経営財務論のトピックスを講義のなかでとりあげたい。  
年間スケジュールに関しては、①～⑤項目については前期において、⑥～⑩については後期において講義予定である。

履修上の留意点

講義のなかでの演習問題については、よく復習すること。

成績評価の方法

出席率80%以上  
レポート 1～2回（講義における演習問題）  
試験 前期、後期各1回、合計2回

教科書

小椋康宏『経営財務（増補版）』同友館 1984年 ¥2,884

参考書等

小椋康宏『日本的経営財務論』中央経済社 1984年  
 諸井勝之助『経営財務講義』（第2版）東京大学出版会 1989年  
 若杉敬明『企業財務』東京大学出版会 1988年  
 岡部政昭『現代の経営財務』同文館 1990年  
 赤石雅弘、小嶋博、榊原茂樹、田中祥子編『財務管理』有斐閣 1993年  
 小山明宏『経営財務論——不確実性、エージェンシー・コストおよび日本的経営——』（三訂版）創成社 1996年

その他

講義形式で行なうが、講義中での質問を受ける。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 史	こ う の 幸 野 やす のり 保 典	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

商業史とは、各時代の人間の経済生活のなかでとくに商業活動を取りあげて、その具体的役割や歴史的な変遷を明らかにする学問だといってよいであろう。この場合の経済生活とは、人間が生存のために必要な生活必需品などさまざまな財貨（商品）を獲得し、それらを消費しながら日常生活を繰り返すことである。広義の商業とは、財貨がどこで生産され、どのような経路で生産者から消費者へ運ばれ売られるかに関わることである。

経済の発達した現在では、消費者は必要な消費財をみずから生産せず、第三者が生産した財貨を商品として市場から購入しなければならない。人間の経済生活は市場における商品の売買という取引行為を通して営まれている。そして、商品売買という取引行為が生産活動から独立した場合、商品を購入して再び販売するこの取引行為は生産とは別の独立した職業として専門的に営まれることになる。これが本来の意味での商業で、それを専門に営む者が商人である。

このように、本来の商業は市場における商品の購入と再販売という連続した二つの取引からなっている。しかし、現実には商品取引が行なわれる場合には、金融業（信用業務）、通信業（発注・受注業務）、保険業（商品の保全）、運輸業（商品運送業務）、倉庫業（商品の保管）などが商品の売買に付随して行なわれることから、これらも商業の範疇として考えられ、商業史の対象となりうる。外国との商取引である貿易も商業史の重要な一部門である。

このように商業史の対象は多岐にわたるが、本講義では、日本における小売商問題、とくに大正・昭和期の小売商問題に重点をおきたいと思う。それは、今日の小売商問題の源流を探るうえで重要であると考えからである。経済史とのかかわりのなかで商業史をみることは当然のことではあるが、小売商問題に限っては社会史や文化史からのアプローチも重要な要素となる。経済的効率のみから小売商問題を理解したり、外国との経済摩擦の解消策としての規制緩和問題に重点を置き解決を計ろうとすれば、地域文化の崩壊や個性の喪失はまぬがれないと考える。

講義の内容・授業スケジュール

1. 商業史の課題と方法（1回）。2. 近代以前の商業（2回）。3. 明治期の商業、①近代商業の経済的環境（1回）、②近代商業経営の成立（1回）。4. 大正・昭和期の小売商問題、①小売商の社会経済環境（1回）、②商業人口の過剰現象とその定着度、（1回）、③中小業者の零細性（1回）、④各種小売形態の発展、a. 百貨店の発展（2回）、b. チェーンストアなどの発展（1回）、c. 小売市場の設置（1回）、d. 商店街の形成（1回）。⑤中小小売商の経営実態、a. 小売商経営の実態（1回）、b. 小売商問題の発生と社会的認識（1回）。⑥中小小売商の社会運動、a. 営業税反対運動（1回）、b. 政党運動の展開（1回）、c. 反百貨店運動（1回）、d. 反産運動・その他の社会運動（1回）。5. 戦時下の商業、①商業の再編成（1回）、②転廃業問題（1回）、6. 戦後の小売商問題、①中小小売商の保護政策（1回）、②流通革命とスーパー・マーケット（1回）、③コンビニエンス・ストアの発展（1回）を予定している。このほか、5～7回特色ある各地商店街の発展史を取りあげる。

履修上の留意点

とくになし。

成績評価の方法

前期にレポート、後期に試験を実施する。

教科書

とくに指定しない。毎回講義にはレジュメを用意する予定である。

参考書等

竹林庄太郎『日本中小商業の構造』1941年 有斐閣  
糸園辰雄『日本中小商業の構造』1975年 ミネルヴァ書房  
藤田貞一郎、宮本又郎、長谷川彰『日本商業史』1978年 有斐閣  
石坂昭雄、壽永欣三郎、諸田實、山下幸夫『商業史』1995年 有斐閣  
白澤恵一『地域経済と小売商業』1982年 溪水社  
鈴木安昭『昭和初期の小売商問題』1980年 日本経済新聞社など。

その他

授業の方法－講義を中心に行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社 会 思 想 史	あ べ 部 弘 <sup>ひろし</sup>	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

わたしたち人間の社会的生活の歴史過程のなかで、人間の社会生活とそのシステム、わたしたち人間の人格、人間性のより良い発展をめざした数多くの思想、社会システムに関する考えが生みだされてきた。これらの思想は特定の地域・時代に偏っているのではなく、人間の世界全体、有史以来現代に至るまで、遍ねくみられるものである。そこでこの講義はこれらの思想を体系化し、世界的規模で把握し、わたしたち人間社会に関する思想の概観をし、このことによって現実の社会を把握するカギを提供しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

(全体)

1. 経世済民（帝王学）の思想
2. 市民社会と「社会経済学」の形成
3. 日本の社会・経済思想

(細目)

1. 経世済民（帝王学）の思想
  - (1)古代中国の経世済民論
  - (2)インドの帝王学
  - (3)ヨーロッパ社会の帝王学
2. 市民社会と「社会経済学」の形成
  - (1)「市民」という考え方
  - (2)社会科学
  - (3)社会経済学の形成
3. 日本の社会・経済思想
  - (1)江戸時代の経世済民論
  - (2)明治期における輸入科学と諸科学の形成
  - (3)日本の社会科学

成績評価の方法

1. 年間4回のレポート作成を行なう。  
No. 1 : 7月上旬、No. 2 : 10月、No. 3 : 12月、No. 4 : 1月
2. 評価は上記のレポートを基準とする。したがって「定期試験」および、その「追・再試」は行わない。
3. 出席調査は適宜行ない、評価の素材に含める。

教科書

講義に際して、コピーなどを配布するが、レポート課題によっては、何かの文献の指定をすることもある。

その他

講師の連絡先  
〒179-0072  
練馬区光が丘6-1-4-204  
Tel. 03-3976-7984/研究室 03-3418-9360

科目名	担当者名	配当学年	単 位
会計監査論	飯岡透	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前期〕

- 4月 会計監査の目的と種類
  - (1) 会計監査の目的
  - (2) 会計監査の種類
  - (3) 監査基準の必要性とその構造
- 5月 わが国監査制度の展開
  - (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
  - (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開
  - 監査人の要件と責任
    - (1) 監査人の要件
    - (2) 監査人の選任と解任
    - (3) 監査人の職務権限と責任
- 6月 監査要点と監査手続の選択適用
  - (1) 監査要点の意義と種類
  - (2) 通常実施すべき監査手続とその内容
- 7月 監査証拠の種類と内容
  - (1) 監査証拠の意義と分類
  - (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

- 9月 内部統制と監査リスク
  - (1) 内部統制の構成要素
  - (2) 内部統制の評価
  - (3) 監査リスクと重要性
- 10月 監査計画と組織的監査
  - (1) 監査契約と予備調査
  - (2) 監査計画の目的とその設定
  - (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
  - (4) 他の監査人の監査結果の利用
- 11月 監査調書の目的と種類
  - (1) 監査調書の目的と作成要件
  - (2) 監査調書の種類と保存
  - 経営者確認書の意義と記載内容
    - (1) 経営者確認書の意義と目的
    - (2) 経営者確認書の記載内容
- 12月 監査報告書と監査概要書
  - (1) 監査報告書の意義と機能
  - (2) 監査報告書の種類
  - (3) 短文式監査報告書の記載内容
  - (4) 特記事項の記載内容
  - (5) 監査概要書の目的と記載内容
- 1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』中央経済社 3,500円

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』中央経済社 3,800円

科目名	担当者名	配当学年	単位
管理会計論	なかはらしょうきち 中原章吉	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでは、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができるといえます。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思ひます。

後期は管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思ひます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

教科書

講義の際、指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単位
税務会計論	やなぎゆうじ 柳裕治	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、税務会計論の初学者を対象に、税法の基礎理論および法人企業の課税所得計算理論を体系的に理解することを目的とする。あわせて、租税の時事問題に触れ、租税に関する幅広い知識を修得できるようにしたいと思ひている。

講義の内容・授業スケジュール

租税（税金）は、経済生活のほとんどの局面に深い関わりをもっている。そのため、通常、経済取引を行う場合、租税の問題を考慮することなしには経済的意思決定を行うことはできない。またわが国の租税制度においては、原則として、個人であれ法人であれ第一次的に納税者自らが課税所得および税額を計算し、自ら申告し納付しなければならない、という申告納税制度を採用していることから、当然に税法を理解していることが要求されるのである。

課税所得および税額は税法の規定に従って認識・測定されることになるが、この研究領域を税務会計論という。したがって、税務会計は、法的側面と会計的側面との統合された理論をもつところにその特徴がある。

そこで、本講義では、経済学部学生を対象とした税務会計の概論として、税法の基礎理論から始め課税所得計算理論へと系統的に説明していく。その内容は、税法総論と法人税法が中心となるが、所得税法および消費税法についても触れる。

成績評価の方法

中間試験および学年末試験により評価する。

教科書

岸田・矢内・柳・吉村著『現代税法の基礎知識』（ぎょうせい）

参考書等

金子・清水・宮谷・畠山著『税法入門』（有斐閣）、武田昌輔著『税務会計通論』（森山書店）井上久爾著『税務会計論』（中央経済社）、富岡幸雄著『税務会計論講義』（中央経済社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 価 計 算 論	かとうとし やす 加 藤 利 安	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状况の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状况の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとすれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することをこころがける。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」、と関連させながら解明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

教科書

最初の授業時に指示する。

参考書等

授業時に適宜挙げる。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情報・経済ネットワーク論	なか すみ みつ あき 中 濟 光 昭	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在、社会のほとんどすべての分野で情報の収集、利用、蓄積にしのぎが削られている。特に経済システムにおいて、この動きが顕著である。今や経済を学ぶ者が、情報化という仕事に主導的に参加しなければならない状況である。ところで情報化とは、コンピュータを使って何かまとまった仕事をしようとするものと捉えることができるが、システムを情報化するには、人間がその目的ごとに対象をコンピュータに計算可能な形にモデル化し、その上でプログラムを書かねばならない。ここでプログラムを書く技術も大切であるが、対象とする現象（例えば経済現象）をコンピュータが実行可能な形にモデル化し、記述することが必ず先行する。このような仕事こそ経済を学ぶ者が行うべきであり、この仕事で主導的な役割を果たすためには、社会システムの原理、および情報化のためのモデル化手法をしっかりと身につけ、情報社会でこれから起こるどのような変化にも対応できる柔軟な頭脳をもつことが必要である。本講義の狙いは、このような能力を身につけることである。

そのため、本講義では、1) ものごとを自分で掘り下げて考えること、2) 考えたことを現実を試み、体験を通じて理解すること、3) ものごとを多面的に見ることを学び、広い好奇心をもつこと、を実践できる様配慮したい。具体的には、講義とコンピュータを用いた実習とを組み合わせる。コンピュータを用いた実習では、自分で考え、計画し、ソフトを操作するなどの考究型実習を行う。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、社会システムの中で、特に重要である経済システムを中心に、その基本的構造・原理と、そこにおける情報ネットワークの役割を説明し、システムのモデル化手法を理解していく。具体的には、以下の構成になる。

1 IT (情報技術) 概論

日本のおかれている状況とITの関係を、産業社会の発展と限界・日本経済の変容の観点から概説する。

2 情報ネットワーク経済論

情報ネットワークと社会の相互関係を、ITの技術的基盤から分析する。

具体的には、通信技術（衛星放送、移動体通信、CATV、電話など）、要素技術（パソコン、ICカードなど）、データ配送技術（画像・音声・文字の伝送）、ユーザーインターフェース基盤（WWWなど）、アプリケーション基盤（暗号、電子マネー、ディレクトリサービス、ネームサービスなど）、アプリケーション（遠隔会議、ブラウザリング、メール、マルチメディアサービス、電子商取引など）を概観し、経済学的な切り口から利点・欠点を各自分析してもらう。

さらに、ITを前提とする新しい経済モデルの可能性について検討する。ケインズの経済モデルでは、需要が価格を決定し供給を制御するが、マイクロソフトやネットスケープの事例をみると、まず多量の供給が行われ、価格が低下し需要が増大する。なぜこういう経済モデルが成立するのかを分析する。

3 社会組織論

社会の組織構造を理解するため、集団力学・合理的組織構造とその進化などを分析する。また企業組織・社会組織について論じ、情報ネットワークを前提とする組織設計や仮想社会について論ずる。具体的には、情報ネットワークによる情報共有が広範にわたるにつれ、企業・組織の境界があいまいになる場合、組織の構成員の配置が最適になるという仮説に対して、検証を加える。さらに社会システムのモデル化方法を理解するため、システム理論、自己組織化、知的分散システムについて簡単に解説し、組織の機能・構造との対応を示し、モデル化の演習を行う。

4 意志決定システム論

組織や社会における意志決定や情報処理の仕組みを説明し、意志決定における情報システムの機能について論ずる。また企業における意志決定支援システムについて以下の観点から各自分析してもらう。

—MISとは何か：意志決定の仕組みと組織の機能・構造及びIT（EUC、CALS、BPRなど）との対応

—戦略的情報システムによる競争優位

5 演習

講義内で示された課題について、各自がパソコンを用い分析を行う。

成績評価の方法

- 1 出席
- 2 授業中での問題提起に沿って、グループに分かれて問題に対する解決案を発表する。発表は、パソコン・OHPを用い、問題の説明・解決方法と技術的可能性の説明、結果の説明および考察を行う。
- 3 テスト

教科書

講義毎に配布

参考書等

初回講義時に指示

その他

各自演習用のノートパソコンを購入してもらう。これは「プログラミング論」、「情報・経済ネットワーク論」で共通に利用する。購入方法については別途指示する。ただし、既にノートパソコンを所有している者については、新規に購入する必要はない。  
講義は実際にコンピュータの画面をプロジェクタで見せながら行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
プログラミング論	はまもと かず ひこ 濱 本 和 彦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在の社会においてコンピュータはあらゆる分野で使用されており、その重要性は非常に高い。それに伴いソフトウェアの機能強化が必要とされており、ソフトウェアの開発におけるプログラミング技術の重要性はますます高くなっている。またコンピュータの使用環境もスタンドアロンからインターネットなどのネットワーク上での利用へと変化し、それに伴って供給されるソフトウェアを記述するプログラミング言語も変化している。

本講義ではまず、ソフトウェア開発におけるプログラミング技術の位置づけを明らかにするために、ソフトウェア工学の基礎について講義する。次にプログラミング技法とプログラミング言語について講義する。プログラミング言語としてはC言語とJavaを扱い、実際にソフトウェアを作成しながら包括的なプログラミング技術、ソフトウェア開発について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、ソフトウェア工学の基礎とプログラミング技法（構造化やオブジェクト指向）について講義する。次に、プログラミング言語について実際に演習（ソフトウェア作成）を交えながら講義する。言語としてはC言語とJavaを扱う。前期にC言語、後期にJavaを扱う予定である。C言語は第2種情報処理技術者試験レベルを目標として、各種データ構造からポインタ、関数、構造体、ファイル操作まで講義する。Javaでは、主に、インターネットのWWW上でプログラムを発信するためのJavaアプレットについて講義する。いずれも実際に演習を行い、「アルゴリズムの作成」、「流れ図の作成」、「コーディング」、「コンパイル」、「実行」、「デバッグ」というソフトウェア開発の流れを学習する。

履修上の留意点

できるだけコンピュータの初心者に対しても理解しやすいように講義を行うが、各自の予習復習が理解のためには必要である。

成績評価の方法

講義中に出す課題、長期休暇中に課すレポート、および定期試験により評価する。

教科書

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書等

講義中に指定する。

その他

各自演習用のノートパソコンを購入してもらう。これは「プログラミング論」「情報・経済ネットワーク論」で共通に利用する。購入方法については別途指示する。ただし、既にノートパソコンを所有している者については、新規に購入する必要はない。

講義は実際にコンピュータの画面をプロジェクタで見せながら行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情 報 処 理 論	くろ べ こう いち 黒 部 晃 一	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

CG（コンピュータ・グラフィックス）が包括する主要アイテムを、市販ツールの操作を通して学習し、その上で自らプログラミングを試行することで、CG アルゴリズムがビジュアライズされるプロセスについて学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

- ・ 3DCG ソフトウェアのオペレーションと2Dグラフィックスの3Dグラフィックスへの適用。
- ・ プログラミング言語C++の習得。クラス概念とオブジェクト志向型への理解。
- ・ Windows プログラミング。Dos プログラムと比較しながら、Windows システムが発するメッセージとそれを処理するハンドラのメカニズムの生成。リソースの作成とそのソースプログラムへの導入。
- ・ フラクタル画像生成。オートマトン／コッホ曲線／中点変位法／非整数次元とマンデルブロ集合／樹木
- ・ 光線追跡法（レイトレーシング）アルゴリズムとプログラミング。モデリングとレンダリング／オブジェクトアフィン変換／内部論理演算と外部論理演算／鏡面反射モデルと屈折モデル
- ・ 自ら書くプログラムによる画像生成。

成績評価の方法

出席状況と提出課題について評価。

教 科 書

プリント配布

参 考 書 等

山岡祥『3D グラフィックス』森北出版

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
計 量 経 済 学	わら かい とも き 藁 谷 友 紀	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済・経営の実際を数量データを通して分析し、把握することを学ぶ。数量分析により、分析対象の量的検討のみならず、質的検討が可能であることを示す。計量分析とは何か、そこで用いられるデータはいかなるものかを明らかにし、自身で分析用具を動かしてみることにより、分析能力を身に付けるとともに、計量分析の結果を評価する能力の獲得をめざす。具体的には、計量分析を行なう上で必要な統計の基礎知識を習得し、計量分析の手法を学ぶとともに、経済・経営データを用いた実証分析を行なう。

講義の内容・授業スケジュール

1) 統計知識の基礎、2) 統計的推計と仮設検定、3) 経済・経営データの種類とその構造・性質、4) 回帰分析、5) 計量モデル分析、6) 時系列分析、7) 産業連関分析、8) 企業行動の計量分析

履修上の留意点

受講の条件としてあらかじめ特別な知識を求めることはなく、また、これまで数字の扱いを不得意とする学生の実講も可能である。講義は基礎から応用へと、段階的に積み上げる形で進める。講じられた講義内容の理解は、次に続く講義へ進むための前提となることから、講義への毎回の出席が強く求められる。

成績評価の方法

定期試験の結果と平常点に基づく。

参 考 書 等

参考書・文献は適宜指示する。

そ の 他

コンピュータを用いた実習を行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 分 析	さか 坂 ぐち やすし 口 康	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経営分析は、会社が発表する決算書（財務諸表）を主たる資料として会社の経営内容を分析する学問である。決算書は会計という機構にもとづいて作成される関係上、一般になじみ難いという面があるが、会社の経営内容や体質が集約されて示されている。近年、企業の不祥事が多発し、それをめぐってしばしば会計操作や簿外負債が一般のマスコミでも取り上げられるようになってきた。専門的な投資家ならずとも決算書のウラに潜む会社の実像をとらえるワザがますます要求される時代となっているのである。

この講義では、決算書の一般的な利用者の立場から、なじみ難いといわれる決算書をどのように読み解いていくのかを解説し、それを通して日本の企業の収益・財務構造の特質を明らかにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義スケジュールや評価方法については開講時に述べる。履修者数が200名前後の場合には、適宜、資料作成・分析等の小テスト、小レポートを多用する積りである。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。適宜レジュメ、資料を配布する。ただし、配布は原則として一回限りとし、欠席者に対する追加配布はしない。

参 考 書 等

参考書としてさしあたり以下の四冊をあげておく。参考文献は講義の中で紹介する。  
 谷江武志『基本経営分析』（中央経済社）1995年  
 山口孝他『企業分析』（白桃書房）1996年  
 桜井久勝『財務諸表分析』（中央経済社）1996年  
 青木茂男『企業財務の日米比較』（森山書店）1997年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 数 学	みずのかつし 水野勝之	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済理論は数学を利用して説明される。しかしながら、初学者にとって、数学のうちどれが必要でどれが不必要かと判然としない。また、経済学の授業で突然数学が使われても、それを忘れてしまった諸君もいれば、はじめて目にする諸君もいるはずだ。本屋に行き、自分で勉強するために「経済数学」の入門書を手にとると、その難解な書き方がゆえに逆に嫌悪感を抱く人もいるはずだ。本講義では、諸君の経済学の勉強への数学の適用を念頭において、そこで多用されるであろう数学の基礎とその経済学への応用を行っていきたいと思う。経済学の例示は、マクロ、ミクロの経済学ととびとびになるが「経済学に利用される数学」という方針の下に体系化される。数学の苦手な諸君にも十分理解できるような授業の進め方をしたい。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は、従来の「経済数学」という、学問を初等的にアレンジし、かつ一般学生により役立つ形で進めていきたい。授業スケジュールは以下の通りである。

1. 数学の用語・記号
  - ①関数
    - 応用：効用関数と生産関数
  - ② $\Sigma$  (シグマ)
    - 応用：予算式の表示
  - ③その他
2. 行列
  - ①ベクトルと行列
  - ②行列の加減と積
  - ③行列式
  - ④余因子と余因子行列
  - ⑤逆行列
  - ⑥連立方程式
    - (1)応用
      - ・マクロ経済モデル
      - ・価格の決定
    - (2)クラマーの公式
3. 微分と偏微分
  - ①微分の意味と最大・最小
    - 応用：弾力性
  - ②微分いろいろ
    - ・積・商の法則
    - ・合成関数の微分
    - ・その他
  - ③偏微分
    - ・偏微分の意味

応用：効用関数と限界効用  
生産関数と限界生産力

  - ④その他
    - ・全微分
    - ・オイラーの定理
    - ・ラグランジュ未定乗数法

履修上の留意点

前述のように数学が全く苦手でかまわない。しかし、苦手にもかかわらず出席をおこたることは避けてほしい（もちろん数学が得意な人も）。

成績評価の方法

総合的に評価する。

教科書

水野勝之著『テキスト経済数学』中央経済社  
水野勝之著『マクロ経済分析入門』創成社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
憲 法	うちだま <sup>り</sup> こ <sup>こ</sup> 内 田 真 利 子	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

社会と憲法、個人と憲法の間係を学び、これからの時代における憲法の役割を考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

現代社会のかかえる多様な問題・課題に対し、憲法という視点からとりくむ。家族、教育、職場、医療、情報など日常生活の様々な場面で遭遇する問題から、平等、平和、象徴天皇制、地球環境といった社会の広範な領域にまたがるテーマまでを幅広くとりあげる。具体的なテーマについては、政治・社会の動向や事件に応じて選んでいく予定。

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

通常授業期間中に数回小レポートの作成を課す他、“自由提出”の形式でコメント（文書）を募る。小レポート、コメントともに成績評価の対象とする。

教 科 書

授業で指示する。

参 考 書 等

個別のテーマに関する参考文献については授業で指示する。「六法」（コンパクト版でも可）携帯が望ましい。

そ の 他

基本的には講義形式。受講者数に応じて、討論、ビデオ上映等を取り入れることを検討する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 法 一 部	あおのひろゆきの 青野博之	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。民法全体のイメージをつかむためにも、できれば、民法二部も受講してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

- 4月、序説（たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか）。
- 5月、自然人（たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか）。
- 6月、法人（たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか）、物。
- 7月、法律行為（たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か）。
- 9月、法律行為（たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどうなるか）、期間、時効（たとえば、時効という制度はなんのために認められているか）。
- 10月、物権総論（たとえば、物権は債権とどこが違うか）、物権変動（たとえば、マンションを買った場合には何をしなければいけないのか）。
- 11月、占有権、所有権、用益物権（たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか）。
- 12月、担保物権（たとえば、土地を買うためにお金を借りやすいのはなぜか）。
- 1月、質問に答える（受講生からの質問には毎回の講義時間のはじめとおわりに答えるが、それとは別に質問時間を設ける）。

履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。  
 受講生がそれほど多くなければ、質問および応答の平常点だけで、成績を評価する。受講生が多ければ、定期試験（いっさいの持込みを不可とする）だけで、成績を評価する。

教科書

甲斐道太郎・乾昭三・椿寿夫編『新民法概説(1) 総則・物権』（有斐閣）1,995円  
 以前に使用した、我妻栄・有泉亨著（川井健補訂）『民法Ⅰ（総則・物権法）』（一粒社）でもよいし、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのがあれば、それでもよい。

参考書等

六 法  
 憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。  
 六法は、『ポケット六法』（有斐閣）、『コンパクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。少し解説がついているものとして、『三省堂新六法』がある。判例がついているものとして、『コンサイス判例六法』（三省堂）、『判例基本六法』（岩波書店）があり、少し進んだ勉強をしたい受講生、講義の際に紹介する判例についてももう少し知りたい受講生に勧める。『判例六法』（有斐閣）は、判例がついていると同時に、カタカナの条文を平かなに書き換えており、読みやすい。さらに進んだ勉強をしたい受講生には、『模範六法』（三省堂）を勧める。なお、『口語～』という書名のついたものでもよい。  
 六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましいが、多少古くても少なくとも受講する上では支障はない。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 法 二 部	お 織 だ てる こ 織 田 晃 子	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

民法二部の講義は債権総論と債権各論を対象とする。条文で言うと、399条～724条であり大変広範囲である。一年間でこれらすべてを網羅することは到底無理である。よって、まず日常の普通の取引、例えば、だれでも思い浮かべるであろう不動産の売買をとりあげ、売買の交渉から契約の成立、その履行にいたるまでの財産法上の問題をとりあげ、次に売買契約が履行されなかった場合の法的処理、すなわち債務不履行による損害賠償や解除に進む。

講義の内容・授業スケジュール

1. 売買の交渉から契約の成立、その履行
  - ① 契約の成立
  - ② 契約の履行過程
  - ③ 契約の履行終了
  - ④ 登記の移転
  - ⑤ 債権譲渡
2. 契約不履行の場合の法的処理
  - ① 債務不履行
  - ② 契約の解除
  - ③ 他人の物売買
  - ④ 瑕疵担保責任
  - ⑤ 債権者代位権
  - ⑥ 詐害行為取消権

履修上の留意点

六法は必ず持参すること

成績評価の方法

期末試験の成績と出席日数により評価する。

教 科 書

河野弘矩著『債権総論講義』（ぎょうせい）¥3,500

参 考 書 等

『ポケット六法』（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 法 一 部	やま だ やす ひ 山 田 泰 彦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、株式会社法を中心にする。現代の経済活動において不可欠の組織となっている株式会社—その構造、運営に関する法規制を体系的に取り上げて見て行きたい。また、近時は、株式会社法上の問題が新聞等で報じられることが多いが、こうしたトピックについても、できるならば触れてみたいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

まず、①会社法総論として、会社の経済的機能、法的意義を見た後、株式会社の特徴を位置付ける。次いで、②株式制度に入る。具体的には、④株式の意義、⑥株主平等の原則、③株式譲渡自由の原則とその例外、④株券、株主名簿、名義書換を中心に講義する。その後、③会社の運営を取り上げる。③機関総論、⑤株主総会、⑦取締役・取締役会、④監査体制がその大まかな内容となる。そして最後に、④株式会社の設立を取り上げたい。②③のあたりで、夏休みに入るものと予定している。

履修上の留意点

講義中での私語は厳禁する。これを守れない諸君には、教場からの退場と、場合により、さらに強い措置を取る。講義には、必ず六法全書（平成10年度版以降のもの）を持参のこと。

成績評価の方法

期末試験での評価による。出席は取らない。ただし、これまでの私の経験から言えば、単位取得者は、大体出席している学生の数に相当する。法学部では、大体、講義履修者の半分は不可となっている。

教 科 書

荒木正孝『企業法』（成文堂）

科目名	担当者名	配当学年	単位
商法二部	あらきまさたか 荒木正孝	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、有価証券の法理と法規制について述べるが、とくに代表的な有価証券であり、権利の証券化が最も徹底している為替手形、約束手形および小切手について、どのような機能を営み、どのような法規制が行なわれているかを理解できるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

手形・小切手においては権利と証券とは密接に結合し、それは裏書または単なる証券の交付という簡単な手続で譲渡することができる上に、譲受人が強く保護され、支払の確実性や容易性が保障されているので、非常に流通に適している。このような性質をもつ手形・小切手は、支払の道具、信用の道具、送金の道具および取立の道具として経済活動において重要な作用を営んでいる。こうした手形・小切手の経済的機能を視野に入れながら、手形法・小切手法の正当な解釈や理解を追求してゆきたい。

履修上の留意点

有価証券法を学ぶ場合に問題になるのは、民法の中の財産法（民法総則、債権法、物権法など）で用いられる専門用語の理解が必要だということである。したがって、理想的には、財産法を学んだ後に有価証券法を選択することが望ましい。しかし、それは仲々困難なことであるから、ここでは、講義の内容を理解するのに必要な範囲で財産法の規定や基本概念を解説するので、財産法の知識が無くても受講に差し支えはない。

成績評価の方法

基本的に年度末のペーパーテストの点数で評価する。

教科書

未定。開講時に指示する。

参考書等

鴻・竹内編『手形・小切手判例百選』（有斐閣）

科目名	担当者名	配当学年	単位
経済法	あかだとしひろ 岡田外司博	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。そして、1年間で独占禁止法的全領域をカバーするものとなっている。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。また、教科書は薄いものなので、できれば4～5月中にざっと一通り読んでおいて頂きたい。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教科書

厚谷変児『独占禁止法入門』（日本経済新聞社）

参考書等

教科書として指定しないが、多くの具体的事例を含むものとして、講義でしばしば引用することがあるので、『独禁法審決・判例百選（第五版）』（有斐閣）の購入が望ましい（ただし、必ずしも購入する必要はない）。その他の参考書については、初回の講義の時に簡単に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
労 働 法	ふじもと しげる 藤 本 茂	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

今日、労働関係をめぐる領域は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行といわれる高度経済成長期に確立されてきた社会経済構造に見直しがなされています。現在は、第三の激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域である以上、この変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働組合が労働者の利益を実現する組織として労働関係のなかに定着した今日にあって、労働条件決定に組合の及ぼす影響は、一見地味ではありますが、無視できません。

また、この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正、裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、解雇制限といった分野で見られます。男女雇用機会均等法の見直しなども見られます。解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中であっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。
- (2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応の項目を掲げるに止めます。
  - ① 労働法の基礎的思考方
  - ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
  - ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特色
  - ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
  - ⑤ 労働条件を決定しているもの－就業規則、労働契約、労働協約
  - ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
  - ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
  - ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
  - ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
  - ⑩ 賃金、諸手当、退職金
  - ⑪ 労働時間、時間外労働
  - ⑫ 休憩、休日、休暇
  - ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

授業はなま物です。生きのいいうちに深めるのが一番です。出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、平常点を加味することはありますが、学年末試験がメインです。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を挙げながら、授業を進めることを心掛けます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
行 政 法	かね こ しょう へい 金 子 昇 平	経済・商1・2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、今後、立法化が予想される、情報公開法、プライバシー保護法、環境アセスメント法等を挙げる事が出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

そこで講義においては、行政法総論での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に提示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1) 行政と法の関係
  - ①法律による行政の原理 ②行政法の意義と範囲 ③行政法の法形式 ④行政上の法律関係
- 2) 行政主体と私人
  - ①行政主体と行政容体 ②国の行政組織 ③地方公共団体の行政組織 ④行政機関・公務員
  - ⑤行政情報と法
- 3) 行政手段法
  - ①行政立法 ②自治法 ③行政計画 ④行政行為 ⑤行政契約 ⑥行政指導 ⑦行政調査
  - ⑧行政強制 ⑨行政罰
- 4) 行政手続の法
- 5) 行政救済法
  - ①国家賠償法 ②行政上の苦情処理 ③オンブズマン ④行政上の不服申立 ⑤行政訴訟

履修上の留意点

行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。

教 科 書

成田頼明他編『現代行政法』有斐閣

そ の 他

塩野宏他編『行政判例百選』（第三版）有斐閣

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 法	さいとう ひろし 齋 藤 洋	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

国際法学の基礎知識の修得を目指す。

講義の内容・  
授業スケジュール

いづこの大学でも行われているようなオーソドックスな順序で講義する。国際法学の基礎理論、静的固定的秩序および動的秩序の説明が主な内容であり、受講生の理解度を観ながら、できるだけ広範囲に内容が及ぶようにしたい。

履修上の留意点

例えば数学でも加減乗除を知らないと微積分などができないように、国際社会秩序に関する法的基礎知識なしに現代国際社会を理解することはできない。いかなる学問でも基礎部分の習得は大変に退屈で苦勞するものであり、国際法学も例外ではない。しかし一度この基礎知識を修得したならば、日々生起する国際社会の様々な現象を法的視点をもって容易に理解することができ、何が問題の中心かを見いだすことができるであろう。受講生は苦勞の後の楽しさを思い描いて講義を受けてもらいたい。授業中に疑問のある点について、そのときの授業にかかわらず、気軽に質問してもらえれば、それに答えるなかで他の様々な国際法のルールが説明できるので、おおいに質問を歓迎する。

成績評価の方法

成績は主として年末の定期試験で決定する。

教 科 書

藤田久一編『現代国際法入門』（法律文化社）2,987円

参 考 書 等

特に指定しないが、市販されている条約集及び国際判例集があれば好ましい。

そ の 他

講義では板書はほとんどないので、受講生は自分自身で自分なりのノートを作成してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 書 講 読 I	いわした ひろし 岩 下 弘	経済・商1・2・3・4選	4
原 書 講 読 II		経済・商2・3・4選	

講義の内容・  
授業スケジュール

小売業について英語の文献を講読する。

成績評価の方法

試験と出席によって評価する。

教 科 書

必要に応じて配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
原書講読 I	し 清 みず 水 たかし 卓	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読 II		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

この原書講読では、経済専門書ないし経済専門紙を読みこなし、正確な日本語に翻訳する練習をします。英検2級程度の基礎力があればそれほど苦勞せずに読める程度の英文です。また、担当者は、フランス語についても指導出来るのでフランス語の専門書の学習を希望する学生がいれば要望に応えることもできます。以下の文章に興味を持った学生の受講を期待します。

The Maastricht treaty should be interpreted strictly so that countries enfeebled by excessive budget deficits do not become founder members of Europe's economic and monetary union, Mr Alexandre Lamfalussy, president of the European Monetary Institute, said in a speech in Portugal yesterday.

In a speech delivered in Portugal and released by his office in Frankfurt, the head of the forerunner of the European central bank fired a shot across the bows of the so-called "Club Med" countries such as Italy which are busily positioning themselves to be among the first wave of Emu members on January 1, 1999.

(FINANCIAL TIMES Nov. 20 1996)

履修上の留意点

受講生は毎回必ずレポートしなければなりません。1週間に3時間程度の予習が必要でしょう。課題はきついです、それだけに真面目に取り組めば成果は大きいと思います。

成績評価の方法

平常の出席、レポートの質で成績を評価します。

参考書等

受講生と相談の上、テキストを決めます。いずれにせよ、ヨーロッパ経済を扱ったものとします。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
原書講読Ⅰ	なか すみ みつ あき 中 濟 光 昭	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

通常、原書講読は、指定した外国書を各自が分担・要約し、発表するものであるが、本講義では講義の狙いを“外国語で書かれた優れた文献の読解”と捉え、通常とは異なるアプローチを試みる。本講義では、受講者各自が本学ネットワークシステムを活用し、経済に関する英語文献をインターネットから取得し、レジュメを作成する。これを電子メールあるいはWWWによって事前に発信し、これらを題材に講義時間にディスカッションを行う。

講義の内容・授業スケジュール

以下の要領で講義を進める。

1. 本学ネットワークシステムの説明・電子メールアドレス取得に関する説明
2. 情報検索手法の説明
3. プレゼンテーション手法の説明
4. 各自文献を探し出し、メールで担当者に申告する
5. 参考文献を調査、必要に応じ文献の著者に電子メールで質疑を行う
6. 調査結果、考察を含んだ資料を作成
7. 各自パソコンを使用し発表

履修上の留意点

この講義の運営／受講上の考慮点を以下に示す。

- ・電子メールによるメーリングリストと呼ばれる仕組みを日常的に活用し、文献申告・相談を始め、連絡や指導を行うので、日常的に電子メールの受信・返信を行なう時間を作れることが受講上必須である。
- ・講義の性格上、欠席は認められない。
- ・講義の運営上、受講人数が制限されるため、受講希望者が、予定人数を超えた場合抽選を行なう。受講希望者は「必ず」初回の講義に出席すること。

成績評価の方法

1. 発表および出席
2. 発表の評価は、パソコンを用いた内容説明の効果（プレゼンテーション技術および内容の理解度）、考察のユニークさ、ディスカッション時の貢献を総合して行う。

教科書

講義毎に発表担当者が用意する

参考書等

必要に応じて指示する

科目名	担当者名	配当学年	単位
原書講読Ⅰ	なか だ あき お 中 田 秋 男	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

鋭い皮肉と独特のユーモアで、18世紀初頭のイギリス社会を風刺したバーナード・マンデヴィル (Bernard Mandeville, 1670-1733) の『蜂の寓話』について検討している論文を英語で読んでいく。なお、講義では学生諸君が寓話や物語を通して経済学に興味をもってくれる事を期待する。

講義の内容・授業スケジュール

先ずマンデヴィルの「ブンブン不平を鳴らす蜂の巣、または悪漢ども変じて正直者となる」という風刺詩を読んで今後の授業への導入とする。次に、社会人類学者ルイ・デュモン (Louis Dumont, 1911-) の論文 (Mandeville's Fable of the Bees: Economics and Morality) を読んでいく。デュモンはマンデヴィルにおいて「経済」と「道徳」の関係がどのように把握されているのかを見事に分析している。もちろん、経済学の形成に対してマンデヴィルの果たした役割、そしてアダム・スミスへの影響についても考察されている。例えば、有名なスミスの「分業論」におけるピン製造と『寓話』における時計製造について。さらに、経済の原動力として消費を考え、奢侈による支出の経済的意味について、あるいは、マンデヴィルは自由放任論者、それとも重商主義的干渉主義者であったのか等々、非常に興味ある分析をしている。また、もし時間が許せば、ケンブリッジ大学出版局より出版された E. J. Hundert 氏の The Enlightenment's Fable; Bernard Mandeville and the Discovery of Society (1994) も検討したいと思っている。

成績評価の方法

出席及び平常点を重視する。再試験は実施しない。一年間、同じ時間と空間を共に過ごす以上は、お互いの発展に結びつく創造的な授業空間を考えたい。

教科書

テキストはコピーして配布。

参考書等

B. マンデヴィル、泉谷治訳『蜂の寓話』全2巻 法政大学出版局 (1985、1993)

科目名	担当者名	配当学年	単位
原書講読Ⅰ	はま もと ち ず か 濱 本 知 寿 香	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

本講義では、英語の原書を読むことで語学能力を高めるとともに、生活経済に関心をもつことを目的としています。

講義の内容・授業スケジュール

われわれの日常生活に関わる税制、社会保障制度を扱った原書を読んでいます。また、日本の制度についてもふれていきます。

履修上の留意点

テキストを輪読する形式をとります。

成績評価の方法

発表点、受講態度、理解度などから総合的に評価します。

教科書

テキストはコピーして配布します。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 書 講 読 I	ふく はら よし のぶ 福 原 好 喜	経済・商1・2・3・4選	4
原 書 講 読 II		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

カール・マルクス『資本論』（ドイツ語）を講読する。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく価値形態論を読むことになろう。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明検討を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君から希望があれば、夏休みなど泊まり込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でもドイツ語の素養のある人が望ましい。（夏休みには私のところにドイツ人の家族が泊りに来るので彼らと交歓の機会が持てたらと思っている。）

一昨年は男子1名、女子2名、昨年は男子1名の受講者であったが、本年はもう少し多くの受講生が来てくれればと思っている。

履修上の留意点

授業は固苦しい話ばかりでなく、ドイツ人の酒の飲み方や夫婦のあり方などよもやま話しも含めて、ユツタリとしたものになりたいと思っている。

そ の 他

よく出来た時は、コーヒーもでる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 書 講 読 I	こ すぎ しゅう じ 小 杉 修 二	経済・商1・2・3・4選	4
原 書 講 読 II		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

現在の中国の諸政策のバックボーンをなしている鄧小平の考えを知るために、その著作を中国語で読む。参加者は中国語履習者であること。中国語を母国語とする者は日本語への厳密な翻訳能力習得を目標とする意欲のある者に限る。

教 科 書

プリントして配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
原書講読Ⅰ	やまがたひろし 山 縣 弘 志	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

ソ連邦解体以後、あらゆる教科書が使いものにならない状態となっているが、解体以前から、社会科学分野で批判的な読み方を要求しないものはなかったと言ってよい。従って主体的な読み方はいつでも必要であったし、今後も必要である。

成績評価の方法

平常のパフォーマンスを評価する。

教科書

Города Подмосквья в трех книгах. Книга первая. М., 1979.

科目名	担当者名	配当学年	単位
現代経済事情Ⅰ（前期） 〔消費税問題〕	くまざわみちお 熊 沢 通 夫	経済・商1・2・3・4選	2

講義のねらい

わが国の消費税は、国税、地方税のいずれでも基幹税となったが、政治的に安定し、社会的に定着したとはいえない。その原因を明らかにし、これからの税制改革のなかでの位置づけをおこなう。具体的には以下の三点である。

- ① 消費税を創設した理由、成立したときの政治経済情勢との係わり、「益税」をつくるような構造の特徴および実務上の問題点を、国際比較をしながら、明らかにする。
- ② 上記①と関連した範囲で基本的な租税論を紹介する。
- ③ 消費税の創設時およびその後におけるさまざまな税制改革運動を紹介しながら、負担の水準と仕方を選択し、負担と用途とを一体としてとらえる「市民意識」の形成過程と、市民的税制改革運動の課題を示す。

講義の内容・授業スケジュール

- ① なぜ消費税という名称になったのか～EUでは付加価値税、中国では増値税～
- ② 「高齢化社会に備える」税制とはどのような内容なのか～世代間負担の「公平」～
- ③ 「消費税」の基本的な特徴と国際比較～逆進的負担と福祉国家～
- ④ 日本型消費税の特徴と矛盾～「益税」の発生と滞納の激増～
- ⑤ なぜ日本型となったのか～政治的理由と「解決」の仕方～
- ⑥ 消費税税率5%の意味と影響～新保守主義的税制改革宣言～
- ⑦ 地方消費税について～地方分権・住民自治と税のあり方～
- ⑧ 納税者からタックスペイヤーへ～21世紀への税制改革の課題～

履修上の留意点

講義はできるだけ今日の課題を取り上げるので、新聞の税制、財政の記事を読んでほしい。

成績評価の方法

複数のテーマを出題するのでその中から任意の一つを選択してレポートの提出を求める。

参考書等

専門書は講義の中で必要に応じ紹介するので入手しやすい本に限っているが、①の2冊は読んでほしい。なお消費税問題は著者により見解が異なっているからその理由に注意する。

- ① 基礎的な文献。財政学の立場から宮島洋『税の仕組み』（岩波ジュニア新書 岩波書店）憲法論から北野弘久『納税者の権利』（岩波新書 岩波書店）。
- ② 消費税の論争を知るためには石弘光『税金の論理』（講談社現代新書 講談社）、北野弘久『消費税はエスカレートする』『5%消費税のここが問題だ』（いずれも岩波ブックレット 岩波書店）。
- ③ 実務書としては『やさしい消費税』（大蔵財務協会）。
- ④ 消費税の政治過程を概観するには石川真澄『戦後政治史』（岩波新書 岩波書店）。
- ⑤ 消費税を突っ込んで理解するには佐藤進『日本の税金』（東京大学出版）の第四章『一般消費税導入の諸問題』、エグレ『付加価値税』（文庫クセジュ 白水社）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代経済事情Ⅱ（後期） 〔インターネットと経済〕	まる お 尾 あきら 聴	経済・商1・2・3・4選	2

講義のねらい

■以下の目的意識を持つ人向けに講義は設計されている。

- (1) インターネットと経済との「関係性」を勉強したい人
- (2) 今までの講義にない「参加型学習の場」を体験したい人
- (3) 卒業後の進路決定に必要な「社内の現場情報」が入手したい人
- (4) ビジネスマンとして通用する「企画力」を修得したい人
- (5) 将来、自ら起業家として役立つ「思考力」を鍛錬したい人

この原稿を書いている最中に、都銀や大手証券が相次いで倒産した。「金融ビックバン」は、まだこれからだというのに…。一方、欧米では、この「ビックバン革命」を既に20年前に経験しており、現在は、第2の「ビックバン」ともいえる「エレクトロニック・コマース（決済・取引の電子化）革命」による熾烈な競争を繰り広げている。日本は、いわば、この2つの革命を同時に成功しなくては、不景気はおろか経済システムの破綻は逃れられない状況に直面している（という予想が、4カ月後に少しでも外れていることを願うが）。

さて、そういう時代に学生諸君は、何を考え、どう行動すべきか。「卒業単位」を気にしながら、「大企業への就職」を目指すことは、かつては最適解であったかもしれない。しかし、これからは企業規模の大小に関係なく、「経歴」「ノウハウ」「情熱」といった「履歴書には表現できない履歴」が問われてくる。安定感を求めた「就社」志向は、間違いなく企業から嫌われる。

以上の背景を踏まえ、第2のビックバンのインフラとなっている「インターネット」と、今後の日本「経済」との関係を解き明かしていく。また、シンクタンクという講師の立場を最大限に活用して、「社会の現場」をできるだけ臨場感をもって伝えることにする。

なお、講義形式は「参加型」を志向し、講義内容は「ビジネスや起業に生かせるノウハウの提供」を意識している。よって、「短期的な単位取得」から「卒業後の進路ガイダンス」もしくは「将来的なノウハウ取得」を目指した講義となる。

講義の内容・授業スケジュール

■本講義専用ホームページにて、別途通知するので閲覧してほしい。

インターネットを取り巻く環境が激変しているのに加え、経済環境（特に日本の金融情勢）が大きな変革期に差し掛かっているため、（1年前の現時点で）授業のテーマを決定することは避けたい。

しかし、講義要領としての検討材料無くして、履修の意思決定が困難となるであろう。そこで、別途、本講義専用のホームページを開設するので、閲覧してほしい。なお、ホームページのアドレスは、下記の通り。

<http://www.komazawa.com/internet>

概要（履修登録時バージョン）については4月1日から、詳細（受講検討時バージョン）については8月20日から、それぞれ開設するので、必ず確認の上、履修登録ならびに受講検討を行うこと。

履修上の留意点

- (1) 講義専用ホームページを閲覧しておくこと

前述のように、本講義専用のホームページを開設するため、履修登録時（4月1日～）ならびに開講1カ月前（8月20日～）に閲覧すること。また、開講後も、講義内容の修正、受講生同志の連絡、受講生のレポートの紹介（次項参照）、プレゼンテーションの進め方（次項参照）などを掲載するので、最低1回は閲覧すること。また、講義欠席者は、講義内容を把握する有力な情報源となるため、必ず閲覧すること。

- (2) 自分のプロフィールを開講前に提出すること

本講義の履修希望者は、開講前に電子メールアドレスを取得し、8月20日までに、下記の要領に従って電子メールを送信すること。これは、受講生同志の交流を復活させるために行うもので、原則公開を前提としている。受信確認をもって「本講義受講者」と認定する。

- 1) 自己ビジュアル（趣味・性格・モットー・将来の夢等/図表写真はFAXにて送付されたい）
- 2) インターネット歴（年数・利用目的・興味の度合い・インターネットについて知っていること/個人ホームページがあればURLも記載されたい）
- 3) 受講テーマ等（受講の動機・期待等と、受講テーマ/下記(3)を参照されたい）

なお、各項目の分量は400字程度とする。送信先（講師の電子メールアドレス）は、「その他」の問い合わせ先を参照されたい。

- (3) 各自で受講テーマを設定すること

本講義は、受講者の自主性によってのみ成立する。特に、受講目的が明確化すればするほど、受講の効果は高まり、現実の生活や将来の設計に好影響を及ぼす。そこで、各自「興味ある」テーマを開講前に設定されたい。テーマ名を「○○分野へのインターネットの導入（または普

及)による影響(または効果)」など。このテーマは、最終的に「事業企画」または「社会提言」に仕上げ、プレゼンテーションしてもらおうテーマである。吟味検討の上、上記(2)の要領にて提出されたい。

成績評価の方法

■試験・出欠ともに実施せず。レポートやプレゼンテーションを受講生同志で相互評価。

- (1) 試験・出席  
試験は行わない。講義の出欠もとらない。受講を強く希望する者のみで講義を形成する。
- (3) 講義内アンケート  
各講義中に必ず「アンケート」「クイズ」を実施する。これについては、何も「知識」は必要としない。ひたすら「思考」のみである。
- (4) 電子メールレポート  
各講義後に電子メールによる「講義の感想レポート」を実施する。これも、「講義から掴み取った何か」をコンパクト(字数制約なし)にまとめればよい。講義欠席者は、講義専用ホームページから内容を推察して、提出すればよい。出欠に関係なく、提出されたレポートはすべて公開する。
- (5) プレゼンテーション  
講義内容に即したテーマに関して、受講生による「事業企画」や「社会提言」などの「プレゼンテーション(発表)」を全3回(予定)実施する。この「作業の進め方」や「発表のノウハウ」については、講師が指導するので心配は無用である。ただし、この3回の講義だけは出席が必須となる。
- (6) 成績の評価  
講義内アンケート・電子メールレポート・プレゼンテーションの3種のうち、得点の高い2種によって評価がなされる。なお、講義内アンケートは、性質上講師が評価せざるを得ないが、電子メールレポート・プレゼンテーションについては、受講生同志によって相互に評価をし、講師が成績評価に介入しないことを原則とする。

教科書

■受講生の身の上で起こった出来事が、事実上の教科書となる。

「教科書」による学習は、特定の知識を体系的かつ効率的に修得できるが、代償として、個性的な思考方法や明文化されていない知恵の発見を阻害するリスクを伴う。本講義では、受講者の身の上で起こった出来事を、事実上の「テキスト(教材)」として、自発的に楽しみながら学ぶことを目指す。

その他

上述の内容に関して、不明・不安・不審な点の残る学生は、遠慮無く問い合わせきて欲しい。連絡先は、下記の通り。

電子メールアドレス maruo@ird.jri.co.jp

またはファックス 03(5984)4855

講義への要望も含めて、積極的に対応する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代経済事情Ⅲ（後期） 〔金融ビッグバン〕	かい とう 皆 藤 みのる 実	経済・商1・2・3・4選	2

講義のねらい

金融ビッグバンを中心に、現代日本の金融問題について、その底流に流れる本質の理解を深める。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ① 金融ビッグバンとは
- ② 歴史的な低金利の功罪
- ③ 銀行がつぶれる時
- ④ 金融と財政  
等々

履修上の留意点

新聞記事のうち金融関係を毎日一か所、目を通すこと。

成績評価の方法

期末試験。小論文形式。

教 科 書

特になし。資料は別途配布。

参 考 書 等

後日指定することがある。

そ の 他

講義。ただし若干ビデオ等を使用することがある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代経済事情Ⅳ（前期） 〔規制緩和〕	た ぐち ひろ 田 口 博 之 かわ さき けん 川 崎 研 一	経済・商1・2・3・4選	2

講義のねらい

日本経済が現在直面している経済構造問題、とくに規制緩和をめぐる諸問題について実践的な視点から解説を行うことを通じて、現実の経済問題に対して関心を高め、分析・評価する能力を養う。また、現実の経済問題に対していかなる経済学のアプローチが可能かについても言及することにより、実践的側面からマクロ経済学及びミクロ経済学に対する理解を一層深めることにも資する。

講義の内容・  
授業スケジュール

規制緩和について、その背景、目的、具体的内容、効果、今後の展望など多面的な側面から解説を行う。例えば、規制緩和の背景にある内外価格差の実態、規制緩和の対象とされている規制分野（経済的規制と社会的規制の区別など）、消費者の視点からみた規制緩和の効果、規制緩和の経済成長などマクロ経済に与える影響、規制緩和の諸外国の事例、規制緩和の具体的事例（市場開放、金融ビッグバン、労働市場の流動化など）などについて適宜取り上げることとする。

履修上の留意点

規制緩和に関わる新聞記事、各種報告書に関心をもつこと。

成績評価の方法

未定。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

川崎研一『お早めに召しあがれー市場開放奮戦日記ー』（読売新聞社）。その他講義のなかで、必要に応じて紹介することとする。

そ の 他

講義中心に行う。

專門教育科目

## 2 他学部履修科目





# 他学部履修科目

禅学概论	(佐藤秀考)	.....	他 1
中国禅宗史	(田中良昭)	.....	他 1
日本禅宗史	(原田弘道)	.....	他 2
禅籍讲读 I	(佐藤秀孝)	.....	他 3
禅籍讲读 III	(峰岸孝哉)	.....	他 4
仏教概论	(平井俊榮)	.....	他 5
インド仏教文化史	(奈良康明)	.....	他 6
中国仏教文化史	(永井政之)	.....	他 7
日本仏教文化史	(袴谷憲昭)	.....	他 7
中国古典語初級	(石井公成)	.....	他 8
中国哲学史	(前川亨)	.....	他 8
上代文学研究 I	(小野寛)	.....	他 9
中古文学研究 I	(高橋文二)	.....	他 9
中世文学研究 I	(村上光徳)	.....	他 10
近世文学研究 I	(富士昭雄)	.....	他 10
近代文学研究 I	(畑實)	.....	他 11
演劇概论	(井上理恵)	.....	他 11
西洋思想史	(麻生建)	.....	他 12
児童文学	(山口節子)	.....	他 12
比較文学	(満谷マーガレット)	.....	他 13
編集実務	(長谷川孝)	.....	他 13
イギリス文学特講 I	(石原孝哉)	.....	他 14
イギリス文学特講 II	(高野正夫)	.....	他 14
イギリス文学特講 III	(岡崎寿一郎)	.....	他 15
イギリス文学特講 IV	(中岡洋)	.....	他 15
イギリス文学特講 V	(高松雄一)	.....	他 16
イギリス文学特講 VI	(丸小哲雄)	.....	他 17
演劇特講(イギリス・アメリカ)	(荒井良雄)	.....	他 18
アメリカ文学特講 I	(新倉俊一)	.....	他 19
アメリカ文学特講 III	(足田和人)	.....	他 19
時事英語	(サンダース, L. P.)	.....	他 20
現代地理学特論	(長谷川均)	.....	他 20
地形学	(小池一之)	.....	他 21
人口地理学	(中川聡史)	.....	他 21
応用地理学	(高木正博)	.....	他 22
文化地理学	(竹内啓一)	.....	他 23
地理思想史	(竹内啓一)	.....	他 24
日本仏教史 II	(休講)	.....	
日本史特講 VII	[近代](佐藤元英)	.....	他 25
東洋史特講 X	[近・現代](趙軍)	.....	他 26
西洋文化史 I	(休講)	.....	
考古学特講 III	(矢野和之)	.....	他 27
歴史哲学	(麻生建)	.....	他 28
哲学史	(山口祐弘)	.....	他 28
日本民俗学	(谷口貢)	.....	他 29

マス・コミュニケーション論	(川本勝)	.....	他 30
産業・職業社会学	(安藤喜久雄)	.....	他 30
社会福祉発達史	(林千代)	.....	他 31
ロシア・東欧経済論	(山縣弘志)	.....	他 32
社会政策	(光岡博美)	.....	他 33
国民所得論	(吉野紀)	.....	他 34
中国経済論	(小杉修二)	.....	他 35
アジア経済論	(郭洋春)	.....	他 36
日本経済史	(古庄正)	.....	他 37
中小企業論	(和田耕治)	.....	他 38
教育経済論	(谷敷正光)	.....	他 39
アメリカ経済論	(瀬戸岡紘)	.....	他 40
日本経済論	(森武磨)	.....	他 42
財務會計論	(遠藤章孝)	.....	他 43
管理會計論	(中原章吉)	.....	他 44
銀行監査論	(齊藤正)	.....	他 45
商業政策論	(飯岡透)	.....	他 46
商貿易論	(岩下弘)	.....	他 47
マーケティング	(古沢紘造)	.....	他 48
原価計算論	(曾我信孝)	.....	他 49
労務管理論	(加藤利安)	.....	他 50
行政管法論	(石井脩二)	.....	他 51
親族統制法	(百田義治)	.....	他 52
比較憲法	(齊藤寿)	.....	他 53
西洋法制史	(竹中智香)	.....	他 54
英米憲法	(竹中智香)	.....	他 54
比較憲法	(岡田外司博)	.....	他 55
地方自治法	(休講)	.....	
ヨーロッパ政治史	(石井三記)	.....	他 56
国際政治学	(金原恭子)	.....	他 57
議院政治学	(休講)	.....	
比較政治学	(梅木崇)	.....	他 57
國際經濟論	(浦田早苗)	.....	他 58
經營統計論	(小堀訓男)	.....	他 58
保險經營論	(前田英昭)	.....	他 59
財務會計論	(三竹直哉)	.....	他 60
稅務會計論	(茂垣広志)	.....	他 61
商會業情報論	(張国強)	.....	他 62
經營分析論	(石名坂邦昭)	.....	他 63
上代文学講読	(渡邊惠一郎)	.....	他 64
中古文学講読	(高木克己)	.....	他 65
	(山田勝)	.....	他 66
	(高井徹雄)	.....	他 67
	(西村和夫)	.....	他 68
	(休講)	.....	
	(片桐伸夫)	.....	他 69
	(佐原美子)	.....	他 70
	(鈴木裕子)	.....	他 70

中世文学講読(蘭部幹生)	.....	他71
近世文学講読(菅野一雄)	.....	他71
近代文学講読(井上優)	.....	他72
現代文学講読(小林治)	.....	他73
時事英語(岡本誠)	.....	他74
英語演習 I (岡本誠)	.....	他75
[ディクテーション]		
応用計測学(櫃尾英次)	.....	他76



科目名	担当者名	配当学科	単位
禅学概論	さとう しゅう こう 佐藤 秀孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禅那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。はじめにインド仏教における禅（禅定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禅宗）の基本的な歴史（禅宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

## 教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

## 参考書等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

## その他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国禅宗史	たなか りょう しょう 田中 良昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達磨を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

## 講義の内容・授業スケジュール

菩提達磨の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達磨の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪洲宗、石頭の石頭宗によって禅宗が一宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐末・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

## 履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものにしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

## 成績評価の方法

成績評価の方法としては、学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

## 教科書

教科書としては、現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

## 参考書等

参考書としては、比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史——中国——』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

## その他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 禪 宗 史	はら だ ひろ みち 原 田 弘 道	国文・英文文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

- 我国に伝来した禅はその主流となって、類型を異にするものが五つあったと考えられる。
- I. 栄西・聖一・法燈等の流派であり、教禅兼修の家風である兼修禅 —— 教兼禅の性格をもったもの。
  - II. 蘭溪・祖元等の来朝した中国僧によって伝えられた鎌倉禅であり、これは禅林の清規によって祖師禅を挙揚した。
  - III. わが国の南浦紹明（大応国師）が入宋求法して松源一派の禅を伝え、純一無雜に祖師禅を挙揚し、大応・大燈・関山の三代に亘って基盤を築いた応燈関の一流である。
  - IV. これらの臨済禅とは別に道元によって伝来され、瑩山に至って、宗団として形成され、その門流によって展開された曹洞禅である。
  - V. 江戸時代に隠元によって伝えられた明朝禅 —— 念仏禅 —— である。  
講義ではこれらを中心にして日本禅宗の歴史を考察する。内容は伝来・受容、発展の実態とその思想史的意義も明らかにしておく。

講義の内容・授業スケジュール

1. 禅宗の伝来（奈良・平安時代） 2. 兼修禅の勃興とその系譜 3. 曹洞禅の伝来と原始僧団
4. 臨済禅の伝来と形成 5. 五山の成立と五山文学 6. 臨済禅（応・燈・関）の展開
7. 曹洞禅の地方展開 8. 近世の禅宗 9. 近代の禅宗

履修上の留意点

禅の教理、思想の理解、日本史の一般的知識の習得をしておくこと。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

参 考 書 等

『禅の歴史 — 日本 —』（講座禅第四巻）、鈴木泰山『禅宗の地方発展』  
荻須純道『中世日本禅宗史』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 I	さ とう しゅう こう 佐 藤 秀 孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

この講義は中国禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものである。中国禅宗は南北朝期（梁・北魏）の渡来僧菩提達磨（達摩とも）に始まり、唐・宋代に開花・隆盛しているが、ここで初期の禅籍というのはとくに唐末五代以前に成立したものをその対象としている。はじめに初期禅宗から南北二宗の対峙、洪州宗から五家（潯仰・臨濟・曹洞・雲門・法眼の五宗）の成立頃までの中国禅の思想的展開を主要な禅籍を通して概観する。とりわけ、20世紀初頭に中国西部の敦煌から出土した敦煌写本の禅籍や、同じく朝鮮半島の海印寺から発見された『祖堂集』などは、初期の禅宗の歴史と思想の実態を知る上で絶大な影響を及ぼしていることから、そうした近年の研究成果を踏まえて禅籍の成立・流伝の歴史的な背景を考察したい。その後、当該の禅籍のいくつかを講読し、祖師たちの示した教えが如何なるものであったのかを明らかにしていく。対象となる禅籍としては、『二入四行論』『無心論』『絶観論』『六祖壇経』『証道歌』『参同契』『宝鏡三昧』などであり、さらに『祖堂集』などから特徴的な祖師の事跡を学んでみたい。初期の禅籍は禅の思想のもっとも基本となるものの考え方が確立されていく時期に著されたものであり、その後、展開した禅思想もすべてこれを踏まえているといつてよい。その面では初期の禅籍を読解することこそ、禅を理解する上での鍵となるものであろう。

## 教 科 書

教科書はとくに指定しないで、その都度、資料をコピーにて配布するものとする。

## 参 考 書 等

参考書としては、『禅の語録』（筑摩書房）のシリーズ、『禅語録』（中央公論社・世界の名著）や『禅家語録』Ⅰ・Ⅱ（筑摩書房）などがある。

## そ の 他

授業の方法としては、前半の初期禅籍の紹介・研究は講義形式で行うのを原則とするが、後半の禅籍の講読では学生諸氏にも具体的に初期禅宗の禅籍を逐一読んで頂くので、そのつもりで臨んでもらいたい。禅籍に対する読解力が深まるよう指導したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 III	みね ぎし こう さい 峰 岸 孝 哉	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

『道元禅師語録』を読む

本書は宗門では『永平元禅師語録』、または単に『永平略録』と呼ばれてきたものである。これを上記のように『道元禅師語録』と改称して刊行したのは、大久保道舟博士が最初とされる。

本書は『永平元禅師語録』として延文3年(1358年)、永平寺六世曇希によって開版されたが、江戸時代にいたるまで幾度か版を重ねていることが確認されるから、宗門でも広く読まれてきたとみることができよう。

本書の原典となったのは、永平道元(1200年～53年)が開堂した興聖寺・大仏寺・永平寺における上堂語が中心をなす『永平広録』十巻が考えられるが、本書の成立についてはまだ不明な点も多いとしなければならない。なぜならば曇希が刊行したのは、天童如浄の会下において、永平道元と同門であった無外義遠の手によって抄録された『永平広録』と考えられるからである。

このように本書の成立、その歴史的な性格、および宗門教学に対する影響等々、今後吟味されるべき課題は多く残されているが、こうした課題に対して、本文の精読を通じて考えたいというのが本講の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいの記述にみられるように本書の成立は、無外義遠の独自の編成と考えられるから、その背景となった当時の南宋禅の歴史的な性格と、道元禅についての説明を数回にわたって試みる。次に上堂語を順次読み進める。

履修上の留意点

テキストの本文は漢文で独自の禅語録、つまり上堂語であるので予習・復習はぜひ必要である。

成績評価の方法

後期の定期試験で成績は評価する。

教 科 書

大久保道舟訳註『道元禅師語録』岩波文庫 岩波書店 ¥520

参 考 書 等

鏡島元隆著『道元禅師語録』講談社学術文庫 ¥700

酒井得元『道元禅師全集』第5巻、『永平元禅師語録』春秋社 ¥4,120

そ の 他

講義の内容・授業スケジュールについては担当者が行い、他は輪読形式としたい。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 概 論	ひら い しゅん えい 平 井 俊 榮	英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・  
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。

- 序 章 仏教とは何か
- 第1章 仏陀の生涯
- 第2章 仏の本質
- 第3章 法——仏教の真理観——
- 第4章 一切法——法の分類——
- 第5章 輪廻と業の煩惱
- 第6章 悟りへの道
- 第7章 心——実践の主体
- 第8章 修行者の理想像
- 第9章 戒律と教団の組織
- 第10章 仏教の歴史

## 履修上の留意点

出欠は毎時限採る

## 成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価

## 教 科 書

高崎直道著『仏教入門』東京大学出版会 1,600円（変更あるやも知れず）

## 参 考 書 等

平川彰著『三国仏教通史』春秋社 2,575円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
インド仏教文化史	な ら や す あ き 奈 良 康 明	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功徳を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教団が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。以上の問題意識のもとに平成10年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・  
授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。  
「仏教」をどうとらえるか  
「文化」とは何か；  
仏教（宗教）の二つのレベル；「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）  
仏教文化の「表層」と「基層」  
仏教文化研究の方法論；M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。  
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）  
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ  
カースト・ヴァルナ制度と仏教  
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。  
古代インドにおける業・輪廻思想の成立  
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）  
一般的業論の「自覚的業論」への昇華  
懺悔の思想と実践  
業と果報の関係  
業の止滅と改変
4. 功徳観念の文化史的発展。  
善業と功徳（punya）・悪業と悪徳（papa）  
「作功徳→生天」の図式の倫理的・宗教的意味  
功徳観念の「出世間レベル」への関係付けない昇華  
功徳の廻向（adesana）と廻向（parinamana）  
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功徳観念  
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。  
ヒンドゥー教におけるブレータと祖霊祭  
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼  
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼  
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味  
テラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼  
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

今年度は中国人であるなら誰でも知っている年中行事の——を中心に、中国の仏教者、特に禅僧が、それらの風俗をどのように捉えていったかを考える。

言うまでもなく、「風俗」の大半は仏教が創出したものではない。むしろ「出家者」は、民間の行事とは無縁な存在であるべきであった。しかし叢林運営・教育という現実は、必ずしも理念通りにあるわけではない。教育者たる禅僧・住持は、理想と現実のハザ間で、彼我をいかに弁別するかに苦心のあとを見せる。中国の歳時記を見つ、行事の内容を具体的に考え、またそれに対する禅僧の発言を『如浄録』『虚堂録』を中心に紹介していく。

## 講義の内容・授業スケジュール

年初から年末まで、中国の主たる年中行事を追いながら、仏教者がどのように対応したかを考える。

## 参 考 書 等

中村喬『中国の年中行事』平凡社選書  
同氏『統中国の年中行事』同上  
同氏『中国歳時史の研究』朋友書店

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

この授業は、「日本仏教文化史 (Cultural History of Buddhism in Japan)」であるが、私は、「仏教思想」を知らずしては、「仏教文化」を正確に理解することはできないとの立場を取っている。原則的なことをいえば、「仏教思想」に関心をもっている方にむしろ参加して頂きたい。しかも、できれば、講義形式を取りたくないと考えているので、少人数の方がよい。

## 講義の内容・授業スケジュール

この授業の中心は、昭和12年に文部省より刊行された『国体の本義』を読むことに置く。「思想」的にいえば、本書ほど非仏教的なものはそれほど多くはないと思うが、本書を慎重に読むことによって、我々現在の日本人も、本書に説かれているような考えを、知らず識らずのうちにいかに我が国の「仏教文化」の中核のごとく考えているかを思い知るであろう。しかも、このような考え方が、例えば、吉本隆明・梅原猛・中沢新一『日本人は思想したか』（新潮社1995年）のごとく、一人前に日本人の「思想」を語ろうとしている出版物にすら歴然とした痕跡を残しているのである。『国体の本義』は、「我が国の文化は、肇国以来の大精神の顕現である。これを豊富にし発展せしめるために外来文化を摂取醇化して来た。」(114頁)という「文化史」観に立つが、土俗信仰温存の立場からいえばかかる史観も成り立ちうるかもしれないが、仏教の「思想」から見ればそうはならないことを丁寧に指摘していきたいと思っている。この授業は、一昨年度よりの統講であるが、本年度は、『国体の本義』第二「国史に於ける国体の顕現」より講読する。なお、本年度は、下記の家永三郎博士の著作も教科書として採用するので用意されたい。

## 履修上の留意点

演習形式を取るので、自分で調べて発表する意欲のないものは決して参加してはならない。

## 成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

## 教 科 書

『国体の本義』は図書館に多数所蔵されているので借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。  
家永三郎『日本文化史』第二版（岩波新書）¥660

## 参 考 書 等

参考書は適宜指示する。

## そ の 他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国古典語初級	いし 井 公 成	国文・英文文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『荘子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

## 履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

## 成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

## 教科書

教科書は使用せず、コピーを配布する。

## 参考書等

辞書・参考書などについては教場で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国哲学史	まえ かわ とおる 前 川 亨	国文・英文文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

中国の思想史の特色を明らかにし、その展開の過程を跡付けることを目的とする。中国思想の全体像を概観した後、古代から現代に至るまでの思想を具体的にとりあげていく。中心になるのは儒教・仏教・道教のいわゆる三教であり、これに近代以降の西洋思想などもかかわることになる。この講義では狭義の「哲学」史ではなく、より広く中国人の思考様式を探る「思想」史を目指したいと思う。その際、東アジア世界における中国思想という視野を失わないように心掛けたい。思想史を学ぶ場合には、対象に対する「評価」は一応括弧に入れて、対象を「理解」しようとする謙虚な姿勢が必要である。この講義は、個々人が中国の思想・宗教・文化などについて考えるための手掛かりを提供するものである。現実生活と縁遠いものに思われがちな「思想」の世界がいかに現実の人間と強く連関しているかを、ともに学んでいきたい。

## 履修上の留意点

講義では漢文資料を多く用いるので、古典中国語や現代中国語に初歩的な知識をもっていること（もしくは、持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、内容自体はそうした知識なしでも理解可能であろう。むしろ、中国の思想・宗教・文化・社会など様々な分野に関心をもっている諸君の積極的な参加を期待したい。

## 成績評価の方法

前期・後期それぞれのレポートを予定している。

## 教科書

特に必要としない。

## 参考書等

授業中に適宜紹介する。

## その他

できるだけ多方面の情報を提供するため、授業は講義の形式をとるが、その欠陥を補う何らかの方法も考慮したい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
上代文学研究 I	おのの野 寛 <small>ひろし</small>	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

今年度は万葉集巻三から、上代文学の特質を考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

万葉集巻二の挽歌の部から、名作・問題作を選び、その作品について原文の検討、その訓みの確定、語句の研究、ことばの原義・語法、歴史的・社会的・地理的背景を詳細に調べる。授業は全面的講義方式による。毎時出欠をとる。

## 履修上の留意点

講義はその都度、新しく調査研究してまとめてゆくものだから、必ず出席して、ひたすらノートをとること。講義でわからないことはそのままにせず、チェックし、メモして、自分で調べてみる。質問も歓迎。

## 成績評価の方法

学年末の筆記試験（持込一切なし）によって評価する。

## 教科書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院刊）¥1,600

科目名	担当者名	配当学科	単位
中古文学研究 I	たか 高 橋 ぶん 文 二	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大・短英	4

## 講義のねらい

平安朝の女流文学作品の中に表れた人間観、宗教観、自然観の意味するところを問い尋ね、その文学世界の特質を考える。

## 履修上の留意点

講義の該当箇所を予習し、そこに出てきている作品の原文を確認しておくことが望ましい。

## 成績評価の方法

出席の状況、夏休みの課題レポートの提出、期末テストの成績で評価する。

## 教科書

『王朝まどろみ論』（笠間書院）¥2,000

## 参考書等

講義時間内に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中世文学研究 I	むら 村 かみ 上 みつ 光 のり 徳	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

長明の『無名抄』を読み、長明の和歌に対する考え方や、当時の和歌について考察すること。また『幽玄』について検討する。

## 講義の内容・授業スケジュール

『無名抄』を諸本の本文の違いなど注意しながらいねいに講読する。

## 成績評価の方法

出席点と定期試験で評価

## 教 科 書

『方丈記・無名抄』 双文社出版

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
近世文学研究 I	ふ 富 じ 士 あき 昭 お 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

蕉風俳諧の代表的俳論書『去来抄』の講読を通して、蕉風俳諧の特質を考察する。

## 講義の内容・授業スケジュール

『去来抄』は「先師評」「同門評」「故実」「修行」の四部から成る。「先師評」は発句や連句を詠む心得を説く、今は亡き芭蕉の評言を収め、「同門評」は去来を始め其角・許六ら同門人の評言を収載する。「故実」は俳諧の故実・法式に関する去来と卯七・魯町ら身内の者との問答を収め、「修行」は不易流行の説や、蕉風俳諧の理念「さび」などに関する芭蕉らの見解を収録する。これらの精読を通して蕉風俳諧の特質について理解を深める。

## 成績評価の方法

学年末の定期試験で評価するが、出席状況も考慮に入れる。

## 教 科 書

山下一海編『去来抄』おうふう（桜楓社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位	
近代文学研究 I	はた 畑	みのもる 實	禪・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

明治三十年代の文学  
明治三十年代はいろいろな傾向の小説や評論が出た。そのうち前年度は政治や社会問題に関心を向けた社会小説や政治小説を扱ったが、今年度は西欧の自然主義の影響を受けた写実主義文学の動向を考察し、その特色、意義、限界などをあきらかにしていくことを目的とする。

## 講義の内容・授業スケジュール

前後期とも講義を中心とするが、必要に応じて小説や評論の全部ないしは一部を読むことを考えている。

## 成績評価の方法

学年末に試験を行い出席状況等を考慮しながら総合的に評価する。

## 教 科 書

プリントを配布する。

## 参 考 書 等

授業時に随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位	
演 劇 概 論	いの 井	うえ よし 理 え 恵	禪・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

## 講義のねらい

演劇とは何か、演劇学とは何か、について西洋及び日本のこれまでの演劇論を検討しながら考えていく。特に戯曲と演出、俳優、演技の関係、文学と演劇の間に横たわる深く広い大河をいかように収斂すればいいのかについて考察する。

## 講義の内容・授業スケジュール

演劇史、ドラマトウルギー論、演劇理論史など、ギリシャからフランス、イギリス、ドイツ、そして日本の状況等について比較検討しながら触れることになる。ソポクレス「オイデプス」近代戯曲の父といわれるイブセン「人形の家」「幽霊」等も検討したいと考えている。

## 履修上の留意点

個別な日本の戯曲を検討する時間はないので個別研究を学びたい者は国文学特講Xを同時に受講されることが望ましい。また、実際の舞台を見にいて討論をする予定であるから本講座を受講する者は劇場に足を運ぶことを条件としたい。(観劇料3,500~4,500円)

## 成績評価の方法

成績評価はレポート(二回、観劇批評含む)とテスト、出席率による。

## 教 科 書

毛利三彌編『東西演劇の比較』放送大学教育振興会

## 参 考 書 等

参考書は特に指定しないが、出来るかぎり戯曲を読み、舞台を見ることである。

## そ の 他

講義形式ではあるが、ビデオ視聴や観劇後に討論をする予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西洋思想史	あ 麻 生 けん 建	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

ヨーロッパ人の基本的なものの考え方、さらに思想史という形で何が形成され、求められてきたかを、できるだけ日本との比較の視点から明らかにする。

## 講義の内容・授業スケジュール

特に言語の問題に焦点を当て、教科書に基づきながら説き明かし、その背景をも考察する。

## 履修上の留意点

教科書は毎回持参すること。問題を自分なりに整理し直すため、ノートをとることを勧める。講義は連続しているので、可能なかぎり続けて出席するよう努力すること。

## 成績評価の方法

学年末の試験による。教科書に記述されていることのみが講義の内容ではないから、その都度の講義に留意すること。

## 教科書

麻生建著『ドイツ言語哲学の諸相』東京大学出版会 ¥3,502

## 参考書等

特になし。必要な場合は授業中に指示する。

## その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
児童文学	やま ぐち せつ こ 子 山 口 節 子	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

## 講義のねらい

子どもの発見に始まる日本児童文学の流れの中で、リアリズム作品、ファンタジー作品がそれぞれどう描かれてきたかを、具体的作品を通して理解する。特に宮沢賢治の日本的ファンタジー作品については、作品の底を流れる賢治童話のフィロソフィーを共に考え合う。また、ファンタジー作品が今日の状況をのり超える力をもつことを、M.エンデの『モモ』やルグインの『ゲド戦記』などの海外児童文学も含めて読み解く。

## 講義の内容・授業スケジュール

日本児童文学の成立と展開を年代を追ってリアリズム、ファンタジー作品ごとにとりあげる。今日の現代児童文学の状況と新しい潮流について、作家・作品を具体的にとりあげながら児童文学の流れとこれからの展望を考察する。賢治作品については、人間とは何か、真実とは何か、生きるとは何かといった人間の本質を、作品を通して共に考え合い、生きる力を得る授業としたい。海外児童文学では、テーマ、モチーフ、全体の構成を理解し、ファンタジーのもつ力とは何かに迫る。

## 履修上の留意点

授業でとりあげる作品は事前に予告するので、必ず読んで授業に臨んでいただきたい。

## 成績評価の方法

成績評価は、前・後期2回のレポートによる。出席状況や授業態度も考慮に入れる。

## 教科書

授業の際に、事前に紹介する。

## 参考書等

授業の進行に併せて関連図書を紹介する。

## その他

講義を中心に、ビデオなども用いる。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 文 学	みつたに 満谷マーガレット	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

この授業で、日本と欧米の相互イメージを探ってみたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期では、〈ゲイシャ〉と〈サムライ〉を基本にした欧米における日本のイメージがどのようにして形成されたかを探る。一つの出发点として、日露戦争の頃にできたブッチャーニーのオペラ『マダム・バタフライ』を詳しく検討するが、ピエール・ロチの『お菊さん』（明治20年）やラフカディオ・ハーン著作も参考になる。『マダム・バタフライ』のイメージが微妙に変容しながら現在に至るまでに、欧米の小説や大衆文化にどのように生き続けてきたかをまずみてる。後期では逆に、日本における欧米人、あるいはアジア人のイメージを日本文学を通して探っていく。

## 成績評価の方法

前期後期一回づつレポートを提出してもらおう。学生に発表してもらおうこともある。

## 教 科 書

前期は、決まった教科書はない。

後期では、次の作品を読む：谷崎潤一郎『痴人の愛』新潮文庫  
遠藤周作『アデンまで』（『白い人、黄色い人』講談社文芸文庫）  
小島信夫『アメリカン・スクール』新潮文庫  
大江健三郎『飼育』新潮文庫  
村上龍『ニューヨーク・シティ・マラソン』（集英社文庫）  
山田詠美『ベッドタイムアイズ』新潮文庫

## 参 考 書 等

参考になる本：エドワード・サイード『オリエンタリズム』平凡社  
佐々木英昭編『異文化への視線』名古屋大学出版会

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
編 集 実 務	はせがわ 長谷川 孝	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

## 講義のねらい

編集とは、「だれかに —— 何かを —— 伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を讀みとるのかという「視点（目のつけどころ）」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材・原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして考えながら、「自分の視点」を育てることを目指したいと思っています。

「だれかに —— 何かを —— 伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読んだり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることでできれば、と思います。個人紙（誌）づくりの課題には、こうしたねらいもあります。

## 成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙（誌）を課題作品として提出してもらいます。

## 教 科 書

教科書は使いません。（随時、プリントを使用）

## 参 考 書 等

『新聞をつくらう』（長谷川孝編著 さ・え・ら書房 ￥1,236）を随時、参考にします。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講Ⅰ	いし 石 はら 原 こう 孝 まい 哉	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

シェイクスピアを中心にルネッサンス期のイギリス文学を、広くヨーロッパ文学の流れの中で講じる。ノースロップ・フライの批評理論を軸に、他の方法も必要に応じて取り入れながら幅広く論じる。

## 講義の内容・授業スケジュール

主としてとりあげる内容は：①神話と文学 ②文学の源流 ③詩・民話・劇 ④ルネッサンスと新学問 ⑤トマス・モアと新しい流れ ⑥エドモンド・スペンサーと『妖精の女王』 ⑦クリストファー・マーロウとヒューマニズム ⑧ウィリアム・シェイクスピアの世界 ⑨獄中作家ジョン・バニヤン ⑩ミルトンの世界 ⑪文学とイギリスの文化

## 履修上の留意点

完全な講義形式で行なうので予習は必要ないが、トマス・モア、エドモンド・スペンサー、クリストファー・マーロウ、ウィリアム・シェイクスピア、ジョン・バニヤン、ジョン・ミルトンなどの主要作品を、読んでいることが前提となる。このため3・4年生の受講を希望する。

## 成績評価の方法

成績はレポート、期末試験で評価する。

## 教科書

『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』 三修社 ¥3,800

## 参考書等

『同一性の寓話』 法政大学出版局、『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』 三修社、その他教場にて指示。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講Ⅱ	たかの 高野 まさ 正 お夫	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心が持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、DrydenやPopeなどに代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomsonのように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward YoungやRobert BlairそしてThomas Grayなどのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年にWilliam WordsworthとSamuel Taylor Coleridgeによって出版された *Lyrical Ballads* という、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

## 履修上の留意点

授業ではよくノートをとること。

## 教科書

教場にて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講Ⅲ	おか ざき とし いち ろう 岡 崎 寿 一 郎	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代」modernity という言葉の感覚を理解することは、むつかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

## 講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマシュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T.S.エリオットの現代詩（モダニズム）、さらにD.H.ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

## 成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席（50%）、前期試験に代わる夏季レポート（25%）、後期試験（25%）による総合評価とします。

## 教科書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

## 参考書等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講Ⅳ	なか おか ひろし 中 岡 洋	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

イギリス小説のなかで特異な地位を占めつつ、もはや伝統の外部とはいいがたくなっているブロンテ文学について講義する。わが国では比較的好く親しまれていると思われるが、正しく理解するためにあらゆる方面から考察を加えてみようと思う。

## 講義の内容・授業スケジュール

具体的には Charlotte Brontë (1816-55) の *Jane Eyre* (1847) をはじめとして、すべての小説にふれ、初期作品から詩歌、エッセイの類まで扱う。また映画化された作品もあり、それらを上映、鑑賞する機会ももちたい。全体をほぼ把握した段階で、その周辺の作家たちとの関連に言及し、広くイギリス文学の特質を理解するように努める。

## 履修上の留意点

出席に励むこと。各自が自覚をもって勉強に励むことを期待している。

## 成績評価の方法

出席回数と試験の結果によって評価する。

## 教科書

『ブロンテ姉妹の時空』 北星堂書店

## 参考書等

教場で適宜指示する。

## その他

真面目に受講することを期待し、不真面目な受講態度の学生は退席してもらおう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講 V	たか まつ ゆう いち 高 松 雄 一	理・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

本講義ではイギリスにおけるモダニズム文学の種々相を考察する。モダニズムとは20世紀の初め、1910年前後に、英米およびアイルランドに出現した若い文学者たち、たとえば小説のジェイムズ・ジョイス、ヴァージア・ウルフ、批評のT.E.ヒューム、詩のエズラ・パウンド、詩と批評のT.S.エリオット、それに年長の詩人イェイツなどが、それぞれの分野で新しい実験的な表現法による作品を生みだし、従来の伝統的な手法を革新した1つの文学運動というべきものである。

彼らはこの運動の存在理由を自らの批評活動によって論理づけ主張することを怠たらず、1920年代から40年代の初めまでイギリス文学の主流を占めるに至ったが、今日のいわゆるポストモダニズムの時代にも、有形無形の影響を残していると言っている。

## 講義の内容・授業スケジュール

この運動は、しかしながら、唐突に生じたのではない。当時の社会的な変動や、19世紀から20世紀にいたる一連の文学的な展開と密接に結びついている。本講義では19世紀初めのロマン主義文学運動、および世紀末の唯美主義批評との関連にも触れながら、モダニズムの特質を明らかにしてゆきたい。ただし主義主張を羅列するのではなく、上記の詩人や作家の作品から適宜抜粋して具体的に読み、分析しながら考察を進める。

## 教 科 書

講義内容に応じてプリントアウトした作品や批評を読む。

## 参 考 書 等

高松雄一編『イギリス文学』（放送大学教育振興会）。イギリス文学の流れをつかむのに役立つであろう。

高松雄一編『想像力の変容』（研究社出版）。主としてモダニズム関係の論考を集めたもの。内容は専門的。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅵ	まるこつお 丸小哲雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

批評行為は人間の本能であります。文学テキストの読みについての論議が必要なのは、やみくもに文学テキストを読んでもそれほど大きな効用がなく、テキストの読み・解釈・批評の交通整理が必要であるからです。その交通整理が批評です。テキスト間の相違に折り合いをつける枠組は、いわば作者の「方法」を読みとるためであり、読み手自身のテキストを作ることであります。その「方法」は一般化、普遍化できるものですが、人間の不合理や不条理を取り扱う文学論はテキストの神秘的な解釈から脱神秘的な解釈へいたる回路を、いかに創り出してゆくかが問題となります。

ですから、初発の読書体験を大切に、主体としての〈持続する〉テキストをどう形成してゆくかを説明し、そこから文学批評方法を修得し確立して、テキストの印象や感想に価値を見出せるようにしてゆきます。とりわけ批評行為は、テキストの読み・解釈・批評の過程において、テキストの構造の織り目をゆるめて、テキストの持つ価値や姿勢に対立し、そのイデオロギーと対決する最後の機会であり、テキストに対してどのようにして責任をとるかを発見することです。文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題になってきますので、本講義は文学批評のさまざまな方法に親しみつつ、テキストの印象や感想に価値を見出せるように講義してゆきます。そのために文学テキスト内部からテキスト外部へどう出てゆくのかの手順を批評的ディスカッションとして説明してゆきます。

講義の内容・  
授業スケジュール

テキストの読み方と研究の仕方を覚えるためにさまざまな文学テキストを利用してレポートを作成してゆきます。従ってテキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

1. 文学テキストの虚構の世界とその必要性について
2. 文学的言語とは何か；日常言語と虚構言語の差異
3. 文学テキストの機能と力
4. 英文学研究の成立過程；文学研究制度の問題
5. 伝統的方法とテキスト演習
6. ロシア・フォルマリズム
7. ニュー・クリティシズムとテキスト演習
8. 受容理論（読者論の立場）
9. 「精神分析批評と原型批評」とテキスト演習
10. 構造主義
11. 記号論
12. 「構造主義と記号論」とテキスト演習
13. ポスト構造主義
14. ニュー・ヒストリシズム
15. 要約：批評精神の偏在性と批評的態度について

## 成績評価の方法

試験等による成績評価については、平常点50%、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）50%。クラスでの発表者には別途評価。

## 教 科 書

『〈持続する〉テキストへの意匠』 英宝社

## 参 考 書 等

開講時に読書リストのプリントを配布します。また、読書のための参考書は必要に応じて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
演劇特講 (イギリス・アメリカ)	あら い よし お 荒 井 良 雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

イギリス演劇史とアメリカ演劇史を、欧米演劇の原点であるギリシア・ローマ演劇の伝統をはじめ、最近のロンドンやブロードウェイにおける上演や、映画化作品、さらには日本における受容をも視界に入れて講義する。とくに近代劇と現代劇を中心に、ミュージカルも取り上げて、世界中で上演されている英米演劇の特色と魅力を明らかにしたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期はアメリカ演劇を、ユージン・オニールの作品を中心に講義する。後期はバーナード・ショーとノエル・カワードの演劇が中心である。

1. Tragedy and Comedy
2. Eugene O'Neill
3. Lillian Hellman
4. Arthur Miller
5. Tennessee Williams
6. Edward Albee and Sam Shepard
7. Mediaeval Religious Drama
8. Elizabethan Drama
9. William Shakespeare
10. Comedy of Manners
11. Oscar Wilde
12. Maugham, Coward and Rattigan
13. Peter Shaffer
14. Musicals
15. Theatre and Film

履修上の留意点

戯曲を読んだり、舞台を見たり、映画化作品を映画館やビデオで見たりして、英米演劇を積極的に鑑賞したり研究したりするのが好きな学生の受講を期待する。

成績評価の方法

レポートと学年末試験の成績で評価する。

教科書

特定の教科書は使用しない。戯曲や参考書は講義の主題毎に紹介する。

参考書等

荒井良雄著『英米文学映画化作品論』新樹社 ￥2,500  
 太平和登・荒井良雄共著『ブロードウェイ！ブロードウェイ！』朝日新聞社 ￥1,200

その他

舞台や映画のビデオや演劇の朗読テープを随時使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
アメリカ文学特講Ⅰ	にい くら とし かず 新 倉 俊 一	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

アメリカにおける近代詩の成立の歴史的状況をふまえて、いかにイギリスとは異なるユニークなアメリカ詩が発展したかを、具体的な作品に即して説明していく。それと併せて、新体詩以来の日本の詩にアメリカ詩が及ぼした影響を取り上げたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期は主として19世紀までのアメリカの詩人たちを紹介し、ポー、ホイットマン、エマソン、ディキンソンからロビンスン、フロストまでの作品を対象とする。後期は第一次大戦前後からアメリカ詩に大胆な革新をもたらしたパウンド、エリオット、ウィリアムズ、スティーンズ、ムア、カミングズ、ハート・クレインから、第二次大戦後に詩と人間の関係を問い直したロバート・ローエル、ベリマン、スナイダー、ギンズバーグ、ブライなどの現代詩人の作品を取り上げる。なお、適宜に、エマソンと北村透谷、ポーと萩原朔太郎、ホイットマンと有島武郎、エリオットと西脇順三郎、それに「荒地」の詩人たちやギンズバーグらのいわゆる「ビート詩人」たちの影響などをふれていきたい。

## 履修上の留意点

講義を中心とし、適宜、ビデオで詩人の紹介を行う予定。

## 成績評価の方法

前期はレポート提出。後期は詩の解釈および訳についてテストを行う。

## 教 科 書

新倉『アメリカ詩の世界』大修館書店 ¥1,900

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
アメリカ文学特講Ⅲ	あし だ かず ひと 足 田 和 人	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

Mark Twain の作品の魅力は、そのユーモラスな語り口にある。彼のユーモアは多くの読者を引きつけた。しかし、彼の作品におけるユーモアは習作期の作品と晩年の作品では、その趣を異にする。19世紀から、20世紀に移ってゆく時代思潮を考慮にいれながら、彼の作品と思想の変化にせまる。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期は習作期、後期に晩年の作品を読む。

## 履修上の留意点

毎回の予習を前提として、授業を進める。

## 成績評価の方法

ディスカッション形式で授業を行うので、積極的な授業態度が必要である。出席及び発表、及び、不定期に課される授業内レポートを平常点とする。前、後期レポートを加えて評価する。

## 教 科 書

『アダムとイヴの日記・他』北星堂書店

## 参 考 書 等

必要に応じて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
時 事 英 語	Sanders, Leonard P. (サンダース, L. P.)	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短放	4

## 講義のねらい

このクラスでは、様々なマスメディア（ドキュメンタリーフィルム、TVニュース、雑誌、タブロイドなど）で使われている英語を通じて、表現や文化を学んでいく。  
Intertextual Analysis のメソッドで行う。

講義の内容・  
授業スケジュール

テキストを読み内容を把握し、ビデオを見てエクササイズを行う。後半はディスカッションを行う。

## 成績評価の方法

年に2回テストを行う。

## 教 科 書

プリントを配布する。

## そ の 他

ビデオを使用する。授業は英語で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代地理学持論	はせがわ 長谷川 ひとし 均	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

## 講義のねらい

新聞やテレビで“沖縄”の二文字を目にすることが多い。海上ヘリポートや空港建設など、大規模な土木工事が計画され、それに伴う自然界へのダメージも懸念されている。本土復帰以降、巨額な資金が注ぎ込まれた沖縄では島々の自然がいたるところで痛めつけられている。この講義では、これらの現状とその背景にある沖縄の自然を解説し、地理学の分野で試みられている環境保全の取り組みや新しい調査方法を紹介したい。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期のテーマは「沖縄の自然」「沖縄における土地改変と自然環境の悪化」である。これらは、私が最近興味をもって取り組んでいるテーマでもある。地元紙の記事やインターネットで流れている情報なども紹介する予定である。後期は、前期の内容を受け「デジタル化した空中写真」や「リモートセンシングデータ」を使って、地球や環境の変化を抽出する方法、地理学への応用例を沖縄での事例を中心に解説する。詳しいスケジュールについては、講義開始時に年間計画表（シラバス）を配布し説明する。

## 履修上の留意点

講義中の私語、いねむり、教室からの退中は認めない。

## 成績評価の方法

2回の定期試験結果により評価する。出席し講義をまじめに受けていれば単位取得は容易なはずである。

## 教 科 書

使用しない。毎回プリントを配布する。

## 参 考 書 等

シラバスの付録として参考書のリストを示す予定である。

## そ の 他

VTR、スライド、沖縄民謡、PCによるプレゼンテーションもおこなうが、基本的には講義形式の授業である。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 形 学	こ 小 池 一 之	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・短大	4

## 講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事象（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・  
授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。  
1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マズウェスティング、種々の河成地形、組織地形）、4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）、6. 地形発達

## 履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

## 成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

## 教 科 書

小池一之・坂上寛一ほか著『新版地学教育講座⑨「地表環境の地学 — 地形と土壌」』東海大学出版会 ¥2,575

## 参 考 書 等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』東京大学出版会 ¥4,532  
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』東京大学出版会 ¥3,708

## そ の 他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
人 口 地 理 学	なか がわ さと し 中 川 聡 史	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

近年、人口問題はさまざまな方面から注目を集めています。世界の人口増加の大半を占める開発途上国については、人口増加と開発の関係、急速な都市化、そして人口増加と地球環境の関係などが議論されています。一方、日本などの先進国では晩婚化、少子化が問題となり、人口高齢化への対応が真剣に考えられるようになってきました。そして、こうした問題は観察する地域スケールによって、見え方が大きく変わります。すなわち、世界全体で見れば人口増加が大きな問題ですが、日本を含むいくつかの先進国では近い将来の人口減少を憂慮していますし、一国内でも、人口の過疎化と高齢化に悩む地域もあれば、過剰な人口集中が問題となる大都市もあります。「人口地理学」では、地域スケールに注意を払いつつ、近年の世界および日本の人口問題を理解し、考えるための人口学の基礎的知識について講義します。

講義の内容・  
授業スケジュール

おおよそ以下のような内容の講義をおこなう予定です。近年の人口動向、人口分布と人口構造、人口の変動、出生、晩婚化と少子化、死亡、人口の高齢化、人口政策と家族計画、人口都市化、国内人口移動、国際人口移動、人口と環境・食料。

## 成績評価の方法

成績評価は年度末の試験でおこないます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応 用 地 理 学	たか き まさ ひろ 高 木 正 博	祥・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

この科目は、地理学と他の研究分野を視野に入れた学際的なテーマが求められるであろう。講義では河川をテーマとする。この専門分野である河川工学や農業水文学などの成果をふまえて、河川を河道だけでなく流域として捉えることを基本とし、流域（地域）の自然とその土地の人々とのかかわりあいについて利水・災害・自然環境などの視点から明らかにする。また、水と人とのかかわりあいを論じる場合、水の基本的な特性である循環を意識し、それぞれの地域に固有な水循環システムと行政施策のかかわりあいを考える。さらに、ヨーロッパにおける河川管理についていくつかの事例を紹介する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、河川の基本特性について水文学的に講ずる。つぎに、具体的な河川の事例について、それぞれの河川に固有な特性を利水・災害・自然環境などの視点から考える。さらに、川をめぐる現実的な課題を明らかにし、その本質を探る。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。

成績評価の方法

学年末試験と夏休みのレポートの他、授業中の課題など平常点も加味して行う。

教 科 書

授業時間に配布するプリントを使用。

参 考 書 等

高橋裕著『河川工学』 東京大学出版会。その他随時紹介する。

そ の 他

講義中心。事例紹介のためのスライドやOHP、ビデオも使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文 化 地 理 学	たけ うち けい いち 竹 内 啓 一	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

文化地理学なるもの内容については、国ごとに、また地理学者ごとに極めて多様な理解がなされている。この講義では、私なりに文化地理学を、提示する。下記の書物を教科書として使用するが、順をおって教科書の内容を説明するのではなく、毎回、ひとつのトピックについて話をし、教科書の関連する部分を指示する。

## 講義の内容・授業スケジュール

内容としては、文化地理学の生成と発展、文化景観（風景）論、文化生態論、生活空間論、構造化理論、カルチュラル・スタディーズに関するいくつかのテーマを予定している。

## 履修上の留意点

出欠のチェックは行わないが、予告無しに行う小テストおよび学年末の筆記試験は、講義に出席し、参考文献をよく読み理解していないと解答できないであろう。予告無しの小テストを何回か、授業の最後に行う。

## 成績評価の方法

上記小テスト（40%）および学年末の持ち込み一切自由の筆記試験（60%）による。

## 教 科 書

教科書は、高橋・田林・小野寺・中川『文化地理学入門』東洋書林 ￥2,500

## 参 考 書 等

さしあたり、以下の参考文献をあげておく。その他の文献は授業時間の中で示す。  
 千葉徳爾『文化地理入門』大明堂 1990年  
 大島・浮田・佐々木編著『文化地理学』古今書院 1989年  
 浮田典良編『地域文化を生きる』大明堂 1997年  
 クラヴァル『現代地理学の論理』大明堂 1995年  
 坂本・浜谷『最近の地理学』大明堂 1985年  
 高橋伸夫『日本の生活空間』古今書院 1990年  
 荒井・川口・岡本・神谷（編訳）『生活の空間 都市の時間』古今書院 1989年  
 荒井・川口・岡本・神谷（共著）『都市の空間と時間：生活活動の時間地理学』古今書院 1996年  
 寺坂昭信監訳『空間と行動論』地人書房 1986年  
 吉原直樹『都市空間の社会理論』東京大学出版会 1994年  
 竹内啓一『とぼろうぐ』古今書院 1993年  
 トゥアン（阿部訳）『トポフィリアー—人間と環境—』せりか書房 1992年  
 レルフ（高野他訳）『場所の現象学—没場所性を越えて—』筑摩書房 1991年  
 ギダンス（友枝・今田・森重訳）『社会理論の最前線』ハーベスト社 1989年  
 『10+1』1997年11月号 特集「新しい地理学」

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 理 思 想 史	たけ うち けい いち 竹 内 啓 一	禅・仏教・国文 英文・歴史・経済 商・短国・短英	4

講義のねらい

地理学史ではなく、地理思想史の講義であり、本年度は、日本人の土地、場所、環境さらに世界・コスモスに関する考え方、そして日本において、自分たちの国土、および外部世界に関する知識がどの様に形成され、発展してきたか検討する。古代、中世、16、17世紀の宣教師との接触、幕府による国際交流の独占（鎖国）時代、漂流者の記録についてもふれるが、講義の大部分は開国後の話になる。

講義の内容・授業スケジュール

今（1995年11月）のところで以下の内容を考えているが、若干の変更があるかもしれない。

- 1 日本の伝統的コスモロジー、geomancy
- 2 地理と風土記
- 3 16世紀以降における新しい世界認識
- 4 洋学における地理と地理的知識（地図制作に焦点をあてて）
- 5 幕末・明治初期における外国紹介（いくつかのミッションの記録、とくに福沢諭吉、久米邦武による岩倉使節団の『米欧回覧実記』に焦点をあてて）
- 6 札幌農学校出身者の農学を基礎とした地理思想（新戸部稲造、内村鑑三、志賀重昂に焦点をあてて）
- 7 「皇国地誌」編纂事業挫折の意味（地理的情報の近代化に焦点をあてて）
- 8 公教育における地理学の制度化（文部省中等教員検定試験制度、師範学校、高師、文理大の役割、帝国大学における地理学の制度化まで。牧口常三郎はこのコンテキストのなかで考察される）
- 9 軍隊における地理学の役割、とくに国土図の作製。
- 10 nation building、そのための national identity 形成にとっての地理教育の役割（地理教科書記述の内容およびイデオロギーの変遷）
- 11 南進論、北進論との関連における地理的知識の形成（密偵、商人・芸人・唐ゆきさん、仏僧、冒険家など）
- 12 帝国主義段階における組織的地理的知識の形成（満鉄調査部、東亞同文書院に焦点をあてて）
- 13 アカデミシヤンの貢献と限界（大谷探検隊の事績、鳥居龍蔵の業績そして矢内原忠雄の著作に焦点をあてて）
- 14 アカデミー地理学の成立（山崎直方、小川琢治、小田内通敏など）
- 15 アカデミー地理学の第二次世界大戦までの発展（石橋五郎、辻村太郎、石田龍次郎、飯本信之、佐藤弘、田中啓爾など）
- 16 土着的地理思想と近代科学としての「地理」との接続と断絶（柳田などの日本民俗学派との接触、交流、そして地理学派の限界について）
- 17 日本における政治地理学の展望
- 18 第二次世界大戦後の日本のアカデミー地理学50年史。
- 19 第二次世界大戦後の地理教育と問題点
- 20 地理のブラクショナーの系譜

履修上の留意点

授業は講述の形式をとるが、受講者が、テキストを読み、吟味し、自分なりの理解をすることをめざす。入手しがたい文献についてはコピーして配布するが、文庫本になっているもの（例えば、福沢諭吉『世界国尽』、久米邦武『欧米回覧実記』、志賀重昂『日本風景論』、河口慧海『チベット旅行記』など）は、できるだけ購入するようにしてもらいたい。これらのテキストに関するレポートを何回か提出してもらおう。レポートの課題は授業の中で提示する。提出期限に遅れたレポートは一切受理しない。

成績評価の方法

上記のレポートおよび学年末の持ち込み自由の筆記試験による。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書等

文献・参考書等は講義中に提示する。

その他

来年度、私がこの講義を担当する場合には、内容をまったく変えて、西洋の地理思想史を取り上げる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本史特講Ⅶ 〔近代〕	さ とう もと えい 佐 藤 元 英	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

1920年代論を講ずる。一面大陸侵略、一面英米従属という東アジアにおける「二重構造」的な国際関係、さらに中国をとりまく列国間の利権獲得競争という対立関係から発生した、いわゆる一面英米協調、一面英米対立という矛盾した「二面性」の対外志向の中で、昭和初期の日本外交はどのように位置づけられるものかを論ずる。

講義の内容・  
授業スケジュール

中国における在留邦人の保護政策という観点より次の課題を設定する。①第一次山東出兵の決定過程を分析し、「幣原外交」と「田中外交」の比較検討を行う。②東方会議の全貌を明らかにするとともに、従来の研究が伝記・回顧録等の二次的史料に依拠しがちであった点に批評を加え、東方会議を再検討する。③「満州問題」解決の具体的政策決定について検証する。④吉田茂在奉天総領事の思想と行動を通して、「二重外交」「四頭政治」の弊害について論ずる。⑤第二次山東出兵と済南事件について論ずる。⑥張作霖爆殺事件に関する政府の対応と軍部の行動について分析する。⑦田中内閣の崩壊と天皇の叱責問題を論ずる。⑧「田中外交」の政策決定の特質、外交チャンネルの混乱、国際協調認識、「満州特殊権益論」と中国ナショナリズムの対立等について論ずる。以上の課題より1920年代後半期における列国の対中国政策と日本の対応、ワシントン体制の崩壊要因について考察し、まとめとする。

## 成績評価の方法

定期試験及び出席状況による。

## 教科書

追って指定する。

## 参考書等

細谷千博・斉藤真編『ワシントン体制下の日米関係』  
入江昭『極東新秩序の模索』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
東 洋 史 特 講 X 〔 近 ・ 現 代 〕	ちよう 趙                      ぐん 軍	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

太平洋の東に浮かぶ島国日本の経済生活は、他国との貿易に大きく依存している。特に中国を初めとするアジア各国とは、歴史的にも文化的にも極めて深い関係におかれてきた。本講義は外交・貿易・文化往来などの方面を通して、二千年以上にわたる日本と中国の間の友好と不友好の歴史を概的に解説し、日本とアジア各国との関係を正しく理解できる知識や教養を深める。

講義の内容・  
授業スケジュール

近代以前の日中関係史を概的に紹介し、「西力東漸」以後、とりわけ第1次世界大戦以後の日中関係を具体的に解説する。

主な項目は次の通りである。

1. 近代以前の日中交通史
2. 「日清提携論」と「征軍論」の創生
3. 「アジア連帯」と国権主義の台頭
4. 宮崎滔天と中国
5. 頭山滿と中国
6. 辛亥革命・孫文と日本
7. 内田良平と中国
8. 中国の国民革命と日本の対応
9. 「満洲事変」から日中戦争へ
10. 日本の敗戦と台湾との「国交」
11. 政経分離と政経不可分
12. 国交正常化と日中平和友好条約
13. フィーバーと摩擦と
14. 「成熟の時代」
15. 改革開放と「新アジア主義」
16. 日本の対中国政策決定—組織と過程—
17. 真のアジア共生をめざして

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

学期末にレポートの提出やペーパー試験を行う。試験成績と出席率による総合評価を行いたい。

教 科 書

- ①趙軍『大アジア主義と中国』亜紀書房 1996年
- ②田中明彦『日中関係 1945-1990』東京大学出版会 1991年

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 Ⅲ	や の か ず ゆ き 矢 の 野 和 之	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学、歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。

このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
- ・日本建築史（古代）概要
- ・遺構とその上部構造体の復元
- ・保存計画概論
- ・保存科学、保存工学概論
- ・まちづくりと文化財
- ・計画策定の実務
- ・国内の事例
- ・海外の事例、文化財保存の国際機関

以上を一部演習を混じえながら講義する。

## 履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

## 成績評価の方法

試験、演習提出物

## 教 科 書

なし

## 参 考 書 等

適宜指示

## そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
歴 史 哲 学	あ 麻 生 けん 建	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は、単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

## 講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

## 履修上の留意点

前半は純粹な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は教科書に基づいて行なう。

## 成績評価の方法

学年末の試験による。

## 教 科 書

麻生建著『解釈学』 世界書院 ¥2,500

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
哲 学 史	やま ぐち まさ ひろ 山 口 祐 弘	国文・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

カントを源とするドイツ観念論の諸思想は現代に様々な照明を与えてくれる。今日確実な思索を行おうとするならば、繰り返しそこに立ち返ることが求められ、またその意義は尽きない。だが、その発展を一望のもとに収めることはたやすいことではない。その根本にあった問題は何か、それを駆動してものは何か、が問われねばならない。そうした問題論的展開として捉えた時に、ドイツ観念論は一つの歴史となるのである。本講は、この意味でドイツ観念論に歴史を発見しようとする試みである。カントが提起しかつ後世に残した課題を明らかにし、それが如何なる方向に解決を求めていったかをフィヒテ、シェリング、ヘーゲルを軸として考察する。

## 参 考 書 等

山口祐弘『カントにおける人間観の探求』『ドイツ観念論における反省理論』勁草書房



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	たに ぐち みつき 谷 口 貢	禅・仏教・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・  
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変わり、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼―出産と子育て―
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

## 成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

## 教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

## 参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』 吉川弘文館

科目名	担当者名	配当学科	単 位
マス・コミュニケーション論	かわもと まさる 川 本 勝	禅・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経済・商・経営・短大	4

## 講義のねらい

社会的コミュニケーションの特質を整理し、マス・コミュニケーションの社会的機能を考察する。

## 講義の内容・授業スケジュール

前期は、社会生活とコミュニケーションの関連を考える。私たちの社会生活は、コミュニケーション活動による他者との相互作用によって成り立っている。現代社会におけるメディア状況を整理し、メディア環境の変容とそれらを利用してどのようなコミュニケーション活動が営まれているかを考察する。パーソナル・コミュニケーション、マス・コミュニケーションなど社会的コミュニケーションの特質を講義する。

後期は、マス・コミュニケーション活動が社会や人びとに対してどのようなインパクトや社会的機能を果たしているか、問題点は何かについて論じる。特に、マス・コミュニケーションの受容過程研究を扱いながらその効果、影響について考える。

## 履修上の留意点

他学部・学科履修ができる科目であるが、他学部・学科の学生は、社会学の科目をすでに履修しているなど社会学の基礎知識を修得しておくことが望ましい。

## 成績評価の方法

講義中に課する小レポート、出席を配慮し、試験によって行う。

## 教科書

用いない。

## 参考書等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
産業・職業社会学	あんどう きくお 安 藤 喜久雄	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大	4

## 講義のねらい

産業・職業社会学の対象の中、本講義では、経営と従業員との関係としての従業員関係を規定している雇用システム、経営と労働組合の関係としての労使関係、産業社会や職業社会の構造などについて概観する。日本社会を中心に考えるが、その特質を明らかにする上からも諸外国との比較を交えて講義を進める予定である。

## 講義の内容・授業スケジュール

最初に、日本の雇用慣行について述べる。終身雇用制や年功制を柱とするいわゆる日本の雇用システムの特徴と動揺について述べる。次いで、日本の労働組合の組織活動や労使関係の特徴とともに課題について述べる。以上のことは産業社会の構造変動によって生じることから、日本の産業社会や職業社会の構造的変化を中心に述べる。すなわち、経済のサービス化、情報化、雇用の流動化、ホワイトカラー化、専門職化、高齢化、女子の職場進出などの進展により、どのような変貌をとげつつあるかを明らかにし、その課題と展望を述べる予定である。

## 成績評価の方法

出席点と試験の両者によって評価する。

## 教科書

安藤喜久雄他『産業社会学』学文社 2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会福祉発達史	はやし 林 ちよ 代	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大	4

## 講義のねらい

社会事業は、近代社会がスタートすると同時に生成した。もちろん、それ以前の社会においても人々の生活は不安にさらされていた。

生活の不安は、自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には常に多くの社会問題が生じ、人々は生活困難におちいった。その影響が大きくなるにつれて、慈善（恵）や救済から社会事業としての方向が確立したといえる。そして、社会福祉という方法に到達し福祉国家の実現となった。最近では、福祉社会といわれる考え方に至っている。

この長いプロセスの理解と、社会福祉は一定の歴史的産物であるという認識こそ社会福祉の学習に不可欠である。

対象、問題解決の方法、方法の意図、施策の背景をなす思想を講義する。

授業は講義形式で行なう。しかし常に質問を受け、あるいは話のやりとりをしながら進めたい。社会福祉の理解には、知識の集積や論理の把握にとどまらず身近な生活の中での実感が必要不可欠だからである。講義もどの時点であれ、現在の問題や具体例と結びつけてすすめていく。

講義の内容・  
授業スケジュール

資本主義の発達と社会福祉の生成は、英国が典型である。日本については当然ではあるが時間のある限り米国や北欧諸国などにもふれたい。

〔英 国〕

- ① 前史
- ② 中世封建社会と慈善
- ③ 絶対王制下の救貧制度
- ④ 旧救貧法と近代的慈善事業の生成
- ⑤ 産業革命と新救貧法のスタート
- ⑥ 社会事業近代化への動向
- ⑦ 社会保障制度の成立と諸技術の発展
- ⑧ 今日の状況と諸問題

〔日 本〕

- ① 前史
- ② 日本における救貧法の系譜と公的救済
- ③ 封建社会と慈善・慈恵
- ④ 資本主義の生成と救済事業
- ⑤ 社会事業の生成と組織化
- ⑥ 昭和期の社会事業と厚生事業
- ⑦ 戦後の社会福祉（事業）
- ⑧ 現在の状況——福祉社会について

## 成績評価の方法

単位認定は、年一回のレポートによる。

## 教 科 書

教科書は決めないが、参考書は開講初日に提示の予定。

## そ の 他

知識や考察を内在化させ、学生個々の自己認識を深めていくことをめざしたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロシア・東欧経済論	やま がた ひろ し 山 縣 弘 志	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短教	4

### 講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることにはできないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

### 講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来からの歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達したか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに答えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
  - (1) 社会主義論とマルクス
  - (2) ロシア革命のめざしたもの —— レーニン時代 ——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
  - (1) 1920年代から30年代への転換
  - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
  - (1) 「計画経済」の成立と実態
  - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
  - (1) 経済構造の特質と軍事生産
  - (2) 工業生産力と工業技術
  - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
  - (1) 経済改革の時代
  - (2) ブレジネフと停滞の時代
  - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
  - (1) ロシア・東欧の文化と社会
  - (2) 資本主義化の諸問題
  - (3) ロシアと日本 —— 比較経済史 ——

### 履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

### 成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

### 教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、完全の教科書はありえない。

### その他

教科書はないので、授業中にノートを取るのとは当然のことになるだろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 政 策	みつ おか はく み 光 岡 博 美	禅・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経営・短国・短放	4

## 講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけでなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・  
授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととする。

- (1) 社会政策の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代福祉国家の生成と展開
- (7) 日本的労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

## 履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

## 成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。

## 教 科 書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国民所得論	よし の 吉 野 おさむ 紀	簿・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万（平成3年）あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財（商品）やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP（国内総生産）にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,070万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成5暦年のGDPによって466兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言える。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的（マクロ）分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ（経済主体）毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」…………… 5回  
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。  
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」（配布資料）
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」…………… 4回  
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。  
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』（日本評論社）第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」…………… 8回  
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。  
《参考》伊達邦春（編）『マクロ経済学』（八千代出版）第9章
4. 「金融政策、財政政策」…………… 4回  
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。  
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学（上）』（CAP出版）第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 5回  
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス（上）』（第6版）多賀出版

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国経済論	こすぎ しゅうじ 小杉修二	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

## 講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。

現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような日前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・  
授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的解明をはかる。

前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

これにつづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないうであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中での、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

## 履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

## 成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正解な理解である（学説の受入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

## 教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設——超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥4,000

## その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アジア経済論	かく 郭 やん 洋 ちゅん 春	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

#### 講義のねらい

「世界経済の成長のセンター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、負の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。

#### 講義の内容・授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

##### I アジアの台頭

①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN

##### II ダイナミック・アジア

①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化、④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス

##### III 迷走するアジア

①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁

##### IV 21世紀のアジア

①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするのか

#### 履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

#### 成績評価の方法

授業中に行う小テストと学年末試験を合わせた総合評価（場合によっては長期休暇中にレポートを課すこともある）

#### 教科書

特になし。

#### 参考書等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』中央経済社  
他は授業中に随時紹介する。

#### その他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらおうつもりである。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 史	こしょう 古 庄 正	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短放	4

## 講義のねらい

日本経済史の対象は原始古代以来の経済発展の全過程であるが、今年度は明治の産業革命期に焦点を絞り、資本主義経済システムが日本ではどのように定着し、発展したかを概観したい。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 序. 経済史とはどういう学問か。(1回)  
 1. 江戸時代の経済発展 (2回)  
 2. 開港とその影響 (1回)  
 3. 明治維新の諸変革 (1回)  
 4. 明治政府の工業化政策 (1回)  
 5. 政商・天皇家・華族の資本蓄積(1回)  
 6. 松方財政と企業勃興 (1回)  
 7. 軽工業の発展 (1回)  
 8. 重工業の発展 (1回)  
 9. 炭鉱と鉱山 (1回)  
 10. 在来産業の近代化 (1回)  
 11. 産業革命と公害 (1回)  
 12. 鉄道と海運 (1回)  
 13. 産業革命と農業・農村 (1回)  
 14. 外国貿易の発展と商社 (1回)  
 15. 財政と金融 (1回)  
 16. 資本家と労働者 (1回)  
 17. 財閥の多角化 (1回)  
 18. 産業革命と教育 (1回)  
 19. 産業革命と植民地 (2回)  
 20. 大正期の日本経済 (2回)

## 履修上の留意点

日本経済論の履修を薦める。

## 成績評価の方法

期末テストの成績とレポートによる。配点は前者70点、後者30点。

## 教 科 書

プリントを毎時間配付し、それにもとづいて講義する。教科書は使わない。

## 参 考 書 等

参考文献は必要に応じて授業時間中に指示する。

## そ の 他

授業の方法は講義形式。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう じ 和 田 耕 治	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

中小企業は異質多元の存在であるといわれている。それら特質は、大企業でないということを除けば、千差万別である。とはいえ、わが国においては、中小企業研究の歴史は、古く、その蓄積には、膨大なものがある。本講義では、今までの中小企業研究の蓄積を踏まえつつ、今日における中小企業の現状とその課題を考察する。

講義の内容・  
授業スケジュール

年間二十数回程度の講義のなかで以下の点に触れながら授業を進める。

- ① 中小企業とは
- ② わが国における中小企業研究
- ③ 中小企業問題と中小企業政策
- ④ 下請分業構造の変化と中小製造業
- ⑤ 大規模小売店舗法の規制緩和と中小商業
- ⑥ 創業支援とベンチャービジネス
- ⑦ 中小企業従業者の労働と福祉
- ⑧ 地域経済と中小企業

成績評価の方法

夏休みのレポートと学年末試験で成績の評価を行なう。

そ の 他

授業では、必要に応じて、OHPやビデオを使用する。  
教科書は、とくに使用しないが、5～6月に発行される中小企業庁『中小企業白書』は各自で購入すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育経済論	や 谷 しき だ 正 みつ 光	禪・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

### 講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

### 講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
  - (1) 日本の産業化と教育
  - (2) 日本の経済成長と教育
  - (3) 日本の産業高度化と教育
  - (4) 日本の「新高度成長」と教育
  - (5) 日本の人的開発政策
  - (6) レーガン大統領の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - (7) ブッシュ大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
  - (8) ブッシュ大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
  - (9) クリントン大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
  - (10) クリントン大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
  - (11) サッチャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - (12) メージャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
  - (13) ブレア首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
  - (14) 学制時代における実業教育政策1 富国強兵・殖産興業（映画）
  - (15) 学制時代における実業教育政策2 学制公布と実業教育
  - (16) 教育令時代における実業教育政策1 工場払下
  - (17) 教育令時代における実業教育政策2 教育令公布と実業教育
  - (18) 学校令時代における実業教育政策1 産業革命
  - (19) 学校令時代における実業教育政策2 学校令公布と実業教育
  - (20) 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
  - (21) 復興期の経済発展と教育1（一部ビデオ）
  - (22) 復興期の経済発展と教育2 産業教育振興法公布（一部ビデオ）
  - (23) 高度成長第1期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - (24) 高度成長第2期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - (25) 高度成長第3期の経済発展と教育（一部ビデオ）
  - (26) 高度成長終焉後の産業教育

### 履修上の留意点

- ① 年間5回小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用するので指定された教室か視聴覚教室かに注意すること。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しないので、必ずその授業中に受け取る。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

### 成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。

### 教科書

毎時間、講義の教材として年間30～40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

### 参考書等

豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』（東大出版）  
 ギ・ソルマン（秋山康男訳）『レーガンのアメリカ』（新潮社）  
 原田和男『ブッシュの米国経済』（日本経済新聞社）  
 宮崎正弘『クリントンの日米経済』（銀河出版）  
 森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』（岩波新書）  
 文部省『産業教育百年史』（ぎょうせい）  
 その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
アメリカ経済論	せとおか 瀬戸岡 ひろし 紘	禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカでのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済について関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・授業スケジュール

年間をとおして聴くと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

《導入の話題》

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

◇アメリカの建国の理念と現代の経済

◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家とベンチャービジネス

◇アメリカの雇用と労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの交通・通信・情報

◇アメリカの金融

◇アメリカの教育と経済

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

◇アメリカ経済と環境問題

◇アメリカ社会とヴォランティア

◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATTとWTO)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

## 《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとE C
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

## 《むすびの話題》

- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらしないで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

## 成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を何回か提出してもらうことを考えていますし、受講者の希望により、この講義のなかでいただくようになった問題意識をもとにアメリカ経済にかんする自由論題で小論文を年度末に提出してもらい試験に替えることも考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を考慮にいれつつ小論文を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

## 教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の凶書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳、青木書店、1994年）をおすすめします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 論	もり 森 武 磨	禅・仏教・国文・英米文 地 理 ・ 歴 史 ・ 法 律 政 治 ・ 短 国 ・ 短 英	4

#### 講義のねらい

1980年代の後半には、日本のGNPは世界の14%を占めるまでになった。1950年が1%であることと比べるとこの間いかにすさまじい経済成長であったかがわかる。また、1950年代には世界のGNPの40%を占めていたアメリカはこの間に25%までに低下し、貿易赤字と財政赤字に苦しみ1985年には初めて債務国に転落した。しかし、日本経済も1980年代の好景気、バブル経済を謳歌したが、1990年代には一転して本格的な不況局面に突入し、出口ははまだ見えない状態である。驚くべき経済成長とゆたかさの背景に、日本社会は公害・環境破壊、企業内の長時間労働、高地価による貧困な住宅条件、少ない休暇など社会的な矛盾もまた累積していった。

このような社会変動をもたらした日本経済の成長はどのようにして生まれたのであろうか。その成長の軌跡と矛盾を、日本株式会社論や1940年体制論などの現代経済システムの源流論や、企業主義・会社主義、日本型企业社会など最近の日本的経営論や日本的労使関係論を視野に入れながら論じてみたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

1930年代の世界大恐慌から第2次世界大戦をへて1945年の敗戦による日本経済の崩壊から、戦後改革と高度経済成長をへて「経済大国」化した1980年代までの日本経済の段階的変化と構造的特質を把握することをねらいとする。

講義の進め方は、1930年代から1990年代にいたる日本経済の軌跡を5期に区分してそれぞれの時期を資本構造、労使関係、農業問題、対外関係の4つの視点から明らかにしていく。

年間の講義スケジュールは以下の通りである。

- 1 財閥資本と金融資本
- 2 昭和恐慌と高橋財政
- 3 恐慌下の労資関係
- 4 戦時統制経済
- 5 戦時下の農業問題
- 6 大東亜共栄圏
- 7 財閥解体と再編成
- 8 戦後資本主義の再建
- 9 労働改革
- 10 農地改革
- 11 高度経済成長とは何か
- 12 企業集団と法人資本主義
- 13 日本的労使関係
- 14 高度成長下の農業問題
- 15 石油危機と高度成長の終焉
- 16 経済大国化への道
- 17 日本型企业社会の確立
- 18 現代経済と労使関係
- 19 現代の農業問題
- 20 世界の中の日本

#### 履修上の留意点

履修に関していえば、日本経済に関する最新の新聞情報を毎回トピックとして解説し、講義内容もだれでも理解できるように説明する。そのつどプリント（図表）を配布し、また補助教材としてビデオを多く利用するので低学年にも十分理解しうる。ただし出席、授業内小テストなど採点は厳しいのでとくに4年生は心して履修されたい。

#### 成績評価の方法

成績評価は期末試験（論述式）を中心に採点する。中間テストとして夏休みにレポートを課す。出席状況も評価に加える。期末テスト、夏休みレポート、出席状況の三者は、60点、20点、20点の割合で評価する。

#### 参 考 書 等

森武磨ほか『現代日本経済史』 有斐閣 ￥1,700

科目名	担当者名	配当学科	単位
財務会計論	えん どう たかし 遠 藤 孝	権・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短大	4

### 講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性格、内容、役割について講義する。

### 講義の内容・授業スケジュール

#### 前 期

- (1) 4月第1週  
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週  
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週  
財務会計の制度性について。  
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週  
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週  
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週  
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週  
繰越資産について。繰越資産の特殊性、繰越資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週  
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週  
同上。
- (10) 7月第1週  
資本会計について。

#### 後 期

- (11) 9月第1週  
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- (12) 9月第2週  
連結財務諸表とは何か。
- (13) 9月第3週  
同上。
- (14) 10月第1週  
セグメント会計について。  
リース会計について。  
年金会計、退職給与引当金と年金会計
- (15) 10月第2週  
企業内容、会計内容の開示について。  
注記 財務諸表附属明細表（書）。
- (16) 10月第3週  
同上。
- (17) 10月第4週  
財務諸表の監査、商法上の監査。
- (18) 11月第1週  
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。  
「企業会計原則」について。
- (19) 11月第2週  
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- (20) 11月第3週  
同上。
- (21) 11月第4週  
日本、世界企業会計の最新動向。
- (22) 12月第1週  
同上。
- (23) 12月第2週  
会計学を学ぶについて考えるべきこと。パソコン時代の企業会計。総括。
- (24) 最終週  
予備。  
以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

### 履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

### 成績評価の方法

試験による。（前期、後期2回実施の予定）

### 教科書

遠藤孝他著『会計学』森山書店 1998年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
管 理 会 計 論	なか はら しょう きち 中 原 章 吉	神・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短教	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

教 科 書

講義の際、指示します。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
銀 行 論	さいとう 藤 正 齋 藤 正	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短英	4

## 講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても橋本内閣の「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は、「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻の増加、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしているがゆえに、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

- 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
  - ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
  - 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
  - まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
  - 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
  - とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
  - 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも確りとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

## 成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって理解度を評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

## 教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

## 参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』いずれも大月書店 1992年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 監 査 論	い い 飯 岡 お か と お る 透	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短教	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・  
授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前 期〕

4月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性とその構造

5月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開  
監査人の要件と責任

(1) 監査人の要件

- (2) 監査人の選任と解任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後 期〕

9月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
- (2) 監査調書の種類と保存  
経営者確認書の意義と記載内容

(1) 経営者確認書の意義と目的

(2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短文式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教 科 書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』中央経済社 ￥3,500

参 考 書 等

飯岡透著『中間財務情報制度論』中央経済社 ￥3,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 政 策	いわ した ひろし 岩 下 弘	禅・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義の内容・  
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
  - 1 80年代の小売商業構造
  - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
  - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
  - 1 中小小売商保護政策論
  - 2 流通近代化政策論
  - 3 流通システム化計画論
  - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
  - 1 70年代の流通
  - 2 80年代流通産業ビジョン
  - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
  - 1 百貨店法
    - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
  - 2 中小小売商業振興法
  - 3 小売商業調整特別措置法
  - 4 大店法
    - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
    - 3) 1991年改正法
  - 5 凍結宣言、要綱及び条例
  - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
  - 7 規制緩和
    - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告
    - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
  - 8 特定商業集積法
  - 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
  - 1 イギリス
    - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
    - 2) 日曜営業問題－商店法
  - 2 フランス－ロワイエ法
  - 3 ドイツ－土地利用計画
  - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 流通問題と消費者保護政策
  - 1 消費者問題論
  - 2 消費者保護基本法
  - 3 消費者行政
  - 4 生協
- 七 流通問題と独禁政策
  - 1 独占禁止法
  - 2 不公正取引
  - 3 取引慣行

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教科書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』白桃書房 ￥2,800

参考書等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』大月書店 ￥2,600

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
貿 易 論	ふる さわ こう そう 古 沢 紘 造	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

#### 講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

#### 講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
  1. 農産物と貿易
  2. 水産物と貿易
  3. 林産物と貿易
  4. 鉱物資源と貿易
  5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
  1. 開発援助と貿易
  2. 環境と貿易
  3. 公正と貿易
  4. 地域統合と貿易
  5. 総括：貿易と暮らしを問う

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

#### 成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

#### 教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

#### 参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マ ー ケ テ ィ ン グ	そ が のぶ たか 曾 我 信 孝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義の内容・  
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
  - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
  - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
  - チャンネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
  - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
  - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
  - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合商社との関係などである。
  - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
  - 総合商社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合商社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合商社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合商社の子会社戦略、②総合商社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウエイトをおいていることはいうまでもないが、ここでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

教科書

曾我信孝『総合商社とマーケティング』白桃書房 ¥4,000

参考書等

必要に応じて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
原 価 計 算 論	か とう とし やす 加 藤 利 安	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

#### 講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計の側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状況の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状況の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとなれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することをこころがける。

#### 講義の内容・授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

#### 成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

#### 教科書

最初の授業時に指示する。

#### 参考書等

授業時に適宜挙げる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 務 管 理 論	いし い しゅう じ 石 井 脩 二	輝・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

## 講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意義を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実が生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこの勤労生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

## 講義の内容・授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせて利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本的経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉であったということである。しかし、今日、日本企業の競争力にかけりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本的経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会で妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるというところにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進めていく。

序 章 人事労務管理から人材資源管理へ	第 5 章 報酬管理
第 1 章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化	第 6 章 労働時間管理
第 2 章 採用管理	第 7 章 福利厚生管理
第 3 章 教育訓練と能力開発	第 8 章 女性労働の管理
第 4 章 昇進管理	第 9 章 国際人事

## 成績評価の方法

定期試験のみにて評価。評価の基準は解答内容の論理性と説得性。

## 教科書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

## 参考書等

津田真澄編著『人事労務管理論』ミネルヴェ書房

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 管 理 論	ひく た よし はる 百 田 義 治	祥・仏教・国文・英米文 地 理 ・ 社 会 福 祉 ・ 心 理 ・ 短 国	4

#### 講義のねらい

現代企業の経営管理（組織と管理）について、大学生に必要な基礎知識を提供することと、その現代的諸課題の現状と問題点を明らかにすることが一年間の講義を通しての課題です。

#### 講義の内容・授業スケジュール

多数の人々の協働体である組織が、さまざまに変化する環境の中で、目的・目標の設定から達成までのプロセスを効率的に運営する活動が経営管理です。したがって、経営管理は、学校や病院や政府諸機関など非営利組織（NPO）、あるいはボランティア活動の組織（NGO）にも必要不可欠な活動です。しかし、現代社会において組織という場合に、企業を除いて組織を語ることはできません。一年間の講義の中では、NPOやNGOの組織の特性や管理の課題についても up-to-date な話題にふれて言及しますが、講義の中心は現代企業の経営管理問題です。

一年間の授業スケジュールは以下の通りです。

前期（4月～7月）は経営管理論の流れを「個人と組織」の問題を中心にフォローし、その現代的意義について考えます。前期の授業の内容は次のような問題です。

- ①経営管理論（授業）ガイダンス（経営管理論では何を学ぶのか？）
- ②現代の組織と経営管理（企業の経営管理とNPO・NGOの経営管理は異なるか？）
- ③経営管理論の源流1：科学的管理法（唯一最善的管理法は存在するか？）
- ④経営管理論の源流2：管理過程と管理原則（経営管理は学校教育で学べるか？）
- ⑤組織の人間関係（人間の非論理的・非合理的行動とは何か？）
- ⑥現代組織論1：個人と組織の統合理論（個人の欲求充足と組織目標の達成は両立するか？）
- ⑦現代組織論2：意思決定論（経営者の意思決定は科学の対象になるか？）
- ⑧モチベーション論（自己実現とは？勤労意欲は何から生みだされるか？）
- ⑨人的資源管理論（行動科学とは？「労働力」と「人的資源」では何が異なるか？）  
（夏休みの課題）前期の授業についてレポートの提出を求めます。

後期（9月～1月）は現代企業の経営管理の実際（当面する諸問題）を具体的に検討します。

- ⑩ 企業戦略論（現代企業のもっとも重要な経営管理問題とは何か？）
- ⑪ 日本企業の国際競争力（トヨタ・システムはフォード・システムを超えたか？）
- ⑫ グローバリゼーションとジャパナイゼーション（日本的経営は国際的に通用するか？）
- ⑬ 日本企業の国際化（グローバル化とローカル化の両立は可能か？）
- ⑭ 経営管理と情報化1（企業内・企業間ネットワーク化は経営管理を根本的に変革するか？）
- ⑮ 経営管理と情報化2（情報化は中間管理職を無用化するか？）
- ⑯ 地球環境問題と経営管理（共生の時代の経営管理に求められるものは何か？）
- ⑰ コーポレート・ガバナンスと企業倫理（企業の統治者の社会的責任とは何か？）
- ⑱ 人間の未来と経営管理の課題（一年間のまとめ）  
（学年末試験）

#### 履修上の留意点

新聞・雑誌・ニュースなどを通して現代の企業と経営に関心を持つことが大事です。「なぜ」という疑問がなければ勉学意欲は持続しません。現実の経営管理問題にマークシート方式の解答はありません。すべてが応用問題です。洞察力と問題解決能力も90%は経験と学習です。

#### 成績評価の方法

出席（10%）、小レポート（10%）、夏季レポート（20%）、学年末試験（60%）で総合的に評価します。

#### 教科書

笹川・山下・仲田・渡辺編著『現代の企業経営を学ぶ』ミネルヴァ書房 1996年

#### 参考書等

片岡・篠崎・高橋編著『新しい時代と経営学』ミネルヴァ書房 1998年  
その他、授業や夏期レポートに関連して随時紹介する。

#### その他

授業に関する質問などがあれば研究室（第2研究館4階2436；電話03-3418-9345）を気楽に訪ねるか、E-mail（授業で説明）で問い合わせて下さい。また、授業（予習・復習、参考書など）に関する情報はホームページ（授業で説明）でも獲得することができますのでアクセスして下さい。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	さい とう ひさし 齊 藤 寿	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」  
1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用収用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望  
この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。  
—— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。  
目には火を、顔には光をいできて、ついてきて下さい。  
Rouse up, O.Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) ——  
との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
親族法	たけなかちか 竹中智香	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 政治・経営・短大	4

## 講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

## 講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

## 履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

## 成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

## 教科書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』 有斐閣双書 ¥1,648

## 参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』 有斐閣 ¥2,200

科目名	担当者名	配当学科	単位
相続法	たけなかちか 竹中智香	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・政治・経営・短大	4

## 講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

## 履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

## 成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

## 教科書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』 有斐閣双書 ¥1,648

## 参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』 有斐閣 ¥2,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・経営・短放	4

## 講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

## 講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。そして、1年間で独占禁止法の全領域をカバーするものとなっている。

## 履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。また、教科書は薄いものなので、できれば、4～5月中にざっと一通り読んでおいて頂きたい。

## 成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

## 教 科 書

厚谷褒児『独占禁止法入門』 日本経済新聞社

## 参 考 書 等

教科書として指定しないが、多くの具体的事例を含むものとして、講義でしばしば引用することがあるので、「独禁法審決・判例百選（第五版）」（有斐閣）の購入が望ましい（ただし、必ずしも購入する必要はない）。その他の参考書については、初回の講義の時に簡単に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	いし 石 井 三 記	洋・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

近年のヨーロッパの変動には目を見はるべきものがある。この大きな変化の底流には「近代的なるもの」がさまざまな領域で再検討されだしたということがあるだろう。たとえば、絶対的な主権の概念も今日のヨーロッパ統合の流れのなかで揺れているが、この問題も主権観念の成立する近世ヨーロッパの時代状況にまでさかのぼって考えてみる必要がある。西洋法制史は一見、現代的な問題とまったくかけ離れているかのように思われるかもしれないが、究極のところでは今日的な問題関心をもってのぞむことが重要だし、逆に今度は近代法制度のよって立つところを知ることによって奥行きのある理解が可能となり、国際社会に通用する知的視野の広がりを獲得することができるだろう。

授業では、序論として歴史学の有力な潮流となったアナール学派の社会史の方法と有効性について概説したあと、魔女裁判と近代主権国家の誕生という従来とは違った視点からの魔女裁判の問題を考察し、つぎに啓蒙期と呼ばれる18世紀ヨーロッパの刑法改革運動について思想家たちだけでなく当時の具体的な事件や刑法学者の見解などもまじえて検討し、さらにフランス革命期の法と社会と題して法学教育や法曹や法文化の問題を講義する予定である。

講義の内容・授業スケジュール

第1章 歴史学のパラダイム転換

フランスの歴史研究の新しい境地を切り開いたアナール学派を、その学問的・思想的インパクトまで含めて考えてみる。

第2章 魔女裁判の問題

魔女裁判というと従来はヨーロッパ中世暗黒時代の産物ととらえられていたかもしれないが、しかしそのピークは近代のあけぼのであるルネッサンスの時期にあっている。そのことの意味を社会史的文脈やデモノロジー等の観点から論じることにする。

第3章 啓蒙期の刑法改革の思想と運動

18世紀のヨーロッパは啓蒙の世紀ともいわれ、少なからぬ思想家たちが理性を武器にして既存の制度や社会と闘った。刑法改革はその具体例の一つである。ここではヴォルテールが尽力したことで有名な冤罪事件や彼の刑法改革思想を中心にして講義する。

第4章 18世紀フランスの国制

革命以前のフランス社会はアンシャン・レジーム（旧制度）とよばれ、絶対王政の時代とされている。その内実を国王儀礼などの側面から検証する。

第5章 フランス革命期の法と社会

フランス革命は近代の法制度の礎を築き上げた。ここでは革命前後の刑事法制の変化や法学教育制度、司法制度、法律家たちの変遷について講義する。

履修上の留意点

講義中に重要とされた論点やすこしでも興味をもった問題を図書館その他を利用して自分なりに深めることを期待している。

成績評価の方法

原則として、定期試験で行なう。

参考書等

上山安敏・牟田和男編『魔女狩りと悪魔学』人文書院（指定図書）  
阪上孝編『統治技法の近代』同文館（指定図書）  
河野健二編『資料フランス革命』岩波書店、樋口謹一編『空間の世紀』筑摩書房  
上山安敏編『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房

そ の 他

この授業では、文字史料だけでなく絵画や図表などのプリントその他を用いて、なるべく生き生きとした過去のイメージをとらえてもらいたいと考えている。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英米法	きんばら きょうこ 金原 恭子	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

大陸法とは異なる英米法という法伝統が、どのような歴史と内容をもつものなのかを概観する。

講義の内容・  
授業スケジュール

英米法の中でも特にアメリカ法に重点を置きつつ、①英米法の歴史、②アメリカ法の多元性、③法の支配とアメリカの違憲立法審査制、④英米両国の司法制度、⑤判例法主義、の各テーマを取り上げて論ずる。

## 成績評価の方法

学年末の筆記試験で成績評価を行う。

## 教科書

田中英夫著『英米法総論上・下』東京大学出版会 各¥3,200くらい。

## 参考書等

田中英夫編集代表『BASIC 英米法辞典』東京大学出版会 約¥2,900。

## その他

授業は基本的には講義形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地方自治法	うめ き たかし 梅 木 崇	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

地方自治法は、相当におおきな法律であり、その内容も多岐にわたっている。そして行政法を解説する具体例を豊富に提供している。また、われわれの日常生活に関係する部分がおおい。その意味で親しみやすい法律であるといえることができる。

講義では、行政法の具体的説明というかたちをとる。行政法総論では必ずしも理解がいきとどいたとはいえない点について、地方自治法を素材としながら解説するということである。同時に、法律の性格上、改正がきわめて多い点を考慮し、その沿革的な側面、地方行政そのものの内容についても言及しなければならないと思う。

地方自治法の内容が、とくに地方公務員試験で問われることが多い。とくに択一式の問題で、相当に細かい点まで素材にしている。この点を考慮して、これまで出題された問題や講義者の作成した問題を検討したいと思っている。

## 教科書

南博方・原田尚彦・田村悦一編『行政法(3)〔第3版〕地方自治法』(有斐閣双書)を用いる。教科書の内容をまとめる意味でレジュメを用意することも予定している。いわば講義を能率的に行なうためである。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ヨーロッパ政治史	うら た さ なえ 浦 田 早 苗	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・経営・短英	4

## 講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

## 講義の内容・授業スケジュール

- ・近代の始点ルネサンス期と18世紀
- ・英国革命とIRA
- ・ジャコバイトと英国王室
- ・議院内閣制の成立変遷過程
- ・英国における政治腐敗防止過程
- ・フランス革命と国家の概念
- ・フランス政治におけるジャコバン主義
- ・「後発国型近代化」の問題点——ドイツの場合——
- ・統合ヨーロッパの源流

## 成績評価の方法

前期レポート—7～8×400字—は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

## 教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際政治学	こ ぼり のり お 小 堀 訓 男	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

## 履修上の留意点

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

## 成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

## 教科書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
議 会 関 係 法	まえ だ ひて あき 前 田 英 昭	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

## 講義のねらい

今年度は選挙法を中心に取り上げる。

選挙は、民主政治の基盤をなすものであり、民主政治の健全な発達を期するためには選挙が公明かつ適正に行われなければならない。選挙を公明かつ適正に行うためには、その根幹をなす公職選挙法や政治資金規正法や政党助成法などの規定を国民すべてが十分理解することが最も重要なことである。

衆議院選挙制度に関しては、賛否の議論の末、小選挙区比例代表並立制が導入され、一昨年初、改正法に基づく初めての総選挙が実施されたところである。このような情勢を踏まえて、制度改正に民間政治臨調の委員として参画した経験をまじえながら、全学開講科目として、多くの学生にわかりやすく選挙法の趣旨を講義することとし、今年度から新たに「議会関係法」をスタートさせる。

講義の内容・  
授業スケジュール

1 選挙制度改正の理由、2 選挙権と被選挙権、3 小選挙区比例代表並立制の内容、4 政党・政策本位の選挙、5 供託金、6 当選人の決定、7 選挙運動期間、8 戸別訪問、9 連呼行為などの選挙運動、10新聞・放送による選挙運動、11選挙運動費用、12選挙運動・政治活動・選挙広告、13選挙違反と連座制、14選挙犯罪、15公務員の地位利用、16政治資金、17団体・個人の寄付制限、18政党交付金とその使途など。

## 履修上の留意点

できるだけ出席受講すること。

## 成績評価の方法

期末テスト、レポート、平常点の総合評価。

## 参 考 書 等

前田英昭監修『明解選挙法・政治資金法の手引』 新日本法規出版  
前田英昭『政治腐敗防止法を考える』 信山社  
その他各種の選挙法に関する解説書。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
比較政治学	み たけ なお や 三 竹 直 哉	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短画・短英	4

#### 講義のねらい

比較政治学という科目で扱える事柄は、多岐にわたります。それらを網羅的に全て扱うのもひとつの方法ですが、みなさんは別に専門家になるわけではありませんので、学生の方でも関心を持ってそうなテーマを集中的に扱う形をとっています。今年度は昨年度に引き続き、国民国家の変容に関わる諸問題、世界各地の民族紛争などを扱います。

#### 講義の内容・授業スケジュール

授業内容は毎年変わりますし、現在進行形の問題を扱いますので、この原稿執筆時点では確定的なことは言えません。4月までには詳しい授業案内（シラバス）を用意しますので、オフィスアワー時に研究室に見に来て下さい。現在のところ、旧ユーゴスラビア、ウクライナ、ドイツ、北アイルランド、クルディスタン、カナダ・ケベックを扱った、ジャーナリスト、イグナチエフのドキュメンタリー番組と邦訳著書を使うことを予定しています。また、他にも、ルワンダ、ベルギー、時間があれば南アフリカの事例なども扱いたいと考えています。授業内容についての最新情報は、<http://www.komazawa.com/~mitake>でも御覧頂けます。

#### 履修上の留意点

政治学、世界史、地理などの基本的知識は前提とせざるを得ません。そうした知識に欠けると思う人は、自ら勉強していただくほかありません。適当な参考書等の相談にはのります。また、新聞にある程度目を通すことも前提とします。なお、年表や地図を参照することを習慣づけて下さい。

#### 成績評価の方法

得点の方法には以下の5つがあります。5つのうちのひとつのみによってでも、またこれら5つのうちのいくつかを組み合わせても、とにかく獲得した得点の合計が評点となります（以下については、98年度は変更の可能性もあるので、必ず開講時に確認して下さい。また詳細を開講時に説明します。）

- ー参加点：授業中の発言（特に自発的発言）によって、1～3点を獲得できます。いわゆる「出席点」ではありません。
  - ー小テスト：小テストを行うことがあります。小テストは5～10点満点です。事前に予告する場合も、しない場合もありますが、いずれにしても受けることは義務ではありません。
  - ーグループ作業：共同で調べものをして発表をしたり、あるテーマについて討論をしたりする、グループごとの作業には、原則として、グループの構成員に同じ得点が与えられます。獲得可能点は、その都度お知らせします。
  - ー任意課題：やりたい人だけがとりくめばよい任意課題を用意します。任意課題には、与えられたテーマや自分で設定したテーマに応じたレポートの提出、授業内容に関連した本や論文、ドキュメンタリーや映画を見てその評価を書いたものの提出などがあります。任意課題の得点は、10点から60点です。
  - ーテスト（中間テストは行いません）：いわゆる期末試験は、大学の試験期間中に行うものに加えて、12月の授業中に行うものもあります。12月のテストは、受験は任意で、例年12月最後から2回目の授業で行い、12月最後の授業で講評をし答案を返却しています。このテストについては、講評時のみ質問・反論を受け付けます。詳細は開講時に説明します。
- ・なお、過去のテスト問題、および昨年度の成績分布は研究室で公開しています。

#### 教科書

マイケル・イグナチエフ著 幸田敦子訳『民族はなぜ殺し合うのか』1996年 河出書房新社  
この他にも授業で適宜指示します。

#### 参考書等

授業で適宜指示します。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 営 論	も 茂 かき 垣 ひろ 広 し 志	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短教	4

講義のねらい

国際経営論とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点の諸活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存のドメスティックな経営理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業（MNC）特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論（アプローチ）、データ、ケースを採用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

周知のように1985年のプラザ合意以降と急速な円高の進行と貿易摩擦による相手先国からの政治的プレッシャーにより、それまでの輸出中心の国際競争戦略から現地生産、第3国生産を加味した戦略へと移行し、さらに近年では東南アジアへの部品メーカー、組立てメーカーの進出が加速化し、日・米・欧・亜の4極的体制が構築されはじめている。これらのことは企業の戦略と分散化した諸活動の調整をますます複雑なものとしており、そのマネジメントのあり方が、国際経営上の大きな課題となっている。

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化（適応性）の要請とグローバルな統合化（効率性）の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。授業では、その日系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点を理解することに主眼を置くことにする。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク（隣接領域との異同と関連性）
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討（IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説等）
- III. 国際経営／企業多国籍化の発展段階モデル（ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、ルートの海外市場参入段階モデル、EPRG モデル等）
- IV. 国際競争戦略（国際戦略の基本パターンないしタイプ）
  1. 国際競争優位性（規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性）
  2. 国際競争戦略の類型（ホーター・モデル、ドズ＝プラハラード・モデル、パートレット＝ゴチャール・モデル等）
  3. 国際マーケティング戦略（マルチナショナル・パラダイムとグローバル・パラダイム、グローバル・マーケティング・ミクス、製品ポジショニングとグローバル市場細分化戦略）
- V. 国際戦略と組織構造
  1. マクロ構造（国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造）
  2. ミクロ構造及び内部ネットワーク（トランスナショナル・モデル、ヘテラルキー・モデル）
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
  1. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴（経営伝統と現状）
  2. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴（その必要性和問題点、進出地域別特徴）
  3. 海外派遣社員の選抜、教育、給与問題
  4. 異文化マネジメント
- VII. 在日外資系企業の経営上及び人事管理上の特徴

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。なお、毎時間レジュメおよび資料を配布し、それに基づいて授業を進めていく。

履修上の留意点

経営学、経営戦略論の知識があった方が理解しやすいので、そのような関連科目を既に履修しているか、現在している方が望ましい。ただ、授業中にも簡単には説明します。

成績評価の方法

成績は、出席状況および期末試験の結果により判断します。

教科書

未定（授業開始時に指定）  
参考書：根本孝・諸上茂登『国際経営の進化』学文社 ￥2,800

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営統計	ちよう 張 こっ きょう 国 強	簿・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

### 講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手な学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

### 講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2回
前期復習と中間試験：	(七月中旬)	2回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4回
経営指数：	物価指数、数量指数	2回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小2乗法	3回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2回
後期復習と定期試験：	(翌年一月中旬)	2回

### 履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

### 成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により統合的に判断する。

### 教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

### 参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』 培風館 1992  
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』 日本理工出版社 1992

### その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 險 経 営 論	いしなざかにあき 石名坂 邦 昭	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

## 講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」(リスク・マネジメント)研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

## 履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

## 成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

## 教 科 書

石名坂著『リスク・マネジメントの理論』白桃書房 3,500円

## 参 考 書 等

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメント』白桃書房  
石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』白桃書房

科目名	担当者名	配当学科	単位
財務会計論	わた なべ え いらう 渡 邊 恵 一郎	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

#### 講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の経営成績と財政状態を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を負う経営者が、投資者、債権者、その他企業に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が、損益計算書、貸借対照表などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規も取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

#### 講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は、おおむね下記の教科書により、この授業スケジュールは次のとおりである。

- ① 4～5月 財務会計の概念（財務会計の定義、課題、制度など）、財務会計の計算構造（損益計算書と貸借対照表との関係）及び会計公準と会計原則（財務会計の前提、債的特徴及び一般原則など）。
- ② 6～7月、9～10月 財務会計の測定論（収益、費用、資産、負債及び資本の各構成要素に関する会計処理の具体的展開）。
- ③ 11～1月 財務会計の伝達論（個別・中間・連結の各財務諸表の作成と開示、外貨換算、財務分析、財務諸表の国際比較など）。

#### 履修上の留意点

毎時間の出席率と宿題提出（年2回）を重視する。

#### 成績評価の方法

成績評価は、出席率、宿題提出及び期末試験点数の総合による。

#### 教科書

染谷恭次郎著『現代財務会計（改訂増補4版）』中央経済社

#### 参考書等

嵐井剛雄編『体系会計諸則集（最新版）』白桃書房  
日本公認会計士協会編『監査小六法』中央経済社

#### その他

授業の方法は、講義による。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
税 務 会 計 論	たか ぎ かつ み 高 木 克 己	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

## 講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税改革が議論されており、大幅な改正が予想されている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
  - (1) 企業利益と課税所得の関係
  - (2) 益金の額及び損金の額
  - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
  - (1) 引渡基準
  - (2) 特殊販売収益の計上基準
  - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
  - (1) 移転価格税制
  - (2) タックス・ヘイブン対策税制
  - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

## 履修上の留意点

「簿記学」「会计学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

## 成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

## 教 科 書

講義で使用する教科書、参考書等については開講時に指示する。

## そ の 他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 史	やま だ まさる 山 田 勝	禅・仏教・国文・英文文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点      | (6) 継 続 性     |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流 通 量     |
| (3) 利 潤         | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品         | (9) 価 格 革 命   |
| (5) 市 場         | (10) 情報社会と商業  |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。  
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業史』 創成社 ¥2,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 情 報 論	たか い てつ お 高 井 徹 雄	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

## 講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関する体系的な観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・  
授業スケジュール

## I. 経営情報とシステムの観点（前期）

## (1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法とシステムのものの見方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

## (2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

## (3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

## II. 情報の利用技術（後期）

## (1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化Ⅰ、Ⅲ、Ⅱ類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

## (2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

## (3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータールームを利用して実習形式で授業を行う。

## 成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。  
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

## 教 科 書

高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』日刊工業新聞社 ¥3,200  
上記教科書の他に、適宜プリントで補足する。

## そ の 他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報理論	にしむらかずお夫 西村和夫	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C.E.Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえばDNAの情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説, 情報とは, 情報量への要求
5	3	対数の原理と性質, 計算練習
6	4	情報量の定義, 練習, 情報量の利用
7	3	暗号系と用語, 古典的な暗号
9	2	現代的な暗号, 暗号技術を使ってできること
10	2	符号化 (JIS コード, 万国共通文字符号), 対数・情報量の間試験
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度, 言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁, 情報の圧縮と乱数, デジタルとアナログ

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加しないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30％）と定期試験（70％）との合計点によります。

教科書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。各種の参考書をそのつど紹介します。

そ の 他

〔関連科目〕 → 経営情報論



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 分 析 論	かた ぎりのぶ お 片 桐 伸 夫	禅・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

## 講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
- 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、

といった内容です。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析を取りあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

## 履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

## 成績評価の方法

そのため、成績評価はレポートと授業時間中のテストなどの平常点と学年末試験で行います。

\* レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」  
：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

\* テ ス ト 範 囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいで下さい。

## 教 科 書

開講のとき、指示します。

## 参 考 書 等

開講のとき、指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
上代文学講読	佐原 作美	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

授業では『万葉集』を対象にその講読を行う。『万葉集』は承知のごとく、舒明朝(629-641)の頃から奈良朝の天平宝字3年(759)までの約120年間の和歌約4,500首が収められている、わが国最大の和歌集である。そこで授業では、『万葉集』の中から代表的な歌人で個性豊かな、山上憶良の和歌を中心に講読していきたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

『万葉集』を理解するには、作品を読解し作者を知るほかに、当時の歴史や社会的文化的な背景を視野に入れながら読んでいくことが大切である。そうした点を考慮に入れ踏まえながら、作品を読んでいきたい。

## 成績評価の方法

成績評価は、レポートや出席状況をもって判断する。

## 教科書

土橋 寛編『作者別 万葉集』おうふう(桜楓社) ¥1,800

科目名	担当者名	配当学科	単位
中古文学講読	すずき ひろこ 鈴 木 裕 子	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

『源氏物語』は、それが書かれた平安の昔からたくさんの人々に読み継がれて来た日本文学の傑作です。『源氏物語』のどこにそのような価値があるのでしょうか。受講者一人一人に答を見付けてもらいたいと思います。そのためには、とにかく原文を自分の力で読まなくてはなりません。作品を正確に読み、理解し、感じ、考え、といったことを授業を通して繰り返し、最後には、他者の評価を鵜呑みにするのではない、自分自身の『源氏物語』評価がもてるようになるとよいと考えています。

講義の内容・  
授業スケジュール

今年は、朝顔の巻から読みます。いよいよ栄華の階を上って行く光源氏ですが、一方では人知れず憂愁の影を抱いていきます。単純な古代の英雄ではない光源氏像をとらえつつ、物語の構造や方法についても理解を深めていきましょう。

## 履修上の留意点

授業は、テキストを用いての講義を中心に行ないます。が、教師の一方通行にならないように、受講生の積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

## 成績評価の方法

期末に試験を行ないます。(前期一回、後期一回)その他、授業中に適宜小テストを実施し、出席状態などの平常点を加味して評価します。

## 教科書

『源氏物語 三』新潮日本古典集成 新潮社を基本テキストとするが、既に角川文庫『源氏物語 四』など持っている人はそれでも構わない。

## 参考書等

参考書などは、授業で指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中世文学講読	その へ みき お 蘭 部 幹 生	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

住吉物語は、はやく平安時代に成立して落窪物語や源氏物語にも影響を与えたが、改作が重ねられた。現存するもの鎌倉時代に擬古物語として作られた作品である。異本を含めた諸本もたいへんに多く、中には御伽草子の域にまで達した本もある。何度も改変が繰り返された作品だけに、住吉物語はたいへんにおもしろい。そのおもしろさを味わうことも講座のねらいではあるが、加えて、流動し変質する作品を講読することを通して、中世文学のあり方や享受の問題について考えてみたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

前後期を通して、住吉物語全編を通読する。その過程で、可能な限り、古本系や異本系の住吉物語にも触れながら、文学史的な展開の問題や、作品の質的变化の問題についても触れる予定でいる。

## 履修上の留意点

本文の内容を理解するだけではなく、作品の変質の意味や文学のあり方などについて、問題意識を持って授業に取り組むことを求めたい。なお、毎時間、その日の講義内容に対する意見文の提出を求めているので、必ず原稿用紙を持参すること。

## 成績評価の方法

毎時限に提出する意見文によって50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う。(暗記科目ではないので、試験はノート・参考書等何でも持ち込み参照可)。また、必要に応じて、レポート提出を求めることもある。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては1月の授業時間内に指示する。

## 教科書

プリントを配布する。

## 参考書等

岩波新日本古典文学体系『落窪物語住吉物語』

科目名	担当者名	配当学科	単位
近世文学講読	かん の かず お 菅 野 一 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

現在の劇場で上演される「文楽」は、「浄瑠璃」演奏による人形芝居で、世界の人形劇の中でも独特なものである。この「浄瑠璃」とは、中世後期に発生し、近世に発展・盛行した芸能である。浄瑠璃詞章の作者として代表的なのが近松門左衛門である。近松はたくさん名作を残したが、その晩年に『女殺油地獄』という作を書いた。この作品は、罪もない油屋の主婦を金のためにむごたらしく殺してしまう若者の物語である。

この講義において、浄瑠璃とはどういうものか、近松はどのような作品を作ったか、『女殺油地獄』の主人公やその周囲の人々に近松がどういう眼を向けていたか、何を観客に訴えようとしていたか、などを学習して考えてもらう。

## 講義の内容・授業スケジュール

浄瑠璃の歴史、近松門左衛門の略歴などを説明し、『女殺油地獄』をくわしく読む。言葉の意味、引用されている先行作品、表現技巧などをこまかく吟味し、現在の「文楽」で上演する形態も適宜考察しながら読んで行く。

## 履修上の留意点

だいたい講義式を進める。時々全員での斉読を行う。毎時出欠をとる。学生の私語や無礼には厳しく対応する。

## 成績評価の方法

随時小テスト(テキスト・ノート携行)を行い、その結果と出欠状況などを総合して評価する。

## 教科書

諏訪春雄・中村光生著『校註冥途の飛脚・女殺油地獄』 笠間書院 ¥800

## 参考書等

講義の進展につれ、随時参考資料や観劇資料を紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
近代文学講読	井上 優	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

「森鷗外の文学と同時代の言説」というテーマで、一年を通して、彼の明治期の文学テキストを、その他の作者の文学テキストのみならず、それ以外のさまざまな領域の資料とアクセスさせることによって、考察して行く。ここでの一年という長丁場を一人の作者に費やすということは、しかし、鷗外という作家、あるいはそのテキストを中心化し、特権化することではないし、それらについての物知りの文学愛好者となることを目指すことでもない。そのような自閉性とは全く逆の行為、すなわち鷗外の文学テキストを文学の中で完結させるのではなく、外へ開いたとき、そこに何が立ち上がってくるのかを見極める作業になる。文学テキストはある特定の歴史的状況の中で生成されるが（＝テキストの歴史性）、あらゆる歴史もまた叙述によることでテキストの生成という範疇に現象する（＝歴史のテキスト性）がゆえに、文学テキストとそれが生み出された同時代の資料とは、文学と歴史、テキストとコンテキストといった序列的な二項対立からいったん解除されざるを得ない。文学テキストを他の言説から特権的な位置につけるのではなく、政治経済、哲学思想、宗教、他の芸術などと並べ合わせてみることで、文学が周囲の言説と連動しながら現実を作り出し、人々を巻き込んで行く装置として機能する様を探求することを試みたい。ここではテキストは単に社会現象を映す歴史的資料ではなく、社会の編成の装置としての面貌が明るみに出されてくるはずだ。鷗外の文学テキストを扱うのは、そのようなインター・テクスチュアリティの中でどのような力がいかに循環しており、そしてその力が人々の行動にいかにか作用するのかを考えて行くための、ケース・スタディとして受け止めてもらいたい。そうした検討をくり返して、今日わたしたちが知らず知らずのうちに縛られている近代的な発想を対峙化し、自らの〈常識の殻〉に少しでもヒビを入れることを勇敢に実践し、それがやまらぬ快楽となることを志そう。

講義の内容・授業スケジュール

取り扱う具体的なテキストと内容は、『舞姫』と法制度の問題、『文づかひ』における〈唇〉というトポスの力学（松浦寿輝『口唇論』はいうまでもなく、音楽好きの学生は97年のGLAYのヒット曲『口唇』などを自由に関わらせて考えてみてよいだろう）、『半日』と精神病学、『キタ・セクスアリス』と近代セクシュアリティ、『大発見』と衛生学（アジア諸国へ向けられた観潮楼の跡が現在、千駄木の文京区立鷗外記念本郷図書館となっていて、鷗外原稿や遺品などが展示されている（無料で見ることができる）ので、できればその見学なども行ないたい。

履修上の留意点

文学の授業に関してこれは言うまでもないことだが、テキストを読まずに出席した場合や、留意するよう指示されたものを持参せずに入室した学生については、その時間は出席とは見なさないで注意すること。文学講読の授業にテキストを読まずに参加することにはいかなる意義があるのだろうか。時間割の都合や、試験だけ受けて単位さえ取ればよいというような安易な受講は、結果としてそれとは反する事態に陥ることになる。読むことや書くこと、討論に意欲ある学生の受講を歓迎する。

成績評価の方法

学年末に教場での筆記試験を行おうと思うが、普段の授業の折りにも何らかの小課題を課し提出してもらうことも考えている。出席状況や授業中の姿勢をも考慮して、多面的に評価したい。一年かけて連続的かつ発展的に話が進んで行くので、うかつな遅刻や欠席を繰り返すと授業内容の見通しが立たなくなり、たまたに講義を聴いても理解しがたくなるので、そうしたことは極力避けられたい。おせっかいとは思いますが念のため。

教科書

『森鷗外全集』（ちくま文庫、各980円）の第一巻と二巻を用意されたい。少し大きめの書店に行けば必ず手に入る。細かく注がついており便利。なお、授業はこの文庫のページに沿って行う。

参考書等

授業の中で指示する。また、資料としてプリントを配布するが、それらは試験が終るまでなくさないよう、ファイルするなどして大切に保存しておくこと。

その他

講義を中心に進めるが、時々には機会をみて受講学生が調査報告する場も設けたい（鷗外テキストや日本文学のみならず、発表者が目下興味をもっていることでもよい）。教師が教壇上から一方的にレクチャーする授業にならず、真剣な中にも親密な対話が可能な空間を目指したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代文学講読	こばやし おさむ 小林 治	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

## 講義のねらい

戦後日本において、その新たな可能性が追究されたアヴァンギャルド文学運動の渦中から登場した安部公房が遺した作品のほとんどは、現実を写そうとする旧来のリアリズムと対極にある。皮相なりアリズムによっては切り捨てられ、あるいは隠蔽されて、闇に葬られてきた生活者の身体感を露出させているという意味において、これほど現実を映している作品は稀有といってよいだろう。そのような安部公房の作品を、一年間読み進めたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

昭和20年代の初期短編作品から、昭和40年前後までの長編諸作品まで順次取り上げていく。

## 履修上の留意点

文庫本、全作品集、全集などを用意して、あらかじめ安部作品を読んでおいて授業に出席のこと。

## 成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容等を総合し、さらに出欠状況を加味して評価する。

## 教 科 書

安部公房  
『水申都市・デンドロカカリヤ』  
『R62号の発明・鉛の卵』  
『けものたちは故郷をめざす』  
『第四間水期』  
『石の眼』  
『砂の女』  
(すべて新潮文庫)

## 参 考 書 等

授業で、その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
時 事 英 語	おかもと 岡本 誠	禅・仏教・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短放	4

#### 講義のねらい

「時事英語」なる英語があるわけではない。英語でいって言えば“Current English”ということになり、古典的文学作品でお目にかかるような構成や文体のものでは決してない。

小説やドラマには起承転結というか、順を追ってプロットが展開され、終わりに近くなるとクライマックスに達する。時事英語で接する英語は、これとは逆に、最初に話の内容を全部さらけ出し、最も重要な点から説明していく。この最初の部分を lead といい、重要な「いつ・どこで・だれが・なにを」といった点が全部含まれることになる。

かくして、内容の構成や文体の点で新聞・雑誌・放送といった媒体で接する英語についてはそれなりの認識が必要となる。本講義ではそういった分野の英語にふれることをねらいとする。

#### 講義の内容・授業スケジュール

その日の朝のアメリカからの短波放送のニュースを聞き、そのニュースキャスターの原稿を作ってみる。英字新聞も併用するが、TIME、NEWSWEEK など折りにふれて利用する。受講する諸君はこの分野の語法である journalese に親しみ、新聞英語ぐらいは読み慣れるようにしてほしい。

#### 履修上の留意点

世界の政治、経済の動きに注意をはらってほしい。(新聞はTV欄しか見ないというような人は来ないこと。)それが社会の事象に対して問題意識をもつことに通ずる。こういう態度は就職のときに重要である。

#### 成績評価の方法

期末試験。受講中の発表。出席情況。  
数回にわたる小テスト

#### 教科書

特定の教科書等は利用しない。

#### 参考書等

『時事英語講座』 研究社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 演 習 I 〔ディクテーション〕	おかもと 岡 本 まこと 誠	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・短国・短放	4

## 講義のねらい

慣用句の働きは大きい。気の利いた話ができることになる。それこそ、「オッ、お主<sup>スシ</sup>なかなかできるな」と相手に思われる。しかし、そう思ってくれる英語圏の人も、どういいうきさつでそのような慣用句が成立したかまでは知らない。

例えば、「近所の人と生活振りを張りあう、あるいは世間に遅れをとらないようにする」ということを“to keep up with the Joneses”と言う。どうしてこういう句ができたのであろうか。

また、もともとは人物の名前であったのだが“maverick”は現在「一匹狼」の意味で用いられている。どうしてだろう。以上二つの例ともにちゃんと辞書には出ている。

この講義では、このような慣用的な表現が言語生活に入ってきた背景をディクテーションの手法で理解しようとするものである。聴いて、それを正確に書き上げるという作業は、その人の英語の実力をずばりと表す。TOEFL500点を達成したいむきは来たれ。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期はスピードの比較的にゆっくりしたもの、後期はやや速いものを聴くようにところがける。

## 履修上の留意点

遅刻して物音をたてながら入ってくるは迷惑至極であることを理解してほしい。ケイタイの類を鳴らしたら退席。

## 成績評価の方法

発表情況。出席情況（遅刻情況も）。宿題。定期的に小テストを行う。

## 教 科 書

テープ使用につき、教科書の類はつかわない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応 用 計 測 学 (前 期)	かし 檀 お 尾 えい 英 じ 次	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営	1

講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。  
医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
  - 放射性核種および放射線計測の基礎
  - ガンマカメラ
  - SPECT
  - PET
  - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
  - CR (Computed Radiography)
  - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教 科 書

教材としてプリントを使用する。



# 3 随意科目

随意科目



# 随 意 科 目

英 語 (海 外 演 習) ..... 随 1



科 目 名	配 当 学 科	単 位
英 語 (海外演習)	全学科・短大 1 年 次 ~	2

講義のねらい

この科目は本学の姉妹校であるクインズランド大学（オーストラリア）、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、エクセター大学（イギリス）、カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）における短期留学セミナーでの四週間におよぶ現地での集中演習を中心としておこなわれる英語随意科目である。受講対象学生は全学部・短大の一年次生から卒業年次生までとする。

成績評価の方法

現地演習後に四大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位の認定がなされる。

そ の 他

受講希望者は、国際センターの短期留学英語セミナーに参加申し込みをする。



# 4 日本語・日本事情科目

日  
本  
語  
・  
日  
本  
事  
情  
科  
目





# 日本語・日本事情科目

(対象：外国人留学生・海外帰国子女)

## 《日本語科目》

日本語 I	(佐野典子)	日 1
日本語 I	(多田羅哲子)	日 1
日本語 II	(佐野典子)	日 2
日本語 II	(多田羅哲子)	日 2
日本語 III	(多田羅哲子)	日 3
日本語 III	(湯村礼子)	日 3
日本語 IV	(石川守)	日 4
日本語 IV	(湯村礼子)	日 4
日本語 V	(石川守)	日 5
日本語 V	(多田羅哲子)	日 5
日本語 VI	(石川守)	日 6
日本語 VI	(多田羅哲子)	日 6

## 《日本事情科目》

日本事情 I	[地理] (後期)	(小池一之)	日 7
日本事情 II	[自然] (前期)	(清水善和)	日 7
日本事情 III	[歴史] (後期)	(宮本由紀子)	日 8
日本事情 IV	[思想] (前期)	(赤羽由規子)	日 8
日本事情 V	[社会] (後期)	(坪井健)	日 9
日本事情 VI	[政治・法律] (前期)	(関口雅夫)	日 9
日本事情 VII	[文学] (前期)	(小野寛)	日 10
日本事情 VIII	[文化・芸術] (後期)	(赤羽由規子)	日 10
日本事情 IX	[経済] (前期)	(瀬戸岡紘)	日 11
日本事情 X	[経営] (前期)	(明石博行)	日 12



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 I	さ の のり こ 佐 野 典 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

読解を中心に、日本語及び日本文化への総合的理解を深める。

講義の内容・  
授業スケジュール

小論文、雑誌記事、文学作品などの読解を、ゼミ形式で行う。

成績評価の方法

小試験、提出物、討論への参加度、出席率などにより、総合的に評価する。

教 科 書

教材は、担当者が用意する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 I	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。  
漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。
- 語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要なと思われる派生的意味や使い方も練習する。
- 助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。

履修上の留意点

小テストを行う。

成績評価の方法

平常点と期末試験の成績で評価する。

教 科 書

プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	さ の のり こ 佐 野 典 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

聴解を中心に、日本語能力を養う。

講義の内容・  
授業スケジュール

時事問題のビデオ、テープの内容を把握する。その内容を要約し、適宜自分の意見を述べる。また関連のテーマについて調べ、発表する。

成績評価の方法

小試験、提出物、研究発表、出席率などにより、総合的に評価する。

教 科 書

教材は、担当者が用意する。

日 日  
本 本  
事 語  
情

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

話すことを中心に日本語の運用能力を養う。

- 事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。
- 発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。
- あわせて書く練習もする。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。
- スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。
- ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。
- 話したことを文章にまとめる。
- テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。

履修上の留意点

積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

必要に応じてコピーを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 III	た た ら あ き こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
  - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教 科 書

ビデオを使用。プリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 III	ゆ む ら れ い こ 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになること目指す。

講義の内容・  
授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テストetc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度etc）を総合的に評価する。

教 科 書

授業中にプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めていきたい。

履修上の留意点

授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

日 日  
本 本  
事 語  
情 。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	ゆ むら れい こ 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。

履修上の留意点

講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

作文・レポートなど（5回程度）  
授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）

教 科 書

授業中にプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 V	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特徴を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでほしい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 V	た た ら あき こ 多田羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

中上級の文法・表現練習及び作文演習。主としてレポート・論文等を正しく適切な表現を用いてわかり易く書くための基本的練習をする。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 留学生の文章によく見られる問題箇所（たとえば「は」と「が」の使い分け、その他の助詞、自他動詞、接続表現、文末表現など）について正しく書けるよう練習する。
- より適切な表現が選べるよう中上級の文法・表現の復習をする。
- 話し言葉と書き言葉の使い分け、事実と意見の述べ方、表・グラフを使う表現等レポートを書くときに役立つ基礎的な練習をする。

履修上の留意点

平常の練習が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 VI	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「会話文型」を中心に、より高度な日本語の日常会話の表現について分析する。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義は I C J (intermediate) の会話部分を用い、そこに出現する会話文型、会話特有の文型、アクセント等について分析をしながら進める。

履修上の留意点

講義は教師が一方的に講義するというのではなく、常に学生に質問をしながら進めるため、自分の意見をはっきりもってほしい。また、本講義は、日常会話の文型や文法的要素を分析するもので、実際の会話をしたり、会話練習をするものではない。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

コピーを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

日 日  
本 本  
事 語  
情 ・

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 VI	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを押さえながら、本・新聞・雑誌等の生教材を読む。
- 関連したビデオを見て、それらが実際にどう使われているかを知る。
- テーマについて話し合ったり書いたりすることで日本語を豊かにする。

履修上の留意点

授業中の活動が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

プリントを配布、ビデオを使用。



科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅰ 〔地理〕(後期)	こ い け か ず ゆ き 小 池 一 之	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、日本人が変化に富んだ日本列島の自然環境とどのように付き合ってきたか考えてみる。

講義の内容・  
授業スケジュール

半年の講義の中で、重点的に触れるのは次のような点である。

- a. 稲作技術の伝来と平野の開発
- b. 江戸ー東京の発展ーその自然的な背景ー
- c. 火山の恵みと火山災害
- d. 治山・治水事業ー自然災害との闘い
- e. 「白砂青松」ー代表的な日本の海岸成立の背景ー

履修上の留意点

出来るだけ明瞭な日本語で講義するよう心掛けるが、学術的な用語が解りにくい場合、遠慮せず質問すること。

成績評価の方法

平常の出席状況と課題レポートによる。

教科書

特定の教科書はないが、授業中に紹介する。

その他

出来るだけプリント類を配布し、スライド、ビデオなどを多用する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅱ 〔自然〕(前期)	し み づ よ し か ず 清 水 義 和	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候・地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート(2、3回)と出席回数に基づいて評価する。

教科書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

その他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。適宜スライドによる事例紹介を行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 III 〔 歴 史 〕 ( 後 期 )	みやもと ゆきこ 宮 本 由 紀 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとしたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。

履修上の留意点

板書を中心とし、わかり安く楽しい講義をところがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。

成績評価の方法

出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。

教 科 書

なし

参 考 書 等

なし

そ の 他

講義のみ

日 本 事 情

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 IV 〔 思 想 〕 ( 前 期 )	あかば ゆきこ 赤 羽 由 規 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。  
民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

そ の 他

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情 V 〔社会〕(後期)	つば 井 健 坪 井 健	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この科目は、留学生を対象に「日本社会」を比較社会的に理解することを目的とする。日本社会を理解する方法は、第一に留学生の母国の人間関係・文化・社会と日本の人間関係・文化・社会がどう違うかをじっくり観察することである。そうした観察結果に基づき、日本の人間関係や集団・社会の特質について、日本社会の国際比較データや国際比較研究の結果も提示しながら、受講生と一緒に対話しながら楽しく学習していきたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

1. はじめにー受講上の注意と授業の進め方ー
2. イメージの中の日本ー日本及び日本人イメージー
3. 大学文化の比較ーアジア諸国と日本ー
4. 人間関係の比較ーアジア諸国と日本ー
5. 家族関係の比較ーアジア諸国と日本ー
6. 社会組織の比較ーアジア諸国と日本ー
7. 大衆文化の比較ーアジア諸国と日本ー

履修上の留意点

この科目は、身近に留学生が日頃感じている日本イメージをベースにしなが、楽しみながら日本社会の実際を比較社会的に学べるように工夫するので、気楽に受講してほしい。

成績評価の方法

平常点(50%)、課題レポート(50%)

教科書

授業内容は、その都度、プリントやコピーを配布するので、教科書は使わない。

参考書等

金山宣夫著『比較生活文化事典』(全5巻)大修館書店

その他

留学生に理解しやすいように、統計グラフやビデオ映像も教材として利用します。多くの留学生が受講することを期待します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情 VI 〔政治・法律〕(前期)	せき ぐち まさ お夫 関 口 雅 夫	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本事情VI〔政治・法律〕は、新聞にでてくる政治と法律についての記事を利用して、受講生の日本語を読む力、日本語を正確に話す力、日本語でよい答案を書く力を高めることを目的としています。

講義の内容・  
授業スケジュール

まず先生が新聞の記事を読みます。つぎに受講生におなじ記事を読んでもらいます。それから、記事の内容を検討し、全員が理解できるようにします。その後、この記事に関連して話し合いをし、おわりに、この記事の内容を正確な日本語で表現できるようにします。

履修上の留意点

かならず出席してください。

成績評価の方法

平常点により評価します。

教科書

最初の授業の日に受講生の日本語の能力を見て、教材を作成します。コピー代は、150円ぐらいです。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅶ 〔文学〕(前期)	おののひろし 小野寛	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語のもっとも美しい原初のかたちが、日本古来の「和歌」に見られる。その原点ともいうべきものが、日本最古の和歌集である『万葉集』である。『万葉集』をよんで、日本のことばの意味・用法をしらべ、日本人のころを探り、作歌の背景を考え、日本の歴史や社会を学んでほしいと思う。それが文字をよむことである。

講義の内容・  
授業スケジュール

『万葉集』から作品を選び、詳しく解説していく。

履修上の留意点

随時、質問を書いて出してもらおうと思っている。

成績評価の方法

出席状況とレポート、または筆記試験による。

教科書

小野寛著『新選万葉集抄』 笠間書院

日  
本  
事  
語  
情

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅷ 〔文化・芸術〕(後期)	あかばゆきこ 赤羽由規子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。

また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参考書等

その都度知らせる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 IX 〔経 済〕（前 期）	瀬 戸 岡 弘 紘 せ と おか ひろし と う 岡 ひろし 弘 紘	全 学 科 ・ 短 大 （短 放 随 意）	2

#### 講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくていねいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？日本の経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？就業人口にしめる農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？そして農業生産高はどうか？そして時には余談もします。たとえば、この国本当の名前ってニホンなの？ニッポンなの？それともジャパンでもいいの？など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話そうことがねらいです。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

日本の工業地帯と工業  
日本の農村と農業および日本の水産業  
日本のサービス業および金融  
明治維新以前の日本経済の歴史  
明治維新以降の日本経済の歴史  
第2次世界大戦以降の日本経済の展開  
日本経済とアメリカ経済  
日本経済とアジア経済  
日本経済と政府の役割  
日本の労働者・サラリーマンの生活  
日本経済と社会や文化の変化  
その他

#### 成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト（クイズ）30%、宿題30%が目安です。

#### 教 科 書

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介しします。日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にするそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらかでも紹介しします。

#### そ の 他

授業は、おおむね日本語です。しかし、その日の要点は、英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

日 日  
本 本  
事 語  
情 ・

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 X 〔 経 営 〕 ( 前 期 )	あか し ひろ ゆき 明 石 博 行	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、日本経済の構造の変化と経済政策との関連に重きをおいて、戦時期以降の日本経済史の概説的な紹介をします。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義の構成は、以下のとおりです。  
 序章 日本の資本制発展の歩みとその段階区分  
 第1章 戦時体制の形成と崩壊  
 第2章 占領下の戦後改革  
 第3章 逆コースと日本の独立  
 第4章 復興から繁栄へ  
 第5章 戦後繁栄の前半期：高度成長の時代  
 第6章 戦後繁栄の前半期から後半期へ：中間危機の時代  
 第7章 戦後繁栄の後半期：対外摩擦とバブルの時代  
 第8章 繁栄の終わりと平成不況  
 終章 いま日本経済はどうなっているか

成績評価の方法

レポートによって成績評価をします。

教 科 書

教科書は使用しませんが、必要に応じて参考書を紹介します。

## 5 教職・資格講座

教 職 課 程  
 学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座  
 社 会 教 育 主 事 講 座  
 博 物 館 学 講 座  
 社 会 福 祉 主 事 講 座  
 社 会 福 祉 士 基 礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、  
 各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。  
 (履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照す  
 ること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
社 会 教 育 主 事 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	仏 教 学 部 ・ 文 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座 社 会 福 祉 士 基 礎	全 学 部





# 目 次

〔注意〕頁（ ）は、他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は、主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示しています。

## I 教職課程

### (1) 教職に関する専門科目（必修）

教 育 原 理（豊 田 千代子）	.....	教 1
教 育 原 理（北 村 三 子）	.....	教 1
教 育 原 理（伊 藤 茂 樹）	.....	教 2
教 育 原 理（坂 本 信 昭）	.....	教 2
教 育 心 理 学〔教育方法論を含む〕（大 浜 幾久子）	.....	教 3
教 育 心 理 学〔教育方法論を含む〕（国 眼 眞理子）	.....	教 3
教 育 心 理 学〔教育方法論を含む〕（角 野 善 司）	.....	教 4
教 育 心 理 学〔教育方法論を含む〕（遠 藤 司）	.....	教 5
青 年 心 理 学〔教育方法論を含む〕（大 浜 幾久子）	.....	教 5
青 年 心 理 学〔教育方法論を含む〕（川 田 三 夫）	.....	教 6
青 年 心 理 学〔教育方法論を含む〕（小宮山 要）	.....	教 7
青 年 心 理 学〔教育方法論を含む〕（常 田 秀 子）	.....	教 8
道 徳 教 育 の 研 究（中野目 直 明）	.....	教 9
道 徳 教 育 の 研 究（原 口 盛 次）	.....	教 9
特 別 活 動（中野目 直 明）	.....	教 10
特 別 活 動（原 口 盛 次）	.....	教 10
生 活 指 導（遠 藤 司）	.....	教 11
生 活 指 導（佐 藤 尚 人）	.....	教 12
宗 教 科 教 育 法（小 山 一 乘）	.....	教 13
国 語 科 教 育 法（神 谷 道 倫）	.....	教 14
書 道 科 教 育 法（那 須 隆 吉）	.....	教 14
英 語 科 教 育 法（佐 藤 眞 二）	.....	教 15
社会科・地理歴史科教育法（久保田 武）	.....	教 16
社会科・地理歴史科教育法（桜 井 明 久）	.....	教 16
社会科・地理歴史科教育法（藤 木 正 国）	.....	教 17
社会科・公民科教育法（橋 爪 敏）	.....	教 17
社会科・公民科教育法（谷 敷 正 光）	.....	教 18
社会科・公民科教育法（前 田 英 昭）	.....	教 19
商 業 科 教 育 法（谷 敷 正 光）	.....	教 20
職 業 科 教 育 法（前 田 幸 一）	.....	教 21
教 育 実 習（豊 田 千代子）	.....	教 21
教 育 実 習（坂 本 信 昭）	.....	教 22
教 育 実 習（伊 藤 茂 樹）	.....	教 22
教 育 実 習（北 村 三 子）	.....	教 23

### (2) 教職に関する専門科目（選択）

教 育 関 係 法 規（広 沢 明）	.....	教 24
教 育 評 価（大 浜 幾久子）	.....	教 24
教 育 法 規 研 究（神 田 修）	.....	教 25
教 育 哲 学（汐 見 稔 幸）	.....	教 25

教育情報学(小倉康仁)	.....	教 26
教育臨床心理学(牟田隆郎)	.....	教 26
教育社会学(熊谷一乘)	.....	教 27
教育史(北村三子)	.....	教 27
教育調査(鈴木規夫)	.....	教 28
芸術教育(香川良成)	.....	教 28
現代社会の諸問題と教育(熊谷一乘)	.....	教 29
青少年問題研究(讚岐真佐子)	.....	教 30
宗教教育(小山一乘)	.....	教 31
生涯学習概論(豊田千代子)	.....	教 32
視聴覚教育(飯森彬彦)	.....	(教 32)
社会教育施設(酒匂一雄)	.....	(教 32)
図書館学 I (山田節子)	.....	(教 32)
図書館学 II (源昌久)	.....	(教 32)

(3) 教科に関する専門科目

【社会・地理・歴史・公民】

東洋思想史(末木恭彦)	.....	教 33
美術史概説(中島亮一)	.....	教 33
民間信仰論(谷口貢)	.....	教 34
人文地理学概説(小池とみ子)	.....	教 34
自然地理学概説(高木正博)	.....	教 35
自然地理学概説(早船元峰)	.....	教 35
地誌学概説(川元豊和)	.....	教 36
地誌学概説(久保田武)	.....	教 36
地誌学概説(須山聡)	.....	教 37
日本仏教史(遠藤廣昭)	.....	教 37
日本文化史 I (休講)	.....	
日本文化史 II (廣瀬良弘)	.....	教 38
歴史哲学(麻生建)	.....	教 38
日本史概説(黒田基樹)	.....	教 39
日本史概説(小松寿治)	.....	教 39
世界史概説(井村行子)	.....	教 40
世界史概説(渡辺惇)	.....	教 40
社会学原論(渡辺源樹)	.....	教 41
宗教人類学(佐々木宏幹)	.....	(教 42)
経済原論(浅田統一郎)	.....	教 42
経済原論(阿部弘)	.....	教 43
経済原論(小野俊夫)	.....	教 44
民法 I (青野博之)	.....	教 45
民法 I (林幸司)	.....	教 46
政治学原論(大塚桂)	.....	教 47
日本宗教文化史(小川順敬)	.....	教 48
民衆宗教成立史(津城寛文)	.....	教 49
宗教学概説(洗城建)	.....	教 50
宗教学概説(津城寛文)	.....	教 50
宗教学概説(松田文雄)	.....	教 51
哲学概説(末木恭彦)	.....	教 51
哲学概説(山口祐弘)	.....	教 52

倫理学概説	(久保陽一)	.....	教 52
【職業】			
産業概説	(前田幸一)	.....	教 53
職業指導	(山田勇治)	.....	教 53
商業実習	(前田幸一)	.....	教 54
【商業】			
職業指導	(山田勇治)	.....	(教 55)

## II 学校図書館司書教諭講座

### 必修科目

図書館学 I (山田節子)	.....	教 59
図書館学 II (源昌久)	.....	教 59

## III 社会教育主事講座

### (1) 必修科目

社会教育計画 (酒匂一雄)	.....	教 63
生涯学習概論 (豊田千代子)	.....	教 63
社会教育実習 (豊田千代子)	.....	教 64

### (2) 選択必修科目

社会教育行政 (東寿隆)	.....	教 65
社会教育施設 (酒匂一雄)	.....	教 65
成人学習論 (東寿隆)	.....	教 66
女性と学習 (矢口悦子)	.....	教 66
企業内教育・職業訓練 (塩川正人)	.....	教 67
社会体育 I (古田潤子)	.....	教 68
社会体育 II (古田潤子)	.....	教 68
図書館学 I (山田節子)	.....	(教 69)
教育原理	.....	(教 69)
教育心理学 [教育方法論を含む]	.....	(教 69)
青年心理学 [教育方法論を含む]	.....	(教 69)
社会心理学 (休講)	.....	
視聴覚教育 (飯森彬彦)	.....	(教 69)
教育社会学 (熊谷一乘)	.....	(教 69)
教育史 (北村三子)	.....	(教 70)
教育調査 (鈴木規夫)	.....	(教 70)
児童文化 (香川良成)	.....	教 70
現代社会の諸問題と教育 (熊谷一乘)	.....	(教 70)
青少年問題研究 (讃岐真佐子)	.....	(教 71)
青少年指導演習 (平野学)	.....	教 71
博物館学 I [概論] (太田喜美子)	.....	(教 72)
博物館学 II [資料論] (竹内順一)	.....	(教 72)

## IV 博物館学講座

### (1) 必修科目

祝 聴 覚 教 育	(飯 森 彬 彦)	.....	教 75
考 古 発 掘 実 習	(酒 井 清 治)	.....	教 75
博 物 館 学	I [概論] (太 田 喜 美 子)	.....	教 76
博 物 館 学	II [資料論] (竹 内 順 一)	.....	教 76
博 物 館 学	III [経営論・情報論] (竹 内 順 一)	.....	教 77
博 物 館 実 習	I [館務]		
	(飯 島 武 次・太 田 喜 美 子・酒 井 清 治)	...	教 78
博 物 館 実 習	II [収集]		
	(酒 井 清 治・太 田 喜 美 子・國 見 徹 久 保 田 昌 希・佐 々 木 真・佐 藤 元 英 所 理 喜 夫・廣 瀬 良 弘)	.....	教 78
博 物 館 実 習	III [見学]		
	(酒 井 清 治・太 田 喜 美 子・松 本 信 道)	...	教 79
教 育 原 理	.....		(教 79)
生 涯 学 習 概 論	(豊 田 千 代 子)	.....	(教 79)

### (2) 選択必修科目

イ ン ド 仏 教 文 化 史	(奈 良 康 明)	.....	教 80
中 国 仏 教 文 化 史	(永 井 政 之)	.....	教 81
日 本 仏 教 文 化 史	(袴 谷 憲 昭)	.....	教 81
禪 美 術	(海 老 根 聰 郎)	.....	教 82
仏 教 美 術	(中 島 亮 一)	.....	教 82
仏 教 民 俗 学	(谷 口 貢)	.....	教 83
日 本 民 俗 学	(谷 口 貢)	.....	教 83
美 術 史 概 説	(中 島 亮 一)	.....	教 84
現 代 美 術	(矢 野 陽 子)	.....	教 84
地 形 学	(小 池 一 之)	.....	教 85
第 四 紀 学	(柳 田 誠)	.....	教 85
考 古 学 概 説	I [日本] (酒 井 清 治)	.....	教 86
考 古 学 概 説	II [外国] (飯 島 武 次)	.....	教 86
日 本 文 化 史	I (休 講)		
西 洋 文 化 史	I (休 講)		
日 本 文 化 史	II (廣 瀬 良 弘)	.....	教 87
西 洋 文 化 史	II (佐 々 木 真)	.....	教 88
考 古 学 特 講	I (高 浜 秀)	.....	教 89
考 古 学 特 講	II (休 講)		
考 古 学 特 講	III (矢 野 和 之)	.....	教 89
考 古 学 特 講	IV (休 講)		
西 域 美 術 史	(松 平 美 和 子)	.....	教 90
宗 教 人 類 学	(佐 々 木 宏 幹)	.....	教 90

## V 社会福祉主事・社会福祉士基礎講座

### (1) 必修科目

- ※社会福祉原論(前期:長尾讓治) ..... 教93  
(後期:伊藤秀一)
- ※社会福祉原論(児玉谷広子) ..... 教94

### (2) 選択科目

- ※法学〔福祉〕(鶏徳啓登) ..... 教95  
社会福祉発達史(林千代) ..... 教96  
リハビリテーション論(原田信一) ..... 教97
- ※社会保障論(前期:船水浩行) ..... 教98  
(後期:伊藤秀一)
- 家庭福祉論(岩上真珠) ..... 教99  
社会福祉計画論(川廷宗之) ..... 教100  
国際社会福祉論(山本真実) ..... 教101  
保健福祉論(長尾讓治) ..... 教101
- ※公的扶助論(前期:船水浩行) ..... 教102  
(後期:伊藤秀一)
- ※障害者福祉論(原田信一) ..... 教103
- ※老人福祉論(東條光雅) ..... 教104  
児童福祉論(高橋重宏) ..... 教104  
女性福祉論(林千代) ..... 教105  
医療福祉論(春見静子) ..... 教106
- ※地域福祉論(和田敏明) ..... 教107
- ※社会学〔福祉〕(橋爪敏) ..... 教108
- ※心理学〔福祉〕(高橋良博) ..... 教108

上記科目のうち、※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみを対象とする科目です。

# I 教 職 課 程





# (1) 教職に関する専門科目 (必修)

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	豊田千代子	教職2必 (禅・仏教)	4

## 講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という観点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の観点からの教育の見直しが課題となっている。  
そこで、授業では、自分自身の成長過程で経験した教育をふり返ることをとおして、教育について考えていきたい。取り上げるテーマとしては、次のものを考えている。

## 講義の内容・授業スケジュール

- ・現代の教育問題
- ・「子どもの権利条約」
- ・人権教育
- ・生涯教育論
- ・教師論
- ・国際理解教育
- ・教育改革の方向性

## 成績評価の方法

出席点・レポート等によって成績評価を行なう。

## 教科書

大学教育実践研究会編『教育を考える』相川書房

## 参考書等

篠田弘編『資料でみる教育学』福村出版

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	北村三子	教職2必 (国文・英米文 ・社会・福祉・心理)	4

## 講義のねらい

第二次大戦後、民主主義と科学の精神を掲げて出発した日本の教育学は、今日の教育をめぐる様々な問題に十分に対応できなくなっている。また、誰もが環境問題に無関心ではいられない今日において、教育学も、それにふさわしい新たな人間観や、自然や自分や他者との関わりのある方を模索しなければならない。この授業では、教育の新しい方向を見いだすための一つの試みとして、(日本の教育学の源流である)西洋近代の教育学にとっては傍流であった、ゲーテやシュタイナーに焦点をあて、その可能性を探ってみたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

R. シュタイナーは、近代教育学の中では極めて特異な存在であった。しかし、近代の矛盾が顕在化してきた今日では、シュタイナー学校への支持の高まりが見られるばかりでなく、欧米の公教育にも大きな影響を与え始めている。また、シュタイナーは、ゲーテの認識論を基礎にその思想を築いている。近代文明や近代科学によって見失われてきた、人間の身体性や全体性の追求がそこに見い出せるであろう。授業では、シュタイナーの著作をテキストにその教育思想や教育方法を検討するが、今日子どもや若者をめぐる問題も、それと関連させて取り扱いたい。

## 履修上の留意点

多人数のためゼミ形式は取れないが、共に感じたり、考えたりできる時間にしたい。

## 成績評価の方法

年度末にレポート(4,000字程度)提出。また、授業時に資料についてのコメントを何回か求めるが、それも出席点として加算する。

## 教科書

R. シュタイナー・西川隆範訳『シュタイナー教育の実践』イザラ書房 2,400円

## 参考書等

高橋巖『シュタイナー教育入門』角川選書。子安美知子『ミュンヘンの小学生』中公新書。同『ミュンヘンの中学生』朝日文庫、など。詳しくは、教場で指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 原 理	伊 藤 茂 樹 いとう しげき	教 職 2 必 (地理・歴史・法律・政治)	4

講義のねらい

教員免許の取得をめざす受講者に、教育を考え、行うにあたって基本的なもののとらえ方を身につけてもらうことを目的とする。

教育について、経験だけに基づいて考えても理解できないこと、解決できない問題は必ずある(例えばいじめ)。教育の歴史や成り立ち(構造)や仕組み(メカニズム)について、様々な側面から知ることが不可欠であり、そのために教育学はある。しかし、知るということには受動性という限界がある。知識をもとに自分なりに現象や状況について考えることが、変化し続ける教育に携わっていくうえで不可欠である。知識と経験をつなぐものとして、状況を理解し、判断するための「目」が重要なのである。

この「目」を養うための鍵は、教育と社会とのつながりに着目することにある。これには、社会と教育を対比させ、社会が教育に及ぼす影響、教育が社会に及ぼす影響を考える方向と、教育の世界や学校、学級、子どもの集団それじたいを社会としてとらえる方向があり、これらを通じて、未知の問題に対して的確に自分なりの視野の広い理解ができるようになることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。  
 ・近代社会と教育 ・現代の教育問題 ・「学歴社会」とは ・現代の子ども、青少年  
 ・教室における人間関係 ・教育学という学問

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えてみることを心がけること。

成績評価の方法

中間試験、学年末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず。参考書はその都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 原 理	坂 本 信 昭 さかもと のぶあき	教 職 2 必 (経済・商・経営)	4

講義のねらい

教育は、一面においては理論的研究を必要とするが、それだけに止まっていることができない。他面において、実際に被教育者をいかにして教育していくか、という実践的・技術的研究が必要とされる。したがって教育は、狭い専門領域に立てこもっているわけにはいかず、人間生活の万般に関係をもつことになる。このため、教育という現象を対象として、一つの学問分野を独立させることが、19世紀はじめ、ドイツの哲学者J.F.Herbert (1776-1841)の出現によって、ようやく可能になった。Herbert は、教育学を倫理学と心理学とを基礎として、一つの科学として体系づけようとしたのであるが、その後の研究の進歩により、教育は社会学や政治学などの諸学とも密接な関係をもつものであることが解明されるようになったため、今日に至るまで、他の科学のような自立性をもっていないといわれている。

教育原理は、このような教育学の研究成果をとり入れることはもちろんであるが、それとともに、これらの成果を、どのように実践に生かして行くかをも探究する。教育学は教育を対象として理論的研究を進めるものであるが、教育原理は、教育に従事しようとする人たちに教育についての理解を深め、実際に教育にあたる場合の技術や心得を培うことについても検討しなければならない。

履修上の留意点

講義と並行して、参考書欄に記した②『きょういく VISUAL NOTE』を、自学自習のテキストとして活用し、各自で作業(ノート)を完成させ、完了次第提出してもらいます。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、きょういくビジュアルノート及び年度末のテストなどによって、総合的に評価する。

教科書

西村純子他著『現代教育を考える』昭和堂 ￥2,600

参考書等

田村院司他著『きょういく VISUAL NOTE』エイデル研究所 ￥1,800

その他

必要な資料を適宜配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育心理学 (教育方法論を含む)	おおはま 幾久子	教職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文)	4

講義のねらい

今世紀の心理学研究の流れをたどりながら、心理学の諸分野で明らかにされてきたことが、今日における日本の教育の諸側面と、どのように関わるのかを考えることを目的とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

基礎的な心理学実験や、性格テストなどの実習、さらにパソコンによる教育統計の入門など、できる限り実習の機会を多くとり、心理学の研究方法を知ると同時に、その背景にある理論について理解を深めていきたい。

成績評価の方法

年間4回程度のレポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参考書等

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

その他

実習の他、ビデオ教材等も活用する。それらを通して、教育方法についても考えていきたい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育心理学 (教育方法論を含む)	こく がん まりこ 国 眼 眞理子	教職 2 必 (国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

教育の場における生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで役立つ基礎的な視点を育むことをねらいとする。

講義の内容・  
授業スケジュール

前半は教科書を用いて、心理学の基礎的な考え方を習得する。

1. われわれの世界の捉え方 (知覚)
2. 記憶や学習のメカニズム
3. 発達のメカニズムとその可能性
4. パーソナリティとは何か、その捉え方

後半は、前半で学んだ基礎知識をもとに、「青年期」理解を深めるとともに、教師と生徒間のコミュニケーションのあり方を考える。

1. 「青年期」と、その心理的な課題 (アイデンティティ形成)
2. 自己のアイデンティティを探る
3. 自己意識の発達
4. 自己の発達と対人関係 (親子関係、友人関係、その他)
5. 進路選択とアイデンティティ形成
6. サポーターとしての教師の役割 (「共感的理解」とは何か)
7. コミュニケーション (非言語的なコミュニケーション、アサーションなど)

成績評価の方法

指定図書5冊の本の中から、3冊を選び、レポート提出  
前期終了時に小テストを実施  
後期終了時にレポートもしくは試験を実施 (受講者数による)

教科書

磯貝芳郎・下山剛編『心理学』鷹書房 1996

参考書等

- ① 河合隼雄『カウンセリングを考える (上)』創元社 1995
- ② 菅佐和子『思春期女性の心理療法』創元社 1988
- ③ 清水将之『思春期のこころ』日本放送出版会 1996

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	すみの 角 野 善 司	教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理 ・経済商・法律・政治・経営)	4

#### 講義のねらい

教育心理学は、教育場面に対して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、心理学的な観点から考えようとするものです。

この講義で学び、そして考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと思います。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

以下の3つを中心テーマとして進めます。

- ①発達：人間の生涯にわたる発達について
- ②教授－学習：生徒の学習について、および学習に対する教授過程について
- ③測定・評価：教育場面における評価の目的やあり方について

#### 履修上の留意点

自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席し、主体的な態度で臨んでください。出席回数が一定基準に達しない場合には、単位を付与しません。

#### 成績評価の方法

出席点1割、平常課題の提出状況1割、前期・後期末のテスト3割、夏季・冬期休暇時のレポート5割の配点で、評価します。

#### 教 科 書

指定しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

#### 参 考 書 等

子安増生ほか『ベーシック現代心理学6 教育心理学』有斐閣  
この他、講義の進行に合わせて、適時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 心 理 学 (教育方法論を含む)	えん どう 遠 藤 つかさ 司	教 職 2 必 (法律・政治)	4

講義のねらい

現在の教育に関する諸問題を考えるとき、心理学の様々な知見が影響力を持ち得ていることに気づかざるをえない。その様子を概観し、将来、教職に就こうとしている人間として、教育心理学的なもの見方とはどのようなものであるのか考えることを通して、自分なりの見方を確立することをテーマとする。

講義の内容・  
授業スケジュール

教育心理学の中での主要なテーマを概観することが講義の主となる。中でも、「自己」の問題をテーマとして取り上げ、教育心理学の中で、「自己の成り立ち」、「自己と他者」等の問題がどのように考えられてきたかを見ながら、具体的な現象から考えていくこととしたい。また、「学習」の問題にも注目し、教育心理学の中で「学ぶ」ことをどのように考えてきたか、それに伴って「教える」ことをどのように考えてきたかを見直し、「評価」の問題、「教師-生徒関係のあり方」等の問題にも触れつつ、現在の学校において「学ぶ」ということを改めて問いなおしていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

年度末試験を予定している。

教 科 書

特定の教科書は用いない。

参 考 書 等

参考書等については授業中に随時紹介する。

そ の 他

講義が中心になることは否めないが、ビデオ等を用い、できるだけ実際の場面などを見ながら、実践に即して様々な問題について考える機会を作りたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青 年 心 理 学 (教育方法論を含む)	おお はま き く こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文)	4

講義の内容・  
授業スケジュール

はじめに青年期に限らず、人間の発達とは何か、について考える。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を検討していく。また、性格テストなどの実習や、基礎的な研究実習も可能な限り行っていきたい。

履修上の留意点

実習の機会を活かすためにも、毎回の講義への出席を大切にしてほしい。

成績評価の方法

年間4回程度レポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参 考 書 等

参考資料については随時、準備し指示する。また、ビデオ教材なども活用していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青 年 心 理 学 (教育方法論を含む)	かわ だ みつ お 川 田 三 夫	教 職 2 必 (国文・英米文・地理・歴史・ 社会・福祉・心理)	4

#### 講義のねらい

中学生になる頃から急速な体の成長や生理的変化を迎える。この第二次性徴をもって青年期が始まる。身体的な変化は内面的な変化を引き起こす訳だが、必ずしも良い方向への変化ばかりではなく悪くなることもある。良い方向への変化にしても、その経過は必ずしも順調に行くとは限らない。ともかく問題の多い時期である。そのことは新聞やテレビの報道を見てもよく分る。こういった青年期の特徴を理解するのが、この講義の第一の目的である。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

①青年(期)について(発達段階、ライフサイクルの中での青年、歴史・文化的所産)  
 ②体と心の発達(第二次性徴、思春期危機)  
 ③自己意識(自我～自己同一性)  
 ④親子関係～対人関係(愛着、人見知り等)  
 ⑤人格・性格(代表的な理論、自己愛)  
 ⑥友達・仲間(近隣、学校、社会)  
 ⑦若者文化(移り変わり、流行、風俗)  
 ⑧性・恋愛(性意識・性行動、恋愛の発達)  
 ⑨逸脱行動(非行・犯罪、道徳意識)  
 ⑩心の病気(種類と症状、病理、背景)  
 ⑪不登校(病理、背景要因、対処法)

大体以上の様なスケジュールで前期が終わる。後期はトピックや事件等をテーマにしながら講義をしたり学生に色々書いてもらったりしている。

#### 成績評価の方法

- ①前期末と後期末に筆記試験を行なう。
- ②夏休みに別途課題が出る。
- ③不定期に小テストがある。特に後期に小論述テストが数回ある。
- ④以上を総合して最終的な評価が出る。

#### 教 科 書

特に指定されたものはない。講義の時にプリント・資料が配布される。  
 文献は適宜紹介する。  
 時折体験的な心理テスト等を行なったりする(評価に際して若干考慮される)。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青 年 心 理 学 (教育方法論を含む)	こ み やま 小 宮 山 かなめ 要	教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

- 1 中学・高校の教師になるために必要不可欠な青年心理学についての知識と、今日の中学生や高校生が示している、いろいろな問題行動についての理解とその指導法を習得する。
- 2 現在青年期の中にある大学生自身の自己理解を深め、対人関係能力の向上と社会性の発達に役立てる。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1 青年心理学の目的、課題、方法、問題点
- 2 中・高校生の問題行動の様相
- 3 青年理解と適応指導
- 4 人間関係の展開と改善
- 5 青年期の危機とのりこえ

成績評価の方法

授業中の小テスト 60%、レポート 40%

そ の 他

授業は主として講義形式とするが、課題に対する発表討議等も加える。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青 年 心 理 学 (教育方法論を含む)	つね た ひて こ 常 田 秀 子	教 職 2 必 ( 経 済 ・ 商 ・ 法 律 政 治 ・ 経 営 )	4

#### 講義のねらい

青年期とは児童から成人への移行の時期である。身体的にも精神的にも、また社会的にも大きな変化が起きる「疾風怒涛の時代」といわれる。この、変化に富んでいるとされる青年期の心理的な発達の特徴について、様々な側面から検討することを、本講義の目的とする。

本講義では、最近注目されつつある生涯発達心理学的視点に立つ。すなわち、人間の人生全体の中に青年期を位置づけながら、乳幼児期・児童期が青年期にどのような影響を与えるか、青年期がその後成人期・老年期にどのような影響を与えるかについて考えたい。

なお、本講義は、教員免許・社会教育主事資格取得のために必要な単位であるが、単にこれらの仕事の対象者としての「青年」の心理を理解するためのものとするのではなく、それと同時に、自分や自分の仲間を理解することを目標としたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

前期：テキストを参照しながら、人間発達の全体像を把握しつつ、青年期の心理の特徴について知る。

後期：いくつかのトピックを選択し、複数の側面から青年期の発達の特徴についての論議を行う。トピックは受講生の興味に応じて決定する。

- a) 現代青年の対人関係
- b) 性的発達や性役割意識の発達
- c) 青年期の学校文化への適応

などのトピックを想定している。また、必要に応じ、講義形式の授業も行う。

#### 履修上の留意点

受講生の多くが現代青年であると考えられることもあり、授業では、できるだけ受講生の経験や意見も資料として用いながら行いたい。そのため、授業は、ゼミや討論形式を多用する予定である。

なお、科目履修については、単に授業に参加すればよいというのではなく、議論への積極的な参加が必要条件となる。

ただし、ある授業での議論は、それ以前の授業への参加が前提となっていると共に、それ以降の授業の基盤となる。そのため、授業への気紛れな欠席は、その学生にとって出席した授業の効果を半減させるだけでなく、それ以外の受講生にとっての迷惑にもなることを肝に命じたうえで、授業の選択をして欲しい。

#### 成績評価の方法

成績は以下の点を考慮して評価する。

- (1) 授業への出席状況
  - (2) 授業への参加状況
  - (3) ゼミ発表の内容
  - (4) 夏休み、および学年末のレポートの内容。
- 特に、(2)(4)を重視します。

#### 教科書

神谷美恵子『こころの旅』みすず書房 1,545円

#### 参考書等

授業中に随時紹介する。



科目名	担当者名	配当学年	単 位
道徳教育の研究 (前期) (後期)	なかのめ なお あき 中野目 直 明	教職2・3必	2

講義のねらい

道徳および道徳教育の本質、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題等を明らかにし、新しい道徳教育のあり方を考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ①道徳および道徳教育の本質   | ②現代社会と道徳教育       |
| ③戦前の道徳教育        | ④戦後における道徳教育      |
| ⑤道徳性の発達と道徳教育    | ⑥学習指導要領と道徳教育     |
| ⑦道徳の時間における道徳教育  | ⑧道徳教育と学校・学年・学級経営 |
| ⑨道徳教育と生徒指導・特別活動 | ⑩道徳教育の評価         |
| ⑪道徳教育をめぐる諸問題    |                  |

履修上の留意点

講義に積極的に参加し、研究発表は十分に学習して実施し、レポートは必ず提出すること。

成績評価の方法

出席状況、研究発表、レポート提出、試験により総合的に判定する。

教科書

中野目直明、小川一郎編著『新しい道徳教育』 酒井書店 2,000円

そ の 他

授業の方法として、講義を中心とするが、学生の研究発表を取り入れて、それぞれの学生が選択したテーマについて研究したことを講義のとき発表させる。研究発表、レポートは、成績評価の重要な資料となる。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
道徳教育の研究 (前期) (後期)	はら ぐち もり し 原 口 盛 次	教職2・3必	2

講義のねらい

小・中学校においては、教育課程の一領域として、また、高校においては学校の教育計画の一環に位置づけられている「道徳」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を行う。また、道徳教育の歴史や理念、民主主義社会における道徳観、及び学校教育における道徳教育の在り方などについて探究する。更に、教師としての指導力や実践力を身につけるために道徳の年間指導計画や1単位時間の指導計画(道徳学習指導案)などについて、実際に立案し具体的な指導の方法などを研究する。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ①道徳と道徳教育 ②日本における道徳教育の変遷 ③道徳教育の基礎的な理念 ④道徳教育の目標と内容 ⑤道徳教育の方法論 ⑥道徳の時間の指導内容 ⑦道徳の時間の指導方法 ⑧道徳教育における評価の在り方 ⑨道徳教育に関する研修 ⑩学級経営と道徳教育 ⑪学校、家庭、社会における道徳教育と相互の連携 ⑫道徳教育上の諸問題と今後の課題

履修上の留意点

文献に基づく道徳や道徳教育に関する理論的な研究とともに、道徳の具体的な指導の内容や方法について、理解し、実際に指導できる能力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し、評価する。

教科書

- ①教師養成研究会編『道徳教育の研究』新訂版 学芸図書株式会社 1,000円  
②文部省『中学校指導書道徳編』大蔵省印刷局 210円

参考書等

- ①教員養成基礎教養研究会編『新訂 道徳教育の研究』教育出版 1,800円

そ の 他

講義及び指導計画、指導案の立案等。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
特別活動 (前期) (後期)	なかのめ 中野目直明	教職2・3必	2

講義のねらい

将来、中学校や高校の教師として、特別活動を指導するに際して必要とされる知識や技能について講義する。講義の学問、研究的背景として、人間関係論、心理学、生徒指導論、教育相談、進路指導、教育経営学の各分野にわたる学問や研究の成果を活用する。

講義の内容・授業スケジュール

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| ①これからの学校教育と特別活動の意義      | ②特別活動の変遷         |
| ③特別活動の特質と目標、内容          | ④指導計画・指導案の作成     |
| ⑤学級活動、ホームルーム活動の指導       | ⑥児童会、生徒会活動の指導    |
| ⑦クラブ活動、部活動の指導           | ⑧学校行事の指導         |
| ⑨特別活動の評価                | ⑩特別活動と学級・学年・学校経営 |
| ⑪学校週5日制時代における家庭、地域との関わり | ⑫これからの特別活動の展望と課題 |

履修上の留意点

講義に積極的に参加し、研究発表は十分に学習して実施し、レポートは必ず提出すること。

成績評価の方法

出席状況、研究発表、レポート提出、試験により総合的に判定する。

教科書

中野目直明、小川一郎編著『現代の特別活動 理論と実践』酒井書店 2,000円

参考書等

特になし。

その他

授業の方法として、講義を中心とするが、学生の研究発表をとり入れて、それぞれの学生が選択したテーマについて研究したことを講義のとき発表させる。これをレポートにまとめて提出させ、成績評価の対象とする。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
特別活動 (前期) (後期)	はらぐちもりし 原口盛次	教職2・3必	2

講義のねらい

小・中・高校の教育課程の一領域である「特別活動」の教育的意義や目標、内容、及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、理論的な研究の面では、特別活動の指導理念や方法原理について、生徒指導のそれとの関連を図った研究を行う。また、実践的な面では、特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導計画の作成、及び指導方法などについての具体的な研究を行い、教師としての指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- |             |                     |                 |
|-------------|---------------------|-----------------|
| ①学校教育と教育過程  | ②生き方教育をめざす教育改革と特別活動 | ③特別活動の目標と特質     |
| ④特別活動の内容と特質 | ⑤指導計画の作成と活動内容の取り扱い方 | ⑥特別活動の指導の実際     |
| ⑦特別活動と生徒指導  | ⑧特別活動と学校・学年・学級経営    | ⑨特別活動の指導組織とその改善 |
| ⑩研修組織と活動の充実 | ⑪特別活動の評価            | ⑫特別活動の今後の課題     |

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、方法等についての研究を深め、教師としての実践力、指導力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教科書

- ①高橋哲夫・原口盛次・井上裕吉編『特別活動研究』教育出版 1,900円  
②文部省『中学校指導書特別活動編』ぎょうせい 80円

参考書等

宇留田敬一著『特別活動論』第一法規 1,800円 他

その他

講義及び年間指導計画、指導案の作成。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 活 指 導 ( 前 期 ) ( 後 期 )	えん とう 遠 藤 つかさ 司	教 職 2 ・ 3 必	2

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとする人間として、生徒（他者）の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生活指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・  
授業スケジュール

「学校における問題行動とは何か」、「不登校問題はどのような視点から考えるべきか」などの問いについて考えることを通して、学校の中で適応的に生きることができない人に対して、教師としてどのような態度でのぞむかを考える。特に、現在の学校において様々な意味において不適応状態となっている人たちに対して、そのような状態にある生徒に対して、自分はどのような態度でのぞむかを考えることを通して、最終的には自分自身の生活指導観を問いなおしていくことにつなげていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験を予定している。

参 考 書 等

参考書等については授業中随時紹介する。特定の教科書は用いない。

そ の 他

講義中心になることは否めないが、様々な問いを呈示し、それらに対して自らの考えに基づいて書いて答えるという機会をできるだけ多く作りたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 活 指 導 (前期) (後期)	さとう なおと 佐藤 尚人	教 職 2・3 必	2

講義のねらい

学校教育において、教科の学習や集団生活への参加が、一人ひとりの児童生徒でスムーズにいくよう指導することを教師は求められる。しかしながら、子どもは決して等質・均一存在ではない。画一化された教師の指導方法や対応では日々起こりうる種々の問題の解決がうまくいかない、あるいはむしろ問題を引き起こしてしまうことすらあるであろう。

本授業では、昨今教育問題として取り上げられる機会の多い「いじめ」「不登校」「非行」などについて、そのような問題行動を示す子どものこころのありようの理解や対応の仕方、さらには問題行動を未然に防ぐための教師としての心構えなどを考えてゆく。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1 X はじめに 学校教育の歴史と目的 教師のなすべきこと
- 2 X 子どもの理解 問題行動について医学的・工学的な理解と教育的な理解
- 3 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その1)
- 4 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その2)
- 5 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その3)
- 6 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その4)
- 7 X さまざまな問題行動とその理解「いじめ」
- 8 X さまざまな問題行動とその理解「不登校」
- 9 X さまざまな問題行動とその理解「非行」
- 10 X こころの病・不応「神経症」「精神病」
- 11 X 問題行動への対応の方法「学習理論にもとづくもの」
- 12 X 問題行動への対応の方法「心理療法にもとづくもの」
- 13 X まとめ 生活指導において大切なこと

履修上の留意点

原則として出席はとらないが単位を取得することを希望する学生は毎回出席すること。さらに、授業中に質問や意見などを積極的に表現することが望ましい。

参加学生に対してはすべて公平にあつかう。(さまざまな事情があっても特別扱いはしない。)

成績評価の方法

原則として定期の筆記試験(ノート等の持ち込みは一切不可)の結果により成績を評価する。ただし、授業中の発言(質問・意見)や宿題等の課題の提出を試験の成績にプラスして評価する。

教 科 書

特に使用しない。講義ノートをもとに授業を進めてゆく。

参 考 書 等

大貫・佐々木編著『心の健康と適応』 福村出版 2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 科 教 育 法	こ 小 やま かず のり 山 一 乗	教 職 3 必 ( 禪 ・ 仏 教 )	4

講義のねらい

講義と模擬授業とで構成する。  
 教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育職員免許法を概観する。  
 特に、各教科と宗教科との関係、「宗教科教育」と「宗教教育」との異同点にも留意する。  
 我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学習指導要領の文言との関係等を検証する。  
 その上で、「宗教の定義集」への着目をし、『『宗教に関する寛容の態度』の涵養』への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。  
 宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。適宜、童歌なども、導入し、幼稚園教育から高等学校教育までの接続も考察に含めたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

『仏教概論 ― 分かりやすい仏教 ―』をテキストにして、原則として模擬授業（50分）を課します。教材研究の実際、学習指導要領、学習指導案の基礎的・基本的事項を講義する。その上で、具体的に、学習指導案の様式と教育観との関係が思量でき、主体的に選択した様式に基づいて実際に学習指導案を作成してもらう。  
 模擬授業は、その様子をビデオに収録し、再生して、爾後の授業分析の鏡利用とし、自己分析に供する。

履修上の留意点

学年、他教科との関連を常に勘案すること。社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

年度末定期筆記試験、模擬授業、中間レポート、出席点などにより評価する。特に出席を重視する。

教 科 書

小山一乗著『教育と寛容 ― 宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点 ―』  
 宣協社 ¥2,940  
 『仏教概論 ― 分かりやすい仏教 ―』 曹洞宗宗務庁 ¥800  
 小中高各『学習指導要領』 各 ¥230 ¥250 ¥370  
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』 大法輪閣 ¥1,600  
 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店 ¥1,020  
 『教育小六法』 学陽書房 ¥2,200

参 考 書 等

井上順孝監修『宗教教育資料集』 すずき出版 ¥3,900  
 『宗教教育の理論と実際』 鈴木出版 1985年  
 その他適宜紹介する。

そ の 他

講義を基調とするが、実際には、講義と模擬授業（演習）を折衷した形態となる。定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。なお可能なら、受講生と調整の上で調査見学もしたい。  
 プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 語 科 教 育 法	かみ 神 や 谷 みち 道 のり 倫	教 職 3 必 ( 国 文 )	4

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。  
 ① 国語科教育の現況の確認  
 ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探る。  
 ③ 教育実践の準備  
 以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のもの提出と、実際の教材による模擬授業の形式（グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加）で行う。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

科目の性質上、出席は当然重視する。（なお、中学校・高等学校時代使用の国語の教科書・副読本があれば、手元に整理して必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。）

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加（出席）の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教 科 書

全国大学国語教育学会編 新中学校・高等学校『国語科教育研究』学芸図書株式会社  
 ¥1,300+消費税

参 考 書 等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
書 道 科 教 育 法	な す たか よし 那 須 隆 吉	教 職 3 必 ( 国 文 )	4

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教 科 書

高等学校芸術科書道指導資料 文部省編著『指導計画の作成と学習指導の工夫』教育図書(株)  
 990円

参 考 書 等

随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英 語 科 教 育 法	さ とう しん じ 佐 藤 真 二	教 職 3 必 (英米文)	4

講義のねらい

中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに、実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

主に取り上げる内容は以下のとおりである。

- 1) 英語科教育の目標
- 2) 主な教授法（文法訳読式教授法、直接教授法、オーラル・メソッド、グレイデッド・ダイレクト・メソッド、オーラル・アプローチ、認知学習理論、ヒューマンスティック・アプローチ、コミュニカティブ・アプローチ）
- 3) 言語材料と指導（音声、文字、文法、語彙）
- 4) 言語活動（聞く、話す、読む、書く）
- 5) 授業の展開（授業計画、授業の構成、指導案、中学校の授業、高等学校の授業）
- 6) 指導形態（一斉指導、グループ指導、ペア指導、個別指導、学習習熟度別指導、ネイティブ・スピーカーとのティーム・ティーチング）
- 7) 評価とテスト
- 8) 教具・視聴覚機器（ピクチャー・カード、フラッシュ・カード、OHP、テープ・レコーダー、LL、VTRなど）
- 9) 教師と学習者

履修上の留意点

自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。

成績評価の方法

試験、レポートのほか、授業内の発表も評価に加える。

教 科 書

塩沢利雄他著『新英語科教育の展開』英潮社

参 考 書 等

教場において指示する。

そ の 他

授業の方法は、教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を多く取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習してまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し、教えることに馴染んで欲しいと願う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・地理歴史科教育法	くぼた たけし 久保田 武	教 職 3 必	4

講義のねらい

中学社会科（特に地理的分野）、高校地歴科（特に地理）を教えるにあたって必要な知識と技法の修得。教科の目標と暗記科目にならない教授法と教授内容構成の考察。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては、系統地理、地誌、地域史を取り上げ  
 ①生徒の興味・関心を増し学力を向上させる教授内容構成と指導例を示す。  
 ②生徒の学力評価法、生徒による教授者評価を利用する自己評価法を示す。  
 ③一部学生による発表（モデル）授業の実施。  
 授業のスケジュールとしては、  
 ①前期は講義と関連事項の質疑・実習等。  
 ②後期はそれに加えて、一部学生による発表時間を設ける。

履修上の留意点

授業の終わりに毎回授業内容、作業・実習のまとめを行ない提出を求め、出欠調査に代える。提出物は添削（質問・意見には回答）のうえ次回に返却。

成績評価の方法

定期試験、毎時間後の提出物、授業への参加意欲と実績（意見、発表等）、出席回数を総合して評価。出席回数不足の場合は単位認定はしない。

教科書

使用しない。

参考書等

授業の際に紹介する。但し地理、歴史、社会科教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料、文部省学習指導要領（地歴編、社会編）等はこの際揃え、随時持参、参照した方がよい。特に地図帳は毎回持参した方がよい。

その他

OHP、スライド、ビデオ等の視聴覚機材をできるだけ使用するよう努める。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・地理歴史科教育法	まくら い おき ひさ 桜 井 明 久	教 職 3 必	4

講義のねらい

中学校社会科、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理分野、地理A、Bを例に概説する。

講義の内容・授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。  
 ①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫 ④指導案の作成  
 ⑤模擬授業 ⑥授業の研究と方法 ⑦地理教師の仕事

履修上の留意点

各自マイクロティーチングを試み、個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されないので、注意すること。それが避けられない場合は、事前に連絡すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など60点  
 夏休みレポート10点 期末試験30点

教科書

高橋・溝尾編『地理学講座6 応用と実践』古今書院 ￥2,800  
 浅黄谷・関編『社会・地歴科通論』南窓社 ￥2,800



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・地理歴史科教育法	ふじ き まさ くに 藤 木 正 国	教 職 3 必	4

講義のねらい

中学校社会科（特に歴史的分野）・高等学校地歴科（特に日本史）の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期は講義を中心とする。  
 ①社会科成立の事情とその理念  
 ②学習指導要領の変遷と地歴科成立のいきさつ  
 ③学習指導計画と指導案の作成  
 ④評価の考え方とその方法  
 ⑤社会科をめぐる諸問題の考察  
 後期はグループ別に模擬授業を実施する。

履修上の留意点

受講する以上は、教員を旨とし努力すること。安易な単位取得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。

成績評価の方法

年間を通じての出席状況、提出物、定期考査などを総合し評価する。

参 考 書 等

文部省学習指導要領、中・高教科書（必要に応じて授業時に紹介する）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・公民科教育法	はし つめ さとし 橋 爪 敏	教 職 3 必	4

講義のねらい

この授業は、社会科・公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能な形式で行ないたい。したがって、受講学生数によって、その方法は変わらざる得ない少人数（15名位迄）の場合は社会科・公民科に関わる文献講読を主としたい。15名以上の受講生の場合は、学生自身の自主研究の発表を主としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

成績の評価は、前期・後期のレポート提出ならびに普段の研究報告、授業参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教 科 書

教科書は、文献講読の場合は、授業開始後に指示する。

参 考 書 等

参考書等は適宜、授業中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・公民科教育法	や しき ただ みつ 谷 敷 正 光	教 職 3 必	4

#### 講義のねらい

社会科は民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと言っても過言ではない教科である。この社会科教育も戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を再編し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

この授業のねらいは、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か社会教育とは何か」といったところまでさかのぼって検討してみることにある。その上で、社会科教育の歴史、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科の成立
4. 社会科学学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と社会科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 社会科学学習指導案の意義と作成
9. ビデオによる社会科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての社会科の学習指導、授業実践の研究
12. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
13. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
14. 教育評価
15. 社会科教育実習の意義
16. 社会科教師論
17. 社会科教師と教員採用試験  
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

#### 履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

#### 成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

#### 教科書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』梓出版

#### 参考書等

社会科・公民科の『教科書』、『中学校・高等学校学習指導要領』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会科・公民科教育法	まえ だ ひて あき 前 田 英 昭	教 職 3 必	4

講義のねらい

社会科・公民科教員免許の修得に必要な教育科目指導の実践方法を指導する。具体的には教育実習に備えた模擬授業の準備と実施に重点を置く。

講義の内容・  
授業スケジュール

最初に教育実習に関する予備知識を勉強する。次に、4年で参加する学校の教育実習の前に、大学の教室内で模擬授業を行う。スライドによる教育実習を視聴する。履修者は必ず、模擬授業のため、教科書の中から指導課題を自由に選び、その教案を作成し、期限内に提出し、教案内容の指導を受ける。教案提出者は、模擬授業の期日の指定を受ける。模擬授業は30分間を基準とする。模擬授業の結果について、教師と学生で話し合う。

履修上の留意点

出席重視。無断の遅刻・欠席の多い者は教師に不適格である。

成績評価の方法

出席と模擬授業重視。模擬授業を行わない者には、原則として、単位の認定を認めない。

教 科 書

特に使用しない。

参 考 書 等

授業時に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 科 教 育 法	や しき ただ みつ 谷 敷 正 光	教 職 3 必 (経済・商・経営)	4

#### 講義のねらい

「産業教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなってめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「職業科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従って、この講義のねらいは、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

1. 日本経済の発展と産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 商業科学習指導案の作成
9. ビデオによる商業科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科の学習指導、授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 商業科教育実習の意義
15. 商業科教師論
16. 商業科教師と教員採用試験  
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

#### 履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

#### 成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

#### 教科書

岡田修二他『新商業教育論』多賀出版

#### 参考書等

高等学校商業科の『教科書』、『高等学校学習指導要領』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
職 業 科 教 育 法	ま え 前 だ 田 ゆ き 幸 か ず 一	教 職 3 必 ( 経 済 ・ 商 )	4

講義のねらい

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- ① 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
  - ② 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討していく。
  - ③ 職業教育について考えていく。
- ①、②は前期授業、③は後期授業で行う予定です。

履修上の留意点

自分や周りの人の家庭や職業について改めて考えてきてほしい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。

教 科 書

『中学校学習指導要領』（文部省平成元年3月）。他については授業の際指示します。

参 考 書 等

中学校で使用していた『技術・家庭』の教科書など。

そ の 他

授業を受ける人は少人数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	と よ 豊 た 田 ち ょ 子 代 子	教 職 4 必 ( 禅 ・ 仏 教 ・ 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理 )	3

講義の内容・  
授業スケジュール

- 事前指導——
- ・ 実習の心がまえ
  - ・ 生徒指導について
  - ・ 教科指導について
  - ・ 指導案作成
  - ・ 模擬授業
- 訪問指導——
- ・ 研究授業訪問指導
- 事後指導——
- ・ 授業実習の検討（ビデオ検討）

教 科 書

適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 4 必 (国文・法律・政治・経営)	3

講義のねらい

失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくするというよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導（教育）も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成（提出）、教育問題にかかわるビデオの視聴、デスクッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か—どうあるべきか—について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告（口頭報告）及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント（感想）、④年度末試験（または、課題レポート）によって、総合的に評価します。なお、①～④について重視する度合は、全て同グレードに考えています。

教科書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』 宣協社 ￥1,500

参考書等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』 学文社 ￥1,000

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	い とう じげ き 伊 藤 茂 樹	教 職 4 必 (英米文・歴史)	3

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関して一般的な講義を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書

特になし。

参考書等

授業の中で適宜指示・紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	きた 北 村 三 子	教 職 4 必 (地理・経済・商)	3

#### 講義のねらい

二週間にわたって行なわれる中学・高校での実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ、教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後、その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに見えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な諸注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

#### 履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自、よくやること。後半は、積極的に参加すること。教場を変更する場合がありますので注意すること。

#### 成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

#### 教 科 書

特になし。

#### 参 考 書 等

文献・資料については、話し合いの上決定。

#### そ の 他

講義、ビデオ、討論など。

## (2) 教職に関する専門科目（選択）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
教育関係法規	ひろ さわ 広 沢 明	教 職 2 選	4

### 講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

### 講義の内容・授業スケジュール

1. 校則(1) —— 丸刈訴訟
2. 校則(2) —— バイク裁判
3. 校則(3) —— 生徒会
4. 懲戒(1) —— 退学・停学
5. 懲戒(2) —— 体罰・精神罰
6. 教育情報(1) —— 家庭環境調査書
7. 教育情報(2) —— 内申書・指導要録
8. 教育と宗教(1) —— 日曜日訴訟
9. 教育と宗教(2) —— エホバの証人事件
10. 日の丸・君が代
11. 教科書裁判(1) —— 検定の事実
12. 教科書裁判(2) —— 法律上の争点
13. 戦後教育政策の変遷
14. 教育と平等(1) —— 民族教育
15. 教育と平等(2) —— 性差別
16. 教育と平等(3) —— 障害児
17. 義務教育（登校拒否を含む）
18. いじめ

### 履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

### 成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

### 教科書

広沢明『憲法と子どもの権利条約』 エイデル研究所 ¥2,800

### 参考書等

授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
教育評価	おお はま き く こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2・3・4 選	4

### 講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

### 講義の内容・授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究手法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

### 履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。パソコンに関しては、まったくの初心者でも可。

### 成績評価の方法

平常点による。

### 参考書等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教育法規研究	かん だ おさむ 神 田 修	教職2・3・4選	4

講義のねらい

こんにち教育をめぐる様々な問題が起こっていますが、他方21世紀へ向けて教育改革が提起されています。教育問題といえば、たとえば“いじめ”、不登校、登校拒否或いは体罰のほか教師や教育行政のあり方など多面にわたってみられます。こうした教育問題や改革について、教育法ないし法規の見地から考えてみるべきことが少なからずあります。この講義では、こうした教育と法をめぐる問題について基本的な理解や考え方を身につけることを目指して、体系的な学習をします。

講義の内容・  
授業スケジュール

教育法、教育法規とは何か、その基本原理、歴史などを学んだ後、学校のあり方や組織、その運営、教育課程、学習指導要領、教育行財政、教師の地位や権利、さらには社会教育、生涯学習行政などについて学びます。講義は具体的な問題を取り上げながら、やさしく、わかり易く進めます。受講者は、この機会に教育法、法規について研究してみませんか。その手助けをするつもりで講義を行います。

成績評価の方法

成績評価はレポートにより実施する予定です。

教 科 書

- ①神田・兼子編著『ホーンブック教育法』1995年 北樹出版 ¥2,200  
 ②『解説教育六法』1998年版 三省堂 ¥2,400

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教育哲学	しお み とし ゆき 汐 見 稔 幸	教職2・3・4選	4

講義のねらい

小人数で、教育や子どものこと、今の時代のこと、自分の育てられ方のこと、これからの生き方のこと、等々をじっくりと議論し合ってみませんか。

講義の内容・  
授業スケジュール

この講義は自由なゼミ形式で、もう十年以上続いています。参加者の問題関心や興味を出し合い、それにもとづいてテキストやゼミの進め方を決め、報告とざっくばらんな討議をくり返してきました。

参加者の中に四年生が多かったこともあって、採用試験や卒論にさし障りのないように、何回か合宿のような形で行なうことが多かったのですが、本年度もそうするか、参加者の様子をうかがいながら決めます。

教育の問題を少しつつこんで考えてみたい、自分の生き方のヒントを得てみたいと思っている人は一度顔を出してみてください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 情 報 学	お 倉 康 仁 くら やす よし	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

今日の情報化社会における教育分野でのコンピュータ利用方法・形態について、教育学の視点から理論的に考察する。また普遍性のあるソフトウェアを使用して、教育現場で必要とされる実際のコンピュータ（パソコン）活用能力およびセンスの育成を行う。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行い、講義と実習を適宜組み合わせる。前期の授業内容としては、以下のものを予定している。  
 コンピュータの基礎知識〔講義〕、パソコン（Macintosh）の基本操作〔実習〕、教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理〔講義〕、ワープロソフトの基本操作〔実習〕、表計算ソフトの基本操作〔実習〕、CAI（Computer Assisted Instruction）ソフトおよびCAL（Computer Assisted Learning）ソフトの活用方法について〔講義と実習〕  
 後期の授業内容としては、以下のものを予定している。  
 ネットワークコンピューティング（LAN、パソコン通信、インターネットなど）と教育〔講義〕、CSCW（Computer Supported Cooperative Work）と教育〔講義〕、HTMLによるハイパーテキスト（ホームページ）作成の実際〔実習〕、各種CD-ROMソフトの活用方法について〔講義と実習〕

履修上の留意点

パソコンに初めて触れるという初心者も歓迎する

成績評価の方法

ペーパーテストは行わずに、平常点（出欠、学習態度）と提出物（レポート、課題作品）によって成績評価を行う。

教科書

教科書は使用せず、配布プリントを利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

その他

使用するパソコンは、Macintosh（Power Mac）のみを用いる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 臨 床 心 理 学	む た たか お 牟 田 隆 郎	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

教育現場並びに教育をとりまく諸状況において生じている青少年の問題（教師、学校の問題も含む）の、臨床心理学的観点からの考察を施す。

講義の内容・授業スケジュール

初めに、人間事象を見つめる基本的視点について講義する。次いで、リアルタイムに今現在教育並びにその周辺に生じている種々の出来事を、新聞・雑誌・書籍等の媒体をテキストとし、その「人間心理」的側面の解釈を試みる。

履修上の留意点

知識伝達型の講義ではなく、種々生起している事柄を「何故そうなのか」と共に考え、そしてまたそれらが、実は自ら自身にも深く関わるものとして考察する態度をもつことを期待したい。

成績評価の方法

出席点を基本とする。

教科書

特定の教科書・参考書は使用しない。必要とあらばその都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 社 会 学	くま かい かず のり 熊 谷 一 乗	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

教育は、社会に根ざす作用であり、社会生活の重要な部分をなしている。それは、一定の社会的環のなかで、家庭・学校・地域社会・国家・企業体などとの密接な関係のもとに行われる。教育社会学は、この点に注目し、人間の発達と教育をめぐる社会的な要因の相互作用を明らかにする学問である。この学問がめざすところは、どのように社会的要因の作用を受けて教育が行われ人間が成長し発達するか、また教育の成果、人間の発達の結果がどのように社会に作用し、これを形成するかを明らかにして教育のための社会的条件の向上をはかることである。それは、教育の政策立案、経営、そして実践のレベルを高めることに役立つことを目的としている。よい教育を行なうためには、教育と社会との関係、教育の社会的条件、教育の社会的性質・過程を十分に知らなければならない。教育と社会との関係を知れば知るほど、教育についてより深い理解を得ることができる。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 以上のような趣旨のもとに講義は、次のようなテーマとスケジュールのもとに、行われる。
- (1) 人間の発達過程における特徴と社会的環境（人間の発達、形成におけるキーワードとしての社会と文化、人間の発達特性からみた教育のポイント）＝4～5月
  - (2) 人間の発達を条件づける社会的文化的要因（人間の発達における制度・規範の意味、理念・思想の役割、家庭・地域社会の役割）＝5～6月
  - (3) 集団と教育との関係（集団によりどころをおく人間の生活と教育、集団の通過と遍歴、集団の構造と教育力、集団の力学）＝6～7月
  - (4) 家庭の教育力と子供の発達（家庭の教育力の限界、社会的環境の変化と家族の役割の変質、家庭教育の危機）＝9～10月
  - (5) 学校化社会の現実と問題＝10～11月
  - (6) 政治・経済の動向と教育＝11～12月
  - (7) 地域社会と教育＝12～1月
  - (8) マスメディアと教育＝1月

成績評価の方法

学年末の試験と成績による

参 考 書 等

熊谷一乗『子どもの発達と社会』東信堂  
麻生誠・小林文人・松本良夫編『学校の社会学』学文社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 史	きた むら みつ こ 北 村 三 子	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

若者の生き方は時代とともに変わっていく。今日すべての人が通過すると思われる「青年期」でさえ、近代社会に出現した人生段階に過ぎない。この授業では、「青年期」や「青年」と呼ばれる存在とはいったい何なのかを検討してみたい。またそうすることを通して、今日の私たちが自然や他人や自分との間にとり結んでいる関係のありかたが問い直されることになるだろう。

講義の内容・  
授業スケジュール

導入として若者史の問題意識についてふれた後、近代日本における「青年」や「青年期」の誕生をめぐる経緯を検討する。また、それらの誕生は、日本では学校制度の普及と関係が深いので、就学を促進する要因となった学歴社会の歴史的成立についても検討したい。

履修上の留意点

教育史のいわゆる「教科書」を授業で扱うことはないが、文献などに関して個別の相談には応じたい。授業は毎回レポーターを決め、文献の内容の要約を発表後、質問や討議をする予定である。

成績評価の方法

平常点。ただし発表回数が少ない場合には、レポート提出もありうる。

教 科 書

天野郁夫『学歴の社会史——教育と日本の近代——』新潮選書 1992年 1,100円  
北村三子『近代と青年 青年と青年をめぐる言説の系譜学』世織書房 1997年 2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 調 査	すずき のりお 鈴 木 規 夫	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・  
授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教科書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参考書等

特に指定しない。

その他

授業は討論中心の形態をとる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
芸 術 教 育	か がわ よし しげ 香 川 良 成	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』東京書籍、菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』大月書店

その他

現在行われている演劇教育（“劇あそび”その他）の様相や実際の舞台をビデオで観たり、実際観劇するというも行いたいと思っています。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代社会の諸問題と教育	くま 熊 がい 谷 かず 一 のり 乗	教職2・3・4選	4

#### 講義のねらい

わたしたちが生をいとなむ現代の社会は、解決の難しい問題に充ちている。科学技術の進歩に支えられた産業の高度な発展は、人々に豊かさという明るい「光」を与える一方で、人間疎外の進行・環境問題・エネルギー問題など厄介な暗い「陰」を落している。いま、教育の在り方は、この「光」と「陰」の影響を受けて激しく揺れ動き、変革を迫られている。教育も社会の「光」と「陰」のもとで問題に充ちているのである。社会の諸問題を解決するためにはどのような教育が必要となるのか。また望ましい教育のために社会は、どのようにあるべきなのか、何をなすべきなのか—ここに授業実施の問題意識がある。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

- 以上の問題意識のもとに、授業は次ぎの小テーマにしたがって行われる。
- (1) 軍事占領下の社会的諸問題と教育改革（終戦にともなう社会諸問題と教育、第1次米国教育使節団報告書、教育基本法、学校教育法の成立など）—4～5月
  - (2) 「冷戦」の激化にともなう社会的変化と「戦後教育」の転換（イデオロギーの対立・主権の回復と教育、「55年体制」の確立と教育の緊張、教育集権化の動向など）—5～6月
  - (3) 高度経済成長にともなう諸問題と教育（経済のための“人づくり”、教育学資論の影響、豊かさのなかの非行問題、「期待される人間像」など）—6～7月
  - (4) 高度経済成長以後の社会的変化と教育改革の提案（情報化と“第三の教育改革”など）—9～10月
  - (5) 社会的変化にともなう生涯教育論の登場（P. ラングランの生涯教育論、社会教育審議会の答申など）—10～11月
  - (6) 自由化の波と臨時教育審議会（新自由主義・保守主義と1980年代以降の教育政策、戦後日本の総決算と自由化、「臨教審」の設置など）—11月
  - (7) 冷戦・55年体制の崩壊と「臨教審」以後の教育政策（変化する子供、文部省と日教組とのパートナーシップ、連立政権下の教育政策、第14・15・16期中教審答申と21世紀への教育改革など）—12～1月

#### 成績評価の方法

学年末の試験と出席状態による。

#### 教 科 書

教科書は使用せず。熊谷『現代教育制度論』学文社等を参考とする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青少年問題研究	さ ぬま ま さ こ 讃 岐 真 佐 子	教職2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不適応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。

講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中での青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、主にテキスト記載の事例を中心に、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるだろうが、何らかの形で受講生のフィード・バックを得る方法を考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験の両方を考慮する。

教科書

氏原寛・東山紘久編『発達とカウンセリング』  
別冊『発達』第18巻 ミネルヴァ書房 2,500円

参考書等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』  
(『日本人の深層分析』第9巻と10巻) 有斐閣
- ・季刊『仏教-特集癒し』No.31 法蔵館 2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』 檢出版 『子どもの宇宙』 岩波新書386
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』 岩波書店 1,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 教 育	こ 小 やま かず のり 山 一 乗	教 職 2・3・4 選	4

講義のねらい

命題「法は風上の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考 (legal mind)、そこに看取れるいわゆる宗教的思考 (religious mind)、教育的思考 (educational mind) の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しきは最大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえある。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と指定したい。その上で、tell (告げる) と teach (教える) との差異、<religious education> と <education about religion> との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケアー等を粗上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共存社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には教人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。無知解消の教育が要る。

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

年度末定期筆記試験、中間レポート、出席点、口頭発表等による。特に出席を重視する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』宣協社 ¥2,940  
 小中高各『学習指導要領』各¥230 ¥250 ¥370  
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』大法輪閣 ¥1,600  
 『教職教養ランナー』一ツ橋書店 ¥1,020  
 『教育小六法』学陽書房 ¥2,200

参考書等

指定図書 → 『宗教教育の理論と実際』鈴木出版 1985年  
 土持ゲーリー法一著『米国教育使節団の研究』玉川大学出版部 ¥9,785  
 井上順孝監修『宗教教育資料集』すずき出版 ¥3,900  
 杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』日本評論社  
 参考図書 → Kyouko INOUE.1991.MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION. THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。なお可能なら、受講生と調整の上で調査見学もしたい。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
生涯学習概論	豊田千代子	教職2・3・4選	4

(P.教63) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
視聴覚教育	飯森彬彦	教職2・3・4選	4

(P.教75) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会教育施設	酒匂一雄	教職2・3・4選	4

(P.教65) 参照

教職・資格講座

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学 I	山田節子	教職2・3・4選	4

(P.教59) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学 II	みなもと 源 昌久	教職2・3・4選	4

(P.教59) 参照



### (3) 教科に関する専門科目 (必修)

【社会・地理・歴史・公民】

科目名	担当者名	配当学年	単位
東洋思想史	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教職教科	4

#### 講義のねらい

始めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう—これが本講義の目指すところである。

#### 講義の内容・授業スケジュール

今年度は、伊藤東涯『古今学変』・『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『古今学変』・『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は資料集の側面がある。この側面を利用して、漢文文化の思想言説の多様性を窺う。他面、『古今学変』は日本の「中国哲学史」の黎明期教科書とされたと伝えられる。日本の中国の思想史研究の原点とも言える。他方、『経史博論』は中国思想概論の原点と言える。中国思想史そのものの発生にも考察が及ぶなら幸いと考えている。

#### 履修上の留意点

最低書下し文が理解できる程度の漢文の基礎的教養が必要である。

#### 成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。

1. 試験又はレポート(年1回以上)
2. 平素の受講態度(年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。)
3. 受講の積極性(質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。)

#### 教科書

授業は講師が用意したプリントを用いる。  
参考書は適宜授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
美術史概説	なか しま りょう いち 中 島 亮 一	教職教科	4

#### 講義のねらい

本来は日本の美術史を編年体で進めたいところであるが、時間の制約もあるので、古代から近代(明治)までの中から、それぞれの時代の代表作、標準作をえらび、その特徴や意図、時代背景など多角的に考察する。この講義が博物館学講座の一環を占めているので、白からの体験や実務も含め、スライドを多用しながら進めたい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

日本美術史の古代から近代まで、建築・彫刻・絵画・工芸の中から代表作を選び、重点的にとり上げ、その芸術思潮をとらえる。

#### 履修上の留意点

各時代のテーマの講義の初めか終りにはスライドを上映するが、各自の印象を確実にする意味でも、感想文を書いてもらい、それを平常点として評価に加算する。

#### 教科書

久野健他編『美術史〈日本〉』東京堂出版 2,000円

#### 参考書等

適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民間信仰論	谷 口 眞 <small>たに ぐち みつき</small>	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定で、筆記試験は実施しない。

教 科 書

とくに教科書を使用しないが、参考書として、桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、桜井徳太郎・他編『シャーマニズムとは何か』（春秋社）の3冊を紹介しておきたい。

そ の 他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
人文地理学概説	小 池 とみ子 <small>こいけ とみこ</small>	教 職 教 科	4

講義のねらい

地理学における人文地理学分野をとり扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、地理学発達史・人文地理学と自然地理学・環境論・地域論などについて検討する。次に現代世界の概観をふまえた上で、人種・民族と国家、人口問題、産業立地と地域の変容などを柱として、世界各地が現在どのような問題をかかえているか、具体的に各地域をとりあげながら、概説を試みる。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教 科 書

教科書は特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参 考 書 等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院 など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）  
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

そ の 他

講義形式、ときどきビデオ、スライドなどを取り入れる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
自然地理学概説	たか き まさ ひろ 高 木 正 博	教 職 教 科	4

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を講ずる。  
近年、河川環境や地下水汚染などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の特性について、地域事例をもとに説明する。

講義の内容・  
授業スケジュール

次の諸点について講ずる。  
1)河川や地下水の水量や水質など基本的特性について  
2)河川地形と水災害のかかわり、利水・自然環境など流域の自然と人々の関係について  
3)身近な水源としての地下水・湧水の保全などについて  
場合によっては、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても説明する。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。地域を把握するために、地形図や地図帳などが必要である。

成績評価の方法

学年末定期試験と夏休みの課題の他、授業中に随時実施する課題など平常点も加味して行う。

教 科 書

授業時間にプリントを配布する。

参 考 書 等

地学団体研究会編『地球の水圏－海洋と陸水』 東海大学出版会  
その他随時紹介する。

そ の 他

講義中心。事例紹介のためのスライドやOHP、ビデオも使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
自然地理学概説	はや ふね げん ほう 早 船 元 峰	教 職 教 科	4

講義のねらい

人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して共に考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい（人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ）を、歴史的観点をもとに、主に環境地誌学的立場から論じる。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ・関東平野の地形発達史
- ・北海道本部の気候地形
- ・北海道美瑛町・富良野市における傾斜地の土地利用の変化と環境保全
- ・大気温・湖水温の垂直分布の季節的变化と人間とのかかわり
- ・その他

履修上の留意点

国土地理院の地形図を教枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業（土地利用図・带状平行投影地形断面図・切峰面図など）をして理解をより一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレス紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各人用意すること。

成績評価の方法

課題（地形図より主題図作成）・小テスト出席状況などによる平常点。

参 考 書 等

水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』 大明堂  
脇田武光・石原照敏編『観光開発と地域振興』 古今書院

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 誌 学 概 説	かわもととよかず 川元豊和	教 職 教 科	4

講義のねらい

南及び東南アジアの地誌について講義する。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・授業スケジュール

前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

白田雅之・佐藤宏・谷口竹吉編『もっと知りたいバングラデシュ』 弘文堂 1993 ¥2,800  
水島司編『アジア読本マレーシア』 河出書房新社 1993 ¥2,000

そ の 他

年に2～3回はスライドを使用した授業を予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 誌 学 概 説	くほた たけし 久保田 武	教 職 教 科	4

講義のねらい

世界の諸地域について基礎的知識の修得と地域の理解。高校地歴科・中学校社会科の授業担当に必要な世界の諸地域の知識修得を兼ねる。その際暗記科目にしない教授法・内容構成を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては  
①世界の諸地域の地域学習  
②簡例学習  
授業スケジュールは  
①前期は講義と関連事項のまとめ、実習、質疑、討議  
②後期は学生による発表時間を設ける

履修上の留意点

授業の終わりに毎回授業内容のまとめ、実習結果を提出させ出欠調査に代える。提出物は添削(質問・意見には回答)のうえ次回に返却。

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲と実績(発表等)、出席回数を総合して評価。出席回数不足の時は単位不認定。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

授業の際に紹介する。但し地図帳、歴史年表、歴史地図、資料(特に統計)等は持参し参照した方がよい。特に地図帳。

そ の 他

OHP、スライド、ビデオなどの視聴覚機材を出来るだけ使用したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 誌 学 概 説	す 須 山 聡	教 職 教 科	4

講義のねらい

「地域」を総合的に理解する方法としての地誌学の視点を受講者に提供する。具体的にはラテンアメリカ、とくにブラジル北東部を素材に、地域性把握のために必要な概念や方法論を講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前期はおもに地誌学の目的と基本概念を図上実験を交えて講義する。後期にはラテンアメリカにおける歴史的背景、政治と民族、産業基盤、都市と農村、といった総論的な内容と、ノルデステ地域の基本構造、文化的・経済的側面の講義を行う。

履修上の留意点

前期の講義をないがしろにすると、後期の内容が理解できなくなるおそれがある。積極的な参加を望む。

成績評価の方法

学年末試験（60%）、出席（40%）で評価するが、場合によってはレポートも課す。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書等

地図帳（高等学校で使用していたものでよしい）を持参されたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 仏 教 史	えん とう ひろ あき 遠 藤 廣 昭	教 職 教 科	4

講義のねらい

中世の仏教諸宗派の展開を、特に関東にスポットをあてて概観し、その過程を明らかにしていきたい。その中でも、地域社会とのかかわりを中心にするが、一見それらとかがわりの無いように見える「学僧」とよばれた僧侶の活動も詳述して見たい。

講義の内容・授業スケジュール

中世関東に展開する全宗派について一応概観を試みるが、中でも真言宗・曹洞宗については詳述する。なぜならば、関東においては、古代仏教諸宗では真言宗が最も多く展開し、鎌倉仏教では曹洞宗が最も展開をとげているからである。特に真言宗の展開の場合は、鎌倉・室町期を通して、京都・鎌倉との関係は無視できない部分がある。そのような視点から授業を進めて見たい。

履修上の留意点

講義内容はできるだけ黒板に板書するので書写すること。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験の結果を基本とするが、出席も重視する。

教科書

教科書は特になし。必要な資料は、授業時に配布する。

参考書等

参考書は特になし。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 文 化 史 II	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていたことを、明らかにする。

講義の内容・  
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに⑦以降の項目に重点を置く。

- ①日本文化史概観
- ②平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③中世文化史研究の動向
- ④中世文化の展開
- ⑤室町文化（北山・東山文化）
- ⑥禅宗と文化
- ⑦京都と大名領国の文化
- ⑧下剋上の世と文化
- ⑨桃山文化
- ⑩宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪近世文化史研究の動向
- ⑫寛永文化
- ⑬元禄文化と化政文化

履修上の留意点

口頭、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
歴 史 哲 学	あ そう けん 麻 生 建	教 職 教 科	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・  
授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は、純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は、教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末の試験による。

教 科 書

麻生建著『解釈学』 世界書院 ￥2,500

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 史 概 説	くろ だ もと き 黒 田 基 樹	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本の歴史を概説する。歴史学という学問は、過去の社会を正確に認識するとともに、現代社会をどのように把握するか、ということを追求するものである。そのため、日本史を通時的に概観するだけでなく、現代の日本社会との対話を意識し、歴史を「考える」という観点を重視する。

講義の内容・授業スケジュール

既存の「日本史像」とらわれない、新しい歴史像の構築につながるような、最新の研究動向を素材として取り上げる。また、日本史を身近な題材で考える、という視点から、関東の地域史を取り上げる。

成績評価の方法

学年末に試験をおこない、出席数と試験の結果を総合して評価する。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

授業のなかで随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 史 概 説	こ まつ とし はる 小 松 寿 治	教 職 教 科	4

講義のねらい

「日本史」が日本国の歴史について学ぶ学問であることは承知のことと思いますが、日本国に住みながら「日本史」を知らない人が多いと思いませんか。日本という国に住んでいる人間ならば、日本で起こったこと、特に国際化が叫ばれる昨今、外国とどのようにかかわっていたかを知っていることは、必要なことと思います。国際社会の中で、自分の住んでいる国の歴史を知らないことは、恥かしいことではないでしょうか。社会科の教員免許を目指す皆さんは、それがたとえ歴史の免許でなくても、関連する専攻の状況を理解するために、歴史に関する目を持つことは重要なことと思います。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、日本の歴史を現在国際問題となっている日本の歴史認識と関連づけながら講義をしたいと思っています。そのため通常の歴史の授業とは違い、若干、時代的には前後する話になるかもしれません。

成績評価の方法

前・後期二度の試験をします。教員となる人たちの授業ですので、出席を重視します。

教 科 書

特に教科書は用意しません。必要な資料は、授業の際に配布いたします。

参 考 書 等

授業の時、随時話します。

科目名	担当者名	配当学年	単位
世界史概説	井村行子	教職教科	4

講義のねらい

近代世界システムの成立と展開の過程として世界近現代史を捉える。

講義の内容・授業スケジュール

第1回 近代世界体制成立の諸前提 第2回 18世紀の西ヨーロッパ 第3回 18世紀の中・東ヨーロッパ 第4回 18世紀のアジア 第5回 二重革命の時代 第6回 ヴィーン体制の成立 第7回 19世紀前半のヨーロッパ 第8回 19世紀前半のアメリカ 第9回 19世紀前半のアジア 第10回 19世紀後半のヨーロッパ 第11回 19世紀後半のアメリカとロシア 第12回 19世紀後半のアジア 第13回 帝国主義の開幕 第14回 帝国主義の世界分割 第15回 20世紀初頭の世界 第16回 第一次世界大戦 第17回 ヴェルサイユ体制の成立 第18回 1920年代の世界 第19回 1930年代の世界 第20回 第二次世界大戦 第21回 戦後世界の成立

成績評価の方法

前期後期二回行う筆記試験による

教科書

使用しない

参考書等

大江一道『世界近現代全史』全3巻(1991-97)

科目名	担当者名	配当学年	単位
世界史概説	わたなべ あつし 渡辺 惇	教職教科	4

講義のねらい

世界史概説は担当者の関係により、東洋史と西洋史の二つの部分に分けて行われます。受講者はこのいずれか1つをとればよい。

上記のうち、私は東洋史の部分を担当します。東洋史はアジア全体を対象とするもので、その領域は非常に広く、かつ多元的です。この授業は教職科目であり、また時間の関係から、以下に記すような順序で、広く浅く行うこととなります。換言すれば“アジア歴史散歩”とでもいえましょう。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 世界史教育の歩み  
学校教育における世界史という科目は戦後の教育の中で新しく成立したもので、はじめは東洋史と西洋史を束ねたようなものであったが、やがてヨーロッパ中心主義、大國(中国)中心主義が批判され、よりグローバルな世界史が求められるようになった。以上の経緯を文部省の世界史指導要領の変遷等を折り込んで説明したい。
- (2) アジアの歴史世界は多元的でモザイクである。それゆえ、以下のような5つの世界に分けて、それぞれの世界の歴史の舞台となった自然環境、風土、そして歴史展開の特色などについて概観する。
- 東アジア世界；中国を中心とし、その周辺を含む地域。農耕生活。
  - 中央(内陸)アジア；海への出口をもたない砂漠と草原の地域。遊牧とオアシス農耕の生活。
  - 西アジア世界；オリエン特及び地中海の一部を含む乾燥風土の地域。オアシス農耕と遊牧生活。
  - 南アジア世界；インドを中心とした地域。農耕生活。
  - 東南アジア世界；半島部と世界最大の多島海よりなる地域。海洋生活。

履修上の留意点

出席は必ずとります。

成績評価の方法

評価は定期試験、平常点に出席点を加味する。

その他

またビデオを活用して、各地域の特色を視覚を通して把握することも行いたい。その際感想文を書いてもらいます。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会学原論	わた なべ もと き 渡 辺 源 樹	教 職 教 科	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会学的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

授業内容とそれに必要な準備

- 第1回 社会学とは何か  
社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為  
なぜ‘action’からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程  
人間の行為は‘inter’して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
- 第5回 1. 役割の取得 — 社会化 フロイドとパーソンズの‘社会化の過程’を中心に
- 第6回 2. 役割の準拠 — 準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第7回 3. 役割の葛藤 — マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第8回 社会統制と逸脱行為  
1. 規範と同調 — 逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン  
2. ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論、マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1. 社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
- 第12回 2. 集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL図式)
- 第13回 3. 集団の構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第14回 4. 集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM理論とリーダーシップ
- 第15回 5. 集団の凝集性・モラール 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラール
- 第16回 集団・文化・パーソナルティ  
組織論と官僚性
- 第17回 1. 組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第18回 2. 官僚制組織の基本原理解 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原理解 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第19回 3. 官僚制組織の動態 官僚制組織における “目標の転移”／ホーソン実験／グールドナー、ブラウの官僚制論
- 第20回 社会意識  
1. 社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第21回 2. ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第22回 3. 社会的性格  
i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として  
ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4. 社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成
- 第25回 1. 経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第26回 2. 政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化
3. 法と社会…法と法社会学／法の機能／規範
4. 教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

教職・資格講座

成績評価の方法

定期試験 (有り)、レポート (有り)

教科書

開講時に提示

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 人 類 学	佐々木 宏 幹	教 職 教 科	4

(P.教90) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論	浅 田 統 一 郎	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』および『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するための橋渡しをすることを目的にしています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学の重要な一分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」(様々な細かい個別の変数を合計して、あるいは平均して得られる概念)を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。(駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が並存して各学派の間で活発な論争が行われている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| I. ミクロ経済学   | II. マクロ経済学          |
| 1. 消費者行動の理論 | 1. 国民所得の概念          |
| 2. 企業行動の理論  | 2. 国民所得決定の理論        |
| 3. 市場均衡の理論  | 3. 貨幣と利子率 (IS・LM分析) |
| 4. 不完全競争の理論 | 4. 財政・金融政策の効果       |

なお、教科書は、浅野・荒木・浅田『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)を使用しますが、本講義の範囲を越えてもっと詳しくミクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の終了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

#### 成績評価の方法

成績は年2回(前期・後期)行う筆記試験によって評価します。

#### 教科書

浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎著『エコノミックス』成蹊堂

#### 参考書等

[指定図書・文献等]  
 武隈慎一 著『ミクロ経済学』新世社  
 中谷巖 著『入門マクロ経済学』日本評論社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論	あ べ 部 弘 <small>あ べ ひろし</small>	教 職 教 科	4

講義のねらい

私たちの生活をしている社会は「商品生産の社会」である。つまり、生活に必要なものがすべて「商品」として生産されそれを「おカネ」をだして買って来て消費をするという社会で毎日の生活を送っているのである。

さて、一般に私たちの生活にとって重要で有益なものは「富」と考えられている。この商品社会の「富」というのは一体何であろうか？「価値」を生むものが「富」なのだ、と政府の「国富統計」は言う。そして、価値はと言うと、それは「社会」に役に立つ・有益である、ということである。

とは言え、このことは今私たちの社会にあっては、「商品」生産の体系の中で言われることである。そもそも、「売れるもの」でなければ「価値」はないし、「富」とは関係がない。しかしながら、この世に存在するものすべてが売買されるものであるわけではないから、このような規定は人間の生活とは離反しているように見える。

しかも、私たちは単に「商品社会」で生活しているというだけではない。商品社会をその基本にもった「資本主義社会」で生活している。

資本主義生産様式では生産の目的は利潤（もうけ）の生産にある。私たちが日常買ってくるものも利潤の生産の手段にすぎない。社会に、そして私たちに利益になるからということで、そのようなものが商品として生産されているわけだが、「役に立つ」と私たちに思えても企業・「資本」は売れてしかも利益にならなければ、いくら「役に立つ」ものでも「商品」として生産はしない。

さらに生産されてもそれを手に入れるためには「おカネ」（貨幣）がなくてはならない。「おカネ」は不思議なもので、これさえあればすべてのものが手に入るように思えてくる。

「おカネ」がすべてのように思え、おカネを手に入れるために、人々は種々様々なことをする。社会で「偉い」のはおカネをたくさん所有している人々であるかのようだ。「おカネ」をたくさんもっているかどうか、何が社会に役立つものなのかどうかという基準も異なってくる。大金持ちの資本家は、ある国家を買収して自分の利潤を生産させる手段にすることもできる。地球の自然環境や自分以外の人間がどのようになろうともそれは二の次としか考えない。「利潤」がもっとも大事なものだからだ。

だから私たちが「富」であると思うものと現実の「社会」や社会を支配している人々（階級）が考えている「富」はそれぞれに異なっているのかもしれない。そこでその関係を明らかにすることが「富」とは何かを考えていくうえで重要な課題になる。

「経済学」はその成立のときから、「富」とは何かを問題にしてきた。その歴史は「富とは何か」の歴史である。「富」は人間社会の歴史のなかで、その時代に応じて、意味合いを異にしてきた。私たちが生活している社会は「資本主義」の社会であるから、当然、富は「資本主義的富」である。したがって、この社会を特徴づけている基本的カテゴリーの分析をつうじて「富とは何か」を明らかにしていくことが「経済学」には課される。その基本的カテゴリーとは「商品」・「貨幣」・「資本」であるから、「経済原論」の講義では3つのカテゴリーとその関係を明らかにし、そのことが人間相互の関係としてどのような形で表わされるのかを分析して私たちの生活・行動の方向を示す。

講義の内容・授業スケジュール

講義は受講生の人数によって異なる。

1) 人数が50名を超過するばあいには講義の体系をとる。このばあいには年4回のレポートの作成を行い、最初に講師が課題を提起してこれに受講生が応え、2回目以降は受講生が作成してきたレポートを講義を踏まえて、講師が添削して、各自に独自の課題を設定していく。テキストは用いない。

4回のレポートの作成は以下の日程で行う。

No. 1 : 7月上旬 No. 2 : 10月中旬 No. 3 : 12月中旬 No. 4 : 1月

2) 人数が50名以下のばあいにはグループ分けをして、グループ毎にディスカッションをして2回の個人レポート作成を行う。このばあいには講義はグループ毎への問題の提起という形をとる。ただし、受講生名簿がでてくるのが前期いっぱいかかってしまうのでその間は講義の形態をとる。したがって7月上旬に第1回目のレポート作成を行う。

成績評価の方法

\* 講義形態〈1〉のばあい：評価は4回のレポートを通じて行う。

\* 講義形態〈2〉のばあい：ゼミナール形式をとるので試験はおこなわないが、出席が不良であったり、2回のレポートを提出しないばあいには失格になる。

そ の 他

受講生の質疑応答等に便利のように講師の連絡先を以下に示す。

研究室：No.2538 Tel：03-3418-9360

住 所：〒179 練馬区光が丘6-1-4-204/Tel：03-3976-7984

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論	おのとしお 小野俊夫	教 職 教 科	4

講義のねらい

経済は現代社会の基本であり、経済学、特に経済学原論は広く社会諸科学を学習し理解するためには必須の学問である。この講義では、現代経済社会の仕組みと運行の仕方を理解し、正しく分析し得る力を身につけるためには不可欠な理論の基本を、いわゆる近代経済学の立場から体系的に解説する。

講義の内容・授業スケジュール

講義は次の順序で行う。

1. 経済学発展史要説
2. ミクロ経済学：ミクロ的経済循環とミクロ経済学、消費者行動の理論、企業行動の理論（企業の生産技術と生産費、完全競争下の企業行動、独占企業の行動）、完全競争市場と独占市場、現代企業と市場の理論。
3. マクロ経済学：マクロ的経済循環とマクロ経済学、国民所得の諸概念、ケインズの有効需要原理と理論体系要説、ケインズ経済学体系（消費関数と貯蓄関数、国民所得の決定と投資乗数の理論、投資決定の理論、利子率決定の流動性選好理論、ケインズ理論体系とIS-LMモデル）、経済成長と景気変動、政府および外国貿易を考慮する一般的分析。

履修上の留意点

講義を理解するために経済に関する予備知識は必要としないが、学問はそもそも一つの体系であるから、常に出席して講義の順を追って理解して行かねばならない。

成績評価の方法

成績は次の3点の総合評価による。(a)講義への出席率、(b)後期の適当な時期に課するレポート提出、(c)後期の最終講義時間に行う教場試験。

教 科 書

教科書：小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 法 I	あおのひろゆきの 青野博之	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。民法全体のイメージをつかむためにも、できれば、民法二部も受講してほしい。

#### 講義の内容・授業スケジュール

4月、序説（たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか）。  
 5月、自然人（たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか）。  
 6月、法人（たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか）、物。  
 7月、法律行為（たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か）。  
 9月、法律行為（たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどういふ結果になるか）、期間、時効（たとえば、時効という制度はなんのために認められているか）。  
 10月、物権総論（たとえば、物権は債権とどこが違うか）、物権変動（たとえば、マンションを買った場合には何をしなければいけないのか）。  
 11月、占有権、所有権、用益物権（たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか）。  
 12月、担保物権（たとえば、土地を買うためにお金を借りやすいのはなぜか）。  
 1月、質問に答える（受講生からの質問には毎回の講義時間のはじめとおわりに答えるが、それとは別に質問時間を設ける）。

#### 履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

#### 成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。

受講生がそれほど多くなければ、質問および応答の平常点だけで、成績を評価する。受講生が多ければ、定期試験（いっさいの持込を不可とする）だけで、成績を評価する。

#### 教科書

甲斐道太郎・乾昭三・椿寿夫編『新民法概説(1)総則・物権』有斐閣 1,995円  
 以前に使用した、我妻栄・有泉亨著（川井健補訂）『民法1（総則・物権法）』（一粒社）でもよいし、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

#### 参考書等

#### 六 法

憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。

六法は、『ポケット六法』（有斐閣）、『コンパクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。少し解説がついているものとして、『三省堂新六法』がある。判例がついているものとして、『コンサイス判例六法』（三省堂）、『判例基本六法』（岩波書店）があり、少し進んだ勉強をしたい受講生、講義の際に紹介する判例についてもう少し知りたい受講生に勧める。『判例六法』（有斐閣）は、判例がついていると同時に、カタカナの条文を平がなに書き換えており、読みやすい。さらに進んだ勉強をしたい受講生には、『模範六法』（三省堂）を勧める。なお、『口語～』という書名のついたものでもよい。

六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましいが、多少古くとも少なくとも受講する上では支障はない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 法 I	はやし 林  こう 幸  じ 司	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

1. 民法の総則と物権法の分野につき、受講生に「基礎的な理解」が身につくよう目指すこと。
2. 簡単な事例を通して「受講生の日常生活と民法がいかにかかわっているか」を理解してもらうこと。

#### 講義の内容・授業スケジュール

民法は、我々の日常生活において「個人と個人の間には生じる権利や義務」を定める法律であるが、これを二つに分けると①経済生活（主に取引）にかかわる財産上の権利義務を定める『財産法』と②家族生活にかかわる夫婦・親子など身分上（および相続）の権利・義務を定める『家族法』に分かれる。このうちの『財産法』をさらに分けると、①『総則』（財産法全般に「共通する事項」がまとめられている）と②『物権法』（所有権など「物に対する権利」を規定する）及び③『債権法』（借金の返済を求める権利など「特定人に対する権利」を規定する）の三分野に分かれる。本講義ではこのうち、①総則と②物権法を解説する。

#### 履修上の留意点

受講に際しての注意（『私語の厳禁』）。あまりにも当然過ぎて、ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっと静かになるというのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色がなかったり、何か悪いことをしたのか（又は「なぜ俺だけが」）と言わんばかりに睨み返してくるということもある。このテの者には、その場で『登録抹消』を通告するという強い態度で臨むので覚悟してもらいたい。

#### 成績評価の方法

後期試験による評価が中心となるが、講義後に回収する質問や意見などにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多い。これらに対しても若干のプラス評価を行うつもりである。

#### 教 科 書

甲斐・石田編『新民法教室 I 総則・物権一』 法律文化社 2,600円

#### そ の 他

（授業の方法）

- 1: 板書中心の講義であること。私独自の観点からポイントを整理するため板書中心の講義を行い、途中で適宜、教科書の該当箇所を指示・解説するという方法を採用。その際、かなり多くの図や表を必要とするが、それも主に板書によってカバーする。
- 2: 意義・要件・効果の整理に重点をおくこと。私も学生の頃は、ただ闇雲に教科書に書いてあることをダラダラと覚えようとしたものである。しかし、それは、山の中を、地図も磁石盤もなく、ただ地面を見て石ころを数えている姿に似ていると感じ、むなしい気持ちに苛まれる結果となった。本講義で整理の中心に位置付ける「意義・要件・効果」は、講義中、諸君が立っている位置を知るための『座標軸』だと思ってほしい。そのことの意味はとてもここでは書き切れない。詳しくは、講義で聴いていただきたい。
- 3: 簡単な「事例」を素材とすること。事例集をプリントして配布し、意義・要件・効果と結び付けて解説する。具体的な事例を想定しての理解以外に、真に納得のいく理解はないと信ずるからである。受講生諸君がめざす各種資格試験にも役立つよう留意していきたい。
- 4: 受講生からの質問を講義に反映するよう努力すること。毎回講義前に用紙を全員に配布し、質問・意見・感想・要望などを買いもらい、その中で、「これは！」と思うものを次回の講義に反映することを心掛けるつもりである（質問への解答が中心となる）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	教 職 教 科	4

#### 講義のねらい

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず、ひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。

#### 講義の目的

第一の目的は、将来教壇にたったときに役立つ基本的な知識の習得をめざすことです。

第二の目的は、社会科学の思考方法を会得することです。

第三の目的は、自己の意見を論理的にはっきりと述べられるようにすることです。

#### 講義の内容・ 授業スケジュール

#### 講義のすすめ方

政治学の基本問題を、一回一テーマ主義でとりあげます。ワン・ウェイの講義をするのではなく、学生諸君との対話・討論形式をとりいれて授業をすすめていきます（場合によっては、学生諸君の報告や模擬授業も）。質問には、はずかしがらずに積極的にこたえて授業を盛り上げてください。

授業では、政治学のみならず隣接科目にまで話がおよんでいきます。履修者はあらかじめ高校時代の「政治経済」の教科書や参考書などに目をおしておくとよいでしょう。

#### 講義内容

講義でとりあげる問題は、以下のとおりです。

- |                 |          |
|-----------------|----------|
| A 政治の思想         | C 日本の政治  |
| ～古代ギリシャ・ローマ政治思想 | ～明治国家の形成 |
| 中世政治思想          | 大正デモクラシー |
| 近代政治思想          | 軍部独裁     |
| 現代政治思想          | 戦後の政治    |
| B 政治の仕組み        | D 国際政治   |
| ～議会             | ～国際連合    |
| 内 閣             | N G O    |
| 地方自治            | 国際関係     |
| 官僚制             |          |
| 政党              |          |
| 選挙              |          |
| 世 論             |          |

#### 成績評価の方法

将来教職を希望する人間が、教室に足を運ばないのはもってのほかです。単位の認定にあたっては、出席を特に重視します。正当な理由があって欠席する場合（実習・研修など）には、かならず届けを提出してください。

成績については

出席：50% 中間試験：20% 学年末試験：30%

以上の割合で評価します。

なお、追・再試験も実施します。

#### 教 科 書

大塚桂編『政治学へのいざない』成文堂 価格未定

#### 参 考 書 等

大塚桂『政治学原論序説』勁草書房 3,296円

大塚桂『政治哲学入門』法律文化社 2,900円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日本宗教文化史	お 小 川 とし 順 お 小 川 とし 順 お 小 川 とし 順 お 小 川 とし 順	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本の他界観、生死観の変遷を考える。  
われわれの文化は（われわれの文化ばかりではありませんが）自分たちが生きているこの世界の他に、もう一つ別の世界や空間を創り出してきました。そして、それはわれわれに、いかに生きいかに死ぬかという問題を考えさせる文化装置として機能してきたと言えます。（現代社会においても、他界のイメージこそ異なるでしょうが、それは一定の役割を果たしていると言えるでしょう。）

ここでは、日本の伝統的な他界や仏教もたらした他界のイメージが、生と死の文化装置として、どの様に具体化されてきたのか、すなわち他界という見えない世界がどのように表現され演出されてきたのかを考えてみることにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

最初に他界観の前提としての日本人の靈魂観について述べ、「生と死」をわれわれがどのように考えてきたのかを整理しておきたいと思います。その上で、様々な「他界」について紹介・検討して行きたいと思います。

山中他界や海上他界、あるいは浄土や地獄がどのように実現されているのか。様々な聖地や、民俗行事（祭礼や儀礼）、寺院行事、また物語、芸能などを題材（ビデオ等使用する予定）として、この世では見えないはずの他界が、この世でどのように表現されてきたのか、そしてこの世と他界がどのように結ばれているかを見て行きたいと思います。

成績評価の方法

成績は年度末のレポートその他で評価することにした。

教科書

教科書は用いない。なお授業の内容にそって資料を配布する。

参考書等

参考書は用いない。そのつど紹介することにした。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民衆宗教成立史	つ 津    しる 城    ひる 寛    ふみ 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

深層文化論と宗教学の接点にたつて、民間信仰、民俗宗教、民衆宗教などの成立と基盤とを扱います。大伝統に対する小伝統、エリートに対する民衆、イデオロギーに対する非イデオロギー的な習慣習俗などに焦点を当てて、われわれの文化や社会や心の深層にある、民衆的な宗教性を浮き彫りにしたいと思います。

講義の内容・  
授業スケジュール

主要テーマは下記の4つであり、前期は深層文化論を軸に、後期は民衆宗教論を軸に、講義を進めます。

前期

- ①深層文化論の整理
- ②深層文化と宗教研究

後期

- ③民俗主義的な深層文化
- ④新宗教の発生と展開

履修上の留意点

とくにありませんが、私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行います。

教 科 書

教科書は用いません。

参 考 書 等

参考書としては、深層文化論に関しては、拙著『日本の深層文化序説——三つの深層と宗教』（玉川大学出版部、1995年）を用います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 学 概 説	あらい 洗 けん 建	教 職 教 科	4

講義のねらい

実証的研究としての宗教学の立場から、我々現代日本人とのかかわりを念頭に置いて、世界の諸宗教について概説し、宗教を理解することがあらゆる人間の営み（諸文化、諸学問）を理解することといかに深くかかわっているかを明らかにする。

この教科は教職科目であるので、できれば近代と宗教、憲法理念と宗教の問題にも言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

宗教学の性格、原始宗教、民族宗教、仏教、キリスト教、イスラーム教、神道、新宗教運動、近代化、世俗化、信教の自由、政教分離などの諸問題について考える。

履修上の留意点

できるだけ出席し、事実を覚えることより、宗教学のものの見方を理解して貰いたい。したがって、原則として出席をとる。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教科書

特に指定しないが、水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）を持っていれば、参照すること。

参考書等

随時、紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 学 概 説	つ 津 しろ 城 ひろ 寛 ふみ 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

世界宗教史と日本宗教史を軸にして、原始宗教・古代宗教から現代の宗教現象まで、宗教としての共通点と、それぞれに固有の特性が明らかになるような講義にしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

前期は世界宗教を軸に、後期は日本宗教史を軸に、講義を進めます。日本宗教史は概説ではなく、仏教関係の話題も重複のないように省き、興味深い話題に焦点をあてた各論にします。おおまかなスケジュールは次のとおりです。

前期

比較宗教学の前提、呪術と宗教、アニミズム・シャーマニズム、原始宗教・古代宗教、ヒンドゥー教と仏教、ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教、世界の新宗教運動

後期

固有信仰、神と仏、宗教者の群像、近代化の中の宗教、宗教と国家、宗教と教育

履修上の留意点

とくにありませんが、私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行ないます。

教科書

教科書は用いません。

参考書等

参考書はその都度紹介します。

その他

数回ビデオを用います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 学 概 説	まつ だ ぶん ゆう 松 田 文 雄	教 職 教 科	4

講義のねらい

人間社会にはさまざまな宗教があるが、それらの宗教には“宗教的な”といわれる営為がある。前半にはそれらについて、宗教学的な研究方法で検討する。後半には日本仏教に焦点を絞り講義する。

講義の内容・授業スケジュール

- 凡そ次のような順序で講義をすすめる。
- 1) 人間生活と文化（宗教）、宗教起源論、宗教現象の諸相、宗教の類型等
  - 2) 宗教儀礼、宗教と呪術、修行、回心、神秘主義等
  - 3) 日本仏教、当分の間、鎌倉期に焦点を合せて、いわゆる鎌倉新仏教といわれる浄土宗、浄土真宗、時宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗について考察する。

履修上の留意点

受講し、ノートを取ることを。

成績評価の方法

定期試験の成果と受講の度合い（出欠）によって評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
哲 学 概 説	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教 職 教 科	4

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。—哲学を学ぶ以前にこのような問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい—そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学の誕生を著した『新理学』の学説を紹介する。

成績評価の方法

- 次のものを材料にして成績をつける。
1. 試験あるいはレポート
  2. 平常の受講態度（年数回抜き打ちの理解調査を行う）
  3. 受講をこえる積極的な学習（任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する）

教科書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新理学』（ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものをプリントして配布する。中文版については授業中に解説する）

参考書等

馮友蘭『哲学回憶録』（吾妻重二訳、『みすず』275号～284号）／柿村峻・吾妻重二訳『中間哲学史』 富山房／島田虎次『新儒家哲学について』 同朋舎

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
哲 学 概 説	やま ぐち まさ ひろ 山 口 祐 弘	教 職 教 科	4

講義のねらい

「汝自信を知れ」とはソクラテス以来哲学の普遍的な課題となってきた勸めである。それを考えることは、ひとり「私」を対象とするだけでなく、人間、世界、神を考えることに通じる。その考察範囲は、人間の知と行為、科学、道徳、芸術、宗教に及ぶ。これらは、私が生まれ、生き、死ぬ歴史的世界に包摂される。哲学はこうした世界についての理解、世界観となる。本講は、このような視野において、哲学の原始的な問いから発し全体的世界観に達する先人の思索の跡を辿りながら、「哲学とは何か」を理解することを目的とする。講義はテキストに即して進めるので、必ず持参すること。単位認定は小論文によって行う。

教 科 書

西田幾多郎『自覚について』、『西田幾多郎哲学学論集Ⅲ』 岩波文庫

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
倫 理 学 概 説	く ぼ よう いち 久 保 陽 一	教 職 教 科	4

講義のねらい

古代から現代にいたる倫理学の主な学説を学び、現代社会における人間の生き方の手掛かりを得ることをめざす。現代はしばしば「ポスト・モダン」の時代だと云われる。それは、近代の科学技術文明や社会制度が様々な問題を露呈し、その解決が求められているからだろう。けだし近代では、それまで結びついてきた経済と政治、政治と宗教、個人と社会、人間と自然、学問（真）と道徳（善）と芸術（美）とが相互に分裂し、それぞれ独立の権限を主張するようになる一方、その前提から新たな総合が求められてもいる。けれども、いまだ—— かつこの宗教や国家に代る—— 有効な統合原理は見出されえないでおり、そのため種々の混乱が生じている。そこで本講義では、近代の倫理学説を、一方で古代・中世の倫理学説との連関で取り上げると共に、他方で現代の倫理学説との連関で、批判的に考察することにする。

講義の内容・授業スケジュール

近代の倫理学 —— 快樂主義、功利主義、社会契約と人権の思想、理性主義、カント等。  
現代の倫理学 —— ヘーゲル、マルクス、ニーチェ、ハイデガー、ハーバーマス等。

履修上の留意点

講義に対する積極的な取組みが受講の要件であり、そのために一年間で少くとも古典を一冊読了するようにすること。

成績評価の方法

成績は、中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教 科 書

テキストについては開講時に指示する。

参 考 書 等

読むべき古典を含め、参考書等は授業中に紹介する。

## 【職業】

科目名	担当者名	配当学年	単位
産業概説	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

### 講義のねらい

授業は'85(昭和60)年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

### 講義の内容・授業スケジュール

(総論) バブル経済と平成不況  
(各論) 非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、  
なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。

### 履修上の留意点

できるならば、日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

### 成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。

### 教科書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』日本経済新聞社 1,500円

### 参考書等

参考書等は授業の際に提示します。

### その他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科目名	担当者名	配当学年	単位
職業指導	やま だ ゆう じ 山 田 勇 治	教職教科	4

### 講義のねらい

職業指導(進路指導)は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容にするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。

### 講義の内容・授業スケジュール

前期は、職業指導の基礎的概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点を考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明したいと考えています。

### 履修上の留意点

受講する学生は、積極的に問題意識をもって教育問題を考えるようにしてほしい。

### 成績評価の方法

授業中における課題などの提出や出席状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価します。

### 教科書

開講時に指示。

### 参考書等

有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』福村出版 ¥2,000  
寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』中央法規出版 ¥2,500  
仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編著『進路指導論』福村出版 ¥2,300

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 実 習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 教 科	4

講義のねらい

国内よりも対外企業との商品取引の実務について授業を進めていきます。

講義の内容・  
授業スケジュール

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1. 輸出実務の概要       | 10. 為替の予約   |
| 2. 取引関係の創設       | 11. 海上保険契約  |
| 3. 取引条件の取決め      | 12. 輸出検査と包装 |
| 4. 売買条件の取決めと契約成立 | 13. 輸出通関    |
| 5. 輸出信用状の照合      | 14. 船積み     |
| 6. 約定品の調達        | 15. 船積書類    |
| 7. 輸出保険          | 16. 輸出決済    |
| 8. 輸出承認と認証の取付け   | 17. 貿易クレーム  |
| 9. 運送契約の締結       |             |

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

石田貞夫『貿易取引の実務』 教出版  
 波谷源蔵『貿易実務』 同文館  
 藤田栄一『貿易取引の英語』 勁草書房

【商 業】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
職 業 指 導	やま だ ゆう じ 山 田 勇 治	教 職 教 科	4

(P.教 53) 参照





## II 学校図書館司書教諭講座



# 必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学Ⅰ	やま だ せつ こ 山 田 節 子	図書(司)2・3必	4

## 講義のねらい

人格形成期にある児童・生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるために学校図書館は大切な場である。学ぶこと識ることの楽しさを体験する学校図書館の管理運営と指導面を担当する司書教諭の職務内容、またその責務及資質の向上を自覚し、自らもよき読書人として成長させ、情報化社会に即した情報整理の基本的技能を育成する。

## 講義の内容・授業スケジュール

学校図書館通論

- ①図書館学序論 図書館学とは何か 図書館の歴史 図書館の種類と特色
- ②学校教育に於ける学校図書館の意義・役割
- ③学校図書館の経営 経営の原則・性格、司書教諭の職務内容と学校の運営組織 児童・生徒図書委員の指導 施設と設備
- ④学校図書館の管理と運用 意義と目的 児童・生徒・教職員に対するサービス 地域社会に対するサービス
- ⑤資料の選択 学校図書館の資料の意義と種類 資料の選択と収集 蔵書構成と維持及び留意点
- ⑥図書以外資料の整理 図書以外資料の種類と特性 教育メディアとしての活用
- ⑦児童・生徒の読書活動 意義と目的 児童・生徒の読書能力と興味の発達段階 読書指導の内容 読書活動の種類と技法 指導計画と方法 読書活動の評価と改善
- ⑧利用指導の内容 各種資料の利用指導 教科学習と利用指導 特別教育活動と利用指導 利用指導の計画と立案・留意点 情報の種類と整理の技法 評価の改善

## 成績評価の方法

テストと小論文による

## 教科書

図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』学芸図書出版株式会社

## 参考書等

全国学校図書館協議会 北嶋武彦監修『学校図書館の利用指導』東京書籍

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学Ⅱ	みなもと しょう きゅう 源 昌 久	図書(司)3・4必	4

## 講義のねらい

本講義は、主として前期には資料分類法、後期には資料目録法を修得することを目的とする。演習を随時、実施する。

## 講義の内容・授業スケジュール

- 〈前期〉Ⅰ分類の概念的フレーム・ワーク、Ⅱ日本十進分類法(NDC)の解説、Ⅲデューイ十進分類法(DDC)の解説、Ⅳその他の分類法の解説、Ⅴ分類とコンピュータ。
- 〈後期〉Ⅰ目録の概念的フレーム・ワーク、Ⅱ日本目録規則(NCR)1987年版改訂版の解説、Ⅲ英米目録規則(AACR 2)の解説、Ⅳ目録とコンピュータ。

## 履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

## 成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

## 教科書

- 〈前期〉『日本十進分類法 改訂9版』日本図書館協会 セット定価6,000円  
 〈後期〉『日本目録規則 1987年版 改訂版』日本図書館協会 3,500円

## 参考書等

講義中に指示する。

## その他

必要に応じて、ビデオを利用する。



### Ⅲ 社会教育主事講座



# (1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会教育計画	酒 匂 一 雄	社教主事2必	4

## 講義のねらい

いま市町村など自治体では地域特性や住民の生活課題にきめ細かく対応した生涯学習施策とその計画化がもとめられ、またカルチャーセンターなど民間の生涯学習施設でも市民の学習文化需要に対応した事業計画がもとめられている。この講義では、自治体での生涯学習計画の策定を中心に、なるべく具体例をまじえ、ひろく生涯学習の方法、事業計画などの理論と方法の理解を深められるようにしたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

- (1)生涯学習の方法と計画の今日的課題 ①生涯学習論の展開 ②生涯学習施設の動向など
- (2)住民の課題と生涯学習計画 ①子どもの発達課題と生涯学習 ②青年の特性と生涯学習 ③高齢化社会と生涯学習など
- (3)生涯学習の方法と事業の計画・運営 ①戦後の学習方法の展開 ②学習事業の内容編成など
- (4)生涯学習と条件整備 ①住民の学習構造と施設計画 ②文化活動と条件整備など
- (5)地域生涯学習計画の策定 ①生涯学習計画策定の視点と方法 ②計画と社会調査など
- (6)生涯学習計画と社会教育計画 ①生涯学習時代の社会教育計画 ②社会教育計画と行財政
- (7)学習権の思想と社会教育計画の課題 ①社会同和教育 ②福祉と学習 ③地域づくりと学習

## 成績評価の方法

前期・後期の試験の成績によって評価する。

## 教科書

酒匂一雄・村山輝吉他編著『生涯学習の方法と計画』国土社 ¥2,718+税

## 参考書等

参考文献は授業のなかで紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
生涯学習概論	豊 田 千 代 子	社教主事2必	4

## 講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という視点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の視点からの教育の見直しが課題となっている。

授業では、主にわが国の生涯学習政策についての概要を把握し、その検討を通して、今日求められる学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えていきたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念  
(ユネスコの生涯教育論)
- ・生涯教育・生涯学習の国際的動向
- ・わが国における生涯学習政策
  - ・臨教審答申-「生涯学習体系化」への動き
  - ・国レベルの政策-「生涯学習振興整備法」の制定とその後の動き
  - ・地方自治体における生涯学習政策の展開
- ・生涯学習と学校計画
- ・生涯学習と社会教育
  - ・社会教育の概要(定義・社会教育施設・学習方法・形態など)
  - ・成人教育としての社会教育

## 成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

## 教科書

碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』学文社 2,000円

## 参考書等

適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会教育実習	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子	社教主事3必	4

講義の内容・  
授業スケジュール

事前指導——社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、グループで報告する。  
訪問指導——実習先訪問指導。  
事後指導——実習をとおして学んだこと・疑問に思ったことなどについて報告する。

教 科 書

小林文人編『公民館の再発見——その新しい実践』国土社

参 考 書 等

社会教育推進全国協議会編『新版 社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所

そ の 他

適宜、公民館などの施設見学を行なう。



## (2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会教育行政	ひがし 東 とし 寿 たか 隆	社教主事2・3・4選	4

### 講義のねらい

憲法・教育基本法体制に沿った社会教育行政の本質について具体例を示しながら説明する。戦前・戦後の社会教育行政の歴史・社会教育法の成立の頃の実情、その後の社会教育行政の発展の状況・生涯学習行政の現情などを通して社会教育行政とは何かについて、社会教育主事などになった時に役に立つような内容を明らかにしたい。  
授業外に社会教育施設などに赴いてボランティア活動を積極的にやって欲しい。

### 教科書

島田修一編『生涯学習のあらたな地平』 国土社 2,800円  
月刊社会教育編集部編『生涯学習時代の社会教育をつくる』 国土社 2,000円

### 参考書等

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』 エイデル研究所 3,800円

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会教育施設	さ 酒 こう 匂 かず 一 お 雄	社教主事2・3・4選	4

### 講義のねらい

いま「生涯学習時代」を迎え、公民館、図書館、博物館などの社会教育施設だけでなく、保健所、福祉施設など他部局の施設でも学習活動がおこなわれ、カルチュアセンターなど民間の教育文化施設もふえてきている。この講義では、社会教育施設を中心に、ひろく住民の学習・文化活動に関連する施設の現状、特性、役割を住民の学習・文化活動との関連で考察したい。

### 講義の内容・授業スケジュール

- (1)前期は以下の内容の講義をする。
- 1) 社会教育施設 ①社会教育施設のあらまし ②公民館 ③図書館 ④博物館  
⑤広域社会教育施設 ⑥青少年施設と婦人会館
  - 2) 社会教育と学校 ①学校開放 ②公開講座
  - 3) 他部局の施設 ①児童館・学童保育 ②保健所と健康学習  
③高齢者福祉と地域施設など
  - 4) 民間教育文化施設 ①カルチュアセンター ②テーマパーク  
③農協・生協など民間施設
  - 5) 生涯学習関連施設①生涯学習情報センターなど
- (2)夏休みに、受講学生で分担して、学習・文化施設を訪問・調査。  
(3)後期は学生による訪問・調査の報告を中心に、討議と講義

### 成績評価の方法

夏休みの訪問・調査の ①後期授業での報告と ②報告後の提出レポートによって評価。

### 教科書

講義では毎回、資料を配付する。

### 参考書等

参考文献は授業のなかで紹介する。

### その他

受講学生はなるべく「社会教育計画」も履修してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
成 人 学 習 論	ひかし 東 とし 寿 たか 隆	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

成人が学習をすることによって発達することを各地の社会教育の事例を通して明らかにする。はじめに社会教育の本質について語り、公民館・図書館・博物館などの社会教育施設等で行う学習活動の事例について、さらに地域づくりについて、また国際問題などの実践について学習させたい。  
授業外に社会教育施設などのボランティア活動を積極的に行うことをすすめる。

教 科 書

月刊社会教育 編集部編『市民が創る生涯学習計画』 2,000円  
福尾武彦編著『現代を生きる学び』 民衆社 2,800円

参 考 書 等

酒匂一男・千野陽一・那須野隆一・村山輝吉・谷貝忍共編著『生涯学習の方法と計画』 国土社 2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
女 性 と 学 習	や くち えつ こ 矢 口 悦 子	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

そもそも女性問題（婦人問題）とは何か、ということ、女性学の成果等に学びながら明らかにする。そのうえで、社会教育の場で当問題がどのような位置付けを与えられてきたのか、現在の実践はどのように展開されているのかを述べる。このことを通じて女性問題解決にむけての社会教育実践の方法を明らかにすることが、講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

講義は大きく二部から構成される。一部では、女性問題を様々な角度から捉え、その本質に迫る作業をする。ジェンダー、ライフスタイル、ファミリー、性、職業、主婦などの鍵概念を提示し、理論を紹介すると共に、受講者との意見交換の場を常に用意したいと考えている。  
二部では、社会教育の歴史のなかで女性問題がどのような位置にあったのかを述べるところから始め、世界的潮流の中にあって現在どのような実践が展開されているのかを明らかにしたい。さらに、今後にむけての課題を明確にし、その解決にむけた方法論を一緒に考えてみたい。

履修上の留意点

夏休みを利用してレポートを作成してもらう予定。後期にはそれを発表して皆からのコメントをもらう場を用意する。

成績評価の方法

レポート、発表、コメントのとりまとめを一連の課題とし、これら全体から判断して評価を出す予定。

教 科 書

教科書などは特に用いない。必要な資料は授業時に配布する。参考文献も授業の中で進行に合わせて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
企業内教育・職業訓練	しお かわ まさと 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会と経済の基盤を支える「企業」の生きてる姿を学び、卒業後の正しい進路選択をする。そのため毎回の授業は

1. 導入講義のあとは、対話と討論の授業とする。
2. 大学生生活の「目標」明確にし、それを達成状況を確認しあう授業とする。
3. 卒業後の進路決定に直接役立つ授業とする。
4. 企業と社会の現実をつかむ授業とする。
5. 毎回、自己と対話し自己創造を積み上げる授業とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

担当講師は、日本能率協会の経営コンサルタント。200社を超える各種企業の経営指導を担当してきている。講義内容は企業の指導で行う教育とコンサルティングの理論・技法を紹介しつつ、学生生活の「革新」を指導する。その骨子は

- 「考える授業」を行う
  - ・大学生生活の過ごし方を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
  - ・卒業後の進む道を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
- 「表現する授業」を行う
  - ・毎回、講師と学生、学生と学生による対話と討論を行なう。
  - ・自己表現の各種技法を習得し、就職試験などでの対応策を授業の中で体得する。
- 「実行する授業」を行う
  - ・授業で体得した内容を、大学生生活全般に活用する。
  - ・卒業後の進路開拓に活用する。

履修上の留意点

- ・本授業は三年生のための卒業後の進路開拓の支援を目指す授業です。授業の後半から就職準備が始まります。授業内容はそのまま就職への準備行動として展開します。
- ・必ず配布資料があります。討議のまとめもコピーします。各自ファイルを準備して下さい。

成績評価の方法

毎回の授業への参加内容を重視し併せて筆記試験も行います。

教 科 書

なし。

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会体育Ⅰ (前期)	ふる た じゅん こ 古 田 潤 子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

満ちて輝く心とからだ  
他者とひびき合う豊かな関係  
自然の原理に沿った動きで、ゆるやかに心とからだを開き、からだの中の自然に気づき、自らの意思で、今を生きる確かさと自信を体得していきます。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期では、自分自身のからだを拓いていくことを主眼とします。具体的には、動きの基本となる三要素 (1) 余分な緊張を取り去る。(2) その時々姿勢におけるからだの最下部に全体重を任せ切る。(3) 動きに最適な自然な呼吸。を目安とし、からだの感覚を手がかりに自己能力を発掘し、可能性を追求します。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業 (レポートも含む)

参考書等

野口三千三著『原初生命体としての人間』三笠書房  
野口三千三著『野口体操からだに貞く』柏樹社  
野口三千三著『野口体操重さに貞く』柏樹社  
池田潤子執筆 雑誌『ひと』からだのレッスン 太郎次郎社  
『自然なからだのあり方を考える【円筒エリア】の発見と意義』  
古田潤子執筆 『駒沢大学教育学研究論集第13号』1997年

その他

授業は実技を主に行います。

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会体育Ⅱ (後期)	ふる た じゅん こ 古 田 潤 子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

後期では、他者との関係を豊かに拓いていくことを主眼とします。  
環境の変化に応じて、的確に落ち着いて対処できる心とからだを、自らの力でとらえ育て自信を身に付けます。屋内、屋外のいろいろな場所での体験実習も考えています。  
また、海外でのワークショップにおける豊富な経験をもとに様々な遊び道具の製作や、それを使った楽しい遊びも加味します。同時に日本人と外国人の考え方、感じ方、環境の変化に対する即応の仕方の違いなどについても一緒に研究をしていきます。

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学 I	山田節子	社教主事2・3・4選	4

(P. 59) 参照

科目名	配当学年	単位
教育原理	社教主事2・3・4選	4

(P. 1) 参照

科目名	配当学年	単位
教育心理学 (教育方法論を含む)	社教主事2・3・4選	4

(P. 3) 参照

科目名	配当学年	単位
青年心理学 (教育方法論を含む)	社教主事2・3・4選	4

(P. 5) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
視聴覚教育	飯森彬彦	社教主事2・3・4選	4

(P. 75) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育社会学	熊谷一乘	社教主事2・3・4選	4

(P. 27) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育史	きたむらみつこ 北村三子	社教主事2・3・4選	4

(P.27) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育調査	すずきのりお 鈴木規夫	社教主事2・3・4選	4

(P.28) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
児童文化	かかわよししげ 香川良成	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』東京書籍、菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』大月書店

その他

現在行われている演劇教育（“劇あそび”その他）の様態や実際の舞台をビデオで観たり、実際観劇するというのも行いたいと思っています。

科目名	担当者名	配当学年	単位
現代社会の諸問題と教育	くまがいかずのり 熊谷一乘	社教主事2・3・4選	4

(P.29) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
青少年問題研究	讃岐真佐子	社教主事2・3・4選	4

(P.30) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
青少年指導演習	平野まなぶ学	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていきたい。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりである。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達観の観点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. 講師自身の援助例(不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング)の提示と討議。(2回)
5. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験(ボンティア活動他)の報告と討議。(5回)
6. 1年間をまとめる意味で、河合隼雄氏等の文献のいくつかを輪読(分担発表)すると共に自由討議を行う。特にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(2回)
7. その他(全体の振り返り他)。(3回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行なうので安易な受講は避けてほしい。)  
尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、少し記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート(年間授業を振り返る形でのもの)、夏休みレポート(体験報告または読書感想)、平常点(出席等)の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る(上・下)』創元社 各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える(上・下)』創元社 各1,300円  
同 『大人になることのむずかしさ』岩波書店 1,240円  
同 『ユング心理学と仏教』岩波書店 1,800円  
他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTRやテープ等も多く使用して、具体的に学べるようにしたい。授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお たく しみこ 太 田 喜美子	社教主事2・3・4選	2

(P.76) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	社教主事2・3・4選	2

(P.76) 参照



# IV 博 物 館 学 講 座



# (1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
視聴覚教育	飯 森 彬 彦 <small>いい もり あき ひこ</small>	学芸員2・3必	4

## 講義のねらい

視聴覚教育の背後にある基本的な考え方を理解する。  
個々の視聴覚教材の基礎的な技法（教材の制作、利用の両面）を習得する。  
変動する社会に即応し、メディアを活用する態度と能力を養う。

## 講義の内容・授業スケジュール

視聴覚教育の歴史とその思想的背景  
コミュニケーションの理論と視聴覚教育  
視聴覚教材の制作と利用  
情報化社会における視聴覚教育  
生涯学習時代とメディア  
以上のような内容を各4～6回程度講義する予定

## 履修上の留意点

年に2回程度課題を出し、作品の提出を求める。作品製作に要する経費の負担をあらかじめ予定しておくこと。（OHPシート代、マーカー代、35ミリフィルム代、現像代など）

## 成績評価の方法

提出作品と試験の成績に出席状況を加味して評価する。

## 教科書

使用しない。

## 参考書等

浅野孝夫・堀江固功編著『新視聴覚教育』 日本放送教育協会  
秋山隆志郎・岩崎三郎編著『視聴覚教育』 樹村房  
野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開』 東信堂  
赤堀正宣・佐賀啓・中野照美編著『メディアと教育』 小林書房

## その他

ビデオや写真などを多用して講義する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
考古発掘実習	酒 井 清 治 <small>さか い きよ じ</small>	学芸員3・4必	2

## 講義のねらい

発掘技術の習得を目的とする。

## 講義の内容・授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

## 履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが例年である。従って履修者は、博物館実習との関係等をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後には計画を作ること。

授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席・遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。

## 成績評価の方法

成績評価は平常点。

## 教科書

『考古学調査ハンドブックス1 野外編』（1984年）雄山閣 2,800円

科目名	担当者名	配当学年	単位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお たく きみこ 太 田 喜美子	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館学芸員課程の必修科目である博物館法施行規則では、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（竹内講師）、各2単位」も履修していただかないと役に立たないので注意を要する。この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、竹内順一講師に講義していただいている。竹内講師は、同じ世田谷区内の五島美術館の現役の学芸部長であられ、非常に厳しくご指導いただいているので、欠席しないようがんばってほしい。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒沢大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に來ても、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意しておいてほしい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、数回教室に出席してもらうことにしている。したがって、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に來てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

その他

学芸員資格を取得しようとしていながら、途中で、棄権する（あるいはせざるえないという）場合、社会教育主事に切り換えることは比較的易しいので、これまた相談されたい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館資料の収集、整理保管、展示などについて、理論や実践方法に関する知識と技術の習得をめざす。またあわせてこれらの基礎として必要な博物館資料の調査研究活動の意義と方法について理深を深める。

講義の内容・授業スケジュール

収集活動は、博物館事業の出発点となる重要なものであるが、博物館の設立趣旨や経緯に基づき一定の制限があるものである。この制限下の収集が、結果として博物館の諸事業の個性化をもたらし、特色ある博物館像をつくりあげる。博物館のコレクションを論ずることによって、その博物館の特色を考える。また、具体的な収集手順について、学芸員の収集候補資料の調査からはじまり、収集委員会や買取評価委員会などの開催に至る制度上の手順と問題点を明らかにする。さらには、買取以外の寄贈・委託・交換・採取といった収集方法についても考える。

整理保管は、学芸員の職務として位置づけられているが、欧米ではレジストラと称する専門職が司る。この欧米との制度上の比較を行いつつ、資料の管理と登録の実際面を考察する。とくに収蔵庫内の静的な管理と展示や搬出搬入に関わる動的な管理との差異の理解を深め、同時にこの両者に共通する保存化学の基礎知識にふれる。

展示は特別展の開催に至る手順を、開催趣旨（テーマ）の決定から、出品リスト作成・出陳交渉・集荷・会場設営等をマニュアルとして把握する。研究は、文献主義ではなく、学芸員独自の「モノ主義」の立場を知る。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参考書等

参考書は授業中に指示する。

その他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博物館学Ⅲ（経営論・情報論） （後 期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	学 芸 員 2 必	2

講義のねらい

博物館経営および博物館における教育普及活動について理解を図る。また博物館における情報の意義と、その活用方法について理解を図る。

講義の内容・  
授業スケジュール

博物館の運営を行政と財政の二つの側面から考察する。とくに国立の博物館と私立博物館の比較系統を加える。また近年注目されている「博物館経営（ミュージアム・マネージメント）」についても理論と実際例を紹介し、他の芸術経営との相異と共通点を明らかにする。博物館の運営は、そこに勤務する職員の能力（知恵）と、施設や設備と不可分な関係にある。いわばソフトとハードの両面から博物館の運営を考え、あわせて将来のあるべき姿としての専門職員の分業制についても論ずる。

教育普及活動は、昨今必要性があらためて認識されているが、その活動範囲はきわめて広く、展示品説明（列品解説・ギャラリートーク）、ワークショップ、各種普及講座など入館者を前にして行なうものと、作品解説ラベル（題箋）、パネル板、図録作成など文章を中心とする活動の二種に大別される。この両者に共通する要諦は「わかりやすさ」であり、事例研究を通してこれを明らかにする。

博物館の対外活動は、「情報の発信」とみなすことができる。これを広義の情報提供とすれば、個々の博物館資料に関する知見は、狭義の情報である。この両者を考察しつつ、狭義の情報提供と活用方法を各種のメディア機器の特色とともに考える。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更に留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参 考 書 等

参考書は授業中に指示する。

そ の 他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博 物 館 実 習 I ( 館 務 )	飯島 武次・太田喜美子 酒井 清治	学 芸 員 3・4 必	2

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、明年の最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来20数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

この洗礼に対応して下さるお陰だと思いが、本学卒業生の学芸員就職率は、都内大学で、断然高く、また、学芸員としても、非常に高く評価されている。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生といっしょに行うため、他流試合的な趣きももっているの、日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけない。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしやるので、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行う館が80%を占めるが、別の時期に行う館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締切りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ」・「博物館学ⅡまたはⅢ」・「博物館実習Ⅲ（見学）」に先だて、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ（館務）」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ」・「博物館学ⅡまたはⅢ」あるいは「博物館実習Ⅲ（見学）」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博 物 館 実 習 II ( 収 集 )	酒井 清治・太田喜美子・國見 徹 久保田昌希・佐々木 真・佐藤 元英 所 理喜夫・廣瀬 良弘	学 芸 員 3・4 必	2

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならない面と、個性を殺さなければならない面がある。「博物館実習Ⅱ（収集）」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ（収集）」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきついようである。この実習は、必ず合宿して実施しているので、共同生活を知らうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を口指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思いこんでしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなのかもしれない。そうした場合には、どんどん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ（館務）」・「Ⅱ（収集）」・「Ⅲ（見学）」の3つが必修であるが、「Ⅱ（収集）」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ（収集）」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
博 物 館 実 習 Ⅲ ( 見 学 )	酒井 清治・太田喜美子 まつもと 信道	学 芸 員 2・3 必	2

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3年次で行う、「Ⅰ（館務）」と「Ⅱ（収集）」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あふれてしまう人ができないように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA～Cの3組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになると、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

本学の学芸員課程が厳しい、とよく言われるが、学芸員という、貴重な文化財を扱う仕事の養成課程なのであるから、厳し過ぎるなどとは思わないようにしてほしい。それだからこそ本学出身の学芸員が高い評価を受けているのであるから。

科 目 名	配 当 学 年	単 位
教 育 原 理	学 芸 員 2 必	4

(P.教1) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 涯 学 習 概 論	とよ だ ちよこ 豊 田 千代子	学 芸 員 2・3 必	4

(P.教63) 参照

## (2) 選択必修科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
インド仏教文化史	な ら やす あき 奈 良 康 明	学芸員2・3・4選	4

### 講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたインドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教理が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに平成8年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

### 講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。  
「仏教」をどうとらえるか  
「文化」とは何か；  
仏教（宗教）の二つのレベル；「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）  
仏教文化の「表層」と「基層」  
仏教文化研究の方法論；M.Spiro, M.Ames、他
2. 古代インドにおける仏教文化とインドゥー文化。  
民族宗教としてのインドゥー教（世界）  
インドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマカースト・ヴァルナ制度と仏教  
古代インドの仏教徒とインドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。  
古代インドにおける業・輪廻思想の成立  
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）  
一般的業論の「自覚的業論」への昇華  
懺悔の思想と実践  
業と果報の関係  
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。  
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）  
「作功德→生天」の図式的倫理的・宗教的意味  
功德観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華  
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）  
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念  
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。  
インドゥー教におけるプレータと祖霊祭  
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼  
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼  
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味  
テラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼  
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

今年度は中国人であるなら誰でも知っている年中行事の——を中心に、中国の仏教者、特に禅僧が、それらの風俗をどのように捉えていったかを考える。

言うまでもなく、「風俗」の大半は仏教が創出したものではない。むしろ「出家者」は、民間の行事とは無縁な存在であるべきであった。しかし叢林運営・教育という現実、必ずしも理念通りであるわけではない。教育者たる禅僧・住持は、理想と現実のハザ間で、彼我をいかに弁別するかに苦心のあとを見せる。中国の歳時記を見つつ、行事の内容を具体的に考え、またそれに対する禅僧の発言を『如浄録』『虚堂録』を中心に紹介していく。

講義の内容・授業スケジュール

年初から年末まで、中国の主たる年中行事を追いながら、仏教者がどのように対応したかを考える。

参 考 書 等

中村喬『中国の年中行事』平凡社選書  
同氏『続中国の年中行事』同上  
同氏『中国歳時史の研究』朋友書店

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

この授業は、「日本仏教文化史 (Cultural History of Buddhism in Japan)」であるが、私は、「仏教思想」を知らずしては、「仏教文化」を正確に理解することはできないとの立場を取っている。原則的なことをいえば、「仏教思想」に関心をもっている方にむしろ参加して頂きたい。しかも、できれば、講義形式を取りたくないと考えているので、少人数の方がよい。

講義の内容・授業スケジュール

この授業の中心は、昭和12年に文部省より刊行された『国体の本義』を読むことに置く。「思想」的にいえば、本書ほど非仏教的なものはそれほど多くはないと思うが、本書を慎重に読むことによって、我々現在の日本人も、本書に説かれているような考えを、知らず識らずのうちに我が国の「仏教文化」の中核のごとく考えているかを思い知るであろう。しかも、このような考え方が、例えば、吉本隆明・梅原猛・中沢新一『日本人は思想したか』（新潮社、1995年）のごとく、一人前に日本人の「思想」を語ろうとしている出版物にすら歴然とした痕跡を残しているのである。『国体の本義』は、「我が国の文化は、肇国以来の大精神の顕現である。これを豊富にし発展せしめるために外来文化を摂取醇化して来た。」(114頁)という「文化史」観に立つが、土俗信仰温存の立場からいえばかかる史観も成り立ちうるかもしれないが、仏教の「思想」から見ればそうはならないことを丁寧に指摘していきたいと思っている。この授業は、昨年度よりの統講であるが、本年度は、『国体の本義』第二「国史に於ける国体の顕現」より講読する。なお、本年度は、下記の家永三郎博士の著作も教科書として採用するので用意されたい。

履修上の留意点

演習形式を取るの、自分で調べて発表する意欲のないものは決して参加してはならない。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教 科 書

家永三郎『日本文化史』第二版 岩波新書 660円  
『国体の本義』は図書館に多数所蔵されているので借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。

参 考 書 等

参考書は適宜指示する。

そ の 他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禪 美 術	えびね とし お郎 海老根 聡 郎	学芸員2・3・4選	4

講義の内容・  
授業スケジュール

日本の中世の絵画の流れを、それを作りだした禅宗画僧に焦点をしぼり、述べる。関連して、中国の画僧についてもふれる。

主な画僧は以下のとおり。

<中国>智融、牧谿、雪窓

<日本>黙庵、鉄舟、周位、明兆、周文、雪舟など、  
授業は毎回、スライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 美 術	なか しま りょう いち 中 島 亮 一	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

アジアにおける仏教美術の発生、伝播、現状までを、インド・中国（朝鮮も含む）・日本の三ブロックに分け、それぞれの民族・信仰の相関関係を分析し、様式史（図像・技法など）、精神史（信仰思想など）の両面から考察する。

講義の内容・  
授業スケジュール

先ずインドにおける釈尊なきあとの仏塔崇拜から仏像の起源をさぐり、石窟芸術の発生からシルクロードを経て中国での受容、変遷を辿り、中国から日本への直接、間接（朝鮮）の伝来の跡をスライド、資料などで観察する。それぞれの建築・彫刻・絵画・工芸の様式、信仰内容を多角的に考察するとともに、仏教美術衰退の原因も考える。

履修上の留意点

この講義は専門的に進めれば敬遠され、さりとて安易に流せば軽蔑されがちなので、各自自分のレベルに合わせて、予習、復習に努めてほしい。

成績評価の方法

スライド上映の度に感想文を求め、理解度を確認すると共に、平常点として加算する。

教 科 書

佐和隆研編『仏像案内』吉川弘文館 1,900円

参 考 書 等

適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏教民俗学	たに ぐち みつぎ 谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

成立宗教としての仏教が日本社会に受容され、地域社会に定着するには、民間の習俗や信仰と接触し習合する過程があった。したがって仏教と民俗、とりわけ民間信仰とのかかわりを追究することは、日本仏教の諸特徴を明らかにすることになる。仏教民俗学といっても、仏教の視点から民俗を捉えるのか、あるいは民俗の視点から仏教を捉えるのかによって微妙に違ってくるのもたしかである。本講義は、主として民俗学の立場からの考察が中心となる。

講義の内容・授業スケジュール

講義では、各地の具体的な調査事例を紹介しながら、地域社会における寺院の機能に焦点をあて、仏教年中行事、法会（祈祷と供養）、仏教的講集団、仏教の俗信、葬送儀礼、先祖祭祀、墓制などについて考察を行うことにしたい。

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計で行うものとする。

教科書

本義では、教科書は使用しない。参考書は授業の中で必要に応じて紹介するが、この分野の全体を見渡せるものとして『仏教民俗学体系』全8巻（名著出版刊）があるので、図書館で閲覧しておくのが望ましい。

その他

授業は、講義形式で行う。講義に必要な資料等は、できるだけコピーで配布していきたい。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日本民俗学	たに ぐち みつぎ 谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼―出産と子育て―
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教科書

本講義では教科書は使用しない。

参考書等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』吉川弘文館

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
美 術 史 概 説	なか じま りょう いち 中 島 亮 一	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

本来は日本の美術史を編年体で進めたいところであるが、時間の制約もあるので、古代から近代（明治）までの中から、それぞれの時代の代表作、標準作をえらび、その特徴や意図、時代背景など多角的に考察する。この講義が博物館学講座の一環を占めているので、自らの体験や実務も含め、スライドを多用しながら進めたい。

講義の内容・授業スケジュール

日本美術史の古代から近代まで、建築・彫刻・絵画・工芸の中から代表作を選び、重点的にとり上げ、その芸術思潮をとらえる。

成績評価の方法

各時代のテーマの講義の始めか終りにはスライドを上映するが、各自の印象を確実にする意味でも、感想文を書いてもらい、それを平常点として評価に加算する。

教 科 書

久野健他編『美術史<日本>』東京堂出版 2,000円

参 考 書 等

適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現 代 美 術	や の よう こ 矢 野 陽 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

現代美術は難しい、つまらないという声をよく聞くが、確かにルネサンスや印象派の美術に比べ、現代美術の作品は理解しにくいものが多い。しかし、美術作品は、現代のものに限らず、ただ好きなものを眺めていればわかるというものではない。理解するためには、制作された当時の社会背景や、作者の意図などを正確に知る必要がある。現代美術は、現代という時代と、そこに生きている我々のあり方を反映していると言ってよい。したがって、現代美術の考え方や表現技術を理解することは、我々の生活と決して無関係なものではなく、現代社会の問題点を考える手がかりになりうるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

現代美術とは、一般に20世紀の美術を言う。この授業では、めまぐるしい変化をとげながら、新鮮で多様な表現を生み出してきた現代美術の流れをつかみ、それぞれの運動、主張、作品の特徴を理解することを目的とする。20世紀の美術は、それ以前の美術の歴史の継承と断絶であるから、19世紀美術から講義を始めることになる。前期では19世紀中頃（写実主義、印象主義など）から20世紀初頭までを、後期では抽象絵画の誕生以降、1960年代の多様な美術までを見ていく予定である。

履修上の留意点

美術史を学ぶには、実物を見るが大変重要である。展覧会や美術館に積極的に足を運んでほしい。

成績評価の方法

成績は試験および出席状況、授業態度によって評価する。

参 考 書 等

参考図書として、ニコラ・スタンゴス編 宝木範義訳 『20世紀美術』 パルコ出版  
美術出版社編集部編『現代美術入門』美術出版社  
を挙げておく。このほか適宜、授業中に文献を紹介する。

そ の 他

授業では毎回スライドを使用する。また必要な資料はコピーを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 形 学	こ 池 いけ かず ゆき 小 池 一 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く排出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである：  
1. 地形学の成り立ち 2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マズウェスティング、種々の河成地形、組織地形）4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教 科 書

小池一之・坂上寛一ほか著『新版地学教育講座⑨「地表環境の地学——地形と土壌」』東海大学出版会 ￥2,575

参 考 書 等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』東京大学出版会 ￥4,532  
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』東京大学出版会 ￥3,708

そ の 他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
第 四 紀 学	やなぎ だ まこと 柳 田 誠	学芸員3・4選	4

講義のねらい

地球の歴史は46億年という長きに及んでいる。数字で書くと4600000000年である。その長い歴史のうち、最後の180万年間が「第四紀」と呼ばれる地質時代である。第四紀という地質時代は地球の歴史全体のなかでわずかに0.04%の長さしかないが、もっとも重要な時代である。なぜなら第四紀は人類の発展進化の時代である。また、周期的に氷河時代がおとずれるようになり、汎世界的な海面変動が起った。最終氷期には約100mも海面が低下し、縄文時代には逆に数m高い位置に海面があり、関東平野中央部まで海域がひろがっていた。このような最近の地球の歴史をふりかえり、その規則性や変化速度などを知ることによって、第四紀学に基づく将来予測が可能となってくる。この講義では第四紀学の概要を紹介しつつ、最新の話題についても論じる。

講義の内容・授業スケジュール

内容は以下のとおり、1. 第四紀とは、2. 気候変動（氷期と間氷期）、3. 氷河性海面変動、4. 第四紀地殻変動、5. 侵食速度、6. 地形発達、7. 第四紀学に基づく地球環境の将来予測

履修上の留意点

地形学、地球物理学を事前に履修していることが望ましい。

成績評価の方法

レポート等による。十分に専門的知識を備えたと判定された者に対して単位を与える。

そ の 他

授業ではOHP、スライドを多用してわかりやすい内容を目指す。また、プリントも適宜配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
考古学概説Ⅰ 〔日 本〕	さか い きよ し 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本考古学の現状は、細分化された研究が増加している。しかし、細分化された研究を理解する上にも、自ら卒論テーマとして研究する上にも、考古学の基礎無くしては成り立たない。

講義の内容・授業スケジュール

日本考古学の研究史、最新の発掘調査事例を紹介しながら、日本考古学の概説をしたい。

履修上の留意点

欠席、遅刻をしないこと。

成績評価の方法

定期試験と出席で採点。

教科書

授業の中で取り上げる。

参考書等

鈴木公雄『考古学入門』東大出版会  
安藤政雄『考古学キーワード』有斐閣  
江上波夫『考古学ゼミナール』山川出版社

科目名	担当者名	配当学年	単 位
考古学概説Ⅱ 〔外 国〕	いい しま たけ つく 飯 島 武 次	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。

講義の内容・授業スケジュール

時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。

履修上の留意点

欠席・遅刻をしないこと。

成績評価の方法

成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。

参考書等

飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（1985年）山川出版社  
飯島武次『中国新石器文化研究』（1991年）山川出版社  
飯島武次『中国周文化考古学研究』（1997年）同成社

そ の 他

スライドやビデオを多用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 文 化 史 Ⅱ	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを明らかにする。

講義の内容・  
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに⑦以降の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

とくに指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時指示していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
西 洋 文 化 史 Ⅱ	さ さ き まこと 佐々木 真	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

フランス絶対王政期の王権とそれを取り巻くシステムについての講義を行う。近年の絶対王政研究では、国王の権力は単にその法的権限から導き出されたのではなく、宮廷や絵画、様々な儀式などを通じて、文化的に形成されたものであることが指摘されつつある。本講義では、当時の国王がどのようにイメージされていたのか、また国王はどのような装置を通じて、いかなる自己イメージを確立しようとしたのかを具体的に述べてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. 同時代人たちの王権論（主権論、王権神授説など）
2. 王権を取り巻く儀式（成聖式、入城式、葬式）
3. 国王と宮廷
4. 戦争と国王

履修上の留意点

授業中に紹介する文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加算して判定する。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書等

参考文献は、授業中に随時紹介するが、主要なものとしては以下のようなものがある。

ノルベルト・エリアス『宮廷社会』法政大学出版局  
 エルンスト・カントーロヴィチ『王の二つの身体』平凡社  
 ジャン＝マリ・アポストリデス『機械としての王』みすず書房  
 同『犠牲に供された君主』平凡社  
 ロイ・ストロング『ルネサンスの祝祭』平凡社  
 フィリップ・ポーサン『ヴェルサイユの詩学』平凡社

その他

授業は講義形式で行う。



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
考 古 学 特 講 I	たか はま しゅう 高 浜 秀	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

ハンガリーから中国の北にかけて広がるユーラシア北方草原（ステップ）地帯では、古来牧畜を主な生業とする人々が暮らしていた。ここでは農耕に依存する定住民の文化とは異なった文化が発達したが、紀元前1千年紀の初め頃（前10世紀～7世紀頃）に開始された騎馬による遊牧は、この地域の文化を大きく変えた。生活形態や物質文化のきわめて類似した文化がここに数多く形成されたのである。これは西アジアや中国などの定住民に大きな影響を与えるとともに、東西交渉の道としても機能することになった。これらの文化はまとめて初期遊牧民文化、あるいは代表的な民族の名を取って、スキタイ系文化とも呼ばれている。

その後、紀元前3世紀頃になると西方ではスキタイに替わってサルマタイと呼ばれる民族が大きな位置を占め、東方では匈奴が一大帝国を作り上げる。当時中国の前漢時代の鏡が、黒海沿岸にまで発見されるが、それはこの時期の盛んな東西交流を如実に示している。

今回の講義では青銅器時代の末期における初期遊牧民文化形成の問題から、サルマタイー匈奴時代にいたるまでのこれらの文化を概観する。

履修上の留意点

この地域の考古学の最新の成果を伝える日本語の参考書はきわめて少ない。講義に出席することが必要である。

成績評価の方法

成績はレポートにより評価する予定。講義に関連した題目を出題する。

教科書

教科書はないが、参考書や参考文献は、講義の初めなどに適宜指示する。

その他

講義を中心とし、プリント・スライドおよびビデオを時に応じて使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
考 古 学 特 講 III	や の かず ゆき 矢 野 和 之	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学・歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。

このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
- ・日本建築史（古代）概要
- ・遺構とその上部構造隊の復元
- ・保存計画概論
- ・保存科学、保存工学概論
- ・まちづくりと文化財
- ・計画策定の実務
- ・国内の事例
- ・海外の事例・文化財保存の国際機関

以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物。

教科書

なし。

参考書等

適宜指示。

その他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
西域美術史	まつ だいら みわ こ 松 平 美 和 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

中国が漢代以来「西域」と呼んでいた地域はパミール高原の東側の東トルキスタンであるが、後には西トルキスタン、そしてアフガニスタンやイラン以西の諸国も西域と呼ばれるようになる。講義では東トルキスタンから、イランまでを広義の西域と考え、いわゆるシルクロードとして大いに繁栄したこの地域の考古美術品の中に東西文化混淆の様子を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① イラン装飾文様とその東伝  
イラン美術に見られる「葡萄唐草文」、「花喰鳥文」、「王冠飾り」、「有翼人物像」などの装飾モチーフの変化について
- ② クシャーナ朝美術とその意義  
東西文化の接点であるクシャーナ朝の遺跡と遺品について
- ③ タクラマカン砂漠周辺のアオシス都市の美術  
狭義の西域美術であるクチャ、トゥルファン、ホータン、敦煌などの美術について

成績評価の方法

学年末と夏期休暇後の二回のレポートで評価する。

教科書

講義時にプリントを配布する。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

その他

具体的な美術作品を対象とする学問なので、毎時間スライドを多く用いる。

科目名	担当者名	配当学年	単位
宗教人類学	さ さ き こう かん 佐々木 宏 幹	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

宗教は人類文化の最古層に属すると考えられている。宗教人類学は人間の営みとしての宗教文化を文化人類学、社会人類学、民俗学の方法と理論に拠って研究する学問である。人間にとって、人間にとって宗教とはなにかという問題を、人類学や民俗学の研究成果を十分に利用しながら追究し、人間が生きるということの意味の考察につなげていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような内容を企図している。1.文化と人間、2.社会と世界観、3.宗教の原形形態、4.人間と動物、5.民族宗教、6.世界宗教、7.アニミズム・多神教・一神教の関係、8.仏教・キリスト教・イスラム教、9.民族問題と宗教、10. 環境問題と宗教、11. 習合宗教、12. アジア宗教の特色、13. 日本宗教の特色、14. 新宗教とは、15. 「ほとけさま」と日本人。  
講義には必要に応じて資料を配布し、またスライドやビデオを使用し、理解の助けにしたい。

履修上の留意点

ときどき出席をとり、評価の参考にする。  
夏休み中に「故郷の宗教行事」（仮題）のようなレポートを書いてもらうことを考えている。

成績評価の方法

講義内容にそったレポート作製。400字詰原稿用紙5枚～8枚程度（参考文献名を明記すること）。

教科書

佐々木宏幹著『聖と呪力の人類学』講談社 840円

参考書等

佐々木宏幹著『宗教人類学』講談社 980円

V 社会福祉主事 基礎講座  
社会福祉士



# (1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会福祉原論	前期：長尾護 後期：伊藤藤秀	社福主事2必	4

## 講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、感化救済事業などと呼ばれていたものが、時代とともに拡大し、組織的に発展して、今日では、社会を組み立てていくための不可欠の仕組み、すなわち「社会制度」のひとつになったのである。そしてその制度の内容は、今日の時代なりの貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉がどのように変化してきた跡をたどり、なぜ今日社会福祉が現代社会の生活環境基盤として確立されねばならないのかについてのあらましを述べることに重点をおく。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、他の1年次配当の科目との関連を考慮しつつ、社会福祉についての基礎知識を整理するとともに、社会福祉の今日的な動向と課題についての理解を深めることを主なねらいとする。さらに、2年次以降の専門科目を受講する際の準備にも役立つような内容にしたいと考えている。

## 講義の内容・授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の意義
  - 1) 社会福祉の意味
  - 2) 社会福祉と関連する諸概念
  - 3) 社会福祉の対象と主体
  - 4) 社会福祉の補充性
- 2 社会福祉の歴史的発展
  - 1) 欧米における社会福祉の発展
  - 2) わが国における社会福祉の発展
- 3 社会福祉の組織と運営
  - 1) 社会福祉法制
  - 2) 社会福祉法制の体系
  - 3) 社会福祉事業の経営主体
  - 4) 福祉の措置
  - 5) 社会福祉の経費
- 4 社会福祉の分野
  - 1) 公的扶助（生活保護）
  - 2) 児童福祉
  - 3) 老人福祉
  - 4) 障害者福祉
- 5 社会福祉の方法
  - 1) ケースワーク
  - 2) グループワーク
  - 3) コミュニティワーク
- 6 社会福祉における人の問題
  - 1) 人の問題の重要性
  - 2) 社会福祉従事者の動向
  - 3) 職種の問題
  - 4) 社会福祉職員の専門職論
  - 5) ボランティアの問題
- 7 社会保障と社会福祉
  - 1) 社会政策と社会事業
  - 2) 社会保障と社会福祉

※上記1～4の1)までを長尾（前期）が、4の2)以下を伊藤（後期）が担当予定。

## 成績評価の方法

担当教員が交代予定のため、評価は、前期末と年度末の2回の試験の総合評価とする。

## 教科書

仲村優一著『社会福祉概論』誠信書房

## 参考書等

講義の内容を上記のテキストでカバーすることができないので、講義の進行にあわせて必要な参考文献を紹介する。なお、本講の内容は極めて広い範囲にわたるので、この参考文献にもとづいて各自学習を深めることを求めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会福祉原論	こ だ ま や ひ ろ こ 児 玉 谷 広 子	社 福 主 事 2 必	4

講義のねらい

社会福祉は社会の政治や経済状況、人口構造、家族構造、生活環境の変化を背景にして変化する。現在、社会福祉は我々の生活の多様化したニーズに対応し、個人個人の家族生活や社会生活を支える社会制度として存在し、子どもから高齢者、障害や病気をもちながら生活する人びと等全ての人が主体性を持ちながら生活するための現金給付、現物給付、施設サービス、在宅サービス、対人援助サービス等が提供され我々の日常生活に身近なものとしてとらえられる必要がある。本講義では、社会の変化とともにどのような生活問題が生じて、それに対応する社会福祉政策、社会福祉制度のしくみ、具体的な社会福祉サービス、専門職のありかた等がどのように変化し、どのような課題を担っているかを学習する。

講義の内容・授業スケジュール

- ・現代社会と社会福祉の意義  
社会福祉の理論・概念・範囲  
社会福祉の思想と原理
- ・社会福祉の歴史
- ・社会福祉の対象とニーズ
- ・社会福祉の主体
- ・社会福祉の法制度・行政組織・民間組織・財政のしくみ
- ・海外の社会福祉と我が国の国際協力
- ・社会福祉援助の理論・方法・技術
- ・社会福祉援助活動の専門性・倫理性  
随時、事例研究、グループディスカッション、ロールプレイ、ビデオ学習、質疑をとり入れ主体的な講義内容理解を促す。

成績評価の方法

出席日数、小レポート、学期末テスト

教科書

仲村優一著『社会福祉概論』誠信書房

参考書等

講義時に指示する。

# (1) 選択科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
法 学 ( 福 祉 )	けい とく ひろ とう 鶏 徳 啓 登	社福主事2・3・4選	4

## 講義のねらい

現代の我国では、憲法制定50年経過し、国外的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきているが、国民の高齢化に伴う福祉問題はそのうちでも非常に重要なものの一つである。我国によりなされている福祉政策は、憲法に根拠を有し、個々の行政法規に基づくものがその中心をなす。

本講義は、これら諸問題を解決し得るようになるために、憲法、行政法、福祉法規の輪郭を理解することをねらいとする。

## 講義の内容・授業スケジュール

- |                |               |                |
|----------------|---------------|----------------|
| i 法の意義・効力      | ii 法の分類・解釈    | iii 現憲法の原則     |
| iv 基本的人権の分類・内容 | v 行政法の意義・効力   | vi 各種行政作用と福祉行政 |
| vii 生活保護法の解釈   | viii 児童福祉法の解釈 | ix 老人福祉法の解釈    |

## 成績評価の方法

成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。

## 教科書

小林弘人編著『社会福祉のための法入門』川島書店 2,000円  
『福祉小六法』出版社・定価各種

## 参考書等

教場にて説明致します。

## その他

本講義は、憲法の理解を前提とし、行政法理論の知識を踏まえて行政法各論として福祉関連法規の解釈を中心に行なうものであるから、「法学憲法」「行政法」を履修することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会福祉発達史	はやし 林 千代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会事業は、近代社会がスタートすると同時に生成した。もちろん、それ以前の社会においても人々の生活は不安にさらされていた。

生活の不安は、自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には常に多くの社会問題が生じ、人々は生活困難におちいった。その影響が大きくなるにつれて、慈善（恵）や救済から社会事業としての方向が確立したといえる。そして、社会福祉という方法に到達し福祉国家の実現となった。最近では、福祉社会といわれる考え方に至っている。

この長いプロセスの理解と、社会福祉は一定の歴史的産物であるという認識こそ社会福祉の学習に不可欠である。

対象、問題解決の方法、方法の意図、施策の背景をなす思想を講義する。

講義の内容・授業スケジュール

資本主義の発達と社会福祉の生成は、英国が典型である。日本については当然ではあるが時間のある限り米国や北欧諸国などにもふれたい。

〔英 国〕

- ①前史
- ②中世封建社会と慈善
- ③絶対王政下の救貧制度
- ④旧救貧法と近代的慈善事業の生成
- ⑤産業革命と新救貧法のスタート
- ⑥社会事業近代化への動向
- ⑦社会保障制度の成立と諸技術の発展
- ⑧今日の状況と諸問題

〔日 本〕

- ①前史
- ②日本における救貧法の系譜と公的救済
- ③封建社会と慈善・慈恵
- ④資本主義の生成と救済事業
- ⑤社会事業の生成と組織化
- ⑥昭和期の社会事業と厚生事業
- ⑦戦後の社会福祉（事業）
- ⑧現在の状況——福祉社会について

履修上の留意点

授業は講義形式で行なう。しかし常に質問を受け、あるいは話のやりとりをしながら進めたい。社会福祉の理解には、知識の集積や論理の把握にとどまらず身近な生活の中での実感が必要不可欠だからである。講義もどの時点であれ、現在の問題や具体例と結びつけてすすめていく。

成績評価の方法

単位認定は、年一回のレポートによる。

教科書

教科書は決めないが、参考書は開講初日に提示の予定。

その他

知識や考察を内在化させ、学生個々の自己認識を深めていくことをめざしたい。



科目名	担当者名	配当学年	単位
リハビリテーション論	はら だ しん いち 原 田 信 一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

リハビリテーションにおいて、学問的に著しく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれる。その理由として考えられるのが、この分野は、内蔵する問題が広汎、多岐に亘っているばかりか、いずれも難解な社会福祉問題を抱えていることが著しい遅滞をもたらす原因となっているといわれている。そこで、とくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、障害をめぐる社会問題と諸環境問題、隣接科学と実践問題そしてグローバルな視角から社会リハビリテーションの国際的展望などを主眼において講述する。

講義の内容・  
授業スケジュール

本講は、つぎのような骨子に基づきすすめる。

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| 1. 社会リハビリテーションの基本問題       | } 前期 |
| 2. 障害をめぐる社会問題と諸環境問題       |      |
| 3. 社会リハビリテーションの実践とその方法    | } 後期 |
| 4. 社会リハビリテーションを支える隣接科学と実践 |      |
| 5. 社会リハビリテーションの従事者教育      |      |
| 6. 社会リハビリテーションの国際的展開      |      |

成績評価の方法

レポート乃至は、筆記試験を実施する。なお、評価は、出席点も加味する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

講義中、随時指示する。

その他

講義形式が中心。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社 会 保 障 論	前 期 : 船 水 浩 行 後 期 : 伊 藤 秀 一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保証を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障が、どのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、わが国における社会保障制度の現状と課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 現代社会における生活問題
  - 2 社会保障の史的展開
  - 3 社会保障の理念
  - 4 社会保障の概念、範囲、規模
  - 5 社会保障の財政
  - 6 社会保障の機能
  - 7 社会保障の問題点と今後の課題
  - 8 わが国の社会保障制度の体系
  - 9 わが国の社会保障各制度の沿革と概要
    - 1) 年金保険
    - 2) 医療保険
    - 3) 労災保険
    - 4) 雇用保険
    - 5) 公的扶助
    - 6) 児童手当
    - 7) その他
  - 10 民間保険の役割
  - 11 社会保障の実施体制
  - 12 社会保障研究の動向
- ※ 上記8までを、船水（前期）が、以降を伊藤（後期）が担当予定である。詳細は、第1回授業時に連絡します。

成績評価の方法

担当教員が交代予定のため、評価は、前期末と年度末の2度試験を実施し、その総合評価とする。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編集『改訂社会福祉士養成講座5 社会保障論』中央法規

参考書等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』法研  
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』中央法規

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
家 庭 福 祉 論	いわ 岩 かみ 上 ま 真 み 珠	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

いま、子どもの権利が注目されているが、子どものウェルビーイングはいかにして達成されるのか。講義では、子どものウェルビーイングと家庭機能の問題を、男女平等社会の役割分担のあり方や家族の多様化をふまえて考えてみたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義は、次のような内容で進めていきたい。

- 1) 「ウェルビーイング」の考え方
- 2) 家庭の機能
- 3) 日本における子どもの位置づけ
- 4) 子どもの権利
- 5) 男女平等社会と子育てサポート
- 6) 家族の多様化と子どもの福祉

履修上の留意点

問題意識をもって聴講してもらいたい。また随時意見や感想をレポートしてもらう予定である。

成績評価の方法

小レポート、期末試験、および平常点（出席状況を含む）で評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

高橋・網野・柏女編著『ハイライト子ども家庭白書』 川島書店 ￥2,884

そ の 他

講義を主体とする。必要なプリント類は随時配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社会福祉計画論	かわ 川 廷 宗 之	社福主事2・3・4選	4

#### 講義のねらい

問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面も強調されるように変化してきたことよって起きている近年の社会福祉サービスの領域の拡大は、そのサービス提供を組織的計画に行なわなければならない段階に到達しつつある。このような需要の増大に対応した行政計画の考え方は、建設領域や産業振興領域において戦後の長い蓄積がある。が、福祉領域においては、計画化の歴史は短い。その理由は、福祉には建設や産業振興とは違う要素が多く、計画的展開に馴染みにくかったことや、問題対応的な福祉サービスから抜けきれなかったためである。とすれば、福祉計画を考える時、これらの産業計画や建設計画と、福祉計画の性格がどのようにことなるのかが考察されなければならない。

さらに、計画は実際の市民生活に多大な影響を与える実践である。その意味では、計画をどう作るのか、その手法も大きな問題となる。

#### 講義の内容・授業スケジュール

上記のような問題意識にもとづいて、福祉を中心のその計画（国家計画、地域計画、地域福祉計画、施設経営計画、市民生活の計画、等々）について学ぶが、その前提としては、福祉運営管理等についてもふれておく必要がある。ソーシャル・アドミニストレーションの理論についての学習や日本における施設の運営管理上の課題などについても触れる予定である。

理論的内容を前期、実践的な計画技術についての考察や演習を後期に履修する。講義内容やスケジュールの詳細については、開講第1～2回の授業で説明する。なお、受講者数にもよるが、実際の計画立案技術の演習等をも行なう予定であるので、それらの演習には、質問や意見の提案など積極的な関わりを期待している。

#### 履修上の留意点

この講義では、開講第1～2回で全体のスケジュール等を説明するので、必ず第1回から出席していただきたい。途中からの受講では事実上単位習得は難しいと理解してほしい。

社会計画はすぐれて実践的に学ばないと理解しがたい点も多い。そのため、授業ごとに資料を探したり読んで来る簡単な課題がだされることも多い。従って、欠席すると授業で何をしているのか理解できなくなる可能性が高いので、なるべく欠席しないように、又、実習等でやむを得ず欠席する場合は、受講する友人に内容を聞いておいてください。

なお、文学部社会学科福祉コースの学生以外の諸君が選択する場合は、この科目が社会福祉原論や社会福祉援助技術総論などで学ぶ福祉に関する基礎的な知識を前提として開講されている点を理解して、関係領域についての文献を読むなどの自己学習を並行して行っていただきたい。特に、社会福祉援助技術総論にてくるソーシャルワークの基本的な考え方やコミュニティ・オーガニゼーション理論などについては、必ず習得しておいていただきたい。

#### 成績評価の方法

日常的な課題の提出状況、授業への質問や、意見を積極的に出しているかどうか、などに見る授業への参加度、期末に行なわれるレポートの提出、出席状況（最低出席日数の確保）等を配慮して、評価する。

#### 教科書

第1回目の授業時に指定する。

#### 参考書等

- ①高田真治『社会福祉計画論』誠信書房・1979年
- ②R. パールマン A. グリン著 岡村重夫 監訳『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』全国社会福祉協議会・1980年
- ③全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』全国社会福祉協議会・1984年

#### その他

計画の立案演習を行う過程で、若干の資料代やコピー代が必要になると予想される。出来るだけ負担を軽くするようにするが、一部の学習経費の自己負担は止むを得ないので、若干の教材費については予定して選択してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国際社会福祉論	やまもと ままみ 山 本 真 実	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

各国における福祉制度の背景となっている歴史・政治・生活・文化等から、各国の福祉サービス、政策体系を学び、各々がどのような方向性を指向し発展していく（る）のかを学ぶ。また諸外国と我が国制度との相違から、今後日本が求められている役割や改革していかなければならない点について考える。特に、子どもと家庭に対する考え方や捉え方、社会サービス体系の相違に着目し、具体的事例とともに各国制度の特徴をつかむ。

講義の内容・授業スケジュール

国際社会福祉を考える場合の基本的事項を折りまぜながら、スウェーデン、デンマーク等の北欧型、市場重視の英国、米国、また途上国等の国々をとり挙げる。

履修上の留意点

自分の考えをまとめ、意見を述べることを積極的に評価する。

成績評価の方法

出席、感想カード……………20%  
レポート（年1回）……………30%  
試験……………50%

教科書

指定は特になし。プリントによる資料を随時作成。

参考書等

第一回目に指示、提示。

その他

講義とビデオ等ビジュアル教材による併用。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
保健福祉論	ながお しょうじ 長 尾 譲 治	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健福祉学とは、保健学・福祉学、及び関連諸科学を統合し、これまでのように為政者の都合によるサービス提供に代わって、利用者の立場に立ったサービスのあり方を考える新しい社会福祉の分野である。本講義では、保健福祉学の視座に基づいて、従来の社会福祉諸サービスを再構成し、これからの生活関連諸サービスの動向と課題について考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 保健福祉とは  
保健福祉の歴史／保健福祉学の視座
- 2 日本のヘルスケア制度の体系  
健康保険／国民健康保険／老人保健／福祉医療／クライアントの人権とこれからのヘルスケア
- 3 ライフサイクルと保健福祉  
児童／成人／老人／ターミナル・ケア／女性と保健福祉
- 4 傷病別に見た保健福祉  
身体障害／知的障害／精神障害／難病／結核／ハンセン病／AIDS
- 5 リハビリテーションと保健福祉  
リハビリテーションの理念と実際／福祉機器・用具サービス
- 6 保健福祉の国際的動向  
先進諸国／開発途上国／日本
- 7 保健福祉の課題  
保健福祉計画／規制と情報公開／バイオエシックスとインフォームド・コンセント

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

教科書

日本保健福祉学会編 『保健福祉学概論』川島書店

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
公 的 扶 助 論	前 期 : 船 水 浩 行 後 期 : 伊 藤 秀 一	社福主事2・3・4選	4

#### 講義のねらい

公的扶助は、貧困の救済を目的とする。貧困状態（自らの力で自分自身や家族の生活を支えることができない生活状態）にある人々に対する援助である「扶助」が、国等の「公的」団体により、社会的扶養制度として、所得再分配を通じて行われるものである。

わが国の社会は、今や大変「豊かな社会」になったと言われて、貧困問題は少なくなったと言われている。しかしながら、現実には、傷病や失業等により生活費に不自由している人々は存在する。従って、公的扶助の役割は依然として重要であり、貧困やその原因を追求し、制度のあるべき姿を模索していく必要がある。

本講義では、公的扶助のあり方を左右する貧困の認識のプロセスをおさえながら、公的扶助の理念と制度がどのように展開してきたかを踏まえた上で、現代社会における公的扶助の役割と意義はどのような点にあるのか、わが国において代表的な公的扶助制度とされる生活保護制度の現状と課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

#### 講義の内容・授業スケジュール

- 1 公的扶助の理念とその史的発展
  - 1) 公的扶助の概念と範囲
  - 2) 欧米における理念と制度の史的展開
  - 3) わが国における理念と制度の史的展開
- 2 現代社会における公的扶助の意義
  - 1) 現代社会における貧困とナショナルミニマムの達成
  - 2) 現代社会における公的扶助の役割と意義
- 3 生活保護制度のしくみ
  - 1) 目的と基本原理
  - 2) 運用上の原則
  - 3) 保護の種類、内容
  - 4) 保護の方法
  - 5) 保護の実施機関、実施体制
  - 6) 保護施設
  - 7) 被保険者の権利、義務
- 4 生活保護の動向
  - 1) 被保護人員、世帯数等
  - 2) 保護費、保護基準
- 5 わが国の生活保護制度を巡る課題と展望

※上記1～3の2)までを船水（前期）が、以降を伊藤（後期）が担当予定である。詳細は、第1回授業時に連絡します。

#### 成績評価の方法

担当教員が交代予定のため、評価は、前期末と年度末の2度試験を実施し、その総合評価とする。

#### 教科書

西尾祐吾、清水浩一編『社会福祉士・介護福祉士講座 公的扶助論』相川書房

#### 参考書等

厚生省社会・援護局保護課、厚生省社会・援護局監査指導課監修 全国社会福祉協議会編集『生活保護手帳』全国社会福祉協議会

#### その他

- 1) 「社会福祉原論」「社会保障論」の内容を前提として授業を行う。
- 2) 随時、レポート等の課題を課す予定がある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
障 害 者 福 祉 論	はら だ しん いち 原 田 信 一	社福主事2・3・4選	4

#### 講義のねらい

障害者福祉は、障害者のもつ障害を可能な限り軽減し、一般の人々と同様の生活条件と生活のやすらぎを享受できるようにすることであり、旧来からの陋習として存続してきた障害者観の克服を通して、憲法に明文化されている条文にも合致した、新しい価値観、障害者を創造し、これを国民の意識の中に定着させることを目指すことにおいて、障害者福祉は、社会福祉の体系の中で、特偵あるものとして位置づけられることができるのである。

こうした中で、現代社会は、障害者への理解を深めながら、地域を基盤にした援助活動の推進を通して、障害者と「共に生きる」(normalization) という共感関係を育てる方向へと動きつつある。そこで、本講では、障害者の多様で高度化を要するニーズの実態を披瀝し、それらを受容でき得る援助活動のあり方、更に、課題などについても論及する。

#### 講義の内容・授業スケジュール

障害者福祉の講述は、つぎのような四つの体系化に基づいて巨視的、微視的な視角から接近し、概説する予定である。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1. 障害者福祉のとらえ方   | } 前期 |
| 2. 障害者福祉の対象     |      |
| 3. 障害者福祉の主体     | } 後期 |
| 4. 障害者福祉サービスと課題 |      |

#### 履修上の留意点

特になし。

#### 成績評価の方法

レポート乃至は筆記試験を実施する。なお、評価は出席点も加味する。

#### 教科書

星野他編『障害者福祉論入門』（改訂版）有斐閣双書 1,900円

#### 参考書等

講義中、随時指示する

#### その他

講義形式が中心である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
老人福祉論	とう じょう みつ まさ 東 條 光 雅	社福主事2・3・4選	4

#### 講義のねらい

わが国の人口高齢化が社会的な関心を集めて久しい。高齢化については多くの文献が出版され、またマスコミにおいても日々盛んに取り上げられており、基礎的な知識に関してはかなり広まっていると思われる。しかし、これまでのわが国における高齢者対策の歴史、高齢化に伴って深刻化している高齢者の現実の生活問題やそれに対する福祉サービスの質的・量的現状、今後の老人対策の動向に関しては、特に若年世代の理解は十分とは言いがたい。わが国の高齢化社会の主役は現在の青・成年層であり、特に今後社会を支えてゆくべき青年層が高齢化の動向に関して正確な知識を持つことは重要と考える。

近年、老人福祉施策は流動的に変化しており、その重要性は増す一方である。

本講では、老人福祉施策の歴史の変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉対策を考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の現況及び変化予測や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

#### 成績評価の方法

出席点、夏休み中のレポート、年度末の定期試験を総合して評価する。

#### 教科書

冷水豊編『老人福祉－政策・処遇の視点と方法——（第3版）』海声社 ￥2,000  
冷水豊編『老人福祉論』メディカルフレンド社 ￥1,957

#### 参考書等

三浦文夫編『図説高齢者白書1996』全社協 ￥2,900

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
児童福祉論	たか はし げい ひろ 高 橋 重 宏	社福主事2・3・4選	4

#### 講義のねらい

児童福祉は、社会福祉の一分野であり、日本国憲法、児童福祉法を基調とし、他の多くの領域と連携しながら推進される。児童福祉とは、大人の責任として「子どものウェルビーイング（子どもが子どもらしさを保ち、自らの可能性を開花させつつ生き生きと生活している状態－人権の尊重、自己実現の支援）」を促進する社会的な不断の努力を意味している。具体的には、法律に基づく公的なプログラム、非営利団体による自発的なプログラム、企業活動によって提供されるプログラムによって構成されている。

本講義では、子どもの権利条件、国連国際家族年の理念を基調に我が国の児童家庭福祉制度の概要を明らかにする。また、諸外国の制度を紹介しつつ、今後増加が危惧されている子どもへの不適切な関わり（マルトリートメント）、①身体的虐待、②性的虐待、③子どもへの心理的に不適切な関わり（心理的虐待、心理的ネグレクト）、④ネグレクト（不適切な保護・養育、無関心・怠慢）について解説するとともに、子どもの権利擁護のための子ども家庭サービスのあり方についても論究したい。

#### 成績評価の方法

出席状況、定期試験、レポートを総合して評価する。

#### 教科書

高橋重宏『子ども家庭福祉論－子どもと親のウェルビーイングの促進－』放送大学教育振興会 1998

#### 参考書等

厚生省児童家庭局企画課監修 高橋重宏他編『ビジュアル子どもと家庭』全国社会福祉協議会 1997



科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
女 性 福 祉 論	はやし 林 千 代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

女性は、社会構造の所産である性差別を根底に経済的、精神的、社会的なしわよせを受けてきた。婦人問題としての発生がそれぞれである。男女が平等に、対等な性として生きるのは困難をきわめたし、いまなお多くの問題を有している。

1970年代に入り、婦人保護事業の局面には、女性一般の姿がみられるようになり、彼女達がかかえている問題も多様化し、複雑になっていった。一方、婦人保護事業の売春防止法にもとづく本来的なり組みは、薄れていった。しかし、現実に売買春は拡大深化し、国際的な課題ともなっている。

売買春問題を基底に据えて、婦人保護事業の現実から女性の複雑阻害の実態をとらえ、女性の人権復権の検討を課題としたい。それは当然、男性の人権侵害を問い考えることになる。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ① 女性問題と社会福祉
  - a 近代社会と婦人問題
  - b 戦後社会と女性
  - c 女性福祉の意義と理念
- ② 女性福祉の現状と課題
  - a 売買春と婦人保護事業
  - b 母子世帯の生活問題
  - c 寡婦の暮らし
  - d 女と老い
  - e 両親の就労と保育問題
  - f 福祉労働と女性
  - g 女性福祉に関連する諸問題
- ③ 女性福祉の枠組の検討

教 科 書

教科書は、特に無い。

参 考 書 等

参考書は随時紹介する。

そ の 他

講義は、その都度コピー資料を作成し配布。ビデオもできるだけ多く使用する予定である。単位の認定は、年一回のレポートによる。自己認識を深めることのできるような展開をしていきたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
医 療 福 祉 論	はるみしずこ 春見静子	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健・医療の領域における専門職としての医療福祉職の実践について理解する。  
英国の医療福祉実践と日本のそれと比較しながら、患者と家族を取り巻く状況の分析、社会福祉への要求とそれにこたえる社会サービスの現状、医療現場での社会福祉援助技術のあり方を講義と演習を通して学ぶ。

講義の内容・  
授業スケジュール

内容は教科書のテーマに沿って毎週一つないし二つの問題を取り上げ、常にわが国の状況と比較しながらテーマを掘り下げる。少なくとも一回病院の見学を行う。

履修上の留意点

時々小グループで討議することがあるので、できるだけ積極的に参加して欲しい。また、希望する人には医療機関での実習を紹介する。

成績評価の方法

平常点と期末試験の点数で評価する。

教 科 書

ミーケ・バドウィ他『医療ソーシャルワークの実践』中央法規出版 2,800円

科目名	担当者名	配当学年	単位
地域福祉論	和田敏明	社福主事2・3・4選	4

#### 講義のねらい

21世紀に向けて、国民誰もが安心してできる福祉社会を築くことを基本理念に第定された「21世紀福祉ビジョン」において、社会保障の基本的在り方を①国民生活の安定基盤たる社会保障の構築 ②年金、医療、福祉等のバランスのとれた給付の構造の実現 ③自助、共助、公助の重層的な地域福祉システムの構築の3点にあるとしている。このように本格的「少子・高齢社会」である21世紀に対応するための社会保障制度の再構築の推進がめざされている。平成5年度から、社会福祉事業法、老人福祉法等8法改正の完全実施が行なわれ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎えた。これにより、地方分権化、福祉供給システムの多様化、一方で、計画化やケア・マネジメント、ボランティア活動、住民参加型在宅福祉サービスの活発化などを伴ない、地域福祉を基調とする福祉が急速な展開を見せている。公的介護保険の導入は、選択と契約による福祉の利用の時代をもたらすことになり、これらの傾向をさらに推進することになる。地域福祉理論もこうした実態をふまえ、絶えず新しい内容を追求し、体系化、理論化が図られている。

講義は、①福祉全体の動向の中での地域福祉の位置、政策動向 ②地域福祉概念成立過程と地域福祉概念 ③地域福祉の構成要素 ④推進方法 ⑤推進上の課題 ⑥推進組織 ⑦地域福祉の財政 ⑧地域福祉の担い手等について最新の実践や研究をふまえ講義を行う。

#### 講義の内容・授業スケジュール

①現在の社会福祉の動向と地域福祉 ②地域福祉成立の背景 ③現代コミュニティと福祉コミュニティ ④地域福祉論の形成過程 ⑤地域福祉の概念 ⑥地域福祉の構成 対人福祉サービス 予防・福祉増進サービス 福祉環境づくり ⑦地域福祉推進の方法 ⑧地域福祉計画 ⑨地域福祉の運営・機構 ⑩地域福祉の実践・推進組織 ⑪地域福祉の担い手 ⑫ボランティア ⑬地域福祉の財源 ⑭推進の課題

#### 成績評価の方法

レポート

#### 教科書

社会福祉士養成講座7『地域福祉論』中央法規出版  
新・社会福祉学習双書『地域福祉論』全国社会福祉協議会

#### 参考書等

永田幹夫著『地域福祉論』改訂 全国社会福祉協議会  
大国美智子・和田敏明編 明日の高齢者ケアNo.3『在宅支援の技法』中央法規出版  
岡村重夫『地域福祉論』光生館

科目名	担当者名	配当学年	単位
社会学(福祉)	はしづめ さとし 橋 爪 敏	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、社会福祉士ならびに社会福祉主事を目指す学生に「社会学」についての基本的な知識の提供を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいで述べたように、この「社会学(福祉)」の授業は社会福祉士、社会福祉主事の資格取得に関わるものである。しかし、こうした資格に関わる受験対策そのものをねらいとするものではない。また、「福祉社会学」を論ずるものでもない。あくまでも、「社会学」の基礎知識の習得がねらいである。したがって、社会学の歴史、社会集団の類型、現代社会の諸問題などを取り上げることとする。

履修上の留意点

この授業は、すでに社会学についての若干の予備知識のあるものと、まったくの初心者も受講すると言う、変則的なところがあるが、初心者に判り易く語ることがを主にしていきたい。

成績評価の方法

成績評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』中央法規出版

参考書等

安藤喜久雄ほか編『社会学概論』学文社  
安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』学文社  
高尾・橋爪編『社会学の基礎』犀書房  
R. ニスベット『現代社会学入門1～4』講談社学術文庫

科目名	担当者名	配当学年	単位
心理学(福祉)	たか はし よし ひろ 高 橋 良 博	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉の現場で、必要とされる「心理学」の基礎的な知識を、習得することを目的とする、講義である。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、まず、心理学的なものを見方を身につけ、次に、社会福祉に関連するトピックスをとり上げてゆく。具体的には、以下の項目について、1年間を通し重点的にふれてゆく。

①心理学の歴史と現状に対する理解 ②人間の心理学的理解に関する基礎概念  
③人間の成長・発達心理と諸問題 ④心理学的な人間理解に基づく援助技術  
また、心理学研究の雰囲気にもふれるため、適宜、供覧実験や人格テストの体験なども織り込みながら講義を進めてゆく予定である。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点(講義への出席状況や、参加度)などを総合して評価を行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会 編集『改訂 社会福祉士養成講座 11 心理学』中央法規  
定価¥2,500